بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

預言者伝（スィーラ）全集

第 1 集

マッカ時代

第 1〜6 巻：クルアーンと真正なハディースに基づく、アッラーの使徒 ﷺ の家系と誕生から、夜の旅とアカバの誓いまで

لَقَدْ جَآءَكُمْ رَسُولٌ مِّنْ أَنفُسِكُمْ عَزِيزٌ عَلَيْهِ مَا عَنِتُّمْ حَرِيصٌ عَلَيْكُم بِٱلْمُؤْمِنِينَ رَءُوفٌ رَّحِيمٌ

「今、使徒があなたがたにあなたがたの間から、やって来た。かれは、あなたがたの悩みごと に心を痛め、あなたがたのため、とても心配している。信者に対し優しく、また情深い。」

悔悟章 9:128

Hj Che Alim Hj Che Haron

quranscience.my | facebook.com/QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

quranscience.my で無料のデジタル版を読むには、こちらをスキャンしてください

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の本。販売はできません。

謝辞

私たち自身の中から一人の使徒を遣わされたアッラーに、すべての称賛あれ。その使徒は私たちの苦しみを心に痛め、私たちの幸福を強く願われた。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、そのご家族と教友たちに祝福と平安あれ。教友たちはかれの生涯を目撃し、それを守り、完全な誠実さをもって私たちに伝えてくれた。

この本を、愛する妻

Zaharah Mohd Latif、

愛する子どもたち

Muhammad Hafiz, Noor Hazwani, Abdul Hakim, Noor Hidayah, Nor Aqila と **Nor Atiqah**、

そして義理の息子・娘たち

Fazilah, Malek, Hanin, Fairizal と **Firwan** に捧げます。

本書は『預言者伝（スィーラ）』第 1 巻から第 6 巻までを、第 6 巻の特別編とともに一冊にまとめたものである。アッラーの使徒 ﷺ の家系と誕生、青年期、啓示の始まり、公然の宣教と悲しみの年から、夜の旅と昇天、そしてアカバの誓いまでを収める。各巻の参考文献はそのまま残している。本書が私たちをアッラーの使徒 ﷺ により近づけ、制作に協力し、読み、広めるすべての人にとって、絶えることのない施し（サダカ・ジャーリヤ）となりますように。

本書の表紙について

本書の表紙には、人間も動物も描かれていない。描かれているのは、日の出のマッカの谷である。町を囲む乾いた岩山、谷底の聖モスク、そして山の頂の向こうから昇る金色の光。

夜明けの光は、作物のない谷で始まった使命を象徴している。ここでアッラーの使徒 ﷺ は生まれ育ち、その山で最初の啓示を受け、マディーナへ移住されるまでの十三年間、この谷で大いなる忍耐をもって人々をアッラーへと招かれた。

下部の紺色の帯は細い金の線に縁取られ、そこに著者名が記されている。この全集の五冊の表紙の題字は、同じ書体・大きさ・金色でそろえてあり、並べると一つのセットに見えるようになっている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

目次

第一部：第 1 巻 — マッカの谷の光 13

マッカの谷の光 14
1. 誕生前のアラビア半島 15
2. マッカ：作物のない谷 18
3. クライシュ族：カアバの守り手と商人 20
4. 預言者イブラーヒームの祈りと選ばれた家系 23
5. 家系図：アッラーの使徒 ﷺ 26
6. アブドルムッタリブとザムザムの井戸 28
7. アブドッラーとアーミナ 30
8. 象の年：誕生の前触れ 31
9. 月曜日の誕生 32
10. 称えられる名 33
11. 守られた孤児 35
12. 乳母たち 36
13. サアド族の砂漠での暮らし 38
14. 胸を開く出来事 40
15. 母のもとへ 43
16. 母との別れ 44
17. ウンム・アイマン：誠実な養育者 46
18. 祖父とおじに守られて 48
19. アブー・ターリブ：貧しくとも高潔なおじ 49
20. かれの幼少期のマッカ社会 51
21. 親と養育者への教訓 54
22. 真正な伝承と有名な話のあいだ 56
23. 6 世紀の世界 58
24. このシリーズの重要な場所 60
25. 歴史の足跡：碑文と古代遺跡 62
26. このシリーズの人物 64
27. 年表：スィーラと世界 66
28. よくある質問 68
29. 教訓と結び 71
第 1 巻の参考文献 73

第二部：第 2 巻 — アル＝アミーン – 民の中の誠実な人 75

アル＝アミーン – 民の中の誠実な人 76
1. 民とともに生きる 77
2. アブー・ターリブの家での少年時代 79
3. 初めてのシャームへの旅 80
4. 修道士バヒーラの話：一つの評価 82
5. フィジャールの戦い 84
6. ヒルフ・アル＝フドゥール：虐げられた者を守る盟約 85
7. 働き、商う 87
8. ハディージャの商品を運ぶ 88
9. ハディージャと祝福された結婚 89
10. 家庭と子どもたち 91
11. ザイド・ブン・ハーリサ：愛を選んだ子 94
12. アッラーの使徒 ﷺ の家のアリー 96
13. カアバの再建 97
14. 黒石と一枚の布 101
15. 数字で見るカアバ 103
16. 「アル＝アミーン」という呼び名 105
17. ハニーフの人々 107
18. 預言者となる前の兆し 108
19. ヒラーの洞窟での独居 110
20. 偉大な人格 113
21. 若者への教訓 115
22. 真正な伝承と有名な話のあいだ 117
23. 預言者となる直前の世界 119
24. 交易路とアラブの市場 121
25. 歴史の足跡：クルアーン以前のアラビア文字 124
26. このシリーズの人物 126
27. 年表：スィーラと世界 128
28. よくある質問 130
29. 教訓と結び 133
第 2 巻の参考文献 136

第三部：第 3 巻 — 啓示が下ったとき 139

啓示が下ったとき 140

1. 40 歳を迎えるころ 141
2. 真実の夢 142
3. ヒラーの洞窟の夜々 143
4. イクラ：最初の啓示 145
5. 最初の五節の解説 149
6. 「わたしは読めません」 151
7. ハディージャ：最初に心を静めた人 152
8. ワラカ・ブン・ナウファル 154
9. 啓示はどのように下ったか 156
10. 少しずつ下されたクルアーン 158
11. ファトラ：啓示が途絶えたとき 160
12. 衣をまとう者章：立ち上がれとの命令 162
13. 宣教者への最初の五つの命令 165
14. ハディージャ：最初に信じた人 167
15. アリーとザイド：かれの家から 168
16. アブー・バクル・アッ＝スィッディーク 169
17. アブー・バクルを通じて来た人々 171
18. 「五人の奴隷、二人の女性、そしてアブー・バクル」 173
19. 弱くとも信仰の強い人々 175
20. アルカムの家：最初の学び舎 177
21. なぜ秘密だったのか 179
22. 真正な伝承と有名な話のあいだ 181
23. このシリーズの重要な場所 183
24. 書き留められ守られたクルアーン 186
25. 歴史の足跡：最古のクルアーン写本 188
26. 本巻の人物：アッ＝サービクーン・アル＝アウワルーン 190
27. 年表：スィーラと世界 192
28. よくある質問 194
29. 教訓と結び 197
第 3 巻の参考文献 200

第四部：第 4 巻 — サファーの丘からの呼びかけ 203

サファーの丘からの呼びかけ 204
1. 秘密から公然へ 205
2. 近親への呼びかけ 207

3. サファーの丘の上で 209
4. アブー・ラハブとその妻 210
5. クライシュ族の非難 211
6. アル＝ワリード・ブン・アル＝ムギーラ：行き詰まった論法 214
7. アブー・ターリブを通じた圧力 215
8. 妥協の申し出と不信者たち章 216
9. カアバのそばで苦しめられたアッラーの使徒 ﷺ 218
10. 預言者を守ったアブー・バクル 222
11. 弱い者たちへの迫害 223
12. 「だが、あなたがたは急いでいる」 225
13. 解放のための財産 228
14. なぜ彼らは揺るがなかったのか 229
15. 星章とともに捧げられたサジダ 231
16. 最初のハバシャへの移住 232
17. アクスム王国：公正な王の国 235
18. 二度目の移住とクライシュ族の使節 236
19. ナジャーシーの前でのジャアファルの演説 238
20. ナジャーシー：葬儀の礼拝を捧げられた王 240
21. ハムザとウマルの入信 242
22. 真正な伝承と有名な話のあいだ 245
23. このシリーズの重要な場所 247
24. 紅海を渡る 249
25. 歴史の足跡：考古学の記録に見るアクスム王国 251
26. このシリーズの人物 254
27. 年表：スィーラと世界 257
28. よくある質問 259
29. 教訓と結び 262
第 4 巻の参考文献 265

第五部：第 5 巻 — 悲しみの年 267

悲しみの年 268
1. クライシュ族が手段を尽くしたとき 269
2. ハイフ・バニー・キナーナでの盟約 270
3. シッブ・アビー・ターリブでの三年間 273
4. ひそかな援助 275

5. 盟約を破棄した五人 276
6. シロアリに食われた文書の話 277
7. ボイコットからの教訓 278
8. ハディージャの逝去 280
9. 臨終のアブー・ターリブ 282
10. 「あなたは導くことはできない」 285
11. アブー・ターリブの位置づけ 287
12. 悲しみの年 288
13. サウダ・ビント・ザムア 290
14. ターイフへ 291
15. サキーフ族の拒絶 293
16. ウトバとシャイバの果樹園で 295
17. ターイフでの祈り：その評価 296
18. 最もつらい日 297
19. クルアーンを聞いたジン 300
20. ムトイムの保護のもとでの帰還 302
21. 困難と共に安楽はある 304
22. 真正な伝承と有名な話のあいだ 307
23. このシリーズの重要な場所 309
24. ターイフとサキーフ族 312
25. 歴史の足跡：歴史記録に見るターイフとマッカ 314
26. このシリーズの人物 317
27. 年表：スィーラと世界 320
28. よくある質問 322
29. 教訓と結び 325
第 5 巻の参考文献 328

第六部：第 6 巻 — 夜の旅と昇天 331

夜の旅と昇天 332
1. ターイフの後：支援者を求めて 334
2. 夜の旅と昇天はいつ起きたのか 335
3. 「かれに栄光あれ…」 336
4. 切り開かれ、信仰で満たされた胸 338
5. ブラーク 339
6. エルサレムにて：預言者たちの導師 340

7. アクサー・モスク 341
8. 昇天：マーリク・ブン・サアサアのハディース 343
9. 七つの天の預言者たち 348
10. スィドラ・アル＝ムンタハー 351
11. 一日五回の礼拝という贈り物 355
12. かれはアッラーを見られたのか 357
13. マッカの朝：クライシュ族の否認 360
14. アブー・バクル・アッ＝スィッディーク 362
15. 人々への試練 363
16. 夜の旅と昇天の教訓 366
17. ヤスリブ：備えられた町 368
18. ハズラジュ族の六人 370
19. 第一次アカバの誓い 371
20. ムスアブ・ブン・ウマイル：イスラーム最初の使節 373
21. 第二次アカバの誓い 375
22. 真正な伝承と有名な話のあいだ 378
23. このシリーズの重要な場所 380
24. 夜の旅の時代のエルサレム 383
25. 歴史の足跡：アクサー・モスクの境内 385
26. このシリーズの人物 388
27. 年表：スィーラと世界 391
28. よくある質問 393
29. 教訓と結び 397
第 6 巻の参考文献 400

第七部：第 6 巻 特別編 — 夜の旅と昇天の物語 403

夜の旅と昇天の物語 404
1. なぜこの特別編なのか 405
2. 物語の出典：伝承者である教友たち 407
3. クルアーンにおける夜の旅と昇天 408
4. 開かれた屋根とザムザムの水 411
5. ブラークと預言者たちの輪 416
6. 墓の中で礼拝するムーサー 421
7. エルサレムにて：乳か酒か 423
8. 預言者たちの導師とマーリクの挨拶 426

9. 預言者たちの姿と火獄の番人 429
10. 昇天：マーリク・ブン・サアサアのハディース 432
11. 七つの天の預言者たち 438
12. スィドラ・アル＝ムンタハーと金の蛾 441
13. カウサルの川 445
14. 銅の爪を持つ陰口の徒 448
15. 五十が五に 450
16. スィドラ・アル＝ムンタハーからの三つの贈り物 452
17. かれはアッラーを見られたのか 454
18. 試練の朝 456
19. 見解の分かれる物語 458
20. 弱い物語と根拠のない物語 460
21. 各物語の位置づけのまとめ 462
22. その他の有名な物語：真正、場面違い、あるいは伝承経路なし 466
23. 夜の旅と昇天の一夜の年表 469
24. 家族と教師のための教訓 472
25. よくある質問 475
26. 教訓と結び 478
第 6 巻 特別編の参考文献 480
支援と寄付 482

色の案内：緑の枠＝クルアーンの節、金色の枠＝ハディース、茶色の枠＝注（弱い伝承または補足説明）、青い表＝比較。

このページは意図的に空白にしています

第一部

マッカの谷の光

預言者伝（スィーラ）— 第 1 巻

クルアーンと真正なハディースに基づく、アッラーの使徒 ﷺ の家系・誕生・幼少期

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マッカの谷の光

シリーズ『クルアーンの物語』は、「**象の年**」の物語で締めくくられました。アッラーがアブラハの軍勢からご自分の館を守られた年です。その年、乾いたマッカの谷で、一人の孤児が生まれました。やがて「**全世界への慈悲**」となる方 – アブドッラーの子ムハンマド ﷺ です。

本書は『**預言者伝（スィーラ）**』シリーズの最初の電子書籍であり、アッラーの使徒の**家系・誕生・幼少期**について真正とされることをまとめています（アッラーの使徒 ﷺ）。預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ の祈り、選ばれた家系、誕生の日、乳母たち、胸を開く出来事、母の死、そして祖父とおじによる養育を扱います。

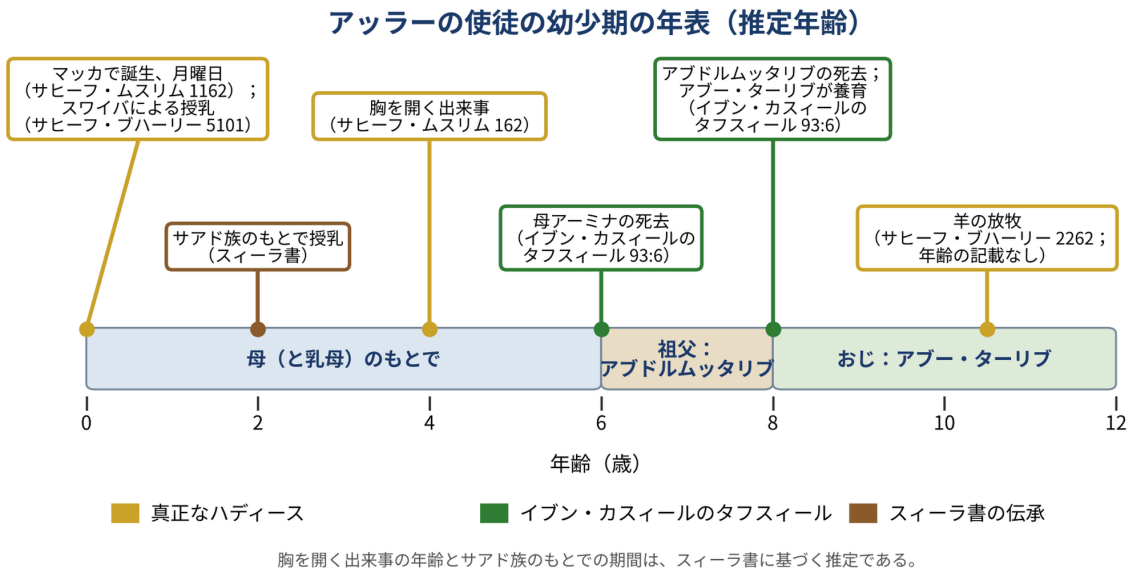


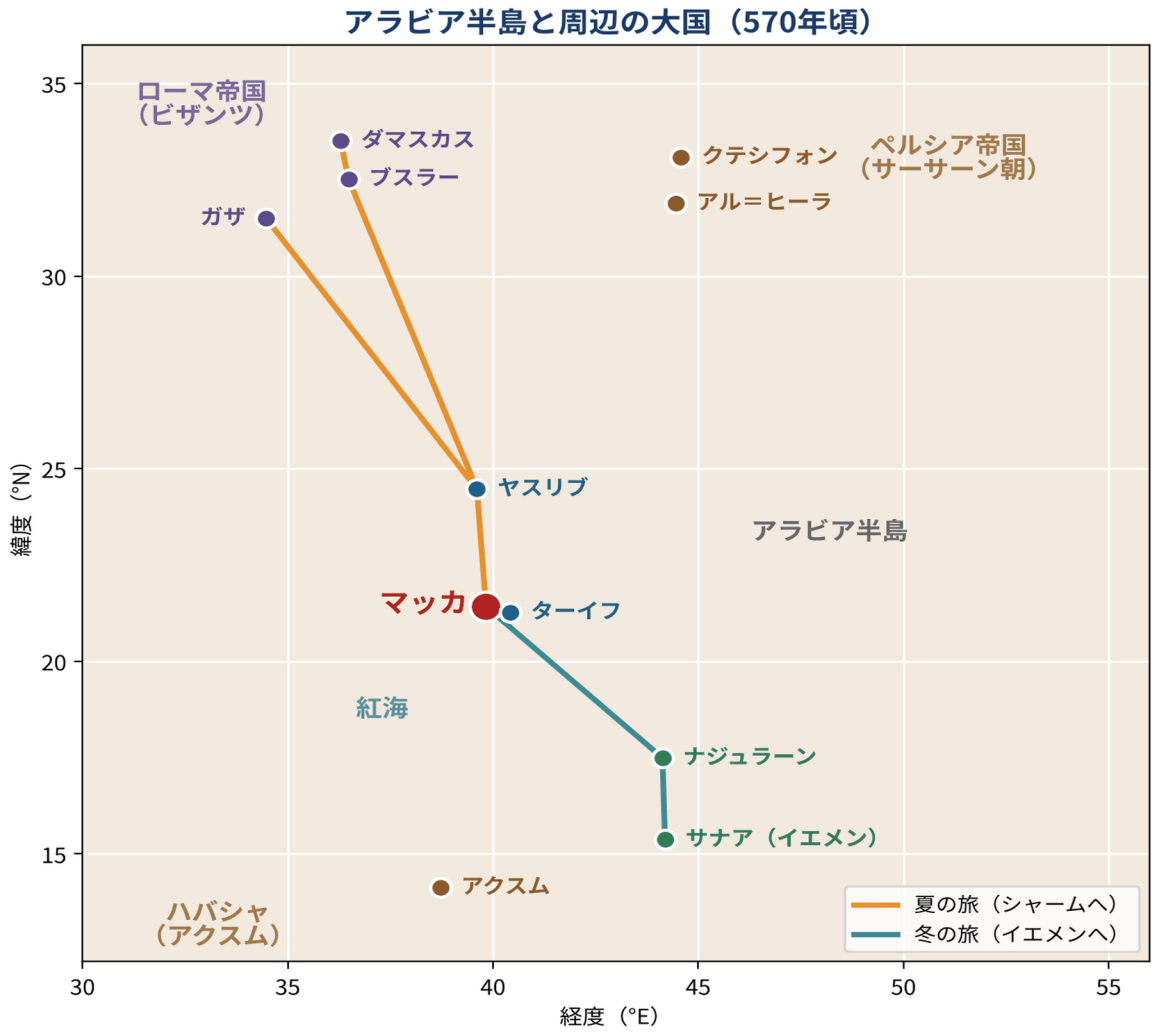
図 1：アッラーの使徒 ﷺ の幼少期の年表と、各出来事の典拠。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。主な典拠はクルアーン、イブン・カスィールのタフスィール、真正なハディースであり、各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。イブン・イスハークのスィーラ（イブン・ヒシャームの伝承）などスィーラ書からの情報は、真正なハディースと区別できるよう、茶色の「スィーラの注」の枠に入れている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

誕生前のアラビア半島

アッラーの使徒 ﷺ の誕生を理解するには、かれが生まれた世界を見る必要があります。6 世紀半ば、**アラビア半島**は大国に囲まれていましたが、マッカを含む内陸部は、どの帝国にも**一度も支配されたことがありません**でした。



概略図。位置は推定。出典：Wikipedia「Pre-Islamic Arabia」「Quraysh」。

図 2：アッラーの使徒 ﷺ の誕生当時のアラビア半島と周辺の大国（概略図）。

周辺の大国

勢力	位置と影響力
東ローマ帝国（ビザンツ）	北西：シャーム、パレスチナ、エジプト。アラブのガッサーン族と同盟。
ペルシア帝国（サーサーン朝）	北東：イラクとペルシア。ヒーラのラフム族と同盟。
アクスム王国（ハバシャ）	紅海の対岸。6 世紀初めにイエメンを支配 — アブラハはそこから来た。

出典：Wikipedia, “Pre-Islamic Arabia”。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

宗教と社会

当時のアラブ人の多くは**偶像を崇拝**していました。有名な偶像には**アッ＝ラート、アル＝ウッザー、マナート** – その名は星章 53:19–20 に記されています – と、カアバの**フバル**があります。イエメンとナジュラーンにはキリスト教徒がおり、ユダヤ教徒の部族はヤスリブなどに住んでいました。

アラブ社会は**部族**ごとに組織されていました。部族への忠誠は非常に強く、部族は構成員を守り、部族間の戦いは何年も続くことがありました。かれらはまた**詩**、客人へのもてなし、勇敢さでも知られていました – これらの美徳はのちにイスラームによって磨かれます。

スィーラの注：なぜアラビア半島なのか？

スィーラの学者たちは、最後の啓示がアラビア半島で下された英知としていくつかを挙げています。アジア・アフリカ・ヨーロッパの**中央**に位置すること、民族が大帝国の支配から**自由**であったこと、そして豊かで雄弁な**アラビア語**がクルアーンの言語となったことです。これらの英知は学者の見解であり、確定的な典拠ではありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マッカ：作物のない谷

マッカはヒジャーズ地方の**狭い谷**にあり、乾いた岩山に囲まれています。川はなく、作物もほとんど育ちません。預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ が妻ハージャルと息子イスマーイール عَلَيْهِ السَّلَامُ をそこに残したとき、かれはこう祈りました。

イブラーヒーム章 14:37

رَّبَّنَآ إِنِّيٓ أَسۡكَنتُ مِن ذُرِّيَّتِي بِوَادٍ غَيۡرِ ذِي زَرۡعٍ عِندَ بَيۡتِكَ ٱلۡمُحَرَّمِ رَبَّنَا لِيُقِيمُواْ ٱلصَّلَوٰةَ فَٱجۡعَلۡ أَفۡـِٔدَةٗ مِّنَ ٱلنَّاسِ تَهۡوِيٓ إِلَيۡهِمۡ وَٱرۡزُقۡهُم مِّنَ ٱلثَّمَرَٰتِ لَعَلَّهُمۡ يَشۡكُرُونَ ٣٧

主よ、わたしは子孫のある者をあなたの聖なる館の側の耕せない谷間に住まわせました。主よ、かれらに礼拝の務めを守らせて下さい。そうすれば人びとの心をかれらに引き付けるでしょう。またかれらに果実を御授け下さい。きっとかれらは感謝するでしょう。

訳：三田了一 — quran.com/14:37

アッラーは預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ の祈りについてこう述べておられます。「**あなたの聖なる館の側の耕せない谷間に**」。この祈りは聞き届けられました。人々の心はその谷に**引き付けられ**、外から住民に糧が届くようになったのです。イブン・カスィールのタフスィール 14:37

数字で見るマッカ

項目	説明
標高	海抜約 277m、狭い谷の中。
最も高い山	ヌール山（ジャバル・アン＝ヌール）、642m — 山頂近くにヒラーの洞窟がある。
気候	暑い砂漠気候。夏は通常 40°C を超える。
降水量	年平均約 105mm。
水源	ザムザムの井戸と小さな井戸。雨水は貯水池に蓄えられた。
人口	推定はさまざまである。ある研究では約 550 人、伝統的な資料では最大 1 万人とされる。

出典：Wikipedia, “Mecca”。

カアバ：谷の中心

谷の中心には、預言者イブラーヒームとイスマーイール ***Kaabah*** が建てた礼拝の館、カアバが立っていました。アラブ人はのちにその周りに偶像を置きましたが、なお**カアバを敬い**、毎年巡礼に訪れていました。巡礼の季節は休戦、交易、部族間の出会いをもたらしました — だからこそマッカは、作物がなくとも重要な町となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クライシュ族：カアバの守り手と商人

マッカを支配していた部族は**クライシュ族**でした。Wikipedia によれば、かれの 5 代前の祖先**クサイイ・ブン・キラーブ**が、散らばっていたフィフルの子孫を集め、カアバの管理を引き継ぎました。かれはその一部をカアバの周りに住まわせ（**クライシュ・アル＝ビターフ**）、残りを聖域の周縁に住まわせました（**クライシュ・アッ＝ザワーヒル**）。

年に二度の旅

マッカの土地は肥沃ではなかったため、クライシュ族は**交易**で暮らしていました。Wikipedia によれば、かれの曾祖父**ハーシム**が二つの隊商の旅を始めました。**冬はイエメンへ、夏はシャームへ**（ガザ、ブスラー、ダマスカス）。ハーシム自身も、そうした旅の途中、497 年頃にガザで亡くなりました。クルアーンはこの恩恵に触れています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クライシュ族章 106:1–4

لِإِيلَٰفِ قُرَيْشٍ ١

クライシュ族の保護のため、

إِۦلَٰفِهِمْ رِحْلَةَ ٱلشِّتَآءِ وَٱلصَّيْفِ ٢

冬と夏のかれらの隊商の保護のため、（そのアッラーの御恵みのために）

فَلْيَعْبُدُوا۟ رَبَّ هَٰذَا ٱلْبَيْتِ ٣

かれらに、この聖殿の主に仕えさせよ。

ٱلَّذِىٓ أَطْعَمَهُم مِّن جُوعٍ وَءَامَنَهُم مِّنْ خَوْفٍۢ ٤

飢えに際しては、かれらに食物を与え、また恐れに際しては、それを除き心を安らかにして下さる御方に。

訳：三田了一 — quran.com/106:1-4

アッラーは仰せられます。「**かれらに，この聖殿の主に仕えさせよ**」。クライシュ族の安全と糧はアッラーから与えられたもの。かれらはその館の守り手だったのだから、偶像ではなくアッラーに仕えるべきだったのです。イブン・カスィールのタフスィール 106:1。

クライシュ族の諸氏族

氏族	スィーラとの関わり
ハーシム家	アッラーの使徒 ﷺ の氏族。巡礼者に仕える権利を持つ。
ムッタリブ家	ハーシム家の親密な同盟者。
ズフラ家	かれの母アーミナ・ビント・ワハブの氏族。
ウマイヤ家（アブド・シャムス）	最も有力で裕福な氏族。ウスマーン・ブン・アッファーンの氏族。
タイム家	アブー・バクル・アッ＝スィッディークの氏族。
アディー家	ウマル・ブン・アル＝ハッターブの氏族。
アサド家	ハディージャ・ビント・フワイリドの氏族。
マフズーム家	ハーリド・ブン・アル＝ワリードの氏族。

出典：Wikipedia, “Quraysh”；Wikipedia, “Hashim ibn Abd Manaf”。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

預言者イブラーヒームの祈りと選ばれた家系

雌牛章 2:129

رَبَّنَا وَٱبۡعَثۡ فِيهِمۡ رَسُولٗا مِّنۡهُمۡ يَتۡلُواْ عَلَيۡهِمۡ ءَايَٰتِكَ وَيُعَلِّمُهُمُ ٱلۡكِتَٰبَ وَٱلۡحِكۡمَةَ وَيُزَكِّيهِمۡۚ إِنَّكَ أَنتَ ٱلۡعَزِيزُ ٱلۡحَكِيمُ ١٢٩

主よ、かれらの間にあなたの印を読誦させ啓典と英知を教え、かれらを清める使徒をかれらの中から遣わして下さい。本当にあなたは偉大にして英明な方であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:129

2:129 の解説

息子イスマーイール عَلَيْهِ السَّلَامُ とともにカアバの土台を築いていたとき、預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ は、アッラーがこの聖域の住民の中から一人の使徒を遣わしてくださるよう祈りました。イマーム・イブン・カスィールはこう説明しています。この聞き届けられた祈りは**アッラーの先の定めと一致していた**。すなわち、イブラーヒームの子孫からムハンマド ﷺ が使徒として、文字を知らない民へ、そして全人類と精霊（ジン）へ遣わされることである。イブン・カスィールのタフスィール 2:129

また悔悟章でアッラーは仰せられます。「**今，使徒があなたがたにあなたがたの間から，やって来た**」（9:128）。イブン・カスィールは「**あなたがたの中から、あなたがたの言葉で**」と述べています。かれはジャアファル・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه がナジャーシー（ハバシャ王）に語った言葉を引用しています。「アッラーは私たちの中から一人の使徒を遣わされました。私たちはかれの家系、人柄、日々の行い、誠実さと信頼性をよく知っています。」イブン・カスィールのタフスィール 9:128

家系：アッラーの使徒 ﷺ

イマーム・ブハーリーは、預言者 ﷺ の遣わしに関する章の題でかれの家系を挙げています。**ムハンマド・ブン・アブディッラー・ブン・アブドルムッタリブ・ブン・ハーシム・ブン・アブド・マナーフ・ブン・クサイイ・ブン・キラーブ・ブン・ムッラ・ブン・カアブ・ブン・ルアイイ・ブン・ガーリブ・ブン・フィフル・ブン・マーリク・ブン・アン＝ナドル・ブン・キナーナ・ブン・フザイマ・ブン・ムドリカ・ブン・イルヤース・ブン・ムダル・ブン・ニザール・ブン・マアッド・ブン・アドナーン**。サヒーフ・ブハーリー、アンサールの美徳の書、預言者の遣わしの章

学者たちが確かなものとして受け入れているのは**アドナーン**までの家系であり、アドナーンはイブラーヒームの子イスマーイール عَلَيْهِ السَّلَامُ の子孫です。かれの母は**アーミナ・ビント・ワハブ**であり、イブン・カスィールは朝章のタフスィールでそう述べています。次のハディースは、この家系がアッラーの選びであることを示しています。

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 2276 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ مِهْرَانَ الرَّازِيُّ، وَمُحَمَّدُ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ بْنِ سَهْمٍ، جَمِيعًا عَنِ الْوَلِيدِ، - قَالَ ابْنُ مِهْرَانَ حَدَّثَنَا الْوَلِيدُ بْنُ مُسْلِمٍ، - حَدَّثَنَا الأَوْزَاعِيُّ، عَنْ أَبِي عَمَّارٍ شَدَّادٍ، أَنَّهُ سَمِعَ وَاثِلَةَ بْنَ الأَسْقَعِ، يَقُولُ سَمِعْتُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ « إِنَّ اللَّهَ اصْطَفَى كِنَانَةَ مِنْ وَلَدِ إِسْمَاعِيلَ وَاصْطَفَى قُرَيْشًا مِنْ كِنَانَةَ وَاصْطَفَى مِنْ قُرَيْشٍ بَنِي هَاشِمٍ وَاصْطَفَانِي مِنْ بَنِي هَاشِمٍ ».

訳：

ワーシラ・ブン・アル＝アスカア رضى الله عنه によれば、かれは言った。私はアッラーの使徒 ﷺ がこう言われるのを聞いた。「**本当にアッラーはイスマーイールの子孫からキナーナを選び、キナーナからクライシュを選び、クライシュからハーシム家を選び、ハーシム家から私を選ばれた。**」

伝承経路 イマーム・ムスリムの伝承：ムハンマド・ブン・ミフラーン・アッ＝ラーズィーとムハンマド・ブン・アブドゥッラフマーン・ブン・サフム ← アル＝ワリード・ブン・ムスリム ← アル＝アウザーイー ← アブー・アンマール・シャッダード・ブン・アブディッラー ← ワーシラ・ブン・アル＝アスカア رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』美徳の書、預言者 ﷺ の家系の優越の章、ハディース第 2276 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

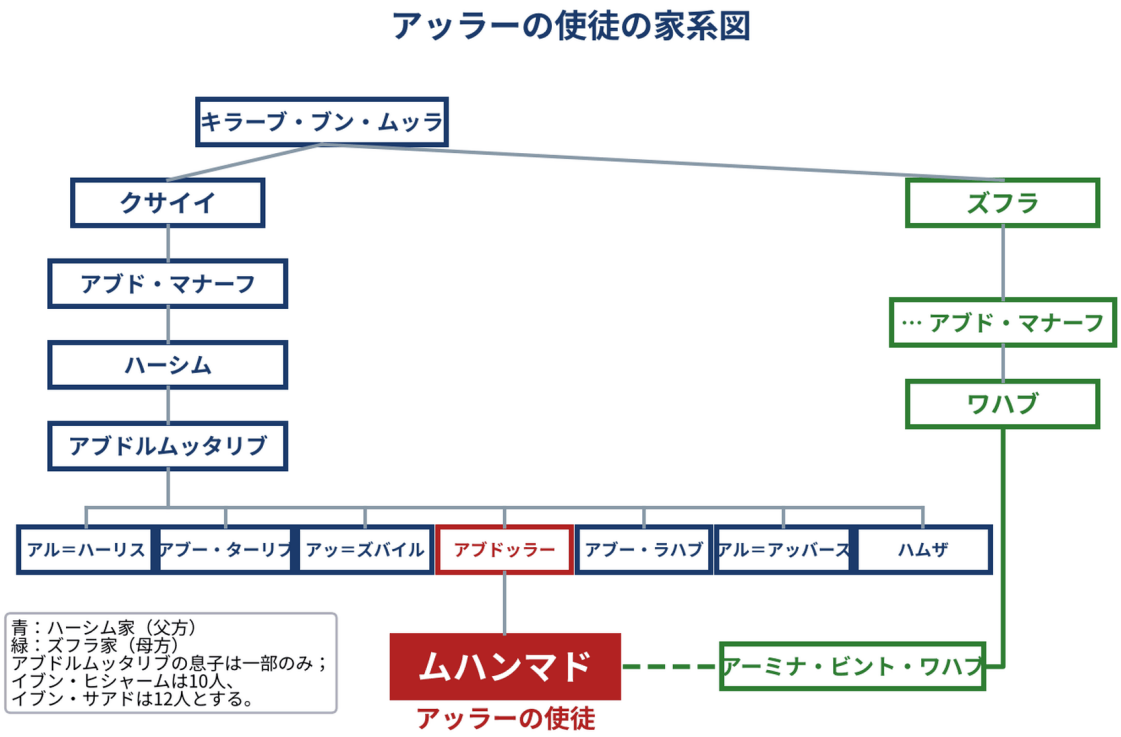
典拠：sunnah.com/muslim:2276

教訓

家系の高貴さは誇るためのものではなく、使徒に対する**アッラーの選びのしるし**です。それによって民はかれを知り、その血筋を非難できなかったのです。私たちの尊さは、敬虔さ（タクワー）によって測られます。

家系図：アッラーの使徒 ﷺ

次の図は、かれの家族を**両側**から示しています。父方は**ハーシム家**、母方は**ズフラ家**。両者は**キラーブ・ブン・ムッラ**で結ばれます。ズフラはクサイイの兄弟だったからです。



出典：サヒーフ・ブハーリー（預言者の遣わしの章）；Wikipedia「Abd al-Muttalib」「Amina bint Wahb」。

図 3：アッラーの使徒 ﷺ の父方と母方の家系図。

かれのおじたち

アブドルムッタリブには多くの息子がいました。その人数についてはスィーラ書によって異なります。そのうち 4 人がスィーラで重要な位置を占めています。

おじ	立場
アブー・ターリブ	8 歳のときからかれを養い、守った。
ハムザ رضى الله عنه	マッカでイスラームに入信。「アッラーの獅子」と呼ばれた。
アル＝アッバース رضى الله عنه	イスラームに入信。アッバース朝カリフたちの祖先。
アブー・ラハブ	かれに敵対した。棕櫚章（マサド章）に言及されている。

教訓：**血のつながりは導きを保証しない**。二人のおじはイスラームに入り、一人はかれを守り、もう一人は敵対しました。導きはアッラーからの恵みなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブドルムッタリブとザムザムの井戸

スィーラの注：「ムッタリブの奴隷」と呼ばれたシャイバ

Wikipedia によれば、かれの祖父は 496 年頃**ヤスリブ**で**シャイバ**という名で生まれました。母**サルマー・ビント・アムル**はヤスリブのナッジャール家の出身でした。ハーシムの死後、おじの**アル＝ムッタリブ**がかれをマッカへ連れてきました。マッカの人々はその少年をムッタリブの奴隷だと思い、**アブドルムッタリブ**（ムッタリブの奴隷）と呼び、その名が定着しました。

参照：

Wikipedia「Abd al-Muttalib」。en.wikipedia.org/wiki/Abd_al-Muttalib

ザムザムの再発掘

アブドルムッタリブはハーシム家の長となり、巡礼者に食べ物と飲み物を提供する役目を担いました。スィーラ書の伝承によれば、かれはカアバの近くのある場所を掘るよう夢で命じられました。**3 日間**掘り続けたのち、長く埋もれていた**ザムザムの井戸**を再発見したのです。それ以来、ザムザムの水は再び巡礼者に供されるようになりました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：誓いと百頭のラクダによる贖い

スィーラ書の伝承によれば、アブドルムッタリブは誓いを立てました。もし成人する 10 人の息子を授かったなら、そのうち一人をカアバのそばで犠牲にすると。くじは最も愛する息子**アブドッラー**に当たりました。人々の助言により、アブドッラーとラクダのあいだでくじを引き、そのたびにラクダの数を増やしていきました。ラクダが**百頭**に達したとき、ようやくくじがラクダに当たり、アブドッラーは救われました。

この話は**スィーラ書の伝承**であり、真正なハディースではありません。子を犠牲にするというジャーヒリーヤの慣習が、のちにイスラームによって廃止されたことを示しています。

参照：

Wikipedia「Abd al-Muttalib」。en.wikipedia.org/wiki/Abd_al-Muttalib

アブドルムッタリブとアブラハ

象の年、アブドルムッタリブはアブラハと対峙したマッカの指導者でした。その話は『クルアーンの物語』第 39 巻で詳しく述べました。カアバには、それを守る主がおられるのです。わずか数週間後、かれの孫ムハンマド ﷺ が誕生しました。

アブドッラーとアーミナ

誓いから救われたアブドルムッタリブの息子アブドッラーは、ズフラ家の**アーミナ・ビント・ワハブ**と結婚しました。Wikipedia によれば、アーミナの母は**バッラ・ビント・アブドルウッザー**であり、その祖先ズフラは**クサイイ・ブン・キラーブの兄弟**でした。つまり、かれの両親はともに高貴なクライシュの家系の出身です。

スィーラの注：ヤスリブでのアブドッラーの死

Wikipedia とスィーラ書によれば、アーミナが身ごもっていたとき、アブドッラーは**交易の隊商**とともに出かけました。帰路に病にかかり、アブドルムッタリブの母方の親族のもとで、子が生まれる前に**ヤスリブで亡くなりました。**

これが、イブン・カスィールが朝章のタフスィールで述べていることです。かれは**母の胎内にいるときから孤児であった**（「守られた孤児」の章を参照）。

参照：

Wikipedia「Amina bint Wahb」。en.wikipedia.org/wiki/Amina_bint_Wahb

西暦で見た誕生の年

現代の歴史家は**象の年**を **570 年**頃と推定しており、かれの誕生も通常 **570 年**とされます。571 年とする研究者もいます。ハディースで真正とされているのは誕生の**曜日**、すなわち月曜日です。出典：Wikipedia, “Mecca”。

出来事	推定西暦年
ハーシム、ガザで死去	497 年頃
アブドルムッタリブ、ヤスリブで誕生	496 年頃
象の年；誕生 — アッラーの使徒 ﷺ	570 年頃
アーミナ、アル＝アブワーで死去	576〜577 年頃
アブドルムッタリブ死去	578 年頃

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

象の年：誕生の前触れ

アッラーの使徒 ﷺ の誕生に先立って、マッカの全住民が目撃した大事件がありました。カアバを破壊するために象を連れて進軍してきた**アブラハ**の軍勢です。その全容は『クルアーンの物語』第 39 巻で述べました。ここではかれの誕生に関わることだけをまとめます。

項目	説明
アブラハとは？	アクスム王国（ハバシャ）の代理としてイエメンを治めたキリスト教徒の指導者。
目的	カアバを破壊し、アラブ人をイエメンの自分の教会へ巡礼させること。
起きたこと	先頭の象はマッカの境で止まり、軍勢はアッラーによって滅ぼされた（象章）。
推定年	現代の歴史家によれば 570〜572 年頃。

出典：Wikipedia, “Mecca”；イブン・カスィールのタフスィール、象章。

なぜこの出来事が重要なのか？

第一：アッラーの館が守られた。 アッラーの使徒 ﷺ の共同体のキブラ（礼拝の方向）となるカアバが、かれの誕生の数週間前に救われました。

第二：クライシュ族の地位が高まった。 スィーラ書によれば、アッラーがかれらの館を守られたことで、アラブ人はクライシュ族を「**アッラーの民**」とみなし、マッカの名誉がいっそう高まりました。

第三：時の目印となった。 アラブ人には決まった暦がなかったため、その年を**象の年**と名づけ、他の出来事をそこから数えました — アッラーの使徒 ﷺ の誕生もその一つです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

月曜日の誕生

アッラーの使徒 ﷺ ご自身が、月曜日の断食について尋ねられたとき、ご自分の誕生の曜日を告げられました。

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1162 番

وَحَدَّثَنِي زُهَيْرُ بْنُ حَرْبٍ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّحْمَنِ بْنُ مَهْدِيٍّ، حَدَّثَنَا مَهْدِيُّ بْنُ مَيْمُونٍ، عَنْ غَيْلاَنَ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ مَعْبَدٍ الزِّمَّانِيِّ، عَنْ أَبِي قَتَادَةَ الأَنْصَارِيِّ، رضى الله عنه أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم سُئِلَ عَنْ صَوْمِ الاِثْنَيْنِ فَقَالَ « فِيهِ وُلِدْتُ وَفِيهِ أُنْزِلَ عَلَىَّ ».

訳：

アブー・カターダ・アル＝アンサーリー رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は月曜日の断食について尋ねられ、こう言われた。「**その日に私は生まれ、その日に私に（啓示が）下された。**」

伝承経路 イマーム・ムスリムの伝承：ズハイル・ブン・ハルブ ← アブドッラフマーン・ブン・マフディー ← マフディー・ブン・マイムーン ← ガイラーン・ブン・ジャリール ← アブドッラー・ブン・マアバド・アッ＝ズィンマーニー ← アブー・カターダ・アル＝アンサーリー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』断食の書、毎月 3 日間・アラファの日・アーシューラー・月曜日と木曜日の断食を勧める章、ハディース第 1162 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：sunnah.com/muslim:1162e

誕生の年と日付

真正なハディースは誕生の**曜日**、すなわち月曜日を定めています。その**年**については、スィーラの学者の間で有名な見解は**象の年**、すなわちアッラーがアブラハの軍勢を滅ぼされた年です（『クルアーンの物語』第 39 巻を参照）。場所はマッカです。

スィーラの注：誕生の日付

ラビーウ・アル＝アウワル月のどの**日付**に生まれたかについては、学者の見解が分かれています。最も有名なのは**ラビーウ・アル＝アウワル月 12 日**で、イブン・イスハークの見解です。8 日や 9 日など、別の日付を選ぶ学者もいます。

この見解の違いは何も損ないません。真正なのはかれが**月曜日**に生まれたことであり、より大切なのはかれのスンナに従うこと – かれが実践された月曜日の断食も含めて – です。

称えられる名

スィーラの注：誰が名づけたのか？

スィーラ書の伝承によれば、祖父**アブドルムッタリブ**が孫を**ムハンマド**と名づけました。この名は当時のアラブ人にはあまり使われていませんでした。

言葉の上では、**ムハンマド**は「**大いに称えられる者**」、**アフマド**は「**最もよく（アッラーを）称える者**」あるいは「**最も称えられる者**」を意味します。

ハディースに見るかれの名前

『サヒーフ・ブハーリー』で、アッラーの使徒 ﷺ はご自分のいくつかの名を挙げておられます。**ムハンマド、アフマド、アル＝マーヒー**（かれによってアッラーが不信仰を消し去る者）、**アル＝ハーシル**（人々がかれの後に集められる者）、そして**アル＝アーキブ**（最後の者）。サヒーフ・ブハーリー 3532

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アフマドという名は、預言者イーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ がもたらした吉報としてクルアーンにも記されています（戦列章 61:6）。

名前	意味
ムハンマド	大いに称えられる者
アフマド	最も称えられる者／最もよく称える者
アル＝マーヒー	かれによって不信仰が消し去られる者
アル＝ハーシル	人々がかれの後に集められる者
アル＝アーキブ	最後の預言者

教訓：**良い名前**は祈りです。子どもたちに意味のある名前をつけ、この最も称えられる名の持ち主の人柄を手本としましょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

守られた孤児

朝章 93:6–8

أَلَمْ يَجِدْكَ يَتِيمًا فَـَٔاوَىٰ ٦

かれは孤児のあなたを見付けられ、庇護なされたではないか。

وَوَجَدَكَ ضَآلًّا فَهَدَىٰ ٧

かれはさ迷っていたあなたを見付けて、導きを与え。

وَوَجَدَكَ عَآئِلًا فَأَغْنَىٰ ٨

また貧しいあなたを見付けて、裕福になされたではないか。

訳：三田了一 — quran.com/93:6-8

93:6–8 の解説

第一：母の胎内にいるときからの孤児。 イマーム・イブン・カスィールは「**かれは孤児のあなたを見付けられ**」についてこう説明しています。**父アブドゥッラーはかれがまだ母の胎内にいるときに亡くなった** – かれが生まれた後に亡くなったとする見解もある。イブン・カスィールのタフスィール 93:6

第二：守りに次ぐ守り。 イブン・カスィールは続けます。その後、母**アーミナ・ビント・ワハブがかれの 6 歳のときに亡くなり**、かれは祖父**アブドルムッタリブに養われ、その祖父もかれの 8 歳のときに亡くなった。**それからおじの**アブー・ターリブ**がかれを養い、守り続けた。「これらはすべて、アッラーの定めとその良き計らいによる」とイブン・カスィールは言います。

省察 — アッラーが守り手となられるとき

父を、母を、そして祖父を失いながらも、かれは**決して守り手なしに放っておかれることはありませんでした。「庇護なされたではないか」**。大切な人を失ったすべての人にとって、この節は癒やしです。

乳母たち

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 5101 番

حَدَّثَنَا الْحَكَمُ بْنُ نَافِعٍ، أَخْبَرَنَا شُعَيْبٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، قَالَ أَخْبَرَنِي عُرْوَةُ بْنُ الزُّبَيْرِ، أَنَّ زَيْنَبَ ابْنَةَ أَبِي سَلَمَةَ، أَخْبَرَتْهُ أَنَّ أُمَّ حَبِيبَةَ بِنْتَ أَبِي سُفْيَانَ أَخْبَرَتْهَا أَنَّهَا، قَالَتْ يَا رَسُولَ اللَّهِ انْكِحْ أُخْتِي بِنْتَ أَبِي سُفْيَانَ فَقَالَ «أَوَتُحِبِّينَ ذَلِكَ». فَقُلْتُ نَعَمْ، لَسْتُ لَكَ بِمُخْلِيَةٍ، وَأَحَبُّ مَنْ شَارَكَنِي فِي خَيْرٍ أُخْتِي. فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم «إِنَّ ذَلِكَ لاَ يَحِلُّ لِي». قُلْتُ فَإِنَّا نُحَدَّثُ أَنَّكَ تُرِيدُ أَنْ تَنْكِحَ بِنْتَ أَبِي سَلَمَةَ. قَالَ «بِنْتَ أُمِّ سَلَمَةَ». قُلْتُ نَعَمْ. فَقَالَ «لَوْ أَنَّهَا لَمْ تَكُنْ رَبِيبَتِي فِي حَجْرِي مَا حَلَّتْ لِي إِنَّهَا لاَبْنَةُ أَخِي مِنَ الرَّضَاعَةِ، أَرْضَعَتْنِي وَأَبَا سَلَمَةَ ثُوَيْبَةُ فَلاَ تَعْرِضْنَ عَلَيَّ بَنَاتِكُنَّ وَلاَ أَخَوَاتِكُنَّ». قَالَ عُرْوَةُ وَثُوَيْبَةُ مَوْلاَةٌ لأَبِي لَهَبٍ كَانَ أَبُو لَهَبٍ أَعْتَقَهَا فَأَرْضَعَتِ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم فَلَمَّا مَاتَ أَبُو لَهَبٍ أُرِيَهُ بَعْضُ أَهْلِهِ بِشَرِّ حِيبَةٍ قَالَ لَهُ مَاذَا لَقِيتَ قَالَ أَبُو لَهَبٍ لَمْ أَلْقَ بَعْدَكُمْ غَيْرَ أَنِّي سُقِيتُ فِي هَذِهِ بِعَتَاقَتِي ثُوَيْبَةَ.

訳：

ウンム・ハビーバ・ビント・アビー・スフヤーン رضى الله عنها によれば、彼女は言った。「アッラーの使徒よ、私の妹、アブー・スフヤーンの娘と結婚してください。」..... かれは言われた。**「たとえ彼女（ウンム・サラマの娘）が私の保護下にある継娘でなかったとしても、彼女は私には許されない。彼女は乳による私の姪だからである。私とアブー・サラマはスワイバに授乳された。だから、あなたがたの娘や姉妹を私に勧めてはならない。」** ウルワは言った。スワイバはアブー・ラハブの解放された奴隷で、預言者 ﷺ に授乳した。

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アル＝ハカム・ブン・ナーフィウ ← シュアイブ ← アッ＝ズフリー ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← ザイナブ・ビント・アビー・サラマ ← ウンム・ハビーバ・ビント・アビー・スフヤーン رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』婚姻の書、ハディース第 5101 番。ムスリム（第 1449 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:5101

このハディースの教訓

アッラーの使徒 ﷺ に授乳した者の一人は、アブー・ラハブの解放奴隷**スワイバ**でした。このハディースはまた、**乳による婚姻禁止（マフラム）**の規定の根拠です。乳兄弟の娘とは結婚できません。かれ ﷺ ご自身がこの規定を厳格に守られました。この伝承の最後の部分 — 夢に現れたアブー・ラハブについて — はウルワの言葉であり、預言者 ﷺ の言葉ではありません。

スィーラの注：ハリーマ・アッ＝サアディーヤとサアド族

スィーラ書 — その一つはイブン・ヒシャームが伝えるイブン・イスハークのスィーラ — によれば、マッカの名家では、空気がきれいで言葉が純粋な砂漠の村へ赤ん坊を送って授乳させる習慣がありました。アッラーの使徒 ﷺ は、**サアド・ブン・バクル族**の**ハリーマ・ビント・アビー・ズアイブ・アッ＝サアディーヤ**に授乳されました。

スィーラ書はまた、かれを引き取った後にハリーマの家族が受けた祝福 — 羊や乗り物が肥えたこと — を伝えています。この話はスィーラ書では有名ですが、**『サヒーフ・ブハーリー』にも『サヒーフ・ムスリム』にも見られず**、その伝承経路の強さについてはハディース学者の見解が分かれています。

真正なハディースが裏づけるのは、かれに**乳母がいた**ということです。次の章の胸を開く出来事のハディース（サヒーフ・ムスリム 162）がそれに触れています。

サアド族の砂漠での暮らし

Wikipedia によれば、ハリーマと夫**アル＝ハーリス・ブン・アブドルウッザー**は、大部族**ハワーズィン**の一支族**サアド・ブン・バクル族**の出身でした。かれらはマッカの喧騒から遠く離れたヒジャーズの奥地で、**ベドウィン**として暮らしていました。

なぜマッカの赤ん坊は砂漠へ送られたのか？

砂漠の利点	説明
きれいな空気	町の混雑やうつりやすい病気から遠い。
純粋な言葉	ベドウィンのアラビア語は最も純粋で雄弁とされた。
丈夫な体	自然の中での生活が体を鍛えた。
部族の絆	乳の絆がクライシュ族とベドウィンの部族との関係を強めた。

これらの利点は、スィーラの学者がマッカの名家の**慣習**として挙げているもので、シャリーアの典拠ではありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：干ばつの年と祝福

スィーラ書の伝承によれば、ハリーマは**干ばつの年**に、弱った乗り物と乏しい乳を抱えてマッカに来ました。その孤児は、謝礼を払う父親がいないため、ほかの乳母たちに引き取られませんでした。ハリーマがかれを引き取ると、家族の暮らしは祝福されたものになりました。

Wikipedia も、ほかの家畜が死んでいく中で、ハリーマの家の家畜は健康で乳をたくさん出したと伝えています。この祝福の話は**スィーラ書では有名**ですが、「乳母たち」の章で説明したように**二大サヒーフには見られません**。

サアド族のもとでの期間については、伝承が**分かれています**。4〜5 年ほどとするものもあります。

参照：

Wikipedia「Halima bint Abi Dhu'ayb」。en.wikipedia.org/wiki/Halima_bint_Abi_Dhu%27ayb

省察

アッラーはご自分の使徒を宮殿ではなく、貧しい一家に見守られた**質素なベドウィンのテント**で育てられました。質素さ、広大な自然、雄弁な言葉が、かれの教育の一部となったのです。

胸を開く出来事

まだ幼く、友だちと遊んでいたとき、驚くべき出来事が起こりました。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 162 番

حَدَّثَنَا شَيْبَانُ بْنُ فَرُّوخَ، حَدَّثَنَا حَمَّادُ بْنُ سَلَمَةَ، حَدَّثَنَا ثَابِتٌ الْبُنَانِيُّ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَتَاهُ جِبْرِيلُ صلى الله عليه وسلم وَهُوَ يَلْعَبُ مَعَ الْغِلْمَانِ فَأَخَذَهُ فَصَرَعَهُ فَشَقَّ عَنْ قَلْبِهِ فَاسْتَخْرَجَ الْقَلْبَ فَاسْتَخْرَجَ مِنْهُ عَلَقَةً فَقَالَ هَذَا حَظُّ الشَّيْطَانِ مِنْكَ. ثُمَّ غَسَلَهُ فِي طَسْتٍ مِنْ ذَهَبٍ بِمَاءِ زَمْزَمَ ثُمَّ لأَمَهُ ثُمَّ أَعَادَهُ فِي مَكَانِهِ وَجَاءَ الْغِلْمَانُ يَسْعَوْنَ إِلَى أُمِّهِ - يَعْنِي ظِئْرَهُ - فَقَالُوا إِنَّ مُحَمَّدًا قَدْ قُتِلَ. فَاسْتَقْبَلُوهُ وَهُوَ مُنْتَقِعُ اللَّوْنِ. قَالَ أَنَسٌ وَقَدْ كُنْتُ أَرَى أَثَرَ ذَلِكَ الْمِخْيَطِ فِي صَدْرِهِ.

訳：

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه によれば、ジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ が、ほかの子どもたちと遊んでいたアッラーの使徒 ﷺ のもとに来た。ジブリールはかれをつかんで横たえ、その胸を開いて心臓を取り出した。そこから血の塊を取り出し、こう言った。「**これはあなたの中のシャイターン（悪魔）の取り分である。**」それからジブリールは金の器の中でそれをザムザムの水で洗い、元どおりに閉じて、もとの場所に戻した。子どもたちはかれの母 — すなわち乳母 — のもとへ走って行き、「ムハンマドが殺された！」と言った。人々がかれのもとへ行くと、かれは顔色が青ざめていた。アナスは言った。**「私はかれの胸に縫い目の跡を見たことがある。」**

伝承経路 イマーム・ムスリムの伝承：シャイバーン・ブン・ファッルーフ ← ハンマード・ブン・サラマ ← サービト・アル＝ブナーニー ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』信仰の書、アッラーの使徒 ﷺ の天への夜の旅の章、ハディース第 162 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：sunnah.com/muslim:162c

このハディースの教訓

第一：幼いころからの守り。 アッラーは幼少期から**ご自分の使徒の心を清め**、そこから「シャイターンの取り分」を取り除かれました – 偉大な使命への準備です。

第二：ほかの人も目撃した。 ほかの子どもたちがそれを見ており、アナス رضى الله عنه 自身もかれの胸の**縫い目の跡**を見たことがあります。この出来事は空想ではなく、実際に起きたことです。

第三：乳母がいたことの根拠。 このハディースは、子どもたちが**かれの母 – すなわち乳母** – のもとへ走って行ったと述べており、かれが乳母の村で過ごしたというスィーラの伝承を裏づけています。

胸を広げる章 94:1

أَلَمْ نَشْرَحْ لَكَ صَدْرَكَ ۝١

われは、あなたの胸を広げなかったか。

訳：三田了一 — quran.com/94:1

94:1 の解説

イマーム・イブン・カスィールは「**われは，あなたの胸を広げなかったか**」を、**われはあなたの胸を照らし、広く大きくした**と説明しています。かれは、ここで意味されているのはイスラー（夜の旅）の夜の胸を開く出来事だとする見解も挙げ、こう言います。**矛盾はない**。なぜなら、物理的に胸を開くことは胸を広げることに含まれ、それによって内面的な広がりも生まれるからである。イブン・カスィールのタフスィール 94:1

省察 – 清められた心

アッラーの使徒 ﷺ の心がジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ によって清められたのなら、私たちの心は**悔悟、ズィクル（アッラーを念じること）、そして知識**によって清められる必

要があります。このハディースは、人の善悪の中心はその心であることを教えています。

母のもとへ

スィーラの注：乳飲み子を返すハリーマ

スィーラ書によれば、胸を開く出来事の後、ハリーマと夫はその子の身を**案じ**、マッカの母アーミナのもとへ連れて帰りました。Wikipedia によれば、かれは **5 歳**ごろ母と祖父のもとへ返されました。

胸を開く出来事そのものは**真正**です（サヒーフ・ムスリム 162）。一方、ハリーマの心配や帰路の詳細は**スィーラ書の伝承**です。

参照：

Wikipedia「Halima bint Abi Dhu'ayb」。en.wikipedia.org/wiki/Halima_bint_Abi_Dhu%27ayb

変わらぬハリーマの愛

乳の家族との関係は途切れませんでした。Wikipedia によれば、かれがハディージャ رضى الله عنها と結婚した後、ハリーマが暮らしの苦しさを訴えにマッカへ来たとき、ハディージャは彼女に**羊とラクダ**を与えました。かれは常に乳母とその家族を**敬いました**。

教訓：何年経っても、**恩を受けた人に善を尽くす**こと。乳母、先生、育ててくれた人は、みな私たちに思い出され、祈られる権利があります。

母と過ごした年月

子どもは今、祖父アブドルムッタリブの庇護のもと、マッカで母とともに暮らしていました。この時期は**短く**、わずか 1 年ほどでした。その後、かれの人生を変えるヤスリブへの旅が待っていました。それは次の章で述べます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

母との別れ

イブン・カスィールによれば、かれの母アーミナ・ビント・ワハブは、かれが **6 歳**のときに亡くなりました。何年も後、アッラーの使徒 ﷺ は母の墓を訪れました。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 976 番

حَدَّثَنَا أَبُو بَكْرِ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ، وَزُهَيْرُ بْنُ حَرْبٍ، قَالاَ حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ عُبَيْدٍ، عَنْ يَزِيدَ بْنِ كَيْسَانَ، عَنْ أَبِي حَازِمٍ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، قَالَ زَارَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم قَبْرَ أُمِّهِ فَبَكَى وَأَبْكَى مَنْ حَوْلَهُ فَقَالَ «اسْتَأْذَنْتُ رَبِّي فِي أَنْ أَسْتَغْفِرَ لَهَا فَلَمْ يُؤْذَنْ لِي وَاسْتَأْذَنْتُهُ فِي أَنْ أَزُورَ قَبْرَهَا فَأُذِنَ لِي فَزُورُوا الْقُبُورَ فَإِنَّهَا تُذَكِّرُ الْمَوْتَ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、かれは言った。預言者 ﷺ は母の墓を訪れて泣かれ、周りの人々も泣いた。かれは言われた。「**私は主に、彼女のために赦しを請う許しを求めたが、許されなかった。そして彼女の墓を訪れる許しを求めると、許された。だから墓を訪れなさい。それは死を思い起こさせるのだから。**」

伝承経路 イマーム・ムスリムの伝承：アブー・バクル・ブン・アビー・シャイバとズハイル・ブン・ハルブ ← ムハンマド・ブン・ウバイド ← ヤズィード・ブン・カイサーン ← アブー・ハーズィム ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』葬儀の書、預言者 ﷺ が母の墓を訪れる許しを主に求めた章、ハディース第 976 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：sunnah.com/muslim:976b

このハディースの教訓

第一：子の愛。 アッラーの使徒 ﷺ は母の墓で**泣かれ**、周りの人々も泣きました — 母への愛は時が経っても消えません。

第二：墓参り。 かれはこの出来事を共同体への教訓とされました。**墓を訪れなさい。それは死を思い起こさせるのだから。**

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

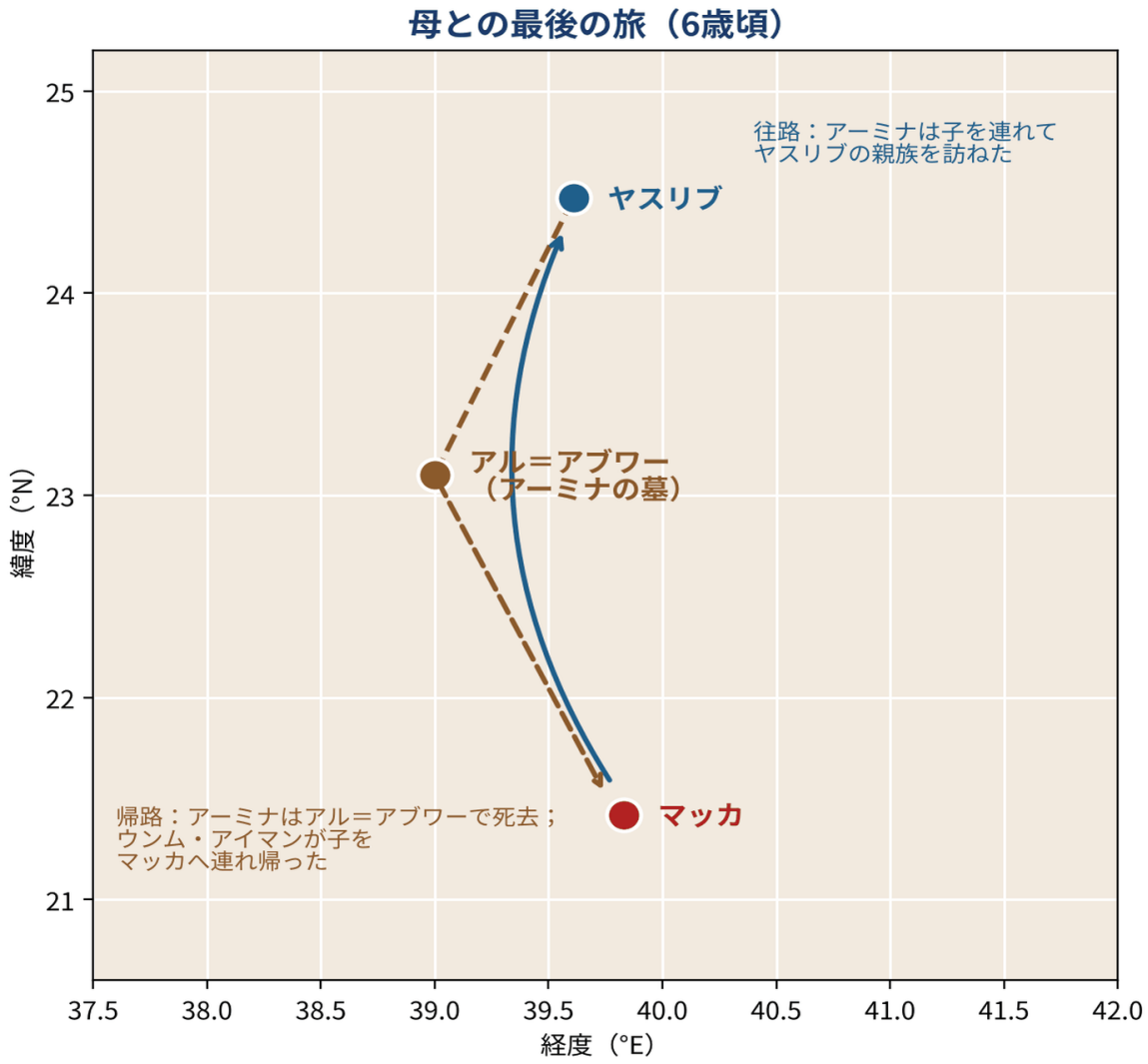
第三：アッラーへの服従。 かれは、最も愛する人に関わることであっても、アッラーがお許しにならないことについてはアッラーの決定に従われました。

スィーラの注：アル＝アブワー

スィーラ書によれば、アーミナはかれを連れてマディーナ（ヤスリブ）の親族を訪ね、帰路、マッカとマディーナの間にある**アル＝アブワー**で亡くなり、そこに葬られました。

ウンム・アイマン：誠実な養育者

ヤスリブからの帰路、アーミナがアル＝アブワーで亡くなったとき、一人の女性がその孤児のそばにいました。**バラカ・ビント・サアラバ**、**ウンム・アイマン**として知られる人です。



概略図。アル＝アブワーの位置は推定。出典：Wikipedia「Amina bint Wahb」「Umm Ayman」。

図 4：アッラーの使徒ﷺと母との最後の旅（概略図）。

スィーラの注：ウンム・アイマンとは？

Wikipedia によれば、ウンム・アイマンは**ハバシャ（エチオピア）**の出身で、アブドッラーとアーミナの家の奴隷でした。アーミナの死後、彼女は**その子の世話をし**、マッカの祖父の家へ連れて行きました。

かれはハディージャ ***memerdekakan*** と結婚したとき、ウンム・アイマンを解放しました。ウンム・アイマンはウバイド・ブン・ザイドと結婚して**アイマン**という子をもうけ、のちに**ザイド・ブン・ハーリサ**と結婚して**ウサーマ**を産みました。ウサーマはやがて軍の司令官となります。彼女は早くにイスラームに入信した一人で、マディーナへ移住し、ウフドの戦いでは水を配り、負傷者の手当てをしました。

参照：

Wikipedia「Umm Ayman」。en.wikipedia.org/wiki/Umm_Ayman

教訓

第一：尊さは肌の色にはない。 ハバシャの一人の女性がアッラーの使徒 ﷺ の養育者となり、かれの生涯を通じて敬われました。

第二：誠実には誠実で報いる。 かれは彼女を解放し、愛する人と結婚させ、敬いました。

第三：孤児の守り手。 母を失った後、アッラーは愛情深い養育者を授けられました – 93:6 に述べられた守りのもう一つのしるしです。

祖父とおじに守られて

母の死後、かれはクライシュ族の長である祖父**アブドルムッタリブ**に養われ、その祖父もかれの 8 歳のときに亡くなりました。その後、アブドッラーの実の兄弟であるおじ**アブー・ターリブ**がかれを養いました — イブン・カスィールが朝章 93:6 のタフスィールで述べているとおりです。

羊の放牧

それ以前の預言者たちと同じように、アッラーの使徒 ﷺ もわずかな報酬でマッカの人々の**羊を放牧**したことがあります。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 2262 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ مُحَمَّدٍ الْمَكِّيُّ، حَدَّثَنَا عَمْرُو بْنُ يَحْيَى، عَنْ جَدِّهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَ «مَا بَعَثَ اللَّهُ نَبِيًّا إِلاَّ رَعَى الْغَنَمَ». فَقَالَ أَصْحَابُهُ وَأَنْتَ فَقَالَ «نَعَمْ كُنْتُ أَرْعَاهَا عَلَى قَرَارِيطَ لأَهْلِ مَكَّةَ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、預言者 ﷺ は言われた。「**アッラーが遣わされた預言者で、羊を放牧しなかった者はいない。**」教友たちが「あなたもですか？」と尋ねると、かれは答えられた。「**そうだ。私はかつて、数キーラートの報酬でマッカの人々の羊を放牧していた。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・ムハンマド・アル＝マッキー ← アムル・ブン・ヤフヤー ← その祖父サイード・ブン・アムル ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』雇用の書、数キーラートの報酬で羊を放牧する章、ハディース第 2262 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:2262

このハディースの教訓

第一：自分の手で働く。 かれは他人に頼らず、わずかな報酬であっても**糧を得るために働かれました。**

第二：指導者としての訓練。 学者たちは、羊の放牧が**忍耐、優しさ、責任感** – 人々を導くのに必要な資質 – を養うと述べています。

第三：出自を恥じない。 かれは質素な仕事を恥じることなく、ご自分から教友たちに語られました。

アブー・ターリブ：貧しくとも高潔なおじ

Wikipedia によれば、アブー・ターリブ – 資料によって本名は**イムラーン**とも**アブド・マナーフ**ともいう – は、母**ファーティマ・ビント・アムル**を同じくするアブドゥッラーの**実の兄弟**でした。アブドルムッタリブの死後、アブー・ターリブは、**暮らしが苦しい**にもかかわらず甥を引き取りました。

スィーラの注：狭い家、広い心

Wikipedia によれば、アブー・ターリブは**貧しく**、子どもが多くいました。その中には**アリー、ジャアファル、アキール、ターリブ、ウンム・ハーニー（ファーキタ）**がいます。かれは巡礼者をもてなす務めを果たすため、兄弟の**アル＝アッバース**からお金を借りたこともありました。

それでもかれは、愛情深く甥を守りました。のちにかれが使徒として遣わされると、アブー・ターリブはクライシュの指導者たちからかれを**守り**、そのためにハーシム家はボイコットされました。アブー・ターリブは **619 年**ごろ亡くなりました。この年は、ハディージャ ***Tahun Dukacita*** も近い時期に亡くなったため、「悲しみの年」と呼ばれています。

参照：

Wikipedia「Abu Talib ibn Abd al-Muttalib」。en.wikipedia.org/wiki/Abu_Talib_ibn_Abd_al-Muttalib

大家族の中の子ども

アブー・ターリブの家で、かれはいとこたちとともに育ちました。その中には、のちに最初期にイスラームに入信した一人となる**アリー・ブン・アビー・ターリブ** رضى الله عنه や、ハバシャへ移住した**ジャアファル** رضى الله عنه がいました。この質素な暮らしが、かれが幼いころから**羊を放牧して働いた**理由を説明しています。

教訓

貧しさは**高潔な人柄**を妨げません。アブー・ターリブは、住まい、愛情、守りと、持てるものを与えました。私たちも、限られた力であっても、家族の中の孤児の守り手になることができます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

かれの幼少期のマッカ社会

アッラーの使徒 ﷺ は、**二つの顔**を持つ社会で育ちました。預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ の宗教とアラブ文化から受け継がれた美徳と、のちにイスラームによって正される**ジャーヒリーヤの慣習**です。

美徳	ジャーヒリーヤの慣習
客人と巡礼者を手厚くもてなす	カアバの周りで偶像を崇拝する
約束を守り、保護を求める者を守る	ささいなことで部族間が戦う
勇敢さと言葉の雄弁さ	女児を生き埋めにする（81:8–9 を参照）
聖月を敬う	利子（リバー）と弱者への不正

スィーラの注：ウカーズの市

Wikipedia によれば、**ウカーズの市**はナフラとターイフの間にありました。巡礼の季節の前、**ズル・カアダ月**に毎年**21 日間**開かれました。交易のほか、アラブの諸部族は争いを解決し、盟約を結び、競走をし、アラビア語の文法の形成に役立った**詩の競演**を催しました。

このような市は、当時アラビア語が**雄弁さの頂点**にあったことを示しています – そして雄弁さを重んじるこの民族に、クルアーンは言葉の奇跡として下されたのです。

参照：

Wikipedia「Souk Okaz」。en.wikipedia.org/wiki/Souk_Okaz

フバルとカアバの偶像

Wikipedia によれば、カアバで最も重要な偶像はクライシュ族が置いた**フバル**で、**マッカ征服まで**そこにありました。これらの偶像の周りで育った孤児が、やがてカアバを**偶像から清める**使徒となるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

聖月

部族間の戦いはしばしば起きましたが、アラブ人は預言者イブラーヒーム ***empat bulan haram*** の宗教から受け継いだ四つの聖月を敬っていました。イスラームはこの敬意を保ち（悔悟章 9:36）、アッラーの使徒 ﷺ は別離の巡礼の説教でその名を挙げられました（サヒーフ・ブハーリー 4662）。

聖月	暦の中の位置
ズル・カアダ	第 11 月；ウカーズの市の季節
ズル・ヒッジャ	第 12 月；巡礼の季節
ムハッラム	第 1 月
ラジャブ	第 7 月；ほかの三つとは離れている

親と養育者への教訓

アッラーの使徒 ﷺ の幼少期は単なる歴史ではなく、すべての親、祖父母、孤児の養育者のための**教育の手引き**です。この章では、これまでの章から実践的な教訓をまとめます。

スィーラから	私たちの実践
アブドルムッタリブは良い名前を選んだ。	子どもに良い、意味のある名前をつける。
赤ん坊は空気のきれいな砂漠へ送られた。	子どもが育つための健康で良い環境を選ぶ。
ベドウィンの雄弁な言葉。	幼いころから子どもに美しい言葉とクルアーンの読誦を教える。
愛情深いウンム・アイマンとハリーマ。	信頼でき、人柄の良い養育者を選ぶ。
アブー・ターリブは貧しくとも守った。	家族の中の孤児を守り手なしに放っておかない。
幼いころからの羊の放牧。	年齢にふさわしい責任で子どもを鍛える。

私たちの社会の孤児

アッラーの使徒 ﷺ ご自身が孤児でした。だから孤児を大切にすることは**スンナを生かすこと**であり、かれのスィーラを思い起こすことでもあります。かれは、孤児を養う者に天国でかれの近くの位置を約束されました（サヒーフ・ブハーリー 5304）。

簡単な方法の例：孤児の学用品を**支援する**、家族で孤児院を**訪問する**、クルアーンの読み方を**教える**、あるいは励ましを与える**聞き手になる**。小さな努力の一つひとつが、93:6 に述べられた「守り」の一部なのです。

省察

アッラーはご自分の使徒を**人々の手**を通して育てられました。母、乳母、養育者、祖父、おじ。アッラーは私たちをも、助けを必要とする子どもにとっての「手」の一つにしたいと望まれているのかもしれません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

真正な伝承と有名な話のあいだ

アッラーの使徒 ﷺ の誕生と幼少期については、多くの話が社会に広まっています。真正なものもあれば、スィーラ書からのもの、弱いものもあります。下の表にまとめます。

話とその評価

有名な話	評価
かれは月曜日に生まれた。	真正（サヒーフ・ムスリム 1162）。
かれは象の年のラビーウ・アル＝アウワル月 12 日に生まれた。	象の年はスィーラの学者の有名な見解。12 日はイブン・イスハークの見解で、学者の見解は分かれる。
かれはスワイバに授乳された。	真正（サヒーフ・ブハーリー 5101）。
かれはハリーマに授乳され、彼女の羊が肥えた。	スィーラ書の伝承（イブン・イスハーク）。二大サヒーフには見られない。
幼いころ、ジブリールがかれの胸を開いた。	真正（サヒーフ・ムスリム 162）。
誕生の夜、ホスローの宮殿が揺れ、ゾロアスター教の火が消えた。	ハディース学者によれば弱い伝承。本書の解説には含めていない。
かれは割礼を受けた状態で生まれた。	ハディース学者によれば弱い伝承。本書の解説には含めていない。
アブドルムッタリブは夢を見た後、ザムザムを掘り直した。	スィーラ書の伝承。歴史家に広く受け入れられている。
アブドッラーは百頭のラクダで贖われた。	スィーラ書の伝承。真正なハディースではない。
アブドッラーはかれの誕生前にヤスリブで亡くなった。	スィーラ書の伝承。イブン・カスィールのタフスィール 93:6（母の胎内にいるときからの孤児）が裏づける。
ウンム・アイマンがアル＝アブワーからかれを連れ帰った。	スィーラ書と教友の伝記の伝承。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

有名な話	評価
修道士バヒーラがシャームへの旅の途中でかれを見分けた。	ティルミズィーが伝える。内容の一部は学者の間で議論がある。次巻で扱う。

省察 – なぜ真正なものを選ぶのか

アッラーの使徒 ﷺ の物語は、美しくあるために**付け足しを必要としません**。真正な伝承だけで、愛と信仰を深めるには十分です。真正なものを選ぶことで、私たちは知識の託された責任を守り、起こらなかったことをかれに帰することを避けるのです。

6 世紀の世界

アッラーの使徒 ﷺ はマッカで生まれましたが、マッカは孤立した島ではありませんでした。その谷は揺れ動く世界に囲まれていました。二つの大帝国が戦いを繰り返し、小さな王国が交易路を奪い合い、疫病が何百万もの命を奪ったこともありました。この世界を理解すると、乾いた谷の一人の孤児がもたらした変化がいかに大きかったかが見えてきます。

互いに争う二つの帝国

北には、コンスタンティノープルを都とする**東ローマ帝国（ビザンツ）**がありました。名高い皇帝ユスティニアヌス 1 世は 527 年から 565 年まで統治しました ― かれの誕生の数年前までです。東には、現在のバグダード近郊のクテシフォンを都とする**ペルシア帝国（サーサーン朝）**がありました。「アヌーシルワーン」と呼ばれた王ホスロー1 世は 531 年から 579 年まで統治しました。つまり、かれはこのペルシア王の治世に生まれたのです。

二つの帝国は、シャーム、イラク、アルメニア、そして交易路の支配をめぐって何度も戦いました。572 年、かれがまだ赤ん坊だったころ、両国の間で再び大戦争が起こり、20 年近く続きました。国境のアラブ部族も巻き込まれ、ガッサーン族はローマと、ヒーラのラフム族はペルシアと同盟しました。

> **歴史の注：ユスティニアヌスのペスト**
>
> 541 年から 549 年にかけて、歴史家が**ユスティニアヌスのペスト**と呼ぶ恐ろしい疫病が、ローマの領土とその周辺を襲いました。現代の歴史家は数百万人が亡くなったと推定しています。この疫病は、アッラーの使徒 ﷺ の誕生のわずか数十年前に大帝国を弱らせました。実際の死者数については今も研究者の間で議論があります。

出典：Wikipedia, “Justinian I”；Wikipedia, “Khosrow I”；Wikipedia, “Plague of Justinian”。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

ハバシャ、イエメン、そしてアブラハ

紅海の対岸には**アクスム王国（ハバシャ）**がありました。525 年ごろ、アクスムは海を渡ってイエメンのヒムヤル王国を征服しました。この軍勢の中からアブラハが現れ、のちにイエメンを治め、ついには象を連れた軍勢を率いてマッカへ向かいました。アブラハの死とその息子たちの没落の後、570 年代初めにイエメンはペルシアの手に落ちました。

象章に語られる象の年の物語は、こうした権力争いのただ中で起こりました。しかしアッラーは、ご自分の館をローマやペルシアの軍勢によってではなく、遣わされた鳥たちによって守られたのです。

当時の東南アジア

かれが生まれたころ、マレー世界にはすでに活発な交易港がありました。クダの**ブジャン渓谷**の古代遺跡は、何世紀にもわたる交易と職人の活動を示しており、マラッカ海峡の港はインドと中国を行き来する船の寄港地でした。シュリーヴィジャヤ王国はまだ現れておらず、歴史に記録されるのは約 1 世紀後のことです。イスラームが私たちの地域に届いたのはずっと後、商人と宣教者を通してでした — しかし、そのすべてはこのマッカの谷での誕生から始まったのです。

出典：Wikipedia, “Bujang Valley”；Wikipedia, “Srivijaya”。

教訓

アッラーは最後の使徒を、壮麗な帝国の都ではなく、ローマもペルシアも顧みない谷に誕生させることを選ばれました。尊さは世俗の権力では測られません。今日の大国の前で自分を小さく感じるとき、人類史上最大の変化が最も質素な場所から始まったことを思い出しましょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

このシリーズの重要な場所

次の表は、本書に登場する場所、スィーラとの関わり、そしてマッカからのおおよその距離をまとめたものです。距離は現代の地図の座標から計算した**直線距離**（鳥が飛ぶ距離）です。隊商路を通る実際の道のりはもっと長くなります。

場所	このシリーズとの関わり	マッカからの距離
マッカ	アッラーの使徒 ﷺ の生誕地。カアバとザムザムの谷。	—
ヌール山（ヒラーの洞窟）	マッカ周辺で最も高い山。のちに最初の啓示が下る場所。	約 5km
ターイフ	サアド族の集落とウカーズの市に近い山の町。	約 60km
サアド族の砂漠	かれがハリーマに授乳された場所。マッカとターイフの間の地域にある（正確な位置は不明）。	推定
ヤスリブ（マディーナ）	アブドッラーが亡くなり葬られた場所。祖父の母方の家族（ナッジャール家）の地。	約 340km
アル＝アブワー	ヤスリブからの帰路にアーミナが亡くなった場所。マッカとマディーナの間。	推定
ガザ	かれの曾祖父ハーシムが交易中に亡くなった場所。	約 1,240km
ブスラー（シャーム）	シャーム南部の交易都市。クライシュの夏の隊商の目的地。	約 1,280km
サナア（イエメン）	アブラハの統治の拠点。冬の隊商の目的地。	約 820km
マアリブ（イエメン）	アブラハが修復した古代ダムの遺跡（次の章を参照）。	約 880km
アクスム（ハバシャ）	アブラハの時代にイエメンを支配したハバシャ王国の中心。	約 820km

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

場所	このシリーズとの関わり	マッカからの距離
クテシフォン（イラク）	サーサーン朝ペルシア帝国の都。	約 1,380km
コンスタンティノープル	東ローマ帝国の都（現在のイスタンブール）。	約 2,410km

距離は現代の座標から計算して丸めたもので、目安としての推定値です。

クライシュの二つの交易路

クライシュ族章は**冬と夏の隊商**について述べています。注釈者たちは、冬にはクライシュの隊商が南のイエメンへ、夏には北のシャームへ向かったと説明しています。上の表を見ると、片道だけで千キロ以上の砂漠を越える旅であり、ラクダで何週間もかかる道のりでした。のちにアッラーの使徒 ﷺ ご自身も、大人になってこの道で交易をすることになります。

教訓

マッカには川も農地もありませんでしたが、アッラーはそこを、イエメン、シャーム、ハバシャ、イラクを結ぶ交易路の交差点とされました。この位置が、のちにイスラームのメッセージが広まるのを助けました。糧や機会は必ずしも肥沃な土地から来るのではなく、アッラーから来るのです。アッラーは私たちの思いもよらない方法でその道を開かれます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

歴史の足跡：碑文と古代遺跡

クルアーンの真実は考古学の発見に左右されるものではありません。しかし、研究者に認められた確かな発見の中には、アッラーの使徒 ﷺ の誕生の時代背景を理解する助けになるものがあります。この章では、明確な典拠のある発見のみを取り上げ、確認されていない主張は含めていません。

マアリブのダムにあるアブラハの碑文（548 年）

イエメンのマアリブには、研究者に ***CIH 541*** として知られる、**548 年**の碑文があります。この碑文はアブラハ自身の命令で作られました。マアリブの大ダムの修復工事を記録し、ハバシャ、ローマ、ペルシア、そしてガッサーン族からの使節が出席した会議にも触れています。これは、アブラハが強大な支配者であり、世界の大国と交流していたことを示しています。

マアリブにあるサバア王国の古代遺跡は、ダムの遺構を含めて **2023 年にユネスコ世界遺産**に登録されました。

出典：Wikipedia, “CIH 541”；UNESCO, “Landmarks of the Ancient Kingdom of Saba, Marib”。

ムライガーンのアブラハの碑文（552 年）

552 年の別のアブラハの碑文が、アラビア半島内陸のムライガーン地域で発見されています。それは、マアッド諸部族を従わせるためにアブラハが半島中央部へ行った軍事遠征を記録しています。この碑文は、アブラハが実際にイエメンからはるか北へ軍を率いたことを証明しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

歴史の注：碑文が語らないこと

これまでに発見されたアブラハの碑文は**マッカに言及していません**。一部の西洋の研究者は象の遠征はもっと早い 552 年ごろだったと提案していますが、イスラームの伝統で有名な見解は 570 年ごろです。2025 年には、象に言及している可能性のあるアブラハの碑文の断片が発表されましたが、その読みはまだ提案の段階です。

ムスリムにとって、象の年の出来事は確かです。アッラーご自身が象章でそれを語られ、それを目撃した人がまだ多く生きていたクライシュ族に読み聞かされても、誰一人否定しなかったからです。研究者の見解の違いは年についてであって、出来事が起きたかどうかではありません。

出典：Wikipedia, “Abraha”。

カルヤト・アル＝ファウ：砂漠の真ん中の隊商都市

現在のサウジアラビア南部には、アラビア半島の古代隊商路にあった交易都市**カルヤト・アル＝ファウ**の遺跡があります。発掘によって、住居、市場、礼拝所、文字、さまざまな土地からの交易品が見つかりました。この町は 5 世紀ごろに放棄されました。2024 年、この遺跡はユネスコの世界遺産に登録されました。

アル＝ファウのような遺跡は、クライシュ族の暮らしの鼓動だった隊商の世界を思い描く助けになります。砂漠を越える長い旅、交易都市での休息、そして民族間の品物と知らせの交換です。

出典：UNESCO, “Al-Faw Archaeological Area”。

教訓

考古学に対するムスリムの態度は公正なものです。確かな発見は受け入れ、根拠のない主張は退け、啓示を石や土に依存させない。クルアーンは、現代のどの研究者がアラビア半島を掘るよりもずっと前に、象の年の物語を語っていたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

このシリーズの人物

次の表は、アッラーの使徒 ﷺ の家系、誕生、幼少期の物語に登場する人物をまとめたもので、読者が一人ひとりの立場を覚えやすいようにしています。

人物	続柄：アッラーの使徒 ﷺ	備考
ハーシム・ブン・アブド・マナーフ	曾祖父（父の祖父）	クライシュの指導者。二つの交易の旅と結びつけられる。ガザで死去。
アブドルムッタリブ（シャイバ）	祖父	象の年のマッカの指導者。ザムザムを掘り直す。8 歳までかれを養った。
アブドッラー・ブン・アブドルムッタリブ	父	かれの誕生前にヤスリブで死去。
アーミナ・ビント・ワハブ	母	ズフラ家の出身。かれが 6 歳ごろ、アル＝アブワーで死去。
スワイバ	最初の乳母	アブー・ラハブの奴隷。アブー・サラマにも授乳した（サヒーフ・ブハーリー 5101）。
ハリーマ・アッ＝サアディーヤ	乳母	サアド・ブン・バクル族の出身。砂漠でかれを育てた。
アル＝ハーリス・ブン・アブドルウッザー	乳父	ハリーマの夫。
アッ＝シャイマー・ビント・アル＝ハーリス	乳姉	ハリーマの娘。スィーラ書によれば、幼いかれの世話も手伝った。
ウンム・アイマン（バラカ）	養育者	ハバシャ出身。アル＝アブワーからかれを連れ帰った。のちにイスラームに入信。
アブー・ターリブ	おじ	アブドルムッタリブの死後かれを養い、生涯守った。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人物	続柄：アッラーの使徒ﷺ	備考
ファーティマ・ビント・アサド	アブー・ターリブの妻	スィーラ書によれば、アブー・ターリブの家でかれの世話をした。のちにイスラームに入信。アリーの母。
ハムザとアル＝アッバース	おじ	かれとほぼ同年代。二人ともやがてイスラームに入信。
アブー・ラハブ	おじ	のちにかれに敵対。棕櫚章（マサド章）に言及。
アブラハ	家族ではない	ハバシャの代理としてイエメンを治めた支配者。象の軍勢を率いてマッカへ進んだ。

出典：イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』；サヒーフ・ブハーリー 5101；Wikipedia（上記の人物の記事）。

教訓

一人の孤児を守るために、アッラーがどれほど多くの人を動かされたかを見てください。祖父、母、二人の乳母、一人の養育者、おじとその妻。一人ひとりが大きな歴史の中で小さな役割を果たしました。私たちも同じです — 一人の子ども、孤児、あるいは教え子の人生における私たちの役割は、アッラーのより大きな計画の一部なのかもしれません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年表：スィーラと世界

この年表は、本書のスィーラの出来事を同じ時代の世界の大きな出来事と並べたものです。当時のアラブ人には決まった暦がなかったため、スィーラの出来事の西暦年は現代の歴史家による推定です。

年（推定）	出来事
496〜497 年頃	アブドルムッタリブがヤスリブで誕生。父ハーシムはガザで死去。
525 年頃	ハバシャ（アクスム）がイエメンのヒムヤル王国を征服。
527〜565 年	東ローマのユスティニアヌス 1 世の治世。
531〜579 年	ペルシアのホスロー1 世（アヌーシルワーン）の治世。
541〜549 年	ユスティニアヌスのペストがローマの領土とその周辺を襲う。
548 年	マアリブのダムにアブラハの碑文（CIH 541）。
552 年	半島中央部への遠征を記したムライガーンのアブラハの碑文。
570 年頃	象の年。月曜日にアッラーの使徒 ﷺ が誕生（サヒーフ・ムスリム 1162）。
570 年代初め	アブラハの息子たちの統治が崩壊し、イエメンはペルシアの手に落ちる。
572 年	ローマとペルシアの大戦争が始まる（591 年まで続く）。
574 年頃	サアド族の砂漠で胸を開く出来事（サヒーフ・ムスリム 162）。
576〜577 年頃	アーミナがアル＝アブワーで死去。
578 年頃	アブドルムッタリブが死去。アブー・ターリブがかれを養う。
581 年頃	隋が中国を統一。

出典：Wikipedia（「Justinian I」「Khosrow I」「Plague of Justinian」「Abraha」「CIH 541」「Byzantine–Sasanian War of 572–591」「Sui dynasty」）；本書の前の章の年表。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

教訓

世界が帝国の戦争や疫病に追われていたとき、アッラーは静かな谷で、全人類に光をもたらす一人の子どもを準備されていました。歴史は単なる年号の一覧ではありません。それは、アッラーがその時代の人々がしばしば気づかない英知をもって世界を治めておられることを示しているのです。

よくある質問

以下は、アッラーの使徒 ﷺ の誕生と幼少期についてよく尋ねられる質問と、本書で取り上げた典拠に基づく短い答えです。

1. アッラーの使徒 ﷺ は実際にはいつ生まれたのですか？

真正なハディースによって確かなのは**月曜日**であることです（サヒーフ・ムスリム 1162）。年は有名な見解によれば象の年、すなわち 570 年ごろです。ラビーウ・アル＝アウワル月 12 日はイブン・イスハークの有名な見解ですが、実際の日付については学者の見解が分かれています。

2. かれの父はかれが生まれる前に亡くなったのですか？

はい。スィーラ書の有名な見解によれば、アブドッラーはかれがまだ母の胎内にいるときにヤスリブで亡くなりました。イマーム・イブン・カスィールは朝章 93:6 のタフスィールでこれに触れています。

3. 最初にかれに授乳したのは誰ですか？

アブー・ラハブの奴隷スワイバです。『サヒーフ・ブハーリー』5101 に記されています。その後、スィーラ書によれば、かれはサアド族の砂漠でハリーマ・アッ＝サアディーヤに授乳されました。

4. なぜマッカの赤ん坊は砂漠へ送られたのですか？

それはマッカの名家の慣習でした。砂漠は空気がきれいで、暮らしはたくましく、アラビア語はより純粋でした。これは当時の社会の習慣であり、崇拝行為ではありません。

5. 胸を開く出来事は本当に起きたのですか？

はい。『サヒーフ・ムスリム』162 にアナス・ブン・マーリク رضى الله عنه から伝えられており、かれ自身、かれの胸に縫い目の跡を見たことがあると述べています。

6. 誕生の夜にホスローの宮殿が揺れたというのは本当ですか？

この話は有名ですが、ハディース学者によればその伝承は弱いものです。そのため本書の解説には含めていません（「真正な伝承と有名な話のあいだ」の章を参照）。

7. 母が亡くなったとき、かれは何歳でしたか？

イブン・カスィールとスィーラ書によれば、6 歳ごろです。アーミナはヤスリブからの帰路にアル＝アブワーで亡くなり、ウンム・アイマンがかれをマッカへ連れ帰りました。

8. かれの母の墓を訪れてもよいのですか？

アッラーの使徒 ﷺ ご自身が母の墓を訪れて泣かれ、こう言われました。「墓を訪れなさい。それは死を思い起こさせるのだから」（サヒーフ・ムスリム 976）。教訓を得るための墓参りはスンナです。作法を守り、禁じられたことを避けることが条件です。

9. なぜかれは羊を放牧したのですか？

かれは、すべての預言者が羊を放牧したと言われ、ご自身も数キーラートの報酬でマッカの人々の羊を放牧していました（サヒーフ・ブハーリー 2262）。学者たちは、それが忍耐、優しさ、指導力を養うと述べています。

10. アブー・ターリブはイスラームに入信したのですか？

真正なハディース（サヒーフ・ブハーリー 3884；サヒーフ・ムスリム 24）によれば、アブー・ターリブは生涯かれを守ったものの、信仰告白（シャハーダ）を唱えずに亡くなりました。この件については、イン・シャー・アッラー、次巻でさらに詳しく扱います。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：69 / 485

11. アブラハの碑文は象の年の出来事を証明しているのですか？

碑文は、アブラハがイエメンを治め、半島中央部へ軍を率いたことを証明していますが、今のところマッカには触れていません。ムスリムがこの出来事を信じるのは、石碑のためではなく、クルアーンが象章でそれを語っているからです（「歴史の足跡」の章を参照）。

12. かれの幼少期から、私たちはどのような実践を学べますか？

たとえば、良い名前をつけること、子どものために健康な環境を選ぶこと、養育者や先生に感謝すること、孤児を大切にすること、子どもに責任を持たせて鍛えること、そしてかれの誕生への感謝として月曜日に任意の断食をすること（サヒーフ・ムスリム 1162）です。

教訓

質問することは知識の鍵です。アッラーの使徒 ﷺ についての話を聞いたら、「その典拠は何か、そしてそれは真正か？」と問う習慣をつけましょう。そうすれば、かれへの私たちの愛は、付け足された話ではなく、真実の上に築かれます。

教訓と結び

本書からの教訓

第一：アッラーの使徒 ﷺ は祈りへの答えである。 カアバのそばでの預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ の祈りを、アッラーは聞き届けられた（2:129）。

第二：選ばれた家系。 アッラーはかれを、ハーシム家、クライシュ、キナーナ、そしてイスマーイールの子孫から選ばれた（サヒーフ・ムスリム 2276）。

第三：特別な月曜日。 かれが生まれ、啓示が下った日。この日の断食が勧められる（サヒーフ・ムスリム 1162）。

第四：アッラーは孤児の守り手。 喪失に次ぐ喪失の中でも、アッラーは常に守りを与えられた（93:6）。

第五：清められた心。 使命への準備は幼いころから始まっていた（サヒーフ・ムスリム 162）。

第六：働くことの尊さ。 アッラーの使徒 ﷺ はわずかな報酬で羊を放牧された（サヒーフ・ブハーリー 2262）。

第七：アッラーは乾いた谷で祈りを聞き届けられる。 マッカには作物がないが、その糧はあらゆる方角からやって来る（14:37）。

第八：安全と糧はアッラーから。 だからカアバの主に仕えよ（106:3–4）。

第九：恩人に感謝する。 ハリーマとウンム・アイマンは、かれの生涯を通じて敬われた。

第十：導きはアッラーからの恵み。 かれのおじたちは、同じ血を引きながらも態度が異なった。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年表のまとめ

年齢（推定）	出来事と典拠
誕生前	アブドゥッラーがヤスリブで死去（スィーラ書；イブン・カスィール 93:6）
0 歳	象の年の月曜日、マッカで誕生（サヒーフ・ムスリム 1162）
0〜2 歳	スワイバ、次いでハリーマに授乳される（サヒーフ・ブハーリー 5101；スィーラ書）
4 歳頃	サアド族のもとで胸を開く出来事（サヒーフ・ムスリム 162）
5 歳頃	マッカの母のもとへ戻る（スィーラ書）
6 歳頃	アーミナがアル＝アブワーで死去。ウンム・アイマンが連れ帰る（イブン・カスィール 93:6；スィーラ書）
8 歳頃	アブドルムッタリブが死去。アブー・ターリブに養われる（イブン・カスィール 93:6）
子ども時代	羊の放牧（サヒーフ・ブハーリー 2262）

結び

乾いたマッカの谷で、一人の孤児が生まれ、アッラーの守りのもとで育ちました ― 失ったときには守られ、心を清められ、働くことと忍耐によって育てられたのです。それは、「**あなたがたのため，とても心配している**」使徒のためにアッラーが用意された準備でした。イン・シャー・アッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』シリーズは、かれの青年期と成人期へと続きます。シャームへの旅、ヒルフ・アル＝フドゥール（正義の盟約）、ハディージャ رضي الله عنها との結婚、そしてカアバの再建です。アッラーこそが最もよくご存じです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

第 1 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。quran.com/ms

イブン・カスィール『タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム』（2:129；9:128；14:37；93:6–8；94:1；106:1–4）。tafsir.app/ibn-katheer/93/6

ハディース

サヒーフ・ムスリム 2276、1162、162、976。sunnah.com/muslim

サヒーフ・ブハーリー 5101、2262；預言者 ﷺ の遣わしの章。sunnah.com/bukhari:3851

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』（イブン・イスハークからの伝承）– アッラーの使徒 ﷺ の誕生、授乳、幼少期の章。

Wikipedia「Pre-Islamic Arabia」。en.wikipedia.org/wiki/Pre-Islamic_Arabia

Wikipedia「Mecca」。en.wikipedia.org/wiki/Mecca

Wikipedia「Quraysh」。en.wikipedia.org/wiki/Quraysh

Wikipedia「Hashim ibn Abd Manaf」。en.wikipedia.org/wiki/Hashim_ibn_Abd_Manaf

Wikipedia「Abd al-Muttalib」。en.wikipedia.org/wiki/Abd_al-Muttalib

Wikipedia「Amina bint Wahb」。en.wikipedia.org/wiki/Amina_bint_Wahb

Wikipedia「Halima bint Abi Dhu'ayb」。en.wikipedia.org/wiki/Halima_bint_Abi_Dhu%27ayb

Wikipedia「Umm Ayman」。en.wikipedia.org/wiki/Umm_Ayman

Wikipedia「Abu Talib ibn Abd al-Muttalib」。en.wikipedia.org/wiki/Abu_Talib_ibn_Abd_al-Muttalib

Wikipedia「Souk Okaz」。en.wikipedia.org/wiki/Souk_Okaz

世界史と考古学

Wikipedia「Justinian I」。en.wikipedia.org/wiki/Justinian_I

Wikipedia「Khosrow I」。en.wikipedia.org/wiki/Khosrow_I

Wikipedia「Plague of Justinian」。en.wikipedia.org/wiki/Plague_of_Justinian

Wikipedia「Byzantine–Sasanian War of 572–591」。en.wikipedia.org/wiki/Byzantine%E2%80%93Sasanian_War_of_572%E2%80%93591

Wikipedia「Abraha」。en.wikipedia.org/wiki/Abraha

Wikipedia「CIH 541」。en.wikipedia.org/wiki/CIH_541

UNESCO「Landmarks of the Ancient Kingdom of Saba, Marib」。whc.unesco.org/en/list/1700

UNESCO「Al-Faw Archaeological Area」。whc.unesco.org/en/list/1712

Wikipedia「Bujang Valley」。en.wikipedia.org/wiki/Bujang_Valley

Wikipedia「Srivijaya」。en.wikipedia.org/wiki/Srivijaya

Wikipedia「Sui dynasty」。en.wikipedia.org/wiki/Sui_dynasty

第二部

アル＝アミーン — 民の中の誠実な人

預言者伝（スィーラ）— 第 2 巻

クルアーンと真正なハディースに基づく、アッラーの使徒 ﷺ の預言者となる前の青年期と壮年期

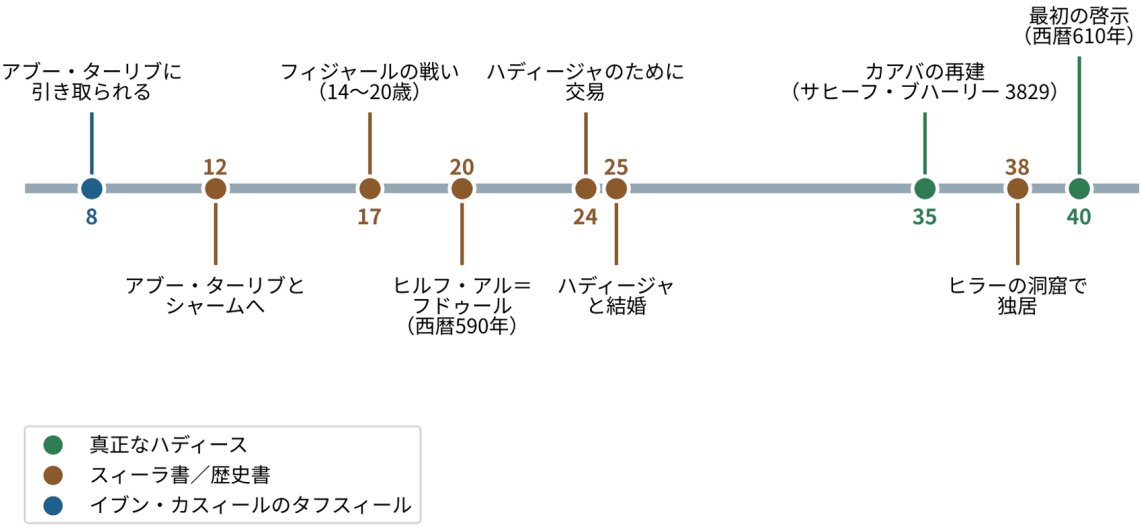
© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アル＝アミーン ― 民の中の誠実な人

『預言者伝』の第 1 巻は、おじアブー・ターリブのもとで羊を飼う孤児の少年の姿で終わりました。この第 2 巻はその続きです。**働く少年**から、**虐げられた者を守る青年**、**誠実な商人**、**夫であり父**へ、そしてヒラーの洞窟で独り瞑想する **40 歳の男性**に至るまで。

この間、民はかれに、めったに誰にも与えられない呼び名を贈りました。**アル＝アミーン**、すなわち誠実で信頼できる人です。本書のクルアーンの節と真正なハディースは、本当に関係のあるものだけを慎重に選び、スィーラ書の話は「スィーラの注」の枠に入れて、その信頼性を評価しています。

年表：少年期から最初の啓示まで（推定年齢）



数字はかれの年齢。ほとんどの出来事の年齢はスィーラ書による推定で、資料によって異なる。

図 1：青年期から最初の啓示までの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

民とともに生きる

ユーヌス章 10:16

قُل لَّوۡ شَآءَ ٱللَّهُ مَا تَلَوۡتُهُۥ عَلَيۡكُمۡ وَلَآ أَدۡرَىٰكُم بِهِۦۖ فَقَدۡ لَبِثۡتُ فِيكُمۡ عُمُرٗا مِّن قَبۡلِهِۦٓۚ أَفَلَا تَعۡقِلُونَ ١٦

言ってやるがいい。『アッラーの御心なら、わたしはあなたがたにそれを読誦せず、またかれは、あなたがたに教えられなかったであろう。その（啓示）前に、わたしは確かにあなたがたの間で、一生ほどの（40 年の）歳月を過ごした。あなたがたは未だ悟らないのか。』

訳：三田了一 — quran.com/10:16

10:16 の解説

アッラーは使徒にこう言うよう命じられました。「**わたしはこれ以前、一生の間あなたがたの間に住んでいたではないか**」。イブン・カスィールは説明します。かれは啓示の前に **40 年**クライシュ族とともに暮らし、彼らはかれが嘘をつくのを一度も見たことがなかったと。Tafsir Ibn Kathir 10:16。

この節は、**預言者となる前のかれの生涯**を論拠としています。人について一度も嘘をつかなかった人が、どうして突然アッラーについて嘘をつくでしょうか。だからこそ、この 40 年を学ぶことはとても大切です。それはかれの使命の**真実の証し**なのです。

本書で学ぶこと

時期	主な出来事
少年期（8〜20 歳）	アブー・ターリブの家、シャームへの旅、フィジャールの戦い、ヒルフ・アル＝フドゥール

時期	主な出来事
青年期（20〜25 歳）	ハディージャのための交易、結婚
壮年期（25〜35 歳）	家庭、ザイド・ブン・ハーリサ、アリー、カアバの再建
預言者となる直前（35〜40 歳）	「アル＝アミーン」の呼び名、預言者の兆し、ヒラーの洞窟

アブー・ターリブの家での少年時代

祖父アブドルムッタリブが亡くなると、かれは 8 歳ごろから**アブー・ターリブ**のもとで暮らしました。その家は狭く質素で、アブー・ターリブは貧しく子だくさんでした（第 1 巻）。こうした環境の中で、かれはマッカの人々の羊を飼って家計を助ける、**働く**少年として育ちました。

スィーラの注：おじの愛情

スィーラ書によれば、アブー・ターリブは甥をとても愛し、交易の旅にも**連れて行き**、離れることに耐えられないほどでした。この愛情は、アブー・ターリブが西暦 619 年ごろに亡くなるまで続きました。

参照：

ウィキペディア「Abu Talib ibn Abd al-Muttalib」en.wikipedia.org/wiki/Abu_Talib_ibn_Abd_al-Muttalib

ぜいたくのない少年時代

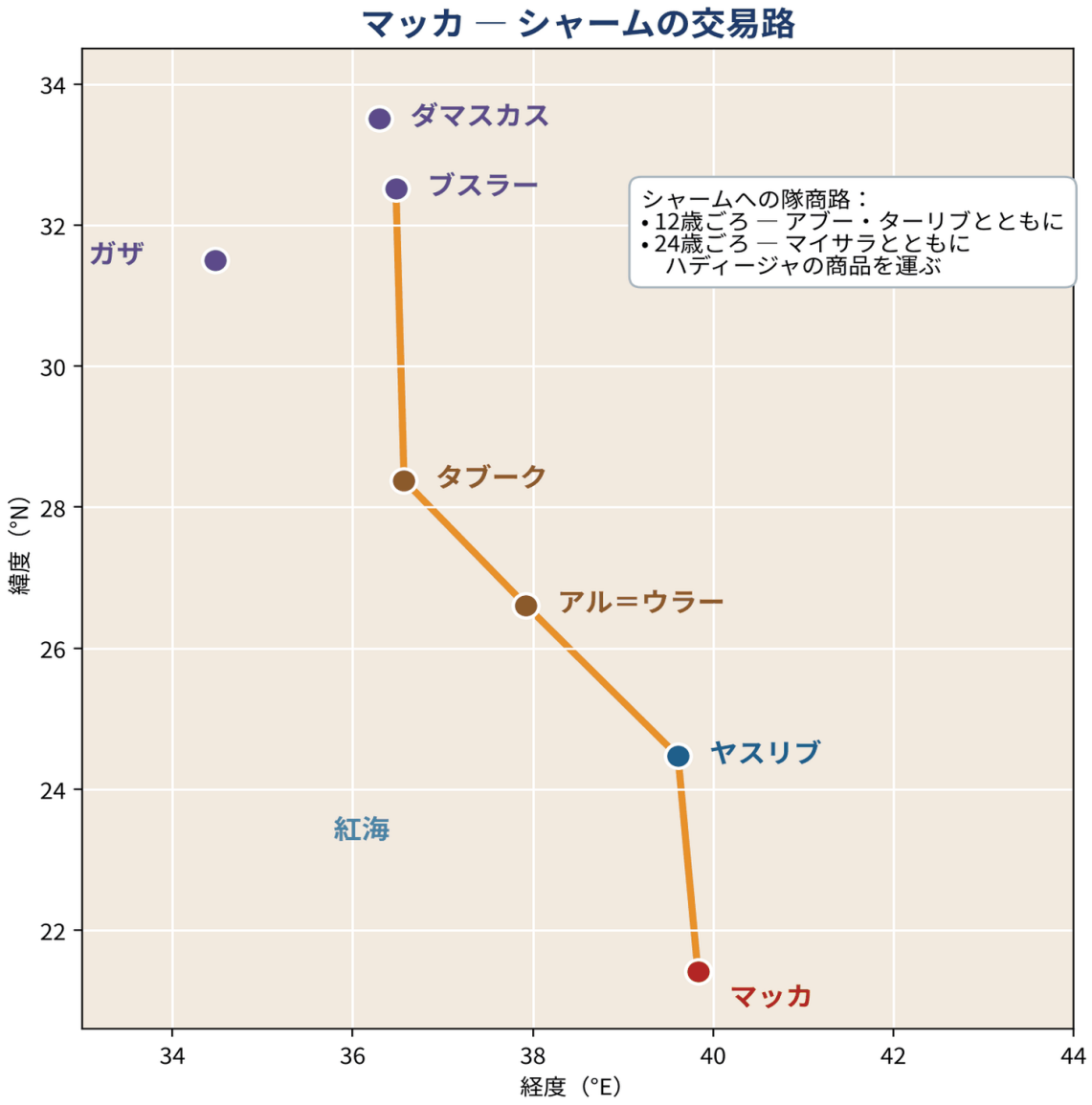
学校も相続財産もありませんでした。かれの教育は**仕事と自然と社会**から来ました。マッカ周辺の牧草地、行き来する隊商、そして民の集いです。それでもアッラーはかれをジャーヒリーヤの行いから守られました。そのことはカアバ再建の出来事で見ることになります。

教訓：**若いころの苦労**は高貴さの妨げにはなりません。それは忍耐と質素さと責任感を育てる学校となりうるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

初めてのシャームへの旅

クライシュ族は毎年夏にシャームへ交易に出かけました（第 1 巻）。スィーラ書によれば、かれが **12 歳**ごろのとき、アブー・ターリブはかれを隊商に連れてシャームへ向かいました。これがかれにとって、マッカから遠く離れる初めての旅でした。



概略図。ヒジャーズのオアシスを通る推定経路。出典：Wikipedia「Quraysh」「Bosra」「Khadija bint Khuwaylid」。

図 2：マッカ – シャームの交易路（概略図）。

ブスラー：砂漠の果てのローマの町

クライシュ族の隊商の目的地の一つが、現在のシリア南部ハウラーン地方の**ブスラー**でした。ウィキペディアによれば、ローマ軍が**西暦 106 年**にナバテア王国を征服したのち、ブスラーはローマの属州**アラビア・ペトラエア**の首都となりました。ビザンツ時代には司教座が置かれ、6 世紀には**大聖堂**が建てられました。

ブスラーの歴史の足跡	説明
ローマ劇場	2 世紀に建てられ、上層の回廊が完全に保存された唯一の同種の遺構。
ユネスコ世界遺産	「古代都市ボスラ」として 1980 年に登録。
イスラームによる開城	西暦 634 年、ハーリド・ブン・アル＝ワリード率いるイスラーム軍が開城。

出典：Wikipedia, “Bosra”。

乾いたマッカの谷から来た少年が、大きな石造りの建物が立ち並ぶローマの町を見る様子を想像してみてください。この旅はかれの目を**外の世界**、大帝国とその宗教に開かせました。それは、のちにかれの宣教の手紙を受け取ることになる世界でした。

修道士バヒーラの話：一つの評価

シャームへの旅は、しばしば**バヒーラという修道士**の話と結びつけられます。この話はとても有名なので、その位置づけを誠実に見ておく必要があります。

スィーラの注：伝えられていること

イブン・イスハークの伝えによれば、ブスラーの修道士バヒーラは、クライシュ族の隊商の中の一人の少年を**雲が覆っている**のを見、その背中に**預言者の印**を見ました。彼はアブー・ターリブに、甥をすぐマッカへ連れ帰るよう忠告しました。アッ＝ティルミズィーもこの話の一つの版を伝えています。

参照：

ウィキペディア「Bahira」en.wikipedia.org/wiki/Bahira

学者の評価

観点	評価
典拠	イブン・イスハークとアッ＝ティルミズィー。『サヒーフ・ブハーリー』『サヒーフ・ムスリム』には見られない。
アッ＝ザハビーの批判	ティルミズィーの版にはアブー・バクルとビラールが出てくるが、当時アブー・バクルはまだ子どもで、ビラールは生まれていなかった。
結論	話の一部の内容には異論があり、細部まで依拠することはできない。

出典：Wikipedia, “Bahira”。

そのため本書では、バヒーラの話の細部の上に**いかなる教訓も築きません**。確かなのは、かれが交易の隊商とともにシャームへ行ったことがあるということです。こ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

れはクライシュの若者には普通のことでした。そして、かれの預言者性の真実は、一人の修道士の認定に**依存しません**。

フィジャールの戦い

スィーラの注：聖なる月の戦い

ウィキペディアによれば、**フィジャールの戦い**は 6 世紀末に、一方は**クライシュ族とキナーナ族**、他方はハワーズィン族やサキーフ族を含む**カイス系の諸部族**との間で起こりました。発端は、戦いが禁じられた**聖なる月**に隊商の長が殺されたことでした。そのため「**フィジャール**」（冒涜）と呼ばれます。

戦いは**ウカーズの市場**周辺やマッカとターイフの間の地域で、約 4 年間続きました。最終的に和平が回復されました。

参照：

ウィキペディア「Fijar Wars」en.wikipedia.org/wiki/Fijar_Wars

かれの役割

諸資料によれば、おじたちはかれを戦場に連れて行き、かれは敵の**矢からおじたちを守りました**が、**自ら戦うことはありませんでした**。そのときの年齢は **14 歳から 20 歳**とされ、資料によって異なります。

この戦いは、アラブの部族が自分たちが神聖とする月にさえ、いかに**たやすく戦いを始めたか**を示しています。戦いの惨禍を目にした経験こそが、次の章で語る有名な和平の盟約の背景となりました。

教訓：イスラームはのちに**聖なる月の尊厳を保ち**（悔悟章 9:36）、戦いは部族の誇りのためではなく、ただ正義を打ち立て不正を退けるためにのみあると教えました。

ヒルフ・アル＝フドゥール：虐げられた者を守る盟約

スィーラの注：アブドッラー・ブン・ジュドアーンの家での盟約

ウィキペディアによれば、**ヒルフ・アル＝フドゥール**は、フィジャールの戦いが終わった 1 か月後、ズル・カアダ月の**西暦 590 年**に結ばれました。指導者たちは**アブドッラー・ブン・ジュドアーンの家**に集まり、**虐げられた者は誰であれ守る**と誓いました。

きっかけは、イエメンのザビードから来た**一人の商人**が**アル＝アース・ブン・ワーイル**に商品を売ったものの、代金を払ってもらえなかったことでした。その商人にはマッカに力のある親族がいなかったため、正義を求めて訴えました。盟約は彼の権利を取り戻し、損失を償いました。

参照：

ウィキペディア「Hilf al-Fudul」en.wikipedia.org/wiki/Hilf_al-Fudul

参加した氏族

氏族	備考
ハーシム家	アッラーの使徒 ﷺ
ムッタリブ家	ハーシム家の同盟者
ズフラ家	かれの母の氏族
アサド家	ハディージャの氏族
タイム家	アブー・バクルの氏族。アブドッラー・ブン・ジュドアーンもこの氏族

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

預言者となった後のかれの姿勢

ウィキペディアによれば、使徒となった後も、かれは参加者の多くがムスリムではなかったにもかかわらず、**この盟約の価値を認め続けました**。スィーラ書は、イスラームの中でそのような盟約に招かれたなら応じるだろうという、かれの言葉を伝えています。この伝承は『**サヒーフ**』**二書には見られません**。

教訓：**正義は普遍的な価値です**。イスラームは、たとえ非ムスリムが始めたものであっても、弱い者を守り不正に立ち向かうあらゆる努力を支持します。今日、不正の犠牲者を守る団体を支えることは、ヒルフ・アル＝フドゥールの精神を受け継ぐことです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

働き、商う

羊飼いの時代（第 1 巻）を経て、かれはクライシュ族の主要な仕事である**交易**の世界に入りました。マッカの交易は**信頼**の上に成り立っていました。資本を持つ者が商品を他人に託してシャームやイエメンへ運ばせ、利益を分け合ったのです。

このような仕組みでは、**良い評判**こそ最も貴重な資本でした。誠実で信頼できる若者は、自分には何の財産がなくても、財産を持つ人々から求められます。そして、まさにそれがかれに起こったことでした。

商人の徳目

徳目	今日の実践
正直	商品の状態を、欠点も含めて正しく説明する。
信頼（アマーナ）	客や共同経営者の財産を自分のもののように守る。
約束を守る	約束の期日に商品を届け、借りを返す。
公正	はかりや量りをごまかさない。
寛容	困っている買い手の取引を楽にしてあげる。

これらの徳目は、のちに取引（ムアーマラート）に関するイスラームの教えとなりました。かれは、それが命じられる前から**実践していた**のです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハディージャの商品を運ぶ

スィーラの注：マイサラとの旅

ウィキペディアによれば、**ハディージャ・ビント・フワイリド**は成功した商人でした。彼女は自ら隊商に同行せず、**他の人を雇い**、手数料を払っていました。彼女の隊商は、クライシュ族の他のすべての商人の隊商を合わせたほどの規模だったと言われます。

彼女は当時 **20 代前半**だったかれを、通常の **2 倍の報酬**でシャームへの交易に雇いました。アブー・ターリブの許しを得て、かれはハディージャの使用人**マイサラ**とともに出かけ、**2 倍の利益**を上げて帰ってきました。

参照：

ウィキペディア「Khadija bint Khuwaylid」en.wikipedia.org/wiki/Khadija_bint_Khuwaylid

マイサラの報告

スィーラ書によれば、マイサラは旅の間のかれの**誠実さと人柄**をハディージャに語りました。一部の伝承は旅の途中の不思議な話を付け加えていますが、これらの追加の伝承は**真正ではなく**、ここには入れていません。

教訓：**仕事の成功**は、ごまかしではなく、誠実さと熱意から生まれます。賢い雇い主は、働き手を技能だけでなく**人柄**で評価するのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

ハディージャと祝福された結婚

ハディージャはクライシュ族の**アサド家**の出身でした。父**フワイリド・ブン・アサド**は商人であり指導者でした。ウィキペディアによれば、彼女はそれ以前に結婚したことがあり、資料は二人の前夫**アティーク・ブン・アーイズ**と**マーリク・ブン・ナッバーシュ**の名を挙げています。

> **スィーラの注：ナフィーサを通じた求婚**
>
> ウィキペディアによれば、ハディージャは友人**ナフィーサ**に、かれに結婚の意思があるか尋ねてもらいました。その後、両家が合意し、かれのおじたちが正式に求婚しました。誰が出席したかについては資料によって異なります。
>
> **参照：**
>
> ウィキペディア「Khadija bint Khuwaylid」en.wikipedia.org/wiki/Khadija_bint_Khuwaylid

結婚したときの年齢

事項	資料の説明
かれの年齢	約 25 歳（一部の資料では 22〜25 歳）。
ハディージャの年齢	有名な説：40 歳。一部の資料：約 28 歳。
年	西暦 595 年ごろ。
結婚生活の期間	約 25 年。西暦 619 年にハディージャが亡くなるまで。

出典：Wikipedia, “Khadija bint Khuwaylid”。

年齢についての違いはあっても、確かなのは、この結婚が財産や容姿ではなく**人柄**の上に築かれたということです。ハディージャが生きている間、かれは他の女性と結婚しませんでした。その誠実さは、かれの生涯を通じて記憶されました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

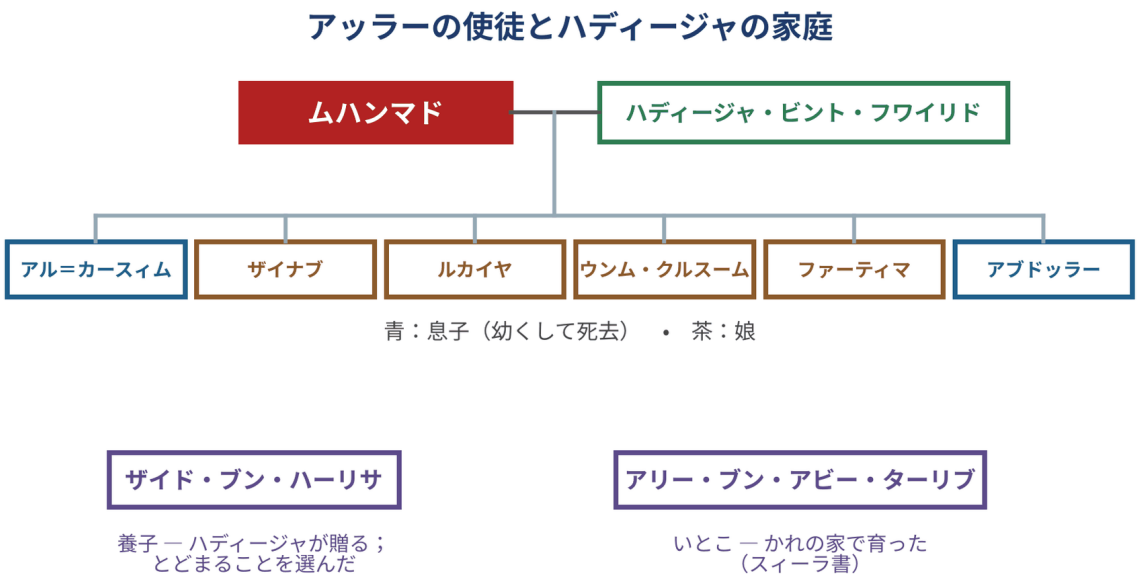
イスラームにおけるハディージャの地位

ハディージャ رضى الله عنها は、啓示が下ったとき**最初に**かれを信じた人であり、財産と心をもってかれを慰め支えたのも彼女でした。『サヒーフ・ブハーリー』には、ジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ が**主からの平安の挨拶**をハディージャに伝え、天国の家の吉報を告げたことが記されています（Sahih al-Bukhari 3820）。

ハディージャの資質	私たちへの手本
賢い商人	女性もハラールな方法で商売に成功できる。
人柄で男性を評価した	信仰と人柄で伴侶を選ぶ。
誠実な支え手	夫を慰め、その奮闘を支える妻。
気前のよさ	財産を善行と宣教のために使う。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

家庭と子どもたち



子どもの数については資料によって異なる（6人または8人）。出典：Wikipedia「Khadija bint Khuwaylid」「Zayd ibn Haritha al-Kalbi」。

図 3：アッラーの使徒ﷺとハディージャ رضي الله عنها の家庭。

ウィキペディアによれば、かれとハディージャの子どもは、幼くして亡くなった二人の息子**アル＝カースィム**と**アブドッラー**、そして四人の娘**ザイナブ、ルカイヤ、ウンム・クルスーム、ファーティマ**です。**アブル・カースィム**という呼び名は、長男の名前から取られています。

ハディージャが亡くなって何年もたってからも、かれは彼女を偲び続けました。アーイシャ رضى الله عنها はこう語っています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3818 番

حَدَّثَنِي عُمَرُ بْنُ مُحَمَّدِ بْنِ حَسَنٍ، حَدَّثَنَا أَبِي، حَدَّثَنَا حَفْصٌ، عَنْ هِشَامٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ قَالَتْ مَا غِرْتُ عَلَى أَحَدٍ مِنْ نِسَاءِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم مَا غِرْتُ عَلَى خَدِيجَةَ، وَمَا رَأَيْتُهَا، وَلَكِنْ كَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يُكْثِرُ ذِكْرَهَا، وَرُبَّمَا ذَبَحَ الشَّاةَ، ثُمَّ يُقَطِّعُهَا أَعْضَاءً، ثُمَّ يَبْعَثُهَا فِي صَدَائِقِ خَدِيجَةَ، فَرُبَّمَا قُلْتُ لَهُ كَأَنَّهُ لَمْ يَكُنْ فِي الدُّنْيَا امْرَأَةٌ إِلاَّ خَدِيجَةُ. فَيَقُولُ إِنَّهَا كَانَتْ وَكَانَتْ، وَكَانَ لِي مِنْهَا وَلَدٌ.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った。「**わたしは、預言者 ﷺ の妻たちの誰に対しても、ハディージャに対するほど嫉妬したことはありません。わたしは彼女を見たこともないのに。けれども預言者 ﷺ はたびたび彼女のことを口にされました。**」ときにかれは羊を屠り、それをいくつかに切り分けて、ハディージャの友人たちに送られました。わたしがかれに「まるでこの世にハディージャ以外の女性はいないかのようですね！」と言うと、かれは答えられました。「**彼女はこうであり、ああであった。そして彼女から私は子を授かったのだ。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ウマル・ブン・ムハンマド・ブン・アル＝ハサン ← その父 ムハンマド・ブン・アル＝ハサン ← ハフス・ブン・ギヤース ← ヒシャーム・ブン・ウルワ ← その父 ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、預言者 ﷺ とハディージャの結婚と彼女の美徳の章（預言者 ﷺ とハディージャの結婚とその美徳）、ハディース第 3818 番。ムスリム（第 2435 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の合意によれば、クルアーンに次いで最も真正なハディース集である。

典拠：sunnah.com/bukhari:3818

このハディースの教訓

第一：消えない誠実さ。 かれはいつもハディージャのことを口にし、**その友人たちに贈り物をして大切にされました。**

第二：伴侶を大切に思う。 妻の善行は、彼女が亡くなった後も**忘れられません。**

第三：人間らしさ。 このハディースはまた、アーイシャが自らの嫉妬の気持ちを正直に語ったこと、そしてかれがそれに優しく答えられたことを示しています。

ザイド・ブン・ハーリサ：愛を選んだ子

スィーラの注：さらわれた少年

ウィキペディアによれば、**ザイド・ブン・ハーリサ**は**カルブ族**の出身でした。幼いころにさらわれ、**ウカーズの市場**で売られました。**ハキーム・ブン・ヒザーム**が彼をおばのハディージャのために買い、ハディージャはのちに彼をかれに贈りました。

父とおじが彼を身請けしに来たとき、ザイドはかれのもとに**とどまることを選びました**。そこでかれはザイドを養子と宣言し、彼は**ザイド・ブン・ムハンマド**として知られるようになりました。

参照：

ウィキペディア「Zayd ibn Haritha al-Kalbi」en.wikipedia.org/wiki/Zayd_ibn_Haritha_al-Kalbi

なぜザイドは選んだのか

一人の少年が実の父のもとへ帰らないことを選んだ。これは、かれがザイドを奴隷としてではなく、**愛情をもって接していた**ことを示しています。かれの人柄の良さは、まず最も身近な人々によって感じられたのです。

その後の養子の規定

部族連合章 33:5 が下った後、養子は**実の父の名で呼ばれる**ようになり、ザイドは再びザイド・ブン・ハーリサと呼ばれました。ザイドは**最も早くイスラームに入った人々**の一人であり、西暦 629 年の**ムウタの戦い**で殉教しました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

名前が記された唯一の教友

ザイド・ブン・ハーリサは、クルアーンの中で名前がはっきり記された**唯一の教友**です（部族連合章 33:37）。この栄誉は、かつて市場で売られた奴隷だった人に与えられました。**アッラーのもとでの高貴さ**は家柄や財産にあるのではないという証しです。

その息子**ウサーマ・ブン・ザイド**は、のちにまだ若いうちにかれによって軍の司令官に任命されました。ザイドの家族へのかれの愛情は、世代を越えて続いたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーの使徒 ﷺ の家のアリー

スィーラの注：アブー・ターリブへの恩返し

スィーラ書によれば、ある**干ばつの年**、クライシュ族は暮らしに困窮しました。アブー・ターリブは子だくさんで財産はわずかでした。アッラーの使徒 ﷺ はおじのアル＝アッバースを誘って、アブー・ターリブの**負担を軽くしよう**としました。かれは**アリー**を、アル＝アッバースは**ジャアファル**を引き取りました。

こうしてアリーはかれとハディージャの家で育ち、啓示が下ったとき**最も早く**信仰した人々の一人となりました。

教訓

第一：恩に報いる。 アブー・ターリブは幼いかれを養い、かれは大人になってアブー・ターリブの**負担を軽くしました**。

第二：人を育てる家。 かれとハディージャの家は、ザイドとアリーという二人のイスラームの偉人が**育つ場所**となりました。

第三：家族の助け合い。 苦しいときには、大家族が**互いに助け合います**。今日、困っている親族を助けること、たとえばその子どもたちの教育を支えることは、生きたスンナです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

カアバの再建

かれが **35 歳**ごろのとき、カアバは傷んでいました。ウィキペディアによれば、**火災**によって構造が弱り、その後**洪水**が被害を与えました。クライシュ族はカアバを取り壊して建て直すことに決めました。

スィーラの注：ローマの船の木材

ウィキペディアによれば、建築用の木材は、紅海沿岸の**シュアイバ**で難破した**ビザンツの船**から取られました。その船に乗っていたエジプトのコプト人の大工**バークーム**が大工仕事を行いました。

参照：

ウィキペディア「Kaaba」en.wikipedia.org/wiki/Kaaba

アッラーの使徒 ﷺ も、おじのアル＝アッバースとともに**石を運びました**。このとき、アッラーが預言者となる前からかれを**守っておられた**ことを示す出来事が起こりました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3829 番

حَدَّثَنِي مَحْمُودٌ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّزَّاقِ، قَالَ أَخْبَرَنِي ابْنُ جُرَيْجٍ، قَالَ أَخْبَرَنِي عَمْرُو بْنُ دِينَارٍ، سَمِعَ جَابِرَ بْنَ عَبْدِ اللَّهِ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ لَمَّا بُنِيَتِ الْكَعْبَةُ ذَهَبَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم وَعَبَّاسٌ يَنْقُلاَنِ الْحِجَارَةَ، فَقَالَ عَبَّاسٌ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم اجْعَلْ إِزَارَكَ عَلَى رَقَبَتِكَ يَقِيكَ مِنَ الْحِجَارَةِ، فَخَرَّ إِلَى الأَرْضِ، وَطَمَحَتْ عَيْنَاهُ إِلَى السَّمَاءِ ثُمَّ أَفَاقَ فَقَالَ «إِزَارِي إِزَارِي». فَشَدَّ عَلَيْهِ إِزَارَهُ.

訳：

ジャービル・ブン・アブディッラー رضى الله عنهما は言った。カアバが（再び）建てられたとき、預言者 ﷺ とアル＝アッバースは石を運びに行った。アル＝アッバースは預言者 ﷺ に言った。「腰布を首の上に置きなさい。石から身を守ってくれるだろう。」する

と、かれは地面に倒れ、両目を開けて空を見つめておられた。それから正気に戻られて言われた。「**わたしの腰布を！わたしの腰布を！**」そこで腰布はふたたびかれに結ばれた。

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：マフムード・ブン・ガイラーン ← アブドゥッラッザーク ← イブン・ジュライジ ← アムル・ブン・ディーナール ← ジャービル・ブン・アブディッラー رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、カアバの建設の章、ハディース第 3829 番。ムスリム（第 340 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の合意によれば、クルアーンに次いで最も真正なハディース集である。

典拠：sunnah.com/bukhari:3829

このハディースの教訓

人前で肌をあらわにすることは、ジャーヒリーヤ時代の働き手にはごく普通のことでした。しかしアッラーは使徒の**アウラ（隠すべき部分）を守られました**。腰布が持ち上げられた途端にかれは気を失い、意識が戻るとすぐに腰布を求められたのです。かれの慎み深さは、シャリーアが定める前からアッラーによって守られていました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

なぜカアバは小さくなったのか

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1584 番

حَدَّثَنَا مُسَدَّدٌ، حَدَّثَنَا أَبُو الأَحْوَصِ، حَدَّثَنَا أَشْعَثُ، عَنِ الأَسْوَدِ بْنِ يَزِيدَ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ قَالَتْ سَأَلْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم عَنِ الْجَدْرِ أَمِنَ الْبَيْتِ هُوَ قَالَ «نَعَمْ». قُلْتُ فَمَا لَهُمْ لَمْ يُدْخِلُوهُ فِي الْبَيْتِ قَالَ «إِنَّ قَوْمَكِ قَصَّرَتْ بِهِمُ النَّفَقَةُ». قُلْتُ فَمَا شَأْنُ بَابِهِ مُرْتَفِعًا قَالَ «فَعَلَ ذَلِكِ قَوْمُكِ لِيُدْخِلُوا مَنْ شَاءُوا وَيَمْنَعُوا مَنْ شَاءُوا، وَلَوْلاَ أَنَّ قَوْمَكِ حَدِيثٌ عَهْدُهُمْ بِالْجَاهِلِيَّةِ فَأَخَافُ أَنْ تُنْكِرَ قُلُوبُهُمْ أَنْ أُدْخِلَ الْجَدْرَ فِي الْبَيْتِ وَأَنْ أُلْصِقَ بَابَهُ بِالأَرْضِ».

訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った。わたしは預言者 ﷺ に、その半円形の壁（ヒジュル）について、カアバの一部なのかとお尋ねした。かれは答えられた。「**そうだ。**」わたしは尋ねた。「ではなぜ彼らはそれをカアバの建物に含めなかったのですか。」かれは答えられた。「**あなたの民は費用が足りなかったのだ。**」わたしは尋ねた。「なぜ扉は高いのですか。」かれは答えられた。「**あなたの民は、望む者を入れ、望む者を締め出すためにそうしたのだ。もしあなたの民がジャーヒリーヤから離れたばかりでなく、彼らの心がそれを拒むことを恐れなかったなら、わたしはその壁をカアバに含め、扉を地面の高さまで下げただろう。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ムサッダド ← アブル・アフワス ← アシュアス・ブン・アビー・アッ＝シャアサー ← アル＝アスワド・ブン・ヤズィード ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』巡礼の書、マッカの美徳とその建設の章、ハディース第 1584 番。ムスリム（第 1333 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の合意によれば、クルアーンに次いで最も真正なハディース集である。

典拠：sunnah.com/bukhari:1584

このハディースの教訓

第一：ハラールな財産のみで。 クライシュ族は**費用が足りず**、カアバの一部が建物の外に残されました。それが現在**ヒジュル・イスマーイール**として知られる場所です。

第二：変革における英知。 かれはそれを正したいと望まれましたが、ジャーヒリーヤを離れたばかりの民が拒むことを恐れて**先延ばしにされました**。賢い指導者は**社会の準備ができているか**を考えるのです。

黒石と一枚の布

カアバの建設が**黒石（ハジャル・アスワド）**の位置まで来たとき、クライシュの諸氏族は**争い始めました。**どの氏族も、その石を元の場所に置く栄誉を得たがったのです。争いは流血寸前にまで至りました。

スィーラの注：公正な解決

スィーラ書によれば、彼らはマスジド・ハラームに**最初に入ってきた人**の判断に従うことで合意しました。その人は**ムハンマド**でした。彼らは言いました。「アル＝アミーンだ。われわれは彼に満足する。」

ウィキペディアによれば、かれは一枚の**布**を求め、その上に黒石を置き、**各氏族の長たち**に布の端を持たせて一緒に持ち上げさせました。そしてかれ自身がその手で**石を元の場所に置かれました。**

参照：

ウィキペディア「Kaaba」en.wikipedia.org/wiki/Kaaba

リーダーシップの教訓

かれの行動	教訓
一枚の布を求めた	創造的で簡単な解決策を探す。
各氏族が布の端を持った	すべての関係者を巻き込み、誰も疎外感を持たないようにする。
かれ自身が石を置いた	指導者は命じるだけでなく、自ら実行する。
誠実さゆえに受け入れられた	信頼は、必要になるずっと前から何年もかけて築かれる。

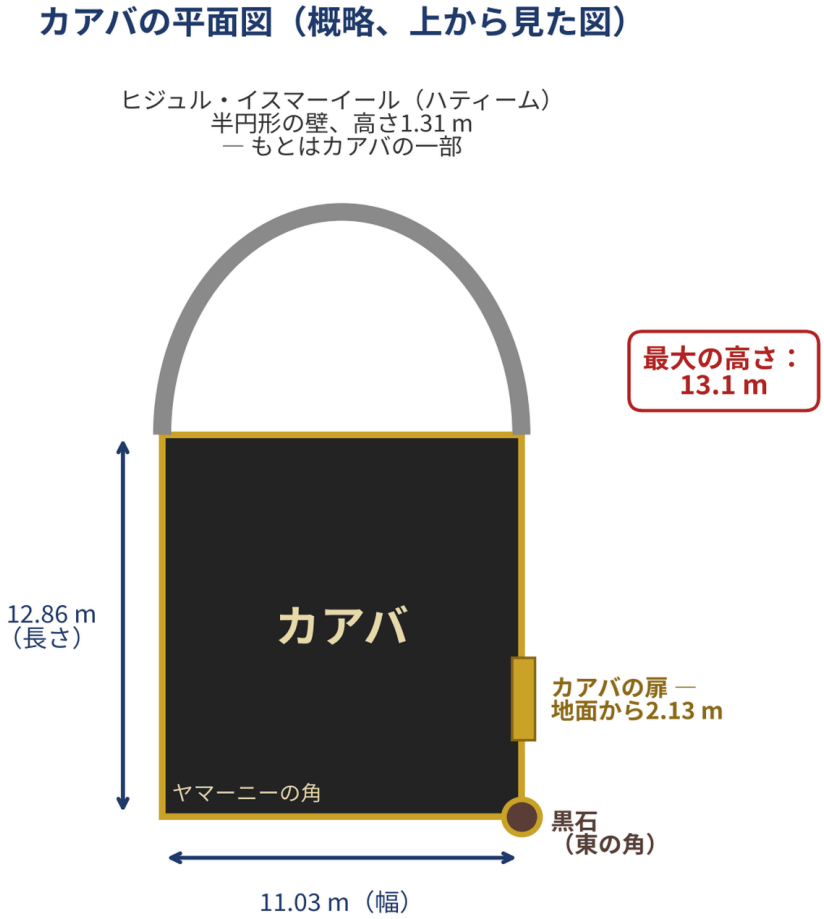
© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この話はスィーラ書で有名で、『サヒーフ』二書以外のさまざまな伝承経路で伝えられています。その核心、すなわちかれが黒石をめぐる争いを解決したことは、歴史家に広く受け入れられています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

数字で見るカアバ

今日私たちが見るカアバは、今も**クライシュ族の建てた土台**の上に立っています。ウィキペディアによれば、西暦 683 年にアブドッラー・ブン・アッ＝ズバイルがヒジュルの部分を含めて建て直したのち、カリフのアブドルマリク・ブン・マルワーンが**西暦 693 年**にクライシュの土台の上に再建し、それ以来その基本形が保たれています。



寸法はWikipedia「Kaaba」による（他の資料ではわずかに異なる）。クライシュ族は資金不足のためヒジュルの部分を外に残した。

図 4：カアバとヒジュル・イスマーイールの平面図（概略図）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

特徴	寸法／説明
長さ	12.86 m
幅	11.03 m
最大の高さ	13.1 m
扉	北東の壁、地面から 2.13 m
ヒジュル・イスマーイール	半円形の大理石の壁、高さ 1.31 m、幅 1.5 m
再建	クライシュ族（西暦 600〜605 年ごろ）、イブン・アッ＝ズバイル（683 年）、アブドルマリク（693 年）、ムラト 4 世（1626〜1627 年）

出典：Wikipedia, “Kaaba”。ウィキペディアは別の寸法（高さ約 15 m、12 m × 10.5 m）も挙げていますが、この違いは測り方によるものです。

今日タワーフ（周回）をするとき、私たちはヒジュル・イスマーイールの外側を歩きます。そこが**カアバの一部**だからです。これは、アーイシャ رضى الله عنها のハディースにあるように、クライシュ族がハラールな財産だけを使うと決めたことの直接の結果です。

「アル＝アミーン」という呼び名

黒石の出来事は、預言者となる前からクライシュ族がかれを**アル＝アミーン**と呼んでいたことを示しています。かれの誠実さについての最もはっきりした証言は、かれが公然と宣教を始めたときに、その民自身から出てきました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4770 番

حَدَّثَنَا عُمَرُ بْنُ حَفْصِ بْنِ غِيَاثٍ، حَدَّثَنَا أَبِي، حَدَّثَنَا الأَعْمَشُ، قَالَ حَدَّثَنِي عَمْرُو بْنُ مُرَّةَ، عَنْ سَعِيدِ بْنِ جُبَيْرٍ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ لَمَّا نَزَلَتْ {وَأَنْذِرْ عَشِيرَتَكَ الأَقْرَبِينَ} صَعِدَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم عَلَى الصَّفَا فَجَعَلَ يُنَادِي «يَا بَنِي فِهْرٍ، يَا بَنِي عَدِيٍّ». لِبُطُونِ قُرَيْشٍ حَتَّى اجْتَمَعُوا، فَجَعَلَ الرَّجُلُ إِذَا لَمْ يَسْتَطِعْ أَنْ يَخْرُجَ أَرْسَلَ رَسُولاً لِيَنْظُرَ مَا هُوَ، فَجَاءَ أَبُو لَهَبٍ وَقُرَيْشٌ فَقَالَ «أَرَأَيْتَكُمْ لَوْ أَخْبَرْتُكُمْ أَنَّ خَيْلاً بِالْوَادِي تُرِيدُ أَنْ تُغِيرَ عَلَيْكُمْ، أَكُنْتُمْ مُصَدِّقِيَّ». قَالُوا نَعَمْ، مَا جَرَّبْنَا عَلَيْكَ إِلاَّ صِدْقًا. قَالَ «فَإِنِّي نَذِيرٌ لَكُمْ بَيْنَ يَدَىْ عَذَابٍ شَدِيدٍ». فَقَالَ أَبُو لَهَبٍ تَبًّا لَكَ سَائِرَ الْيَوْمِ، أَلِهَذَا جَمَعْتَنَا فَنَزَلَتْ {تَبَّتْ يَدَا أَبِي لَهَبٍ وَتَبَّ ، مَا أَغْنَى عَنْهُ مَالُهُ وَمَا كَسَبَ}

訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما は言った。〈あなたの近親に警告しなさい〉という節が下ったとき、預言者 ﷺ はサファーの丘に登り、「フィフル家よ！アディー家よ！」とクライシュの諸氏族に呼びかけ、彼らが集まった。出て来られない者は、何が起きたのかを見に使いを送った。アブー・ラハブとクライシュの人々もやって来た。かれは言われた。「**もしわたしが、この谷に騎兵の一団がいて、あなたがたを襲おうとしていると告げたなら、あなたがたはわたしを信じるだろうか。**」彼らは答えた。「**もちろんだ。われわれはあなたが真実を語る者だとしか知らない。**」かれは言われた。「**わたしは、厳しい懲罰についてあなたがたに警告する者である。**」アブー・ラハブは言った。「一日中おまえは滅びるがいい！このためにわれわれを集めたのか。」そこで〈アブー・ラハブの両手は滅び、かれも滅びてしまえ〉という節が下った。

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ウマル・ブン・ハフス・ブン・ギヤース ← その父 ハフス・ブン・ギヤース ← アル＝アアマシュ ← アムル・ブン・ムッラ ← サイード・ブン・ジュバイル ← イブン・アッバース رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』クルアーン解釈の書、詩人たち章、ハディース第 4770 番。ムスリム（第 208 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の合意によれば、クルアーンに次いで最も真正なハディース集である。

典拠：sunnah.com/bukhari:4770

このハディースの教訓

第一：敵の証言。 アブー・ラハブを含むクライシュの人々は認めました。「**われわれはあなたが真実を語る者だとしか知らない。**」 この告白は、のちにかれに敵対した人々の口から出たものです。

第二：宣教の元手。 40 年間の誠実さは、かれが使命を伝えるときの**信頼の土台**となりました。今日の宣教者も、言葉より先に人柄で知られる必要があります。

第三：真実と拒絶。 彼らはかれの誠実さを認めながら、それでも宣教を拒みました。**導きは論証だけで得られるものではなく**、アッラーからの恵みなのです。

ハニーフの人々

ジャーヒリーヤ時代、すべてのアラブ人が偶像を崇拝していたわけではありません。**ハニーフ**と呼ばれるわずかな人々がいました。偶像崇拝を拒み、預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ の宗教を求めた人々です。

> **スィーラの注：ザイド・ブン・アムル・ブン・ヌファイル**
>
> 最も有名な一人が、サイード・ブン・ザイド ***Zaid bin ‘Amr bin Nufail*** の父ザイド・ブン・アムル・ブン・ヌファイルです。『サヒーフ・ブハーリー』は、彼が**偶像のために屠られたものを食べず**、アッラー以外の名で屠るクライシュ族を非難し、真の宗教を求めてシャームへ行ったと伝えています。彼は預言者の時代の前に亡くなりました。
>
> **参照：**
>
> 『サヒーフ・ブハーリー』3826〜3827。sunnah.com/bukhari:3826

ハニーフの存在は、偶像を崇拝する社会の中でさえ、人間の**フィトラ（生まれながらの本性）**が唯一の神を求め続けていたことを示しています。マッカの社会は**光を待っていた**のです。

アッラーの使徒 ﷺ と偶像

預言者となる前、かれは**偶像を崇拝しませんでした。**カアバ建設の出来事でアウラを守られたように、アッラーはかれを民の多神崇拝の行いから守られました。独りになって礼拝することを好んだかれは、やがてヒラーの洞窟へと導かれていきます。

預言者となる前の兆し

預言者となる時が近づくにつれ、のちに初めて十分に理解されるいくつかの兆しが現れました。アッラーの使徒 ﷺ 自身がその一つを語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2277 番

وَحَدَّثَنَا أَبُو بَكْرِ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ، حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَبِي بُكَيْرٍ، عَنْ إِبْرَاهِيمَ بْنِ طَهْمَانَ، حَدَّثَنِي سِمَاكُ بْنُ حَرْبٍ، عَنْ جَابِرِ بْنِ سَمُرَةَ، قَالَ قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم «إِنِّي لأَعْرِفُ حَجَرًا بِمَكَّةَ كَانَ يُسَلِّمُ عَلَىَّ قَبْلَ أَنْ أُبْعَثَ إِنِّي لأَعْرِفُهُ الآنَ».

訳：

ジャービル・ブン・サムラ رضى الله عنه は言った。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**わたしは、遣わされる前にわたしに挨拶していたマッカの一つの石を知っている。わたしは今もそれを知っている。**」

伝承経路 イマーム・ムスリムの伝承：アブー・バクル・ブン・アビー・シャイバ ← ヤフヤー・ブン・アビー・ブカイル ← イブラーヒーム・ブン・タフマーン ← スィマーク・ブン・ハルブ ← ジャービル・ブン・サムラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』美徳の書、預言者 ﷺ の家系の優越と預言者となる前に石がかれに挨拶したことの章、ハディース第 2277 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：sunnah.com/muslim:2277

このハディースの教訓

第一：自然界は使徒を知っていた。 マッカの一つの石が、遣わされる前のかれに**挨拶していました**。アッラーがかれを尊ばれたしるしです。

第二：消えない記憶。 かれは「**わたしは今もそれを知っている**」と言われました。その出来事が真実であり、記憶されていたことを示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

真実の夢

『サヒーフ・ブハーリー』の中でアーイシャ رضى الله عنها は、啓示の始まりは**真実の夢**であったと語っています。かれの見る夢はすべて**夜明けの光**のように現実となりました。その後、かれはヒラーの洞窟で**独りになることを好まれる**ようになりました。詳しい話は第 3 巻で述べます。Sahih al-Bukhari 3

ヒラーの洞窟での独居

40 歳が近づくと、かれはマッカ近くの**ジャバル・アン＝ヌール（光の山）**の頂にある小さな洞窟で**独りで過ごす**ことをますます好まれるようになりました。そこで何日も礼拝（タハンヌス）を行い、食料を持って行っては、ハディージャのもとへ戻ってまた食料を持って行かれました。

数字で見るヒラーの洞窟

事項	説明
ジャバル・アン＝ヌールの高さ	約 640 m
洞窟の位置	約 270 m（ウィキペディアによる）
洞窟の大きさ	長さ約 3.7 m、幅約 1.6 m
今日の登山	約 1,750 段の階段、1〜2 時間
独居の期間	歴史資料によれば毎年 1 か月
最初の啓示	西暦 610 年 8 月ごろ、ラマダーン月

出典：Wikipedia, “Mount Hira”。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

なぜ独りになったのか

マッカの社会は偶像と商売と部族の争いに満ちていました。ヒラーの洞窟で、かれは**喧騒から遠く離れ**、アッラーの偉大さと民の状態について深く思いをめぐらされました。この洞窟からは、マッカとカアバを遠くに望むことができます。

教訓：私たちは誰もが**アッラーとともに独りになる時間**を必要としています。夜の最後の三分の一であれ、イウティカーフ（籠り）であれ、スマートフォンを置いたほんの数分であれ。いつも忙しい心は、光を受け入れにくいのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

今日のジャバル・アン＝ヌール訪問

多くの巡礼者がヒラーの洞窟を見るためにジャバル・アン＝ヌールに登ります。学者たちは、その登山は**ハッジやウムラの儀礼の一部ではない**こと、またその洞窟で礼拝や祈りをすることに特別な功徳があるという典拠はないことを説明しています。啓示の始まりについて**教訓を得る**ために訪れることはできます。

登山者へのアドバイス	理由
朝か夕方に登る	マッカの日中は非常に暑い。
十分な水を持参する	登山には 1〜2 時間かかる。
清潔さと礼儀を守る	この歴史的な場所は多くの人が訪れる。
典拠のない行いを避ける	礼拝はスンナに基づかなければならない。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：112 / 485

偉大な人格

筆章 68:4

وَإِنَّكَ لَعَلَىٰ خُلُقٍ عَظِيمٍ ﴿٤﴾

本当にあなたは、崇高な徳性を備えている。

訳：三田了一 — quran.com/68:4

68:4 の解説

アッラーは仰せられました。「**本当にあなたは、崇高な徳性を備えている**」。イブン・カスィールは、かれの人格はクルアーンそのものであった、すなわちその命令を実行し、その禁止を避けておられたという、アーイシャ ***Al-Qur'an*** の説明を引用しています。Tafsir Ibn Kathir 68:4。

預言者となる前の 40 年間は、さまざまな場面でこの人格を示していました。最初の啓示が下ったとき、ハディージャ رضى الله عنها はまさにその人格を挙げてかれを慰めました。親族の絆を結び、弱い者を支え、持たない者を助け、客をもてなし、困難にある者を助けておられると（Sahih al-Bukhari 3）。

本書に見る人格

人格	出来事
勤勉	羊飼いと交易
虐げられた者を守る	ヒルフ・アル＝フドゥール
誠実さ（アマーナ）	ハディージャの商品；「アル＝アミーン」の呼び名
誠実な愛情	ハディージャを偲ぶ（『サヒーフ・ブハーリー』3818）

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人格	出来事
慈しみ	ザイドがかれのもとにとどまることを選んだ
恩に報いる	アブー・ターリブの負担を軽くするためにアリーを引き取った
英知と公正	黒石の問題の解決
慎み深さ	腰布の出来事（『サヒーフ・ブハーリー』3829）

若者への教訓

アッラーの使徒 ﷺ の青年期と壮年期は、今日の**若者にとって最良の手引き**です。かれは財産を受け継ぎませんでしたが、人柄と勤勉によって尊敬される名を築かれました。

スィーラから	若者のための実践
若いうちから働く	小さくてもハラールな仕事を恥じない。
旅から学ぶ	開かれた目と守られた心で外の世界を知る。
ヒルフ・アル＝フドゥール	弱い者、虐げられた者を守る取り組みに参加する。
商売における誠実さ	利益を追う前に良い評判を築く。
人柄で伴侶を選ぶ	信仰と人柄を一番の基準にする。
アウラと尊厳を守る	他の人がおろそかにしても慎みを保つ。
アッラーとともに独りになる時間	自己反省と礼拝の時間をつくる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

親への省察

アブー・ターリブの貧しい家は誠実な若者を育て、かれとハディージャの家はザイドとアリーを育てました。**愛情とよい手本に満ちた家**は、ぜいたくよりも大切です。子どもたちを、忠告だけでなく手本によって育てましょう。

最後に、10:16 の節を思い出しましょう。預言者となる前のかれの生涯は**真実の論証**となりました。今日の私たちの生き方もまた、私たちが呼びかけることを裏づけるか、あるいは否定するかの証人となるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

真正な伝承と有名な話のあいだ

アッラーの使徒 ﷺ の青年期と壮年期については、多くの話が世間に広まっています。

次の表は、真正なもの、スィーラ書によるもの、異論のあるものを区別しています。

話とその位置づけ

有名な話	位置づけ
少年時代にアブー・ターリブとともにシャームへ行った。	スィーラ書の伝承。一般に受け入れられている。
修道士バヒーラがかれの預言者の印に気づいた。	イブン・イスハークとアッ＝ティルミズィーの伝承。内容の一部はアッ＝ザハビーら学者が疑問視している。
ヒルフ・アル＝フドゥールに参加した。	スィーラ書と歴史書の伝承。受け入れられている。
結婚したときハディージャは 40 歳だった。	有名な説。一部の資料は約 28 歳とする。
ハディージャを偲び、その友人たちを大切にした。	サヒーフ（『サヒーフ・ブハーリー』 3818）。
カアバ再建のときに石を運んだ。	サヒーフ（『サヒーフ・ブハーリー』 3829）。
資金不足のためヒジュル・イスマーイールが外に残された。	サヒーフ（『サヒーフ・ブハーリー』 1584）。
一枚の布で黒石をめぐる争いを解決した。	さまざまな伝承経路をもつスィーラ書の伝承。広く受け入れられている。
遣わされる前に一つの石がかれに挨拶した。	サヒーフ（『サヒーフ・ムスリム』 2277）。
マイサラとの旅の途中の不思議な出来事。	真正でない付け加え。本書には入れていない。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

省察

かれの物語は、付け加えがなくても十分に美しいものです。真正な伝承だけで、**愛を深め**、手本とするのに十分なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

預言者となる直前の世界

アッラーの使徒 ﷺ の最初の 40 年は、アラビア半島を取り巻く世界が急速に変化していた時代でした。東ローマ（ビザンツ）とペルシア（サーサーン朝）の二大帝国は戦いを続け、その同盟者であるアラブの王国は崩れ、アラブの部族は大国に立ち向かうようになっていきました。この章では、かれの青年期と壮年期の物語を、そうした世界の出来事の中に位置づけます。

ローマに助けられたペルシア王

西暦 590 年、かれが 20 歳ごろ、すなわちヒルフ・アル＝フドゥールのころ、**ホスロー2 世**がペルシア王となりました。彼は当初、反乱を起こした将軍に王位を追われ、ローマ領に逃れました。ローマ皇帝マウリキウスは、国境のいくつかの地域と町と引き換えに、軍を送って彼の王位奪還を助けました。ホスロー2 世は西暦 628 年まで統治しました。

出典：World History Encyclopedia, “Khosrow II”。

大戦争の再開（西暦 602 年）

西暦 602 年、かれが 32 歳ごろのとき、マウリキウスはフォカスによって家族とともに廃位され殺されました。ホスロー2 世はこれを口実にローマに攻め込み、両帝国の長い戦争が始まりました。ペルシア軍は多くのローマの町を占領しました。そして**西暦 610 年**、ヒラーの洞窟に最初の啓示が下った年に、フォカスが廃位されてヘラクレイオスがローマ皇帝となりました。

この戦争こそ、のちにクルアーンのビザンチン章の冒頭で語られるものです。ローマは敗れたが、数年のうちに再び勝利するであろう、と（Surah Ar-Rum 30:2–4）。その全容は、これからのシリーズで述べます。イン・シャー・アッラー。

出典：World History Encyclopedia, “Khosrow II”。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

ラフム朝の滅亡とズー・カールの戦い

イラクとの境、ヒーラの**ラフム族**は長くペルシアの同盟者でした。**西暦 602 年**、ペルシアはラフム朝を廃し、その王ヌウマーン 3 世は捕らえられて獄中で亡くなりました。このアラブの仲介者を失って、ペルシアとアラブ諸部族の関係は緊張しました。

数年後、**ズー・カールの戦い**が起こりました。現代の研究者はこれを**西暦 604 年から 611 年**の間に置いています。バクル・ブン・ワーイル族、特にシャイバーン族の連合が、ペルシア軍とそのアラブの同盟者を打ち破りました。この戦いの規模については歴史家の間で意見が分かれ、小さな衝突にすぎないとする人もいますが、アラブ人にとってはペルシア軍に対する初めての勝利として記憶されました。

出典：Wikipedia, “Battle of Dhu Qar”。

> **歴史の注：ペルシア支配下のイエメン**
>
> 570 年代初めにイエメンのアビシニア支配が終わると（第 1 巻）、イエメンはペルシアが任命した総督によって治められました。つまり、かれの青年期と壮年期を通じて、クライシュの隊商は南（イエメン）ではペルシアの勢力圏で、北（シャーム）ではローマの領域で交易していたのです。マッカはその中間にあり、どちらの帝国にも支配されていませんでした。

教訓

大帝国が戦争に明け暮れ、互いを倒し合っていたとき、アッラーはローマにもペルシアにも支配されていない町マッカで、静けさの中に使徒を準備しておられました。この世の力は来ては去りますが、真実は残ります。今日の世界のニュースに心が騒ぐとき、アッラーがその英知によって歴史を司っておられることを思い出しましょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

交易路とアラブの市場

かれの青年期と壮年期は交易と深く結びついています。アブー・ターリブとのシャームへの隊商、ハディージャの商品、ウカーズの市場への道中で始まったフィジャールの戦い、そして売り買いのもめごとから生まれたヒルフ・アル＝フドゥール。この章では、それらの場所をまとめます。

重要な場所

表の距離は、現代の地図の座標から計算したマッカからの**直線距離**です。実際の隊商路はもっと長くなります。正確な位置がはっきりしない場所の距離は、推定として示しています。

場所	このシリーズとの関わり	マッカからの距離
マッカ	かれの町。クライシュ族が再建したカアバ。	—
ジャバル・アン＝ヌール（ヒラーの洞窟）	預言者となる前に、かれが独りで過ごした場所。	約 5 km
ウカーズの市場	ナフラとターイフの間にあったアラブ最大の年市。フィジャールの戦いと関わる。	約 70 km（推定）
ターイフ	サキーフ族の町。フィジャールの戦いの当事者の一つ。	約 63 km
アッ＝シュアイバ	紅海に面したマッカの古い港。ローマの船が難破し、その木材がカアバに使われた。	約 75 km（推定）
フバーシャの市場	マッカ地方にあった古代の年市。2023 年に研究者がその跡地を特定した（下記参照）。	推定
ヤスリブ（マディーナ）	シャームへの隊商路上の町。	約 340 km
ブスラー（シャーム）	クライシュの隊商の目的地。かれの初めてのシャームへの旅。	約 1,280 km

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

場所	このシリーズとの関わり	マッカからの距離
ダマスカス（シャーム）	ローマ支配下のシャームの大都市。	約 1,390 km
サヌアー（イエメン）	冬の隊商の目的地。当時はペルシアの勢力下。	約 815 km

距離は現代の座標から計算して丸めたもので、目安にすぎません。

冬と夏の旅

アッラーはクライシュ族に、彼らの「冬と夏の旅」の恵みを思い起こさせられました（Surah Quraisy 106:1–4）。冬には隊商はイエメンへ、夏にはシャームへ向かいました。ブスラーまでの片道は何週間もかかりました。かれはこの道を少なくとも 2 回通りました。少年のときにアブー・ターリブとともに、そして大人になってハディージャの商品を運んだときです。

ウカーズの市場：市場であり詩の舞台

ウィキペディアによれば、**ウカーズの市場**はジャーヒリーヤ時代の最大で最も有名な年中行事でした。巡礼の季節の直前、ズル・カアダ月に 21 日間開かれました。売り買いのほか、アラブの部族はそこで争いを解決し、盟約を結び、競走をし、詩を競い合いました。この市場はイスラームの到来後に衰え、ついにヒジュラ暦 127 年に破壊されました。今日、ターイフ近くのその史跡には現代の市場が再建され、毎年の文化祭として開かれています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

出典：Wikipedia, “Souk Okaz”。

歴史の注：フバーシャの市場の跡地

2023 年、アブドルアズィーズ国王財団（ダーラ）とサウジアラビア遺産委員会と協力する研究チームが、マッカ地方のワーディー・カヌーナ南岸にあった古代アラブの市場**フバーシャの市場**の跡地の発見を発表しました。この市場は毎年ラジャブ月の初めから 8 日間開かれていたと言われます。

一部のスィーラ書は、かれがハディージャの商品をこの市場に運んだことがあると述べています。この伝承は『サヒーフ・ブハーリー』『サヒーフ・ムスリム』には見られず、跡地発見の報告自体もかれとの関わりには触れていません。そのため、ここでは確かな事実ではなく、歴史的な情報として紹介しています。

出典：The Media Line, “Ancient Souq Habasha Discovered in Mecca Region” (2023)。

教訓

アラブの市場は売り買いの場であるだけでなく、知らせや言葉や文化が行き交う場所でもありました。かれはこの交易の世界の真ん中で育ちながら、そのごまかしや不正に流されることはありませんでした。私たちも同じです。社会の中で働き、商いをしながら、誠実さと信頼を守るのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

歴史の足跡：クルアーン以前のアラビア文字

クルアーンは「明瞭なアラビア語で」下されました。それ以前のアラビア文字はどのようなものだったのでしょうか。シャームで発見されたいくつかの碑文は、啓示が下る前の 3 世紀の間にアラビア文字がどのように発達したかを示しています。この章では、確かな発見だけを出典とともに紹介します。

碑文	年代	説明
ナマーラ	西暦 328 年	シリア南部にある、ラフム族のアラブ王イムルル・カイス・ブン・アムルの墓碑。アラビア文字へと変わりつつあるナバテア文字で書かれた古いアラビア語。現在パリのルーヴル美術館所蔵。
ザバド	西暦 512 年	シリア北部の教会の入口にある。ギリシア語、シリア語、アラビア語で書かれている。現在ブリュッセルの王立美術歴史博物館所蔵。
ハッラーン（ハウラーン）	西暦 567〜568 年	ダマスカス南方のスワイダー近くの教会にある。ギリシア語とアラビア語。アラビア語の部分は建設の年を「ハイバルの出来事の 1 年後」と記している。

出典：Wikipedia, “Namara inscription”；Wikipedia, “Zabad inscription”；Wikipedia, “Harran inscription”。

ハッラーンの碑文は、かれの誕生のわずか数年前に、クライシュの隊商の目的地ブスラーと同じハウラーン地方で書かれました。これは、当時のアラブ人の多くが読み書きできなかったものの、かれの少年時代には交易路に沿ってアラビア文字がすでに使われていたことを示しています。アッラーの使徒 ﷺ ご自身は、クルアーンにあるように**ウンミー**（読み書きをしない人）でした（Surah Al-A‘raf 7:157）。

ヒマー：ナジュラーンの隊商の休息地

サウジアラビア南部のナジュラーンには、**2021 年にユネスコ世界遺産に登録された**ヒマー地域があります。アラビア半島の古代の隊商路の一つにあり、狩りや動物や

暮らしを描いた何千もの岩絵や彫刻、そして旅人や兵士が残した文字があります。少なくとも 3000 年前のものと推定されるビイル・ヒマーの井戸は、今も水を湧き出しています。

出典：Pertubuhan Bangsa-bangsa Bersatu (Arab Saudi), “Ḥimā Cultural Area in Najran added to UNESCO’s World Heritage List” (2021)。

教訓

アッラーは何世紀もかけて、墓碑に刻まれた素朴な文字から、アラビア語をご自身の最後の啓典の器へと整えられました。しかし、それを伝えた使徒はウンミーでした。クルアーンが人間の作ったものではないことが明らかになるためです。たとえ少しでもアラビア語を学ぶことは、クルアーンにより近づく道です。

このシリーズの人物

次の表は、アッラーの使徒 ﷺ の青年期と壮年期の物語に登場する人物をまとめたものです。一人ひとりの位置づけを覚えやすくするためです。

人物	アッラーの使徒 ﷺ	備考
アブー・ターリブ	おじ	8 歳からかれを養い、シャームへ連れて行った。
アル＝アッバース・ブン・アブドルムッタリブ	おじ	カアバ再建のときにかれとともに石を運んだ（『サヒーフ・ブハーリー』3829）。アブー・ターリブの負担を軽くするためにジャアファルを引き取った。
ハディージャ・ビント・フワイリド	最初の妻	アサド家の商人。イブラーヒームを除くかれの子どもたちの母。最初に信仰した人。
マイサラ	ハディージャの使用人	シャームへの交易の旅でかれに同行した（スィーラ書）。
ナフィーサ	ハディージャの友人	スィーラ書によれば、ハディージャの求婚の仲立ち。
ハキーム・ブン・ヒザーム	ハディージャの甥	おばのためにウカーズの市場でザイドを買った。
ザイド・ブン・ハーリサ	養子	かれのもとにとどまることを選んだ。クルアーンに名前が記された唯一の教友（33:37）。
アリー・ブン・アビー・ターリブ	いとこ	かれとハディージャの家で育った。
ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ	いとこ	干ばつの年にアル＝アッバースに引き取られた。
アブドッラー・ブン・ジュドアーン	タイム家の長	彼の家でヒルフ・アル＝フドゥールが結ばれた。

人物	アッラーの使徒 ﷺ	備考
アル＝アース・ブン・ワーイル	クライシュの指導者	ザビードの商人に代金を払わず、ヒルフ・アル＝フドゥールのきっかけとなった。
ザイド・ブン・アムル・ブン・ヌファイル	ハニーフ	偶像を拒んだ。預言者の時代の前に亡くなった（『サヒーフ・ブハーリー』3826）。
バークーム	大工	難破したローマの船にいたコプト人の職人。カアバの建設を手伝った（歴史書）。
バヒーラ	ブスラーの修道士	その話はスィーラ書にある。内容の一部は学者が疑問視している。

出典：イブン・ヒシャーム『預言者伝』；『サヒーフ・ブハーリー』3826、3829；本書の前の各章。

教訓

このシリーズの人物はさまざまな背景を持っています。貧しいおじ、裕福な妻、市場で売られた少年、部族の長、外国から来た大工。彼らは皆、かれの人柄を目にしました。毎日、私たちの周りの人々も私たちの人柄を目にしています。彼らこそ最も正直な証人なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年表：スィーラと世界

この年表は、本書のスィーラの出来事を、同じ時代の世界の出来事と並べて示しています。スィーラの出来事の西暦年は、現代の歴史家による推定です。

年（推定）	出来事
567〜568	ハウラーンのハッラーンにアラビア語・ギリシア語の碑文。
578 年ごろ	アブドルムッタリブが死去。かれはアブー・ターリブに引き取られる。
582 年ごろ	アブー・ターリブとともに初めてシャームへ旅する（スィーラ書）。
580 年代末	ウカーズとターイフ周辺でフィジャールの戦い。
590	ホスロー2 世がペルシア王となる。マッカでヒルフ・アル＝フドゥールが結ばれる。
595 年ごろ	ハディージャの商品をシャームへ運ぶ。ハディージャと結婚。
602	マウリキウスがフォカスに殺され、ローマ・ペルシア戦争が再開。ペルシアがラフム朝を廃止。
600〜605 年ごろ	クライシュ族がカアバを再建。かれが黒石を置く。
604〜611	ズー・カールの戦い：バクル族がペルシア軍を破る。
610 年の直前	真実の夢。ヒラーの洞窟での独居（『サヒーフ・ブハーリー』3）。
610	ヘラクレイオスがローマ皇帝となる。ヒラーの洞窟に最初の啓示が下る。

出典：World History Encyclopedia, “Khosrow II”；Wikipedia, “Battle of Dhu Qar”；Wikipedia, “Harran inscription”；本書の前の各章の年表。

教訓

ヘラクレイオスがローマの帝位に就いたのと同じ年、財産を持たない一人の男が小さな洞窟で啓示を受けました。世界はその皇帝の名を記録しましたが、のちの歴史

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

は、ヒラーの洞窟での出来事のほうがはるかに大きな影響を持ったことを証明しました。アッラーのもとでの成功の基準は、人間の基準とは異なるのです。

よくある質問

アッラーの使徒 ﷺ の青年期と壮年期についてよく尋ねられる質問と、本書で取り上げた資料に基づく簡単な答えです。

1. かれは預言者となる前に何回シャームへ行ったのですか。

スィーラ書によれば、少なくとも 2 回です。少年のときにアブー・ターリブとともに、そして 20 代前半にマイサラとともにハディージャの商品を運んだときです。

2. 修道士バヒーラの話は真正ですか。

この話はイブン・イスハークとアッ＝ティルミズィーが伝えていますが、内容の一部はアッ＝ザハビーらの学者が疑問視しています。確かなのは、かれが隊商とともにシャームへ行ったことがあるということです。「修道士バヒーラの話：一つの評価」の章を参照してください。

3. かれはフィジャールの戦いで戦ったのですか。

諸資料によれば、かれはおじたちとともにその場にいて、敵の矢からおじたちを守りましたが、自ら戦うことはありませんでした。そのときの年齢ははっきりせず、資料は 14 歳から 20 歳の間としています。

4. ヒルフ・アル＝フドゥールは多神教徒が結んだものなのに、なぜ称賛されるのですか。

その目的が虐げられた者を守ることであり、イスラームと一致する価値だからです。スィーラ書は、イスラームの中でもそのような盟約に招かれたなら、かれは応じただろうと伝えています。この伝承は『サヒーフ』二書には見られません。

5. かれと結婚したとき、ハディージャは何歳だったのですか。

有名な説では 40 歳ですが、一部の資料は約 28 歳としています。確かなのは、その結婚が人柄の上に築かれ、約 25 年続いたということです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

6. かれとハディージャの子どもは何人ですか。

6 人です。アル＝カースィムとアブドッラー（幼くして死去）、そしてザイナブ、ルカイヤ、ウンム・クルスーム、ファーティマです。イブラーヒームはのちにマディーナで、マーリヤ・アル＝キブティーヤから生まれました。

7. なぜザイドはザイド・ブン・ムハンマドと呼ばれなくなったのですか。

アッラーが部族連合章 33:5 を下し、養子は実の父の名で呼ぶよう命じられたからです。それ以来、彼は再びザイド・ブン・ハーリサと呼ばれるようになりました。

8. なぜヒジュル・イスマーイールはカアバの建物の外にあるのですか。

かれがアーイシャ رضى الله عنها に語られたように（『サヒーフ・ブハーリー』1584）、クライシュ族がカアバを再建したとき、ハラールな費用が足りなかったからです。そのため、タワーフのときにはヒジュルの外側を歩きます。

9. かれは預言者となる前に偶像を崇拝したのですか。

いいえ。アッラーはかれを民の多神崇拝から守られました。クルアーンは、啓示の前の 40 年間のかれの生涯を、その誠実さの論証としています（ユーヌス章 10:16）。

10. ハニーフとはどのような人々ですか。

偶像崇拝を拒み、預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ の宗教を求めた、ごく一部のアラブ人です。ザイド・ブン・アムル・ブン・ヌファイル（『サヒーフ・ブハーリー』3826）がその一人です。彼らは、人間のフィトラが唯一の神を求めることを示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

11. ヒラーの洞窟での礼拝には特別な功徳がありますか。

ヒラーの洞窟の中で礼拝したり祈ったりすることに特別な功徳があるとする典拠はなく、そこに登ることはハッジやウムラの儀礼の一部でもありません。啓示の始まりについて教訓を得るために訪れることはできます。

12. かれはヒラーの洞窟で何をしておられたのですか。

『サヒーフ・ブハーリー』3 によれば、かれはその洞窟で何夜かタハンヌス、すなわち礼拝を行い、食料を持って行っては、ハディージャのもとへ戻ってまた食料を持って行かれました。その礼拝の方法の詳細は、真正な伝承には説明されていません。

教訓

問うことは知識の鍵です。アッラーの使徒 ﷺ についての話を聞いたら、「その出典は何か、それは真正か」と問う習慣をつけましょう。そうすることで、かれへの私たちの愛は真実の上に築かれるのです。

教訓と結び

本書からの教訓

第一：預言者となる前の生涯は論証である。 かれは嘘をつくことなく 40 年間民の中で暮らされました（10:16）。

第二：苦労が人格を形づくる。 貧しい孤児の少年は、誠実な若者へと成長しました。

第三：虐げられた者を守る。 ヒルフ・アル＝フドゥールは、預言者となった後もかれに認められました。

第四：誠実さは元手である。 正直さがハディージャの信頼と「アル＝アミーン」の呼び名をもたらしました（『サヒーフ・ブハーリー』4770）。

第五：伴侶への誠実な愛。 かれは生涯ハディージャを偲ばれました（『サヒーフ・ブハーリー』3818）。

第六：アッラーは使徒を守られる。 カアバ建設のとき、かれのアウラは守られました（『サヒーフ・ブハーリー』3829）。

第七：ハラールな財産のみ。 クライシュ族はハラールな資金が足りず、ヒジュルを外に残しました（『サヒーフ・ブハーリー』1584）。

第八：一つにまとめるリーダーシップ。 黒石の問題の解決は、すべての氏族を参加させました。

第九：偉大な人格。 かれの人格はクルアーンそのものでした（68:4）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

年表のまとめ

年齢（推定）	出来事と典拠
8	アブー・ターリブに引き取られる（イブン・カスィール 93:6）
12 ごろ	アブー・ターリブとともにシャームへ（スィーラ書）
14〜20	フィジャールの戦い（歴史書）
20 ごろ	ヒルフ・アル＝フドゥール、西暦 590 年（歴史書）
20 代前半	ハディージャの商品をシャームへ運ぶ（スィーラ書）
25 ごろ	ハディージャと結婚、西暦 595 年ごろ（スィーラ書）
35 ごろ	カアバの再建（『サヒーフ・ブハーリー』 3829）
40 の直前	真実の夢とヒラーの洞窟での独居（『サヒーフ・ブハーリー』 3）
40	最初の啓示、西暦 610 年ごろ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

結び

アブー・ターリブの狭い家から、シャームの市場へ、アブドッラー・ブン・ジュドアーンの家へ、ハディージャとの家庭へ、そしてジャバル・アン＝ヌールの頂へ。アッラーは 40 年をかけて使徒を準備されました。かれが 40 歳になったとき、静かなヒラーの洞窟で最初の啓示が下りました。イン・シャー・アッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』シリーズは、**啓示の始まり**とマッカでの秘密の宣教へと続きます。ワッラーフ・アアラム（アッラーが最もよくご存知です）。

第 2 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版の本文と三田了一訳。quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの解釈』（10:16；68:4）。tafsir.app/ibn-katheer/68/4

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』3、1584、3818、3820、3826〜3827、3829、4770。sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』2277。sunnah.com/muslim:2277

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）— 青年期、ハディージャとの結婚、カアバの建設の章。

Wikipedia「Abu Talib ibn Abd al-Muttalib」。en.wikipedia.org/wiki/Abu_Talib_ibn_Abd_al-Muttalib

Wikipedia「Bosra」。en.wikipedia.org/wiki/Bosra

Wikipedia「Bahira」。en.wikipedia.org/wiki/Bahira

Wikipedia「Fijar Wars」。en.wikipedia.org/wiki/Fijar_Wars

Wikipedia「Hilf al-Fudul」。en.wikipedia.org/wiki/Hilf_al-Fudul

Wikipedia「Khadija bint Khuwaylid」。en.wikipedia.org/wiki/Khadija_bint_Khuwaylid

Wikipedia「Zayd ibn Haritha al-Kalbi」。en.wikipedia.org/wiki/Zayd_ibn_Haritha_al-Kalbi

Wikipedia「Kaaba」。en.wikipedia.org/wiki/Kaaba

Wikipedia「Mount Hira」。en.wikipedia.org/wiki/Mount_Hira

Wikipedia「Quraysh」。en.wikipedia.org/wiki/Quraysh

世界史と考古学

World History Encyclopedia「Khosrow II」。worldhistory.org/Khosrow_II/

Wikipedia「Battle of Dhu Qar」。en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Dhu_Qar

Wikipedia「Souk Okaz」。en.wikipedia.org/wiki/Souk_Okaz

The Media Line「Ancient Souq Habasha Discovered in Mecca Region」（2023 年）。themedialine.org/mideast-daily-news/ancient-souq-habasha-discovered-in-mecca-region-of-saudi-arabia/

Wikipedia「Namara inscription」。en.wikipedia.org/wiki/Namara_inscription

Wikipedia「Zabad inscription」。en.wikipedia.org/wiki/Zabad_inscription

Wikipedia「Harran inscription」。en.wikipedia.org/wiki/Harran_inscription

国連サウジアラビア事務所「Ḥimā Cultural Area in Najran added to UNESCO's World Heritage List」（2021 年）。saudiarabia.un.org/en/137365-%E1%B8%A5im%C4%81-cultural-area-najran-added-unesco%E2%80%99s-world-heritage-list

このページは意図的に空白にしています

第三部

啓示が下ったとき

預言者伝（スィーラ）— 第 3 巻

クルアーンと真正なハディースに基づく、マッカにおける啓示の始まりと秘密の宣教

啓示が下ったとき

『預言者伝（スィーラ）』第 2 巻は、ヒラーの洞窟にひとりこもる 40 歳の男性で終わりました。民から**アル＝アミーン**と呼ばれた人です。この第 3 巻は、人類の歴史を変えた瞬間を語ります。**最初の啓示**、それに続く不安と安らぎ、啓示のしばしの途絶、**立ち上がって警告せよ**との命令、そしてウンマの最初の世代を生んだ**三年間の秘密の宣教**です。

これらの出来事は、**真正なハディース**、特に『サヒーフ・ブハーリー』の最初の章「啓示の始まり」に詳しく伝えられています。本書のクルアーンの節とハディースは、本当に関係のあるものだけを慎重に選び、スィーラ書の話は「スィーラの注」の枠に入れて、その信頼性を評価しています。

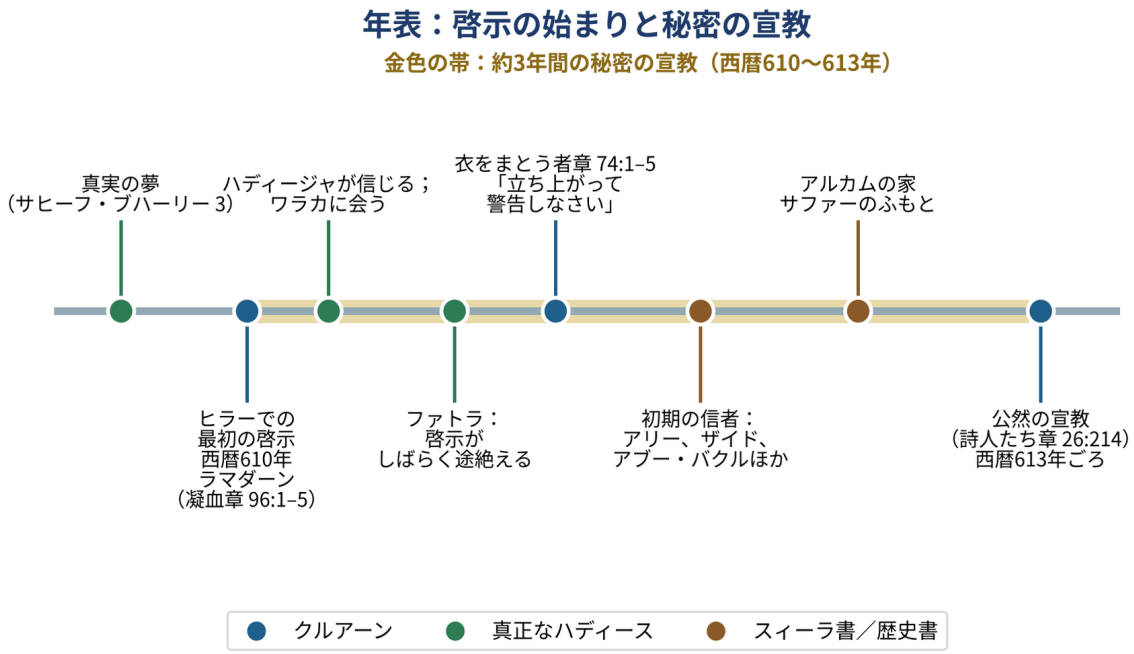


図 1：啓示の始まりと秘密の宣教の年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

40 歳を迎えるころ

スィーラ書によれば、最初の啓示はアッラーの使徒 ﷺ が **40 歳**のとき、**西暦 610 年**ごろに下りました。40 歳は完全に成熟する年齢です。クルアーン自体も、この年齢を人の力と分別が満ちるしるしとして挙げています（砂丘章 46:15）。

その 40 年間は大切なことを証明していました。民はかれを**正直で誠実、気高い人格の人**として知っていたのです（第 2 巻）。のちにかれが啓示を伝えたとき、民は自分たちの経験から、かれを嘘つきと責めることはできませんでした。

西暦 610 年の世界

啓示は、世界の文明の中心から遠く離れた乾いた谷に下りました。この出来事の大きさを理解するために、当時の世界の様子を見てみましょう。

勢力／地域	西暦 610 年ごろの状況
東ローマ帝国（ビザンツ）	ヘラクレイオスが 610 年に皇帝となる。帝国は内戦とペルシアの脅威に揺れていた。
ペルシア（サーサーン朝）帝国	ホスロー2 世の治下。シャームとエジプトのローマ領を攻撃していた。
アラビア半島	統一王国はなく、部族が競い合い、カアバの周りには偶像があふれていた。
マッカ	交易と巡礼の中心地。クライシュ族がカアバの守り手として力をもっていた。

出典：Wikipedia, “Heraclius”、Wikipedia, “Khosrow II”。

最初の啓示から 30 年もたたないうちに、ヒラーの洞窟で始まった使命は、この二つの帝国の宮廷にまで届くことになります。すべては一つの言葉から始まりました。

「**読め！**」

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

真実の夢

アーイシャ رضى الله عنها は、アッラーの使徒 ﷺ への啓示の始まりは、眠りの中の**真実の夢**（アッ＝ルウヤー・アッ＝サーリハ）であったと語っています。かれが見る夢はどれも、**夜明けの光のように**はっきりと正確に現実となりました（『サヒーフ・ブハーリー』3）。

これらの夢は**準備**でした。天使がはっきりと姿を現す前に、かれの魂は少しずつ見えない世界に慣らされていったのです。アッラーは準備もなく使徒を啓示で驚かせることはなさいませんでした。

> **スィーラの注：真実の夢の六か月**
> 一部の学者は、アル＝バイハキーが伝える伝承に基づき、この真実の夢の期間はヒラーの洞窟での最初の啓示の前の**六か月**であったと述べています。この伝承は**二大サヒーフには見られない**ため、確定事項ではなく学者の見解として紹介します。

信者の夢

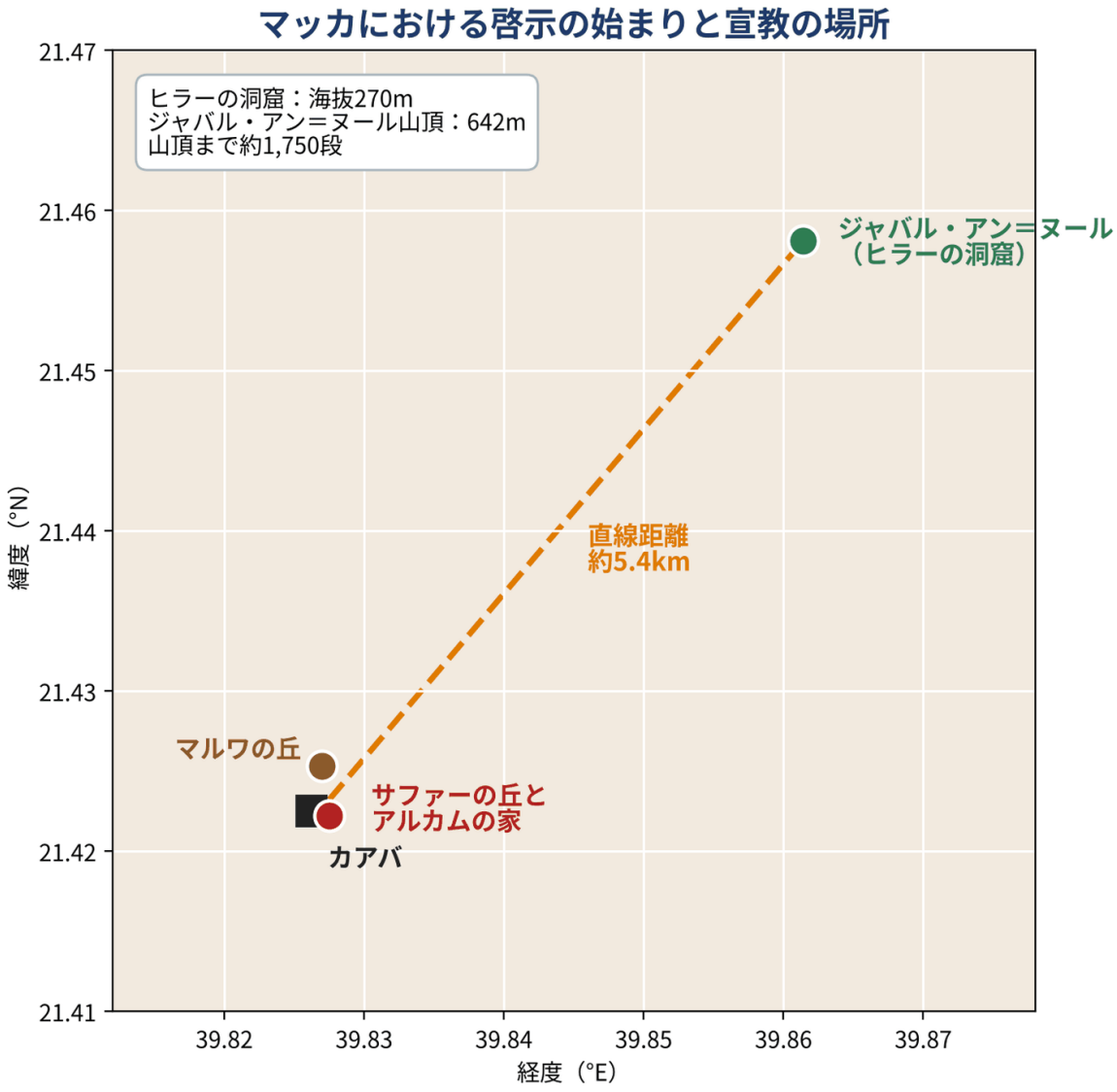
預言者たちの夢は啓示です。信者については、アッラーの使徒 ﷺ は、良い夢はアッラーから、悪い夢は悪魔から来ると教え、悪い夢からはアッラーに守りを求め、人に話さないよう命じられました（『サヒーフ・ブハーリー』6985）。

教訓：普通の人の夢は**法の根拠にはならず**、クルアーンとスンナに優先することはできません。真実の夢が啓示となるのは預言者たちだけです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

ヒラーの洞窟の夜々

同じハディースはこう述べています。それから、かれは**ひとりでいることを好むようになった**。かれはヒラーの洞窟にこもり、何夜かそこで**礼拝に励み**（タハンヌス）、食糧を携えては、ハディージャのもとに戻ってまた食糧を持って行かれた（『サヒーフ・ブハーリー』3）。



概略図。座標はおおよそ。出典：Wikipedia「Jabal al-Nour」「Al-Arqam ibn Abi al-Arqam」。

図 2：ヒラーの洞窟、カアバ、サファーの丘の位置（概略図）。

数字で見るジャバル・アン＝ヌール

事実	説明
山頂の高さ	海抜 642 メートル
ヒラーの洞窟の位置	海抜約 270 メートル、山の中腹
洞窟の大きさ	長さ約 3.7 メートル、幅約 1.6 メートル
カアバからの距離	約 5.4 キロメートル（直線距離）
登山	約 1,750 段の石段、1〜2 時間

出典：Wikipedia, “Jabal al-Nour”。距離は座標から計算。

石段のなかった時代に、何夜分もの水と食糧を携えてこの山を登る姿を想像してみてください。そして、夫を支え、その食糧を用意した**ハディージャ** رضى الله عنها の姿も。ヒラーの洞窟の静けさは、偶像とマッカの喧騒から遠く離れて、**考え、思いめぐらし、礼拝する**ための時間でした。

教訓：誰にでも**アッラーとともにひとりで過ごす時間**が必要です。自らを省み、礼拝するための時間です。スマートフォンの時代、私たちの「ヒラーの洞窟」は、礼拝の後や夜の最後の三分の一の、ほんの数分の静けさなのかもしれません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イクラ：最初の啓示

ラマダーン月のある夜、かれがヒラーの洞窟にいたとき、**真実**が訪れました。天使ジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ が現れて言いました。「読め！」これが最初に下されたクルアーンの節です。

凝血章 96:1–5

ٱقْرَأْ بِٱسْمِ رَبِّكَ ٱلَّذِى خَلَقَ ﴿١﴾

読め、『創造なされる御方、あなたの主の御名において。

خَلَقَ ٱلْإِنسَـٰنَ مِنْ عَلَقٍ ﴿٢﴾

—凝血から、人間を創られた。

ٱقْرَأْ وَرَبُّكَ ٱلْأَكْرَمُ ﴿٣﴾

読め、『あなたの主は、最高の尊貴であられ、

ٱلَّذِى عَلَّمَ بِٱلْقَلَمِ ﴿٤﴾

筆によって（書くことを）教えられた御方。

عَلَّمَ ٱلْإِنسَـٰنَ مَا لَمْ يَعْلَمْ ﴿٥﴾

人間に未知なることを教えられた御方である。

訳：三田了一 — quran.com/96:1-5

アーイシャ رضى الله عنها は、真実の夢からワラカとの出会いまで、その出来事のすべてを伝えています。本章の基礎となるハディースです。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ بُكَيْرٍ، قَالَ حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ عُقَيْلٍ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، عَنْ عُرْوَةَ بْنِ الزُّبَيْرِ، عَنْ عَائِشَةَ أُمِّ الْمُؤْمِنِينَ، أَنَّهَا قَالَتْ أَوَّلُ مَا بُدِئَ بِهِ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مِنَ الْوَحْيِ الرُّؤْيَا الصَّالِحَةُ فِي النَّوْمِ، فَكَانَ لاَ يَرَى رُؤْيَا إِلاَّ جَاءَتْ مِثْلَ فَلَقِ الصُّبْحِ، ثُمَّ حُبِّبَ إِلَيْهِ الْخَلاَءُ، وَكَانَ يَخْلُو بِغَارِ حِرَاءٍ فَيَتَحَنَّثُ فِيهِ ـ وَهُوَ التَّعَبُّدُ ـ اللَّيَالِيَ ذَوَاتِ الْعَدَدِ قَبْلَ أَنْ يَنْزِعَ إِلَى أَهْلِهِ، وَيَتَزَوَّدُ لِذَلِكَ، ثُمَّ يَرْجِعُ إِلَى خَدِيجَةَ، فَيَتَزَوَّدُ لِمِثْلِهَا، حَتَّى جَاءَهُ الْحَقُّ وَهُوَ فِي غَارِ حِرَاءٍ، فَجَاءَهُ الْمَلَكُ فَقَالَ اقْرَأْ. قَالَ «مَا أَنَا بِقَارِئٍ». قَالَ «فَأَخَذَنِي فَغَطَّنِي حَتَّى بَلَغَ مِنِّي الْجَهْدَ، ثُمَّ أَرْسَلَنِي فَقَالَ اقْرَأْ. قُلْتُ مَا أَنَا بِقَارِئٍ. فَأَخَذَنِي فَغَطَّنِي الثَّانِيَةَ حَتَّى بَلَغَ مِنِّي الْجَهْدَ، ثُمَّ أَرْسَلَنِي فَقَالَ اقْرَأْ. فَقُلْتُ مَا أَنَا بِقَارِئٍ. فَأَخَذَنِي فَغَطَّنِي الثَّالِثَةَ، ثُمَّ أَرْسَلَنِي فَقَالَ {اقْرَأْ بِاسْمِ رَبِّكَ الَّذِي خَلَقَ ، خَلَقَ الإِنْسَانَ مِنْ عَلَقٍ ، اقْرَأْ وَرَبُّكَ الأَكْرَمُ}». فَرَجَعَ بِهَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَرْجُفُ فُؤَادُهُ، فَدَخَلَ عَلَى خَدِيجَةَ بِنْتِ خُوَيْلِدٍ رضى الله عنها فَقَالَ «زَمِّلُونِي زَمِّلُونِي». فَزَمَّلُوهُ حَتَّى ذَهَبَ عَنْهُ الرَّوْعُ، فَقَالَ لِخَدِيجَةَ وَأَخْبَرَهَا الْخَبَرَ «لَقَدْ خَشِيتُ عَلَى نَفْسِي». فَقَالَتْ خَدِيجَةُ كَلاَّ وَاللَّهِ مَا يُخْزِيكَ اللَّهُ أَبَدًا، إِنَّكَ لَتَصِلُ الرَّحِمَ، وَتَحْمِلُ الْكَلَّ، وَتَكْسِبُ الْمَعْدُومَ، وَتَقْرِي الضَّيْفَ، وَتُعِينُ عَلَى نَوَائِبِ الْحَقِّ. فَانْطَلَقَتْ بِهِ خَدِيجَةُ حَتَّى أَتَتْ بِهِ وَرَقَةَ بْنَ نَوْفَلِ بْنِ أَسَدِ بْنِ عَبْدِ الْعُزَّى ابْنَ عَمِّ خَدِيجَةَ ـ وَكَانَ امْرَأً تَنَصَّرَ فِي الْجَاهِلِيَّةِ، وَكَانَ يَكْتُبُ الْكِتَابَ الْعِبْرَانِيَّ، فَيَكْتُبُ مِنَ الإِنْجِيلِ بِالْعِبْرَانِيَّةِ مَا شَاءَ اللَّهُ أَنْ يَكْتُبَ، وَكَانَ شَيْخًا كَبِيرًا قَدْ عَمِيَ ـ فَقَالَتْ لَهُ خَدِيجَةُ يَا ابْنَ عَمِّ اسْمَعْ مِنَ ابْنِ أَخِيكَ. فَقَالَ لَهُ وَرَقَةُ يَا ابْنَ أَخِي مَاذَا تَرَى فَأَخْبَرَهُ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم خَبَرَ مَا رَأَى. فَقَالَ لَهُ وَرَقَةُ هَذَا النَّامُوسُ الَّذِي نَزَّلَ اللَّهُ عَلَى مُوسَى صلى الله عليه وسلم يَا لَيْتَنِي فِيهَا جَذَعًا، لَيْتَنِي أَكُونُ حَيًّا إِذْ يُخْرِجُكَ قَوْمُكَ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم «أَوَمُخْرِجِيَّ هُمْ». قَالَ نَعَمْ، لَمْ

يَأْتِ رَجُلٌ قَطُّ بِمِثْلِ مَا جِئْتَ بِهِ إِلاَّ عُودِيَ، وَإِنْ يُدْرِكْنِي يَوْمُكَ أَنْصُرْكَ نَصْرًا مُؤَزَّرًا. ثُمَّ لَمْ يَنْشَبْ وَرَقَةُ أَنْ تُوُفِّيَ وَفَتَرَ الْوَحْيُ.

訳：

信者たちの母アーイシャ رضى الله عنها は言った。アッラーの使徒 ﷺ への啓示の始まりは、眠りの中の真実の夢であった。かれが見る夢はどれも、夜明けの光のようにはっきりと現実となった。それから、かれはひとりでいることを好むようになった。かれはヒラーの洞窟にこもり、家族のもとへ帰る前に何夜もそこで礼拝に励み、食糧を携えて行かれた。それからハディージャのもとへ戻り、また食糧を持って行かれた。やがて、かれがヒラーの洞窟にいたとき、真実が訪れた。天使が来て「読め！」と言った。かれは答えられた。**「わたしは読めません。」** かれは言われた。**「すると天使はわたしをつかみ、苦しくなるほど強く抱きしめ、それから放して『読め！』と言った。わたしは『わたしは読めません』と答えた。」**（これが三度繰り返された。）**「それから天使は言った。〈読め、「創造なされる御方、あなたの主の御名において。かれは、一凝血から人間を創られた。」読め、「あなたの主は、最高の尊貴であられ」〉。」** アッラーの使徒 ﷺ は、震える心でこれらの節を携えて帰り、ハディージャ・ビント・フワイリド رضى الله عنها のもとに入って言われた。**「わたしを覆ってくれ！わたしを覆ってくれ！」** 人々はかれを覆い、やがて恐れが去った。かれはハディージャに出来事を話し、言われた。**「わたしは自分の身が心配だ。」** ハディージャは言った。**「決してそんなことはありません！アッラーにかけて、アッラーがあなたを辱めることは決してありません。あなたは親族との絆を結び、弱い者の重荷を担い、持たざる者に与え、客をもてなし、災難に遭った人を助けておられます。」** それからハディージャは、かれを従兄のワラカ・ブン・ナウファルのもとへ連れて行った。彼はジャーヒリーヤ時代にキリスト教徒となり、ヘブライ語の書物を書き写し、年老いて目が見えなくなっていた。かれの話を聞くと、ワラカは言った。**「これこそ、アッラーがムーサーに下されたナームース（ジブリール）です。ああ、わたしが若ければ。あなたの民があなたを追い出すとき、わたしが生きていれば。」** かれは尋ねられた。**「彼らはわたしを追い出すのか。」** ワラカは答えた。**「そうです。あなたがもたらしたようなものをもたらした者で、敵視されなかっ**

た者は一人もいません。もしあなたのその日に巡り会えたなら、わたしは力の限りあなたを助けます。」まもなくワラカは亡くなり、啓示もしばらく途絶えた。

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ヤフヤー・ブン・ブカイル ← アッ＝ライス・ブン・サアド ← ウカイル・ブン・ハーリド ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』啓示の始まりの書、ハディース第 3 番。ムスリム（第 160 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:3

このハディースの教訓

このハディースは、啓示の始まりの物語の**最も重要な典拠**です。啓示は、かれが求めたものでも予期したものでもありませんでした。かれは**驚き、震え**、妻のもとに守りと安らぎを求めて帰られたのです。

このハディースはまた、かれがクルアーンを作ったという主張を退けます。作者が自分の作品を恐れることはなく、自分の体験について他人に尋ねることもないからです。

最初の五節の解説

最初の啓示は命令で始まります。「**読め、『創造なされる御方、あなたの主の御名において。』**」 イブン・カスィールは、これが**最初に下されたクルアーンの節**であり、アッラーがしもべたちに与えた**最初の慈悲**、最初の恵みであると説明しています。イブン・カスィール注釈 96:1。

この節の「読む」はどんな読み方でもよいわけではありません。それは「**あなたの主の御名において**」――創造主を知ることから始まり、かれに結びつけられた知識なのです。

第 4 節は、アッラーを「**筆によって（書くことを）教えられた御方**」と述べます。イブン・カスィールによれば、この節は**知識の尊さ**を示しています。知識によってアッラーはアーダム عَلَيْهِ السَّلَامُ を天使たちより尊くされ、筆によって知識は守られ受け継がれるのです。イブン・カスィール注釈 96:4。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

五つの節、五つのテーマ

節	テーマ
96:1 — あなたの主の御名において読め	知識はアッラーを知ることから始まる
96:2 — 一凝血（アラク）からの人間	人間のつつましい起源は謙虚さへと招く
96:3 — 最高の尊貴であるあなたの主	知識は授かりものであり、人間の所有物ではない
96:4 — 筆によって教える	書くことと知識を守ることの大切さ
96:5 — 知らなかったこと	人間の知識はアッラーの許しによって増え続ける

アラクに関する第 2 節――三田訳では「一凝血」、すなわち付着した初期の胎児の段階――は、quranscience.my のイウジャーズ・イルミー・シリーズで科学の観点から解説しています。スィーラの文脈では、アッラーがこのウンマに初めて語りかけた瞬間に、人間にその起源を思い起こさせるものです。

教訓：この宗教は**知識**から始まりました。最初の啓示が「読め！」であったウンマは、本来、知識と読書と書くことを最も愛するウンマであるべきです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「わたしは読めません」

ジブリールが「読め！」と言ったとき、かれは答えられました。「**わたしは読めません**」（マー・アナ・ビカーリ）。この答えは真実でした。アッラーの使徒 ﷺ は**ウンミー**、すなわち読み書きをしない人だったのです。クルアーンはかれを「**文字を知らない預言者**」と呼んでいます（高壁章 7:157）。

ジブリールは、節を読み聞かせる前に、かれを**三度**強く抱きしめました。学者たちは、この抱擁によって、これが夢ではなく**現実**であることをかれに悟らせ、非常に重いものを受けとめる準備をさせたのだと説明しています。

文字を知らない預言者の英知

クルアーンはその英知を説明しています。クルアーン以前、かれは**いかなる書物も読まず、自らの手で書くこともなかった**。もしそうでなければ、真理を退けたい者たちは疑ったであろう（蜘蛛章 29:48）。読み書きをしない人が、ユダヤ教徒やキリスト教徒の書物から過去の預言者たちの物語を写し取ることはできません。

観点	説明
預言者であることの証拠	比類なきクルアーンが、読み書きをしない人からもたらされた。
非難を退ける	かれが過去の書物から写すことはありえなかった（29:48）。
無学の奨励ではない	ウンミーはかれだけの特別な性質であり、ウンマは読むことを命じられている。
啓示の書記	のちにかれは教友たちを啓示の書記に任じられた。

教訓：アッラーの使徒 ﷺ の尊さは**肩書きや資格によるものではありません**。かれの知識はアッラーから直接与えられたのです。しかし私たちにとって、「読め！」という命令は、すべてのムスリムの肩にかかっています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハディージャ：最初に心を静めた人

かれは**震える心**で帰り、ハディージャ رضي الله عنها に言われました。「わたしを覆ってくれ！わたしを覆ってくれ！」恐れが去ると、かれは出来事を話して言われました。**「わたしは自分の身が心配だ。」**

ハディージャの答えは、歴史上最も美しい言葉の一つです。**「決してそんなことはありません！アッラーにかけて、アッラーがあなたを辱めることは決してありません。」** それから彼女は、証拠として夫の**五つの美徳**を挙げました（『サヒーフ・ブハーリー』3）。

ハディージャが挙げた五つの美徳

徳目	意味と今日の実践
親族との絆を結ぶ	たとえ相手が断ち切っても、親族との関係を保つ。
弱い者の重荷を担う	孤児や老人、身寄りのない人の負担を引き受ける。
持たざる者に与える	貧しい人が必要なものや仕事を得られるよう助ける。
客をもてなす	客を心のこもったもてなしで迎える。
災難に遭った人を助ける	災害や本当に困っている人を助ける。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ハディージャの論理

ハディージャは感情だけで語ったのではありません。彼女は**アッラーの慣行（スンナトゥッラー）**に基づいて語ったのです。人々に善を行う者を、アッラーが辱めることはない。かれとともに過ごした 15 年間が、その十分な証拠でした。

そして彼女は慰めるだけでは終わりませんでした。彼女は**行動した**のです。夫を、過去の啓典に通じた人、ワラカ・ブン・ナウファルのもとへ連れて行きました。

教訓：良き伴侶は、嵐のときの**避難所**です。心を静める言葉、相手の善行を思い起こさせること、そして解決を求める努力――これはすべての夫と妻が見習うべきハディージャのスンナです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ワラカ・ブン・ナウファル

スィーラの注：ワラカとは誰か

ウィキペディアによれば、**ワラカ・ブン・ナウファル・ブン・アサド・ブン・アブドゥル・ウッザー**は、**アサド家**の出身で、ハディージャの父方の**従兄**です。彼は、ジャーヒリーヤ時代に偶像崇拝を捨てて**キリスト教徒となった**数少ないマッカの人の一人でした。

真正なハディースは、彼が**ヘブライ語の書物を書き写し**、福音書から写していたこと、そして当時すでに**年老いて目が見えなかった**ことを伝えています。彼はその出会いから**まもなく**亡くなりました。

参照：

ウィキペディア「ワラカ・ブン・ナウファル」。en.wikipedia.org/wiki/Waraqah_ibn_Nawfal

ワラカが語った三つのこと

ワラカの言葉	意味
「これこそ、アッラーがムーサーに下されたナームースです。」	来た天使はジブリール、預言者たちに啓示をもたらす者である。
「あなたの民があなたを追い出すとき、わたしが生きていれば。」	この宣教が反対に遭い、かれが追い出されるという予言。
「あなたがもたらしたようなものをもたらした者で、敵視されなかった者はいません。」	アッラーの慣行：すべての使徒は反対によって試される。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

かれは驚いて尋ねられました。「**彼らはわたしを追い出すのか。**」 かれをアル＝アミーンと呼んだ民が自分を敵視するとは、想像もできなかったのです。しかしワラカの予言は現実となりました。13 年後、かれはマディーナへ移住されたのです。

学者たちは、ワラカが信仰した教友に数えられるかどうかについて意見が分かれています。確かなのは、彼がかれを**真実と認め**、助けると決意したことです。過去の啓典を知る人のこの証言は、その重大な瞬間に、ハディージャとかれにとって大きな支えとなりました。

教訓：大きな出来事に直面したときは、**知識のある人に相談しましょう**。ハディージャは自分だけで結論を出さず、夫を学識ある人のもとへ連れて行ったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

啓示はどのように下ったか

最初の啓示の後、教友たちはのちに知りたがりました。啓示は実際にどのように下るのか。教友のアル＝ハーリス・ブン・ヒシャーム رضى الله عنه がアッラーの使徒 ﷺ に直接尋ね、その答えをアーイシャ رضى الله عنها が伝えています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 2 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، قَالَ أَخْبَرَنَا مَالِكٌ، عَنْ هِشَامِ بْنِ عُرْوَةَ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ أُمِّ الْمُؤْمِنِينَ ـ رضى الله عنها ـ أَنَّ الْحَارِثَ بْنَ هِشَامٍ ـ رضى الله عنه ـ سَأَلَ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ يَا رَسُولَ اللَّهِ كَيْفَ يَأْتِيكَ الْوَحْىُ فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم «أَحْيَانًا يَأْتِينِي مِثْلَ صَلْصَلَةِ الْجَرَسِ ـ وَهُوَ أَشَدُّهُ عَلَىَّ ـ فَيُفْصَمُ عَنِّي وَقَدْ وَعَيْتُ عَنْهُ مَا قَالَ، وَأَحْيَانًا يَتَمَثَّلُ لِيَ الْمَلَكُ رَجُلاً فَيُكَلِّمُنِي فَأَعِي مَا يَقُولُ». قَالَتْ عَائِشَةُ رضى الله عنها وَلَقَدْ رَأَيْتُهُ يَنْزِلُ عَلَيْهِ الْوَحْىُ فِي الْيَوْمِ الشَّدِيدِ الْبَرْدِ، فَيَفْصِمُ عَنْهُ وَإِنَّ جَبِينَهُ لَيَتَفَصَّدُ عَرَقًا.

訳：

信者たちの母アーイシャ رضى الله عنها によれば、アル＝ハーリス・ブン・ヒシャーム رضى الله عنه がアッラーの使徒 ﷺ に尋ねた。「アッラーの使徒よ、啓示はどのようにあなたのもとに来るのですか。」アッラーの使徒 ﷺ は答えられた。**「ときには鈴の音のようにやって来る――それがわたしにとって最もつらい――そしてそれがやむと、わたしは語られたことを理解している。ときには天使が男の姿でわたしの前に現れて語りかけ、わたしはその言葉を理解する。」** アーイシャ رضى الله عنها は言った。「わたしは、ひどく寒い日にかれに啓示が下るのを見ました。それがやむと、かれの額からは汗が流れていました。」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブドッラー・ブン・ユースフ ← マーリク・ブン・アナス ← ヒシャーム・ブン・ウルワ ← その父 ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضى الله عنها。

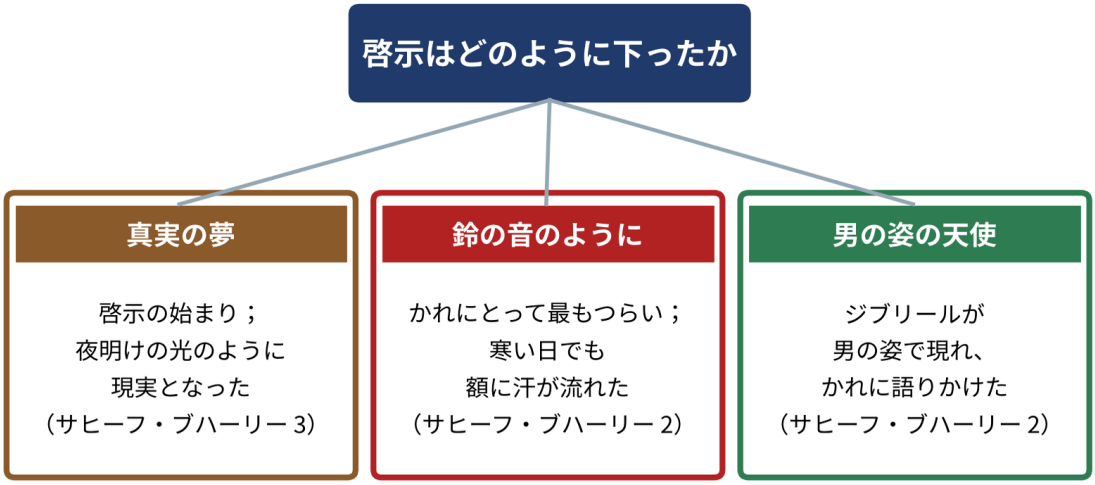
出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』啓示の始まりの書、ハディース第 2 番。ムスリム（第 2333 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:2

このハディースの教訓

このハディースは、啓示が軽いひらめきや空想ではなく、**重い体験**であったことを示しています。ひどく寒い日でさえ、かれの額には汗が流れました。アッラーご自身も、かれに「**重大な御言葉**」を下すと述べておられます（衣を纏う者章 73:5）。



学者はこのほか、心への霊感や、夜の旅と昇天の夜のアッラーの直接の御言葉なども挙げている。

図 3：真正なハディースによる、アッラーの使徒 ﷺ への啓示の下り方。

二つ目のかたち――天使が男の姿で現れること――は、教友たち自身も目にしました。有名な**ジブリールのハディース**では、真っ白な衣をまとった男が来て、イスラーム、イーマーン、イフサーンについて尋ねています（『サヒーフ・ムスリム』8）。

教訓：今日私たちが気軽に読むクルアーンを、アッラーの使徒 ﷺ は**大変な苦労**をして受け取られました。それを大切にするとは、読み、理解し、実践することです。

少しずつ下されたクルアーン

クルアーンは一度に下されたのではありません。出来事や必要に応じて、約 **23 年**をかけて**少しずつ**下されました。アッラーはその英知を説明しておられます。

アッラーはクルアーンについて仰せられます。「**われはこれを段階的に下した**」――かれが人々に落ち着いて読み聞かせるためです。イブン・カスィールは、クルアーンが約 23 年にわたり**出来事に応じて**段階的に下されたと説明しています。イブン・カスィール注釈 17:106。

段階的な啓示の英知

英知	説明
かれの心を強める	試練のたびに新しい節が下り、力を与えた（識別章 25:32）。
覚えやすく理解しやすい	教友たちは少しずつ暗記し、実践した。
段階的な変化	飲酒の禁止のような規定は段階を追って下された。
出来事に答える	節が下り、質問に答え、その時々の問題を解決した。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

段階的な啓示もまた**奇跡**です。23 年間、平時にも戦時にも、喜びのときにも悲しみのときにも、さまざまな状況で下った節が、**矛盾のない**一冊の書にまとまっているのです（婦人章 4:82）。

スィーラの注：みいつの夜と最初の啓示

クルアーンは、それが**ラマダーン月**に（雌牛章 2:185）、**みいつの夜（ライラトゥル・カドル）**に（みいつ章 97:1）下されたと述べています。イブン・カスィールは、クルアーンはみいつの夜に一度に下界の天へ下され、その後アッラーの使徒 ﷺ へ段階的に下されたというイブン・アッバースの見解を引いています。

そのため、多くの学者はヒラーの洞窟での最初の啓示がラマダーン月に下ったと考えています。**正確な日付には諸説あり**、ラマダーン 17 日とする説、21 日または 24 日とする説があります。

参照：

イブン・カスィール注釈 97:1 tafsir.app/ibn-katheer/97/1

ファトラ：啓示が途絶えたとき

アーイシャのハディースは短い言葉で結ばれています。**「まもなくワラカは亡くなり、啓示もしばらく途絶えた」**（『サヒーフ・ブハーリー』3）。この期間は**ファトラトゥル・ワフイ（啓示の途絶）**として知られています。

スィーラの注：ファトラはどれほど続いたか

真正なハディースはファトラの**期間を述べていません**。学者の意見は分かれ、数日とする者、数か月とする者がおり、一部のスィーラの伝承は**2〜3年**とまで述べています。イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニーは『ファトフ・アル＝バーリー』で**より短い**期間を支持しています。

三年説は、しばしば**秘密の宣教**の期間と混同されます。イブン・イスハークによれば、公然と宣教するよう命じられるまでに三年が過ぎましたが、その間にも啓示はすでに次々と下っていました。

参照：

ウィキペディア「ムハンマドの最初の啓示」。en.wikipedia.org/wiki/Muhammad%27s_first_revelation

ファトラの英知

学者たちは、ファトラによって、かれは最初の体験の**畏れから回復する**時間を得て、啓示への**思慕**が育まれたと説明しています。啓示が再び訪れたとき、かれはより準備の整った心でそれを迎えられました。

多くの人が**朝章（アッ＝ドゥハー）**（「あなたの主は、あなたを見捨てられず、憎まれた訳でもない」）をこのファトラと結びつけます。しかし真正な伝承によれば、朝章は**別の中断**の後に下りました。かれが病で二、三夜、夜の礼拝に起きられなかったとき、一人の多神教徒の女性がかれをあざけったのです（『サヒーフ・ブハーリー』4950）。

教訓：信者の人生には、**アッラーが沈黙しておられるように思える**時期があります。それは見捨てられたしるしではなく、より大きな務めへの準備なのです。

衣をまとう者章：立ち上がれとの命令

ファトラは、アッラーの使徒 ﷺ ご自身が語られた出来事によって終わりました。かれはヒラーに来た天使を再び見たのです。今度は**天と地の間の玉座に座っていました。**

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4 番

قَالَ ابْنُ شِهَابٍ وَأَخْبَرَنِي أَبُو سَلَمَةَ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، أَنَّ جَابِرَ بْنَ عَبْدِ اللَّهِ الأَنْصَارِيَّ، قَالَ ـ وَهُوَ يُحَدِّثُ عَنْ فَتْرَةِ الْوَحْيِ، فَقَالَ ـ فِي حَدِيثِهِ «بَيْنَا أَنَا أَمْشِي، إِذْ سَمِعْتُ صَوْتًا، مِنَ السَّمَاءِ، فَرَفَعْتُ بَصَرِي فَإِذَا الْمَلَكُ الَّذِي جَاءَنِي بِحِرَاءٍ جَالِسٌ عَلَى كُرْسِيٍّ بَيْنَ السَّمَاءِ وَالأَرْضِ، فَرُعِبْتُ مِنْهُ، فَرَجَعْتُ فَقُلْتُ زَمِّلُونِي. فَأَنْزَلَ اللَّهُ تَعَالَى {يَا أَيُّهَا الْمُدَّثِّرُ ، قُمْ فَأَنْذِرْ} إِلَى قَوْلِهِ {وَالرُّجْزَ فَاهْجُرْ} فَحَمِيَ الْوَحْيُ وَتَتَابَعَ». تَابَعَهُ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ وَأَبُو صَالِحٍ. وَتَابَعَهُ هِلاَلُ بْنُ رَدَّادٍ عَنِ الزُّهْرِيِّ. وَقَالَ يُونُسُ وَمَعْمَرٌ «بَوَادِرُهُ».

訳：

ジャービル・ブン・アブディッラー・アル＝アンサーリー رضي الله عنهما は、啓示の途絶（ファトラ）について語ったとき、アッラーの使徒 ﷺ がこう言われたと伝えた。「**わたしが歩いていると、突然、天から声が聞こえた。目を上げると、ヒラーでわたしのもとに来た天使が、天と地の間の玉座に座っていた。わたしはその姿に畏れを覚え、家に帰って『わたしを覆ってくれ！』と言った。するとアッラーは〈衣をまとう者よ、立ち上がって警告しなさい〉から〈不浄を避けなさい〉までを下された。その後、啓示は頻繁に、次々と下った。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーが前のハディース（第 3 番）と同じ経路でイブン・シハーブ・アッ＝ズフリーまで伝え、さらに アブー・サラマ・ブン・アブドッラフマーン ← ジャービル・ブン・アブディッラー・アル＝アンサーリー رضي الله عنهما。アブドッラー・ブン・ユースフ、アブー・サーリフ、ヒラール・ブン・ラッダードの伝承も（ムターバアとして）これを補強している。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』啓示の始まりの書、ハディース第 4 番。ムスリム（第 161 番）も伝えている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:4

そのとき下った節は、衣をまとう者章の冒頭です。

衣をまとう者章 74:1–5

يَٰٓأَيُّهَا ٱلْمُدَّثِّرُ ١

（大衣に）包る者よ、

قُمْ فَأَنذِرْ ٢

立ち上って警告しなさい。

وَرَبَّكَ فَكَبِّرْ ٣

あなたの主を讃えなさい。

وَثِيَابَكَ فَطَهِّرْ ٤

またあなたの衣を清潔に保ちなさい。

وَٱلرُّجْزَ فَٱهْجُرْ ٥

不浄を避けなさい。

訳：三田了一 — quran.com/74:1-5

このハディースの教訓

イクラ（読め）がムハンマド ﷺ を**預言者**としたのなら、**「立ち上がって警告しなさい」**はかれを、伝える任務を負った**使徒**としました。学者たちは言います。かれは「イクラ」によって預言者となり、「衣をまとう者」によって使徒となったのだと。

「衣をまとう者よ」という呼びかけは、愛情のこもった呼びかけです。アッラーは、そのときのかれの姿のままにかれを呼ばれたのです。そしてこれらの節の後、啓示は**頻繁に、次々と下り**、もう長い中断はありませんでした。

宣教者への最初の五つの命令

使徒としてかれに与えられた最初の命令は、「**立ち上がって警告しなさい**」でした。イブン・カスィールはその意味を、決意をもって備え、人々に警告せよと説明しています。イブン・カスィール注釈 74:2。

衣をまとう者章の最初の五節は、**宣教者のための短いカリキュラム**です。どの節にも一つの命令があり、どの命令も今日に通じます。

節と命令	私たちにとっての意味
74:2 — 立ち上がって警告せよ	宣教は責任であり、居心地のよい場所から出ることである。
74:3 — あなたの主を讃えよ	アッラーはあらゆる困難や脅威よりも偉大である。
74:4 — 衣を清めよ	外面と内面の清潔。学者は行いを清めることとも解釈している。
74:5 — 不浄（ルジュズ）を避けよ	イブン・カスィール：偶像と罪を捨てよ。
74:6–7 — 見返りを求めず、耐え忍べ	与えるときは誠実に、反対には忍耐をもって。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

意味のある順序

その順序に注目してください。**立ち上がる**（行動）、**アッラーを讃える**（信仰）、**自らを清める**（個人）、**罪を避ける**（倫理）、そして**耐え忍ぶ**（強さ）。宣教は、他人を招く前に自分自身を築く宣教者から始まるのです。

最後の節――「**あなたの主のために、耐え忍びなさい**」――は早くからの警告です。ワラカは反対を予言していました。今やアッラーご自身が、それに忍耐をもって立ち向かうようかれを備えさせておられるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ハディージャ：最初に信じた人

スィーラの注：最初の女性、最初の人

スィーラ書は、**ハディージャ・ビント・フワイリド**が、**最初に信じた人**、すなわち男性や女性の誰よりも先にアッラーの使徒 ﷺ を信じた人であることで一致しています。彼女はヒラーの洞窟での最初の夜から、かれを真実と認めました。

彼女は自らの財産を宣教のために費やし、最初の啓示から約 **10 年**にわたり、619 年ごろに亡くなるまで、家庭でのかれの最も強い支えとなりました。

参照：

ウィキペディア「Khadija bint Khuwaylid」en.wikipedia.org/wiki/Khadija_bint_Khuwaylid

ハディージャの地位は天によって認められました。ジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ は来て、アッラーの使徒 ﷺ に、彼女へ**アッラーからの平安のあいさつ**を伝え、**楽園の家**の吉報を告げるよう求めました（『サヒーフ・ブハーリー』3820）。

なぜハディージャはすぐに信じたのか

理由	説明
夫を知っていた	15 年間ともに暮らし、一度も嘘を見たことがなかった。
英知	感情ではなく、理性と経験で判断した。
清らかな本性	ジャーヒリーヤ時代から「アッ＝ターヒラ（清らかな女性）」として知られていた。
ワラカの証言	過去の啓典を知る人による確認。

教訓：**イスラームの最初の女性は、イスラームの最初の人です。**イスラームは賢明な一人の妻の信仰から始まりました。これは、決して忘れてはならない女性への敬意です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アリーとザイド：かれの家から

スィーラの注：かれの家の二人

スィーラ書によれば、ハディージャの次に信じたのは、かれの家で育った従弟の**アリー・ブン・アビー・ターリブ**でした（第 2 巻）。当時のアリーの年齢は **10 歳ほど**とされますが、資料によって異なります。

次に**ザイド・ブン・ハーリサ**。解放されてかれの養子となった元奴隷で、かつて家族のもとへ帰るよりかれのもとにとどまることを選んだ人です（第 2 巻）。

参照：

ウィキペディア「アリー」。en.wikipedia.org/wiki/Ali

ウィキペディア「Zayd ibn Haritha al-Kalbi」en.wikipedia.org/wiki/Zayd_ibn_Haritha_al-Kalbi

最も身近な証人

最初に信じた人たちに注目してください。**妻、従弟、そして養子**――かれと同じ屋根の下で暮らした人々です。彼らは昼も夜も、喜ぶときも怒るときも、人前でもひとりのときも、かれを見ていました。

詐欺師は大勢の人をだませるかもしれませんが、**自分の家族をだますのは難しい**ものです。この最も身近な人々の信仰こそ、かれの真実を示す最も強い証拠の一つなのです。

教訓：最も効果的な宣教は**家庭**から始まります。社会に呼びかける前に、家での私たちの人格が、自分の言葉を裏づける証人となっているか確かめましょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

アブー・バクル・アッ＝スィッディーク

スィーラの注：若いころからの友

スィーラ書によれば、**タイム家**の**アブー・バクル・アブドッラー・ブン・ウスマーン**は、預言者となる前からのアッラーの使徒 ﷺ の親友でした。彼は**尊敬される商人**で、穏やかな人柄をもち、アラブ部族の系譜に通じていました。

彼は、信仰した**最初の自由な成人男性**です。スィーラ書は、彼が誘われるやいなや**ためらうことなく**イスラームを受け入れたと伝えています。

参照：

ウィキペディア「アブー・バクル」。en.wikipedia.org/wiki/Abu_Bakr

真正なハディースはこの地位を裏づけています。アッラーの使徒 ﷺ は言われました。**「アッラーがわたしをあなたがたのもとに遣わしたとき、あなたがたは『おまえは嘘をついている』と言った。しかしアブー・バクルは『かれは真実を語っている』と言い、自らの身と財産でわたしを支えてくれた」**（『サヒーフ・ブハーリー』3661）。

動く信仰

アブー・バクルの信仰は自分だけにとどまりませんでした。彼は、長年の商売で築いた信頼と良い関係を生かし、すぐに**友人たちを誘いました**。その結果、イスラームの偉大な人物の何人かが彼を通じてイスラームに入りました。次の章で見るとおりです。

彼はまた、信仰のために拷問を受けた**奴隷たちを解放する**ために財産を使いました。ビラール・ブン・ラバーフもその一人です。**アッ＝スィッディーク**（真実を固く信じる者）という呼び名は、のちに夜の旅と昇天の出来事をすぐに真実と認めたことで知られるようになりました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

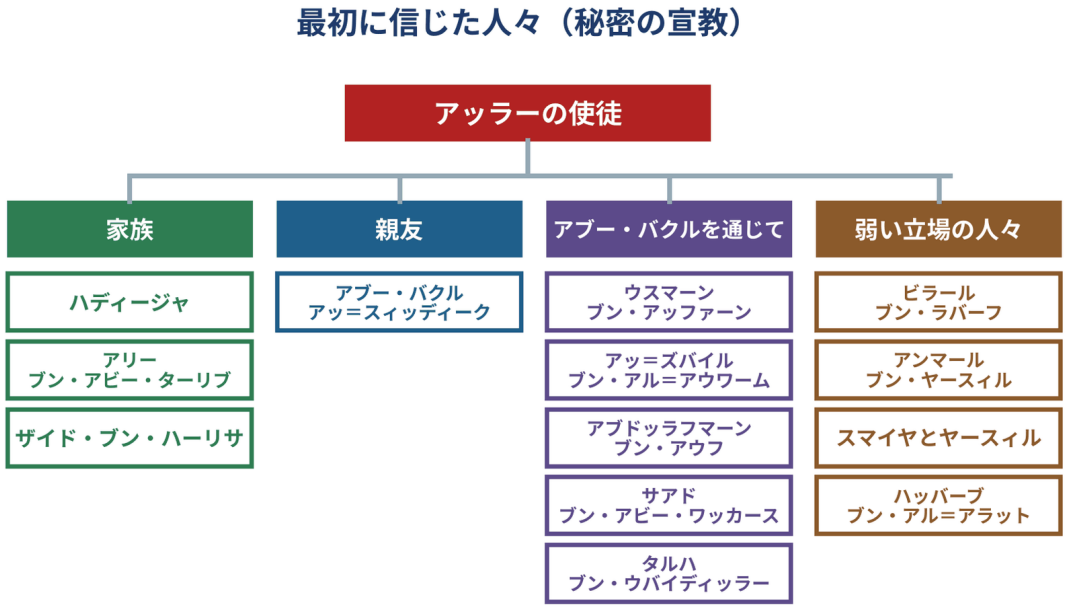
教訓：**良い友は宣教の財産です**。人とのつながり、信頼、財産は、他の人々を善へと導く架け橋となりえます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・バクルを通じて来た人々

イブン・イスハークによれば、何人かのクライシュの若者がアブー・バクル رضى الله عنه の誘いでイスラームに入りました。彼らはのちにイスラーム史上**最も偉大な人物**に数えられます。

名前	説明
ウスマーン・ブン・アッファーン	ウマイヤ家の出身。のちの第 3 代カリフ。
アッ＝ズバイル・ブン・アル＝アウワーム	アッラーの使徒 ﷺ のいとこ（おばサフィーヤの子）。
アブドゥッラフマーン・ブン・アウフ	ズフラ家の出身。のちに非常に気前のよい商人となる。
サアド・ブン・アビー・ワッカース	ズフラ家の出身。のちのイラク征服の指揮官。
タルハ・ブン・ウバイディッラー	アブー・バクルと同じタイム家の出身。



並びはスィーラ書（イブン・イスハーク）による。実際の順序には諸説ある。『サヒーフ・ブハーリー』3857（アンマールのハディース）も参照。

図 4：秘密の宣教の時期に最初に信じた人々。

この五人は、アブー・バクルとアリーとともに、**楽園を約束された十人の教友**に含まれます。その十人のうち七人が、秘密の宣教の時期にイスラームに入ったのです。

サアド・ブン・アビー・ワッカース رضى الله عنه 自身が、当時のムスリムがいかに少なかったかを語っています。**「わたしがイスラームに入った日まで、誰もイスラームに入らなかった。そしてわたしは七日間、イスラームの三分の一であった」**（『サヒーフ・ブハーリー』3727）。

学者たちは、サアドは当時の**自分の知る範囲で**語ったのだと説明しています。宣教はまだ秘密で、多くの人が入信を隠していたからです。

教訓：彼らは**若者**でした。初期の信者の多くは十代から三十代でした。若者はあらゆる大きな変革の主な力なのです。

「五人の奴隷、二人の女性、そしてアブー・バクル」

最初の日々のムスリムの姿はどのようなものだったのでしょうか。初期の信者の一人、アンマール・ブン・ヤースィル رضى الله عنهما は、短いけれどもとても鮮明な姿を伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3857 番

حَدَّثَنِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ حَمَّادٍ الآمُلِيُّ، قَالَ حَدَّثَنِي يَحْيَى بْنُ مَعِينٍ، حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ بْنُ مُجَالِدٍ، عَنْ بَيَانٍ، عَنْ وَبَرَةَ، عَنْ هَمَّامِ بْنِ الْحَارِثِ، قَالَ قَالَ عَمَّارُ بْنُ يَاسِرٍ رَأَيْتُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَمَا مَعَهُ إِلاَّ خَمْسَةُ أَعْبُدٍ وَامْرَأَتَانِ، وَأَبُو بَكْرٍ.

訳：

ハンマーム・ブン・アル＝ハーリスは言った。アンマール・ブン・ヤースィル رضى الله عنهما は言った。「**わたしはアッラーの使徒 ﷺ を見た。かれとともにいたのは、五人の奴隷と二人の女性、そしてアブー・バクルだけであった。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブドッラー・ブン・ハンマード・アル＝アームリー ← ヤフヤー・ブン・マイーン ← イスマーイール・ブン・ムジャーリド ← バヤーン・ブン・ビシュル ← ワバラ・ブン・アブドッラフマーン ← ハンマーム・ブン・アル＝ハーリス ← アンマール・ブン・ヤースィル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、アブー・バクル・アッ＝スィッディーク رضى الله عنه の入信の章、ハディース第 3857 番。ブハーリー（第 3660 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:3857

このハディースの教訓

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニーは『ファトフ・アル＝バーリー』で、彼らの名前として次の可能性を挙げています。五人の奴隷は**ビラール、ザイド・ブン・ハーリサ、アーミル・ブン・フハイラ、アブー・フカイハ**ともう一人、二人の

女性は**ハディージャ**と**ウンム・アイマン**または**スマイヤ**。アリーは子どもだったので数えられていません。

このハディースは、始まりのころのイスラームの本当の姿を示しています。それは**貴族の宗教ではありませんでした**。奴隷、女性、そして少数の自由人に受け入れられたのです——血筋を何より重んじるマッカの部族社会では、かつてなかった組み合わせでした。

新しい尊さの尺度

その小さな集まりでは、アビシニア出身の奴隷がクライシュの商人と同じ高さに座りました。これは、のちにクルアーンがはっきり示す教えの種でした。**アッラーの御許で最も尊い者は、最も敬虔な者である**（部屋章 49:13）。

教訓：真理を**その従う者の数や地位**で判断してはなりません。イスラームは七、八人の弱い人々から始まりましたが、その真理は少しも損なわれませんでした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

弱くとも信仰の強い人々

奴隷や部族の保護をもたない人々は、入信が知られると最も重い試練を受けました。彼らの物語は第 4 巻で詳しく語ります。ここでは簡単に紹介します。

スィーラの注：ビラール・ブン・ラバーフ

スィーラ書によれば、ビラールは**ウマイヤ・ブン・ハラフ**が所有する**アビシニア系の奴隷**でした。入信が知られると、彼はマッカの炎天下で胸に大きな石を載せられて拷問されましたが、**「アハド、アハド」**（唯一なるアッラー）と繰り返し続けました。のちにアブー・バクルが彼を買い取り、解放しました。

参照：

ウィキペディア「ビラール・ブン・ラバーフ」。en.wikipedia.org/wiki/Bilal_ibn_Rabah

スィーラの注：ヤースィルの家族

ウィキペディアによれば、**スマイヤ**は**ヤースィル・ブン・アーミル**の妻で、**アンマール**の母でした。彼女はイエメンのマズヒジ族の出身です。**西暦 615 年**ごろ、60 歳前後で、彼女は**アブー・ジャフル**に槍で殺され、**イスラーム最初の殉教者**となりました。夫ヤースィルも信仰のために殺されました。

参照：

ウィキペディア「スマイヤ」。en.wikipedia.org/wiki/Sumayya

ウィキペディア「ヤースィル・ブン・アーミル」。en.wikipedia.org/wiki/Yasir_ibn_Amir

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハッバーブと忍耐の教え

ハッバーブ・ブン・アル＝アラット رضي الله عنه は鍛冶屋でした。彼は、カアバの陰で布を枕に横たわっておられたアッラーの使徒 ﷺ のもとに来て訴えました。「私たちのために助けを祈ってくださらないのですか。」かれは、彼ら以前の信者たちはもっとひどい拷問を受けても揺るがなかったこと、そしてアッラーは必ずこの宗教を完成されることを思い起こさせ、こう言われました。**「しかし、あなたがたは急いでいる」**（『サヒーフ・ブハーリー』3612）。

教訓：信仰は強い者や裕福な者だけのものではありません。社会で最も弱いとされた人々こそ**最も強い信仰**をもっていたのであり、その名は審判の日まで讃えられるのです。

アルカムの家：最初の学び舎

スィーラの注：サファーの丘のふもとの家

ウィキペディアによれば、**マフズーム家**の**アル＝アルカム・ブン・アビー・アル＝アルカム**（西暦 597〜675 年ごろ）は、まだ**十代**のころにイスラームに入った最初期の人々の一人でした。その家はカアバの近く、**サファーの丘の東側**にありました。

この家は**集会所**となり、アッラーの使徒 ﷺ が教友たちとひそかに学び礼拝する場となりました。のちに**ハムザ**と**ウマル**が入信を表明したのもこの家です。この家はのちに**ダール・アル＝ハイズラーン**として知られるようになりました。

参照：

ウィキペディア「アル＝アルカム」。en.wikipedia.org/wiki/Al-Arqam

なぜこの家が選ばれたのか

要因	説明
持ち主が若かった	アルカムはまだ十代で、クライシュは彼の家が宣教の拠点だとは思わなかった。
マフズーム家	マフズームは主な敵対者アブー・ジャフルの氏族であり、最も疑われにくい場所だった。
戦略的な位置	カアバとサファーの道に近く、目立たずに訪れることができた。
安全	家での集まりは、マッカの路地よりも安全だった。

これらの理由の一部は伝承ではなく、**現代のスィーラ学者の分析**です。しかし、計画におけるアッラーの使徒 ﷺ の英知を理解する助けになります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イスラーム最初の学び舎

アルカムの家で、教友たちは下ったばかりの**クルアーンを学び**、かれの教えを聞き、互いに**兄弟愛**を育みました。それはイスラーム史上最初の**学び舎であり、育成の場**でした。

教訓：善を広めるあらゆる運動には、**集まり、学び、自らを育てる場所**が必要です。今日のモスク、礼拝所、学習会は、アルカムの家の精神を受け継ぐものです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

なぜ秘密だったのか

イブン・イスハークによれば、アッラーの使徒 ﷺ は、公然と宣教するよう命じられるまで約**3年間**ひそかに宣教されました。この秘密の宣教は**恐れからではなく**、始まりの段階における賢明な戦略でした。

英知	説明
中核を築く	社会に向き合う前に、信仰の強い小さな集団を形づくる。
弱い者を守る	奴隷や保護者のない人々は拷問にさらされやすかった。
偶像の中心地マッカ	カアバは偶像に囲まれ、クライシュはそれで生計を立てていた。
段階を追う	クルアーンが段階的に下されたのと同じように。
命令を待つ	公然の宣教はアッラーが命じられたときに始まった（26:214）。

学者たちは、「秘密」とは**集まりと教え**がひそかに行われたことを意味すると説明しています。しかし新しい宗教の知らせはすでにマッカに広まっており、クライシュはまだそれを大きな脅威とは見なしていませんでした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

秘密の段階の終わり

この段階は、次の命令が下ったときに終わりました。「**あなたの近親に警告しなさい**」（詩人たち章 26:214）。アッラーの使徒 ﷺ はサファーの丘に登り、クライシュの諸氏族に呼びかけました。この出来事は第 2 巻ですでに読みました（『サヒーフ・ブハーリー』4770）。

教訓：宣教には**英知と計画**が必要です。ふさわしい方法は時と場所と状況によって異なりますが、目的は変わりません。人々をアッラーへと招くことです。

真正な伝承と有名な話のあいだ

啓示の始まりについては、多くの話が人々の間に広まっています。次の表は、真正なもの、スィーラ書によるもの、議論のあるものを区別しています。

話とその評価

有名な話	評価
最初の啓示は、ヒラーの洞窟での凝血章 96:1–5 である。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3）。
ジブリールはかれを三度抱きしめた。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3）。
最初の啓示はラマダーン 17 日に下った。	諸説あり。21 日または 24 日とする説もある。
真実の夢は六か月続いた。	一部の学者の見解。二大サヒーフによるものではない。
ファトラは三年続いた。	諸説あり。真正なハディースは期間を述べていない。
ファトラの間、かれは山から身を投げかけた。	『サヒーフ・ブハーリー』6982 のアッ＝ズフリーによる「バラーガート」の付加で、伝承経路がつながっていない。根拠とはしない。
朝章はファトラのために下った。	真正な伝承は別の中断と結びつけている（『サヒーフ・ブハーリー』4950）。
ハディージャが最初に信じた人である。	スィーラ書で一致している。
五人の奴隷、二人の女性、アブー・バクルがかれとともにいた。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3857）。
ヒラーの洞窟の中で礼拝や祈りをすることには特別な功徳がある。	根拠はない。巡礼（ハッジ）やウムラの一部でもない。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

省察

真正な啓示の始まりの物語だけで、心は十分に揺さぶられます。**アッラーの使徒** ﷺ を愛するために、弱い付け加えは必要ありません。

このシリーズの重要な場所

啓示の始まりの物語は、小さな範囲で起こりました。山頂近くの洞窟、ハディージャとともに暮らしたかれの家、カアバ、そしてサファーの丘のふもとの一軒の家です。本章では、読者が出来事をよりはっきり思い描けるよう、それらの場所をまとめます。

場所の表

表の距離は、現代の資料による聖モスク（マスジド・ハラーム）からのおおよその距離で、実際の道のりはもっと長くなります。もとの場所が現在は聖モスクの敷地内にある場合は、その旨を記しています。

場所	このシリーズとの関わり	距離／現在の状況
カアバ	かれは変わらずそのそばで礼拝し、周回した。のちに初期の教友の一部が拷問を受けた場所。	聖モスクの中央。
サファーの丘	アルカムの家はこの丘のふもとにあった。のちにかれはここで民に公然と呼びかけた（第 4 巻）。	現在は聖モスクの建物内（マスアー）。
アルカムの家	ひそかな集まりと教えの拠点。	現在は聖モスクの拡張区域内。
ハディージャの家	かれの家。最初の啓示の後、恐れのうちに帰った場所（『サヒーフ・ブハーリー』3）。	その場所は現在、聖モスク周辺の区域内にある。
ジャバル・アン＝ヌール	ヒラーの洞窟のある山。	聖モスクの北東約 4 キロメートル。
ヒラーの洞窟	かれがタハンヌスを行い、最初の啓示を受けた場所。	ジャバル・アン＝ヌールの山頂近く。

出典：Discover Makkah, “Jabal al-Nour & Ghar Hira’”；WikiShia, “House of al-Arqam”。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

現代の測定によるヒラーの洞窟

ウィキペディアによれば、**ジャバル・アン＝ヌール**の山頂は海抜約 **642 メートル**です。ヒラーの洞窟自体はとても小さく、長さ約 **3.7 メートル**、幅約 **1.6 メートル**で、そこへたどり着くには約 **1,750 段の石段**を登らなければなりません。公式サイト「ディスカバー・マッカ」によれば、洞窟の入口は北を向いており、内部の小さな隙間からはカアバの方角が見えます。

想像してみてください。40 歳の男性が、何夜分もの食糧を携えて、この険しい山を何度も登るのです。ただ、民の多神崇拝から離れて、ひとりで礼拝するためだけに。これほど小さな空間で、最初の啓示が下ったのです。

出典：Wikipedia, “Jabal al-Nour”；Discover Makkah。

歴史の注：アルカムの家はどうなったか

アル＝アルカム رضى الله عنه は自分の家をワクフ（寄進財）とし、その子どもたちが住み続けました。アッバース朝の時代、カリフのアル＝マンスールはアルカムの子どもたちにそれを売らせ、息子のアル＝マフディーに与えました。アル＝マフディーはのちにそれを妻のアル＝ハイズラーンに与え、彼女はその中にモスクを建てました。そのため、そこはかつて**ダール・アル＝ハイズラーン**として知られていました。

ヒジュラ暦 1375 年（西暦 1955 年ごろ）、サウード・ブン・アブドゥルアズィーズ国王の時代の聖モスク拡張で、その家の区域はモスクの敷地に組み込まれました。今日、アルカムの家として訪れることのできる特別な建物はありません。

出典：WikiShia, “House of al-Arqam”。

教訓

人類史上最大の出来事は、最も質素な場所から始まりました。狭い洞窟と、マッカの路地の一軒の家です。アッラーは導きを下すのに宮殿を必要とされません。私た

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ちの質素な家も、クルアーンが読まれ知識が学ばれるなら、家族にとっての「アルカムの家」となりうるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

書き留められ守られたクルアーン

最初の啓示は「読め」と命じ、アッラーを「筆によって教えられた」主と述べています（凝血章 96:4）。クルアーンは初めから、互いを強め合う二つの方法で守られてきました。胸の内に暗記されること、そして当時あった素材に書き記されることです。

胸の内に暗記される

かれ ﷺ は、下ったすべての節を教友たちに読み聞かせ、彼らはそれを暗記し、礼拝の中で読みました。記憶力が強く、詩を暗記することに慣れた社会では、この方法は非常に効果的でした。アッラーはまた、クルアーンをかれの胸に集めるのはアッラーご自身であるとかれを安心させられました（復活章 75:16–19）。

さまざまな素材に書き記される

啓示が下ると、かれは啓示の書記たちを呼んで書き留めさせました。使われた素材は、ナツメヤシの葉柄、薄い石板、ラクダの肩甲骨、皮など、手に入るものなら何でもでした。啓示の書記の一人であったザイド・ブン・サービト رضى الله عنه は、のちに、自分は「ナツメヤシの葉柄や石板や人々の胸から」クルアーンを集めたと語っています（『サヒーフ・ブハーリー』4986）。

集成の二つの段階

時期	説明	典拠
アッラーの使徒 ﷺ	節は暗記され、個別に書き記された。章の順序はかれが教えた。	復活章 75:16–19
アブー・バクル رضى الله عنه	ヤマーマの戦いで多くの暗記者が殉教した後、ザイド・ブン・サービトがクルアーンを一つにまとめる任務を与えられた。	『サヒーフ・ブハーリー』4986

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

時期	説明	典拠
ウスマーン رضى الله عنه	そのまとめから何冊かのムスハフが書き写され、イスラームの各地に送られ、ウンマは一つの書かれた読み方のもとにまとまった。	『サヒーフ・ブハーリー』4987

アッラーは、クルアーンを下したのはアッラーご自身であり、それを守るのもアッラーであると仰せられます（アル・ヒジュル章 15:9）。この守護は、アッラーに動かされた人々――暗記者、書記、指導者――の真剣な努力を通じて実現しました。

教訓

今日私たちが読むクルアーンは、14 世紀にわたってそれを誠実に暗記し、書き、写してきた人々の連なりを通じて私たちに届きました。たとえ一節でも読み、暗記し、教えるたびに、私たちもその守護の連なりにつながっているのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

歴史の足跡：最古のクルアーン写本

近年、ヨーロッパの図書館に保管されていた古いクルアーンの断片のいくつかが、**放射性炭素年代測定**で調べられました。その結果は世界の注目を集めました。本章では確かな情報だけを載せ、そこから何が言え、何が言えないのかを率直に説明します。

写本	放射性炭素年代	説明
バーミンガム写本（ミンガナ 1572a）、バーミンガム大学	西暦 568〜645 年（確率 95%）	両面に書かれた 2 枚の羊皮紙：洞窟章 18:17–31、マルヤム章 19:91–98、ター・ハー章 20:1–40。2015 年 7 月に発表。この 2 枚は、フランス国立図書館の断片（BnF Arabe 328c）と同じ写本の一部であることがわかっている。
テュービンゲン断片（Ma VI 165）、テュービンゲン大学図書館	西暦 649〜675 年（確率 95.4%）	2014 年 11 月、独仏共同研究プロジェクト「コラニカ」で発表。

出典：Wikipedia, “Birmingham Quran manuscript”；Al Jazeera, “One of the world’s oldest Quran manuscripts found in UK” (2015)；Medieval Histories, “Qur’an fragment Tübingen University Library Ma VI 165” (2014)。

重要な注：放射性炭素は何を測るのか

放射性炭素年代測定が測るのは、**羊皮紙に使われた動物が死んだ時期**であり、その上に文字が書かれた時期ではありません。皮は使われるまで何年か保管されることがあります。そのため研究者の意見は分かれており、カリフ・ウスマーン رضى الله عنه の時代かその少し後に書かれたと考える者もいれば、その年代の正確さを疑う者もいます。

したがって私たちは、バーミンガムの断片がアッラーの使徒 ﷺ の時代に書かれたとは主張しません。確かに言えるのは、これらの断片がクルアーンの最古の書かれた証拠の一つであり、その本文は基本的に今日ムスリムが読むクルアーンと同じだということです。

なぜ重要なのか

クルアーンの守護に対するムスリムの信仰は、アッラーの約束と、ムタワーティル（多数の経路による）伝承に基づくものであり、実験室の検査によるものではありません。しかしこうした発見は、クルアーンがヒジュラ暦 1 世紀からムスハフの形で書かれていたという歴史的な証拠をさらに加えるものです。これは、アブー・バクルとウスマーンの時代のクルアーン集成について『サヒーフ・ブハーリー』が伝えていることと一致しています。

教訓

証拠に対して誠実であることは、学問の作法の一部です。信仰を強めるために発見を誇張する必要はなく、綿密な研究を恐れる必要もありません。真理に大げさな主張は要らないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

本巻の人物：アッ＝サービクーン・アル＝アウワルーン

アッラーは、イスラームを受け入れた「先達の第一人者たち」を称えておられます（悔悟章 9:100）。次の表は、秘密の宣教の年月に信仰した人々の一部と、本巻のその他の人物をまとめたものです。

人物	立場	備考
ハディージャ・ビント・フワイリド	かれの妻	最初に信じた人。最初の啓示の後、かれの心を静めた（『サヒーフ・ブハーリー』3）。
ワラカ・ブン・ナウファル	ハディージャの従兄	来た者がナームース（ジブリール）であると認めた。まもなく亡くなった（『サヒーフ・ブハーリー』3）。
アリー・ブン・アビー・ターリブ	かれのいとこ	最初にイスラームに入った子ども。かれの家で暮らしていた。
ザイド・ブン・ハーリサ	かれの養子	解放された奴隷。最初に信じた人々の一人。
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク	親友	最初に信じた自由な成人男性。多くの教友が彼の誘いでイスラームに入った。
ウスマーン・ブン・アッファーン	ウマイヤ家	アブー・バクルを通じて入信。のちの第 3 代カリフ。
アッ＝ズバイル・ブン・アル＝アウワーム	かれのいとこ	まだ若いころに入信。
アブドゥッラフマーン・ブン・アウフ	ズフラ家	アブー・バクルを通じて入信。気前のよい商人。
サアド・ブン・アビー・ワッカース	ズフラ家	「わたしは七日間、イスラームの三分の一であった」（『サヒーフ・ブハーリー』3727）。
タルハ・ブン・ウバイドゥッラー	タイム家	アブー・バクルを通じて入信。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

人物	立場	備考
アブー・ウバイダ・ブン・アル＝ジャッラーフ	ハーリス・ブン・フィフル家	イブン・イスハークによれば、アブー・バクルを通じて入信。のちに「このウンマの信頼できる者」と呼ばれた。
サイード・ブン・ザイド	アディー家	ザイド・ブン・アムル（ハニーフ）の子。ファーティマ・ビント・アル＝ハッターブの夫。
アル＝アルカム・ブン・アビー・アル＝アルカム	マフズーム家	その家が秘密の宣教の拠点となった。
ビラール・ブン・ラバーフ	アビシニア出身の奴隷	信仰のために拷問を受けた。のちのアッラーの使徒 ﷺ のムアッズィン。
アンマール・ブン・ヤースィル	ヤースィルの家族	「五人の奴隷、二人の女性、そしてアブー・バクル」を伝えた（『サヒーフ・ブハーリー』3857）。
ハッバーブ・ブン・アル＝アラット	鍛冶屋	信仰のために拷問を受けた。かれから過去の信者たちの忍耐について諭された。
アブドッラー・ブン・マスウード	羊飼い	イブン・イスハークによれば、最初期に信じた一人。のちにクルアーンの第一人者となった。

出典：イブン・ヒシャーム『預言者伝』；『サヒーフ・ブハーリー』3、3727、3857；本書の前の章。

教訓

この最初の人々は、さまざまな層から来ていました。貴族、商人、若者、奴隷、そして女性。彼らを結びつけたのは血筋や財産ではなく、真理がまだ受け入れられていないときに、それを受け入れる勇気でした。私たちも試されています。私たちは、大勢が選ぶときにだけ真理を選んでいないでしょうか。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年表：スィーラと世界

この年表は、本書の出来事を同時代の世界の出来事と並べたものです。スィーラの出来事の西暦年は、現代の歴史家による推定です。

年（推定）	出来事
610 年の直前	真実の夢。かれはひとりこもり、ヒラーの洞窟でタハンヌスを行った（『サヒーフ・ブハーリー』3）。
610 年（ラマダーン）	最初の啓示、凝血章 96:1–5 がヒラーの洞窟に下る。かれは 40 歳。
610 年 10 月 5 日	ヘラクレイオスがローマ皇帝に即位。
最初の啓示の後	ファトラ――啓示がしばらく途絶える。その期間には学者の間で諸説ある。
ファトラの後	衣をまとう者章 74:1–5 が下る。立ち上がって警告せよとの命令（『サヒーフ・ブハーリー』4）。
610〜613 年ごろ	秘密の宣教。アルカムの家が集会の拠点となる。
613 年	ペルシアがダマスカスを占領。
613 年ごろ	公然と宣教せよとの命令（詩人たち章 26:214）――第 4 巻。
614 年	ペルシアがエルサレムを占領。ローマ章の冒頭の節の背景。
615 年ごろ	弱い人々への迫害が頂点に。最初のアビシニアへの移住――以降の巻。

出典：Wikipedia, “Heraclius”；『サヒーフ・ブハーリー』3 と 4；本巻の年は歴史家の推定による。

教訓

ローマの大都市が次々とペルシアの手に落ちていたとき、マッカでは小さな信者の集まりが、一軒の家で静かに学んでいました。世界は彼らに目もくれませんでした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

しかし 20 年もたたないうちに、この小さな集まりが世界の地図を変えたのです。誠実な小さな努力を決して軽んじてはなりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

よくある質問

以下は、啓示の始まりと秘密の宣教についてよく尋ねられる質問と、本書で取り上げた資料に基づく短い答えです。

1. 最初の啓示はいつ下ったのですか。

ラマダーン月、かれが 40 歳のときです。クルアーンは、それがラマダーン月の、みいつの夜に下されたと述べています（雌牛章 2:185；みいつ章 97:1）。正確な日付については学者の間で諸説あります。

2. 最初に下った節は何ですか。

凝血章の最初の五節（96:1–5）です。アーイシャ رضى الله عنها が『サヒーフ・ブハーリー』3 で伝えているとおりです。ファトラの期間の後には、衣をまとう者章の冒頭が下りました（『サヒーフ・ブハーリー』4）。

3. 最初に信じた人は誰ですか。

学者たちは伝承を次のようにまとめています。女性（そして全体）ではハディージャ、自由な成人男性ではアブー・バクル、子どもではアリー、解放された奴隷ではザイド・ブン・ハーリサです。

4. ファトラはどれほど続いたのですか。

学者の意見は分かれています。その期間について、二大サヒーフに確かな伝承はありません。確かなのは、啓示がしばらく途絶え、その後、衣をまとう者章とともに再び下ったということです。

5. 秘密の宣教はどれほど続いたのですか。

スィーラ学者によれば、約 3 年間です。近親に公然と警告せよとの命令が下るまで続きました（詩人たち章 26:214）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

6. ワラカ・ブン・ナウファルはムスリムだったのですか。

彼はかれの預言者性を真実と認め、かれを助けたいと願いましたが、まもなく亡くなりました（『サヒーフ・ブハーリー』3）。多くの学者は彼を信仰者に含めますが、教友としての地位については異なる意見もあります。

7. なぜ預言者 ﷺ は読み書きができなかったのですか。

かれが過去の書物からクルアーンを写した、あるいは作ったと誰も主張できないようにするためです（蜘蛛章 29:48）。ウンミーであることは欠点ではなく、預言者であることの証拠なのです。

8. かれの時代、クルアーンはどのように書かれていたのですか。

啓示の書記たちが、ナツメヤシの葉柄、石板、骨、皮に書き留め、教友たちはそれを暗記しました。のちにアブー・バクルの時代に集成され、ウスマーンの時代に何冊かに書き写されました（『サヒーフ・ブハーリー』4986、4987）。

9. バーミンガム写本は預言者 ﷺ の時代に書かれたのですか。

確かなことは言えません。放射性炭素検査は、その皮が 568〜645 年のものであることを示していますが、それは皮の年代を測るもので、書かれた時期ではありません。多くの研究者は、ウスマーンの時代かその少し後に書かれた可能性があると考えています。

10. アルカムの家は今どこにあるのですか。

その家はサファーの丘のふもとにありました。ヒジュラ暦 1375 年、その区域は聖モスクの拡張に組み込まれたため、今日訪れることのできる特別な建物はありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

11. なぜ宣教は秘密に始められたのですか。

公然の反対に向き合う前に、しっかりした基盤を築くという、アッラーの使徒 ﷺ の英知の一部でした。本書の「なぜ秘密だったのか」の章がその理由を説明しています。

12. ウムラや巡礼の際にヒラーの洞窟に登る必要はありますか。

いいえ。ヒラーの洞窟に登ることは巡礼やウムラの儀礼の一部ではなく、その中で礼拝することに特別な功徳があるという典拠もありません。身の安全に気をつけ、岩に落書きをしないようにして、教訓を得るために訪れることはできます。

教訓

真正な資料で答えられた一つひとつの問いが、確信を深め、根拠のない話から私たちを遠ざけてくれます。問い続け、読み続けましょう。この宗教は「読め」という命令から始まったのですから。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

本書からの教訓

第一：イスラームは知識から始まった。 最初の啓示は「読め！」であり、筆を讃えるものだった（96:1–5）。

第二：大きな務めの前の準備。 真実の夢とヒラーでのひとりの時間が、かれを備えさせた（『サヒーフ・ブハーリー』3）。

第三：啓示は重いもの。 寒い日でさえ、かれの額は汗に濡れた（『サヒーフ・ブハーリー』2）。

第四：妻の強さ。 ハディージャは人格に基づく論拠で心を静め、答えを求めて行動した。

第五：知識ある人に相談する。 ワラカはナームースを認め、反対を予言した。

第六：立ち上がって警告せよ。 衣をまとう者章の五節は宣教者のカリキュラムである（74:1–5；『サヒーフ・ブハーリー』4）。

第七：宣教は家庭から始まる。 妻、いとこ、養子が最初に信じた。

第八：真理は数で測られない。 五人の奴隷、二人の女性、そしてアブー・バクル（『サヒーフ・ブハーリー』3857）。

第九：計画における英知。 アルカムの家と三年間の秘密の宣教が、中核となる世代を築いた。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年表のまとめ

時期（推定）	出来事と典拠
西暦 610 年以前	真実の夢。ヒラーの洞窟にこもる（『サヒーフ・ブハーリー』3）
西暦 610 年ラマダーン	最初の啓示、凝血章 96:1–5（『サヒーフ・ブハーリー』3）
最初の啓示の後	ハディージャが信じる。ワラカに会う（『サヒーフ・ブハーリー』3）
まもなく	ワラカが亡くなる。ファトラ（『サヒーフ・ブハーリー』3）
ファトラの後	衣をまとう者章 74:1–5（『サヒーフ・ブハーリー』4）
西暦 610〜613 年	アリー、ザイド、アブー・バクル、そしてアブー・バクルを通じた五人（スィーラ書）
西暦 610〜613 年	アルカムの家での集まり（スィーラ書）
西暦 613 年ごろ	サファーの丘での公然の宣教（26:214；『サヒーフ・ブハーリー』4770）

結び

静かなヒラーの洞窟から、心を静めるハディージャの家へ、年老いて目の見えないワラカの家へ、そしてサファーの丘のふもとのアルカムの家へ。「読め！」という一つの言葉から始まった使命は、ウンマの最初の世代を静かに築き上げました。イン・シャー・アッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』シリーズは、**公然の宣教**、クライシュの反対、そして教友たちを襲った試練へと続きます。ワッラーフ・アアラム（アッラーが最もよくご存知です）。

第 3 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーン注釈』（96:1–5；74:1–7；17:106；97:1）。tafsir.app/ibn-katheer/96/1

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』2、3、4、3612、3661、3727、3820、3857、4770、4950、6982、6985。sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』8。sunnah.com/muslim:8

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー』——啓示の始まりの書、アブー・バクルの入信の章。

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）——啓示の始まりと最初の信者たちの章。

サフィユッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された美酒（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』——啓示の始まりと秘密の宣教の章。

Wikipedia, “Muhammad’s first revelation”. en.wikipedia.org/wiki/Muhammad%27s_first_revelation

Wikipedia, “Jabal al-Nour”. en.wikipedia.org/wiki/Jabal_al-Nour

Wikipedia, “Waraqah ibn Nawfal”. en.wikipedia.org/wiki/Waraqah_ibn_Nawfal

ウィキペディア「Khadija bint Khuwaylid」en.wikipedia.org/wiki/Khadija_bint_Khuwaylid

Wikipedia, “Abu Bakr”. en.wikipedia.org/wiki/Abu_Bakr

Wikipedia, “Ali”. en.wikipedia.org/wiki/Ali

ウィキペディア「Zayd ibn Haritha al-Kalbi」en.wikipedia.org/wiki/Zayd_ibn_Haritha_al-Kalbi

Wikipedia, “Bilal ibn Rabah”. en.wikipedia.org/wiki/Bilal_ibn_Rabah

Wikipedia, “Sumayya”. en.wikipedia.org/wiki/Sumayya

Wikipedia, “Yasir ibn Amir”. en.wikipedia.org/wiki/Yasir_ibn_Amir

Wikipedia, “Al-Arqam”. en.wikipedia.org/wiki/Al-Arqam

Wikipedia, “Heraclius”. en.wikipedia.org/wiki/Heraclius

Wikipedia, “Khosrow II”. en.wikipedia.org/wiki/Khosrow_II

歴史、場所、写本

Wikipedia, “Jabal al-Nour”. en.wikipedia.org/wiki/Jabal_al-Nour

Discover Makkah, “Jabal al-Nour & Ghar Hira’”. discovermakkah.sa/en/places-worth-visiting/stories-from-the-heart-of-mecca/mount-al-nour-and-cave-of-hira

WikiShia, “House of al-Arqam b. Abi l-Arqam”. en.wikishia.net/view/Draft:House_of_al-Arqam_b._Abi_l-Arqam

Wikipedia, “Birmingham Quran manuscript”. en.wikipedia.org/wiki/Birmingham_Quran_manuscript

Al Jazeera, “One of the world’s oldest Quran manuscripts found in UK” (2015). aljazeera.com/news/2015/7/22/one-of-the-worlds-oldest-quran-manuscripts-found-in-uk

Medieval Histories, “Qur’an fragment Tübingen University Library Ma VI 165” (2014). medieval.eu/sensational-fragment-early-quran-identified/

Wikipedia, “Heraclius”. en.wikipedia.org/wiki/Heraclius

このページは意図的に空白にしています

第四部

サファーの丘からの呼びかけ

預言者伝（スィーラ）— 第 4 巻

クルアーンと真正なハディースに基づく、公然の宣教、クライシュ族の反対、そしてハバシャへの移住

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サファーの丘からの呼びかけ

『預言者伝』第 3 巻は、三年間の秘密の宣教と、ダール・アル＝アルカムに集った少数の信者たちで幕を閉じました。この第 4 巻は、その宣教が**社会の真ん中へと出て行った**とき何が起きたのかを語ります。サファーの丘での呼びかけ、嘲笑と非難、妥協の申し出、アッラーの使徒 ﷺ と弱い立場の教友たちへの迫害、そして**イスラームにおける最初の移住**――ハバシャの公正な王の国への移住です。

本書のクルアーンの節と真正なハディースは、本当に関係のあるものだけを慎重に選びました。スィーラ書（預言者伝の書物）の話は「スィーラの注」の枠に入れ、その信頼度を示しています。非常に有名でも伝承経路の弱い話は、そのことをはっきり示しました。

年表：公然の宣教からハバシャへの移住まで（613〜616年ごろ）

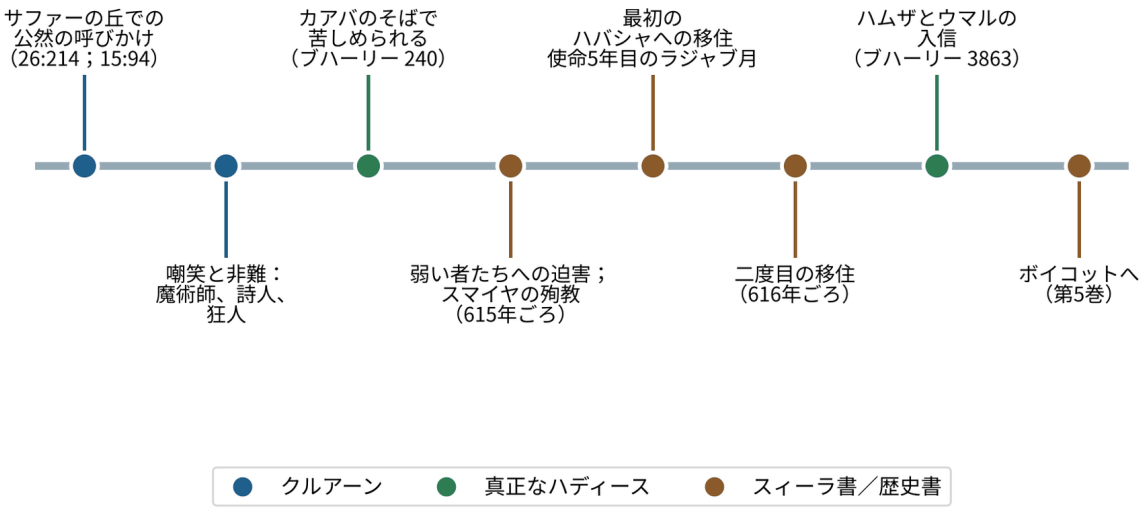


図 1：公然の宣教からハバシャへの移住までの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

秘密から公然へ

約三年にわたる秘密の宣教の後、すべてを変える命令が下されました。アッラーはその使徒に、使命を**公然と**伝えるよう命じられたのです。

アル・ヒジュル章 15:94–95

فَٱصۡدَعۡ بِمَا تُؤۡمَرُ وَأَعۡرِضۡ عَنِ ٱلۡمُشۡرِكِينَ ٩٤

だからあなたが命じられたことを宣揚しなさい。そして多神教徒から遠ざかれ。

إِنَّا كَفَيۡنَٰكَ ٱلۡمُسۡتَهۡزِءِينَ ٩٥

本当にわれは、嘲笑する者に対し、あなたを十分に守ってやる。

訳：三田了一 — quran.com/15:94-95

15:94–95 の解説

アッラーはこう仰せられます。「**命じられたことを公然と宣べ伝えよ**」。イブン・カスィールは、この節が多神教徒の反対を気にかけず、すべての人々に**公然と**使命を伝えるよう預言者に命じたものだと説明しています。『イブン・カスィールのタフスィール』15:94。

続く節は保証を与えます。「**本当にわれは、嘲笑する者に対し、あなたを守るであろう**」。イブン・カスィールは、預言者を嘲笑したことで知られるクライシュ族の有力者たちとして、**アル＝ワリード・ブン・アル＝ムギーラ**や**アル＝アース・ブン・ワーイル**の名を挙げ、アッラーがいかにかれらの悪から預言者を守られたかを述べています。『イブン・カスィールのタフスィール』15:95。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

この二つの節の順序に注目してください。**命令**には**保証**が伴っています。アッラーはその使徒を、守りなしにクライシュ族と向き合わせることはなさいませんでした。これはスィーラの中で繰り返される原則です。重い務めには、アッラーの助けが伴うのです。

さらに命令が下されました。「**あなたの近親者に警告しなさい**」（詩人たち章 26:214）、続いて「**あなたに従う信者たちに対しては、あなたの翼を低く垂れなさい**」（26:215）。公然の宣教は最も近い家族から始まり、信者への優しさを伴うものでした。

近親への呼びかけ

26:214 の節が下ると、アッラーの使徒 ﷺ はすぐにそれを実行されました。クライシュ族の諸氏族に一つずつ呼びかけ、次に自らの家族――おじ、おば、そして最愛の娘にまで――呼びかけられたのです。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4771 番

حَدَّثَنَا أَبُو الْيَمَانِ، أَخْبَرَنَا شُعَيْبٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، قَالَ أَخْبَرَنِي سَعِيدُ بْنُ الْمُسَيَّبِ، وَأَبُو سَلَمَةَ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ أَنَّ أَبَا هُرَيْرَةَ، قَالَ قَامَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم حِينَ أَنْزَلَ اللَّهُ {وَأَنْذِرْ عَشِيرَتَكَ الأَقْرَبِينَ} قَالَ «يَا مَعْشَرَ قُرَيْشٍ ـ أَوْ كَلِمَةً نَحْوَهَا ـ اشْتَرُوا أَنْفُسَكُمْ، لاَ أُغْنِي عَنْكُمْ مِنَ اللَّهِ شَيْئًا، يَا بَنِي عَبْدِ مَنَافٍ، لاَ أُغْنِي عَنْكُمْ مِنَ اللَّهِ شَيْئًا، يَا عَبَّاسُ بْنَ عَبْدِ الْمُطَّلِبِ، لاَ أُغْنِي عَنْكَ مِنَ اللَّهِ شَيْئًا، وَيَا صَفِيَّةُ عَمَّةَ رَسُولِ اللَّهِ، لاَ أُغْنِي عَنْكِ مِنَ اللَّهِ شَيْئًا وَيَا فَاطِمَةُ بِنْتَ مُحَمَّدٍ سَلِينِي مَا شِئْتِ مِنْ مَالِي، لاَ أُغْنِي عَنْكِ مِنَ اللَّهِ شَيْئًا». تَابَعَهُ أَصْبَغُ عَنِ ابْنِ وَهْبٍ عَنْ يُونُسَ عَنِ ابْنِ شِهَابٍ.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は言った。アッラーが「あなたの近親者に警告しなさい」という節を下されたとき、アッラーの使徒 ﷺ は立ち上がって言われた。「**クライシュの人々よ――あるいはそれに似た言葉で――自分自身を救いなさい。わたしはアッラー（の懲罰）からあなたがたを少しも助けることはできない。アブド・マナーフ一族よ、わたしはアッラーからあなたがたを少しも助けることはできない。アッバース・ブン・アブドルムッタリブよ、わたしはアッラーからあなたを少しも助けることはできない。アッラーの使徒のおばサフィーヤよ、わたしはアッラーからあなたを少しも助けることはできない。ムハンマドの娘ファーティマよ、わたしの財産から望むものを求めなさい。だが、わたしはアッラーからあなたを少しも助けることはできない。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブル・ヤマーン ← シュアイブ・ブン・アビー・ハムザ ← アッ＝ズフリー ← サイード・ブン・アル＝ムサイヤブ と アブー・サラマ・ブン・アブドッラフマーン ← アブー・フライラ رضى الله عنه。アスバグ ← イブン・ワ

フブ ← ユーヌス ← イブン・シハーブの伝承も（ムターバアとして）これを補強している。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』クルアーン解釈の書、詩人たち章、ハディース第 4771 番。ムスリム（第 206 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:4771

このハディースの教訓

このハディースには信仰の基本原則が含まれています。アッラーの御前では**一人ひとりが自分自身に責任を負う**ということです。家柄も、預言者との血縁も、たとえ預言者自身の子であっても、信仰と行いなしに人を救うことはありません。

家柄を非常に誇るクライシュ族の社会にとって、この言葉は大きな衝撃でした。アブド・マナーフ一族は最も高貴な氏族でしたが、預言者は、氏族の栄誉はアッラーの御前では**何の価値もない**と明言されたのです。

教訓：家名や学者の家系、地位に頼ってはなりません。**信仰と行い**こそが唯一の備えなのです。

サファーの丘の上で

公然の宣教で最も有名な出来事は**サファーの丘での呼びかけ**です。アル＝アミーンという呼び名を示す出来事として、第 2 巻ですでに読みました。アッラーの使徒 ﷺ はサファーに登り、クライシュ族の諸氏族が集まるまで呼びかけられました（『サヒーフ・ブハーリー』4770）。

段階	英知
高い場所に登る	アラブ人が危険を知らせるときのやり方。誰もが注意を向ける。
問いかける：「あなたがたはわたしを信じるか」	伝える前にまず信頼を築く。
彼らは答えた：「あなたが嘘をついたことは一度もない」	預言者の誠実さを皆が認めた証言。
「わたしは激しい懲罰を前にした警告者である」	核心のメッセージを明確かつ簡潔に伝える。

預言者の方法は非常に賢明でした。まず**相手自身が認めていること**――ご自分の誠実さ――から始め、そのうえでまだ受け入れていないことを伝えられたのです。今日の宣教者もこの方法から学ぶことができます。

しかし最初の返答は、実のおじである**アブー・ラハブ**から来ました。「お前など滅びてしまえ。このためにわれわれを集めたのか」。そこで**棕櫚章**が下されました。「アブー・ラハブの両手は滅び、かれも滅びてしまえ」（111:1）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・ラハブとその妻

スィーラの注：敵対したおじ

ウィキペディアによれば、**アブー・ラハブ**――本名はアブド・アル＝ウッザー・ブン・アブドルムッタリブ――は、**おじ**としてアッラーの使徒 ﷺ の身内にあたる人物でした。かれの二人の息子は、預言者の二人の娘ルカイヤとウンム・クルスームと婚約していましたが、預言者が宣教を始めた後に解消されました。

その妻**ウンム・ジャミール**・ビント・ハルブ――アブー・スフヤーンの姉妹――もまた預言者に敵対しました。クルアーンはかの女を**「薪を運ぶ女」**と呼んでいます（棕櫚章 111:4）。アブー・ラハブはバドルの戦いの後まもなく死にました。

参照：

ウィキペディア「Abu Lahab」。en.wikipedia.org/wiki/Abu_Lahab

棕櫚章に見る奇跡

この章は、アブー・ラハブが**地獄の火に入る**と告げています。つまり、かれは不信のまま死ぬということです。この章はかれの死の何年も前に下されました。アブー・ラハブは、クルアーンが誤りであることを「証明」するために、**見せかけだけでも**イスラームに入信することができたはずですが、そうはしませんでした。こうしてこれは正確な**クルアーンの予告**となったのです。

教訓：血縁は導きを保証しません。最も近いおじが敵となる一方で、ハバシャ出身のビラールのような他人が最も忠実な兄弟となりました。**導きはアッラーのものです**。

クライシュ族の非難

クライシュ族は預言者の誠実さを否定できなかったため、人々をかれから遠ざけるための**レッテル**を探しました。クルアーンはそれらの非難を記録し、一つずつ反論しています。

クライシュ族の非難	クルアーンの反論
「狂人」（アル・ヒジュル章 15:6）	あなたは主の恩恵により、狂人ではない（筆章 68:2）。
「嘘つきの魔術師」（サード章 38:4）	かれらは、自分たちの中から警告者が来たことに驚いている（38:4）。
「詩人」（預言者章 21:5）	これは詩人の言葉ではない。あなたがたはほとんど信じない（真実章 69:41）。
「占い師」（カーヒン）	これは占い師の言葉でもない。あなたがたはほとんど反省しない（69:42）。
「ある人間に教えられた」	かれらが名指しする者の言葉は外国語であるが、クルアーンは明瞭なアラビア語である（蜜蜂章 16:103）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

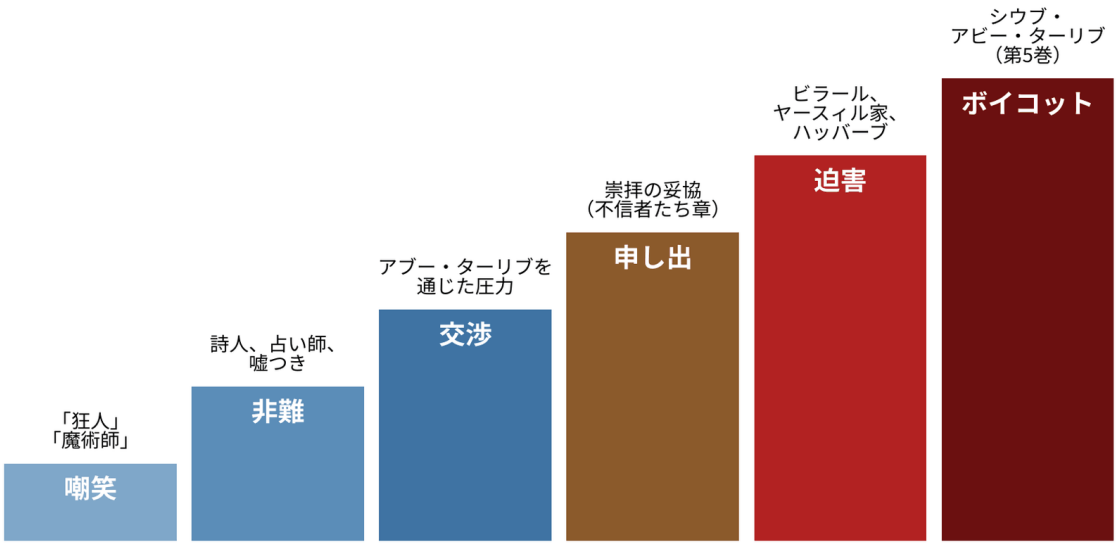


図 2：クライシュ族の反対の段階。

互いに矛盾する非難

これらの非難が**互いに矛盾している**ことに注目してください。狂人は詩人のように美しい言葉を紡ぎません。詩人は占い師のようには話しません。そして魔術師は人々に魔術を捨てるよう呼びかけたりはしません。かれら自身の混乱が、その非難が**根拠のない**ものであることの証拠となっているのです。

教訓：論証に行き詰まると、真理に反対する者は**レッテルと宣伝**に頼ります。ムスリムは、投げつけられた呼び名ではなく、論拠と証拠によって物事を判断する必要があります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アル＝ワリード・ブン・アル＝ムギーラ：行き詰まった論法

スィーラの注：巡礼の季節を前にした会議

イブン・カスィールの衣をまとう者章の解釈によれば、マフズーム家の**アル＝ワリード・ブン・アル＝ムギーラ**は、裕福で尊敬されたクライシュ族の有力者でしたが、クルアーンを聞いて心を動かされました。クライシュ族は心配し、クルアーンに反対する声明を出すようかれに迫りました。

巡礼の季節が近づき、アラブの諸部族がマッカに来ようとしていたとき、クライシュ族は非難の内容を一つにまとめるために会議を開きました。アル＝ワリードは「狂人」「詩人」「占い師」というレッテルはどれも当てはまらないとして退けました。最後にかれは長く考え込み、こう言いました。「**これは伝えられてきた魔術にほかならない。**」

参照：

『イブン・カスィールのタフスィール』74:11–25 tafsir.app/ibn-katheer/74/11

クルアーンはその過程を正確に描いています。「**本当にかれは思案し、計画した**」（衣をまとう者章 74:18）。それからかれは眺め、眉をひそめて顔をしかめ、背を向けて高慢になり、「これは伝えられてきた魔術にすぎない」と言ったのです（74:21–24）。

行き詰まった論法

アル＝ワリードの話は、クライシュ族の反対が**理解できなかったからではない**ことを示しています。かれらはクルアーンの偉大さを理解していましたが、**高慢、利害、そして地位**がそれを受け入れることを妨げたのです。

教訓：謙虚さのない知識は信仰へと導きません。多くの人が真理を知りながら、**それに従う代償**を払おうとしないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

アブー・ターリブを通じた圧力

スィーラの注：アブー・ターリブへのクライシュ族の使節

スィーラ書（イブン・イスハーク）によれば、クライシュ族の有力者たちは何度も**アブー・ターリブ**のもとを訪れ、甥をやめさせるか、自分たちに引き渡すよう求めました。アブー・ターリブは穏やかに断り、預言者を守り続けました。

非常に有名な伝承では、預言者は「**アッラーにかけて、たとえかれらがわたしの右手に太陽を、左手に月を置いたとしても……**」と言われたとされています。この伝承はイブン・イスハークが**途切れのない伝承経路なしに**伝えたもので、アル＝アルバーニーなどのハディース学者はこれを**弱い（ダイーフ）**と評価しています。その意味は正しいのですが、その言葉を確実に預言者のものとすることはできません。

参照：

Wikipedia「Abu Talib ibn Abd al-Muttalib」。en.wikipedia.org/wiki/Abu_Talib_ibn_Abd_al-Muttalib

おじの庇護

確かなのは、アブー・ターリブ自身はイスラームに入信しなかったものの、預言者をクライシュ族に**決して引き渡さなかった**ということです。アラブの部族制度では家長の庇護が非常に重要でした。預言者を攻撃することは、ハーシム家全体に挑むことを意味したのです。

アッラーは**既存の社会制度**を用いてその使徒を守られました。教訓：宣教者は、シャリーアに反しない限り、社会の公正な法や制度を活用して宣教を守ることができます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

妥協の申し出と不信者たち章

脅しがうまくいかないと、クライシュ族は別の方法を試みました。**妥協**です。イブン・カスィールによれば、かれらは、預言者が一年間かれらの神々を崇拝し、かれらは一年間アッラーを崇拝するという案を出しました。その答えは、短く毅然とした一つの章として下されました。

不信者たち章 109:1–6

قُلْ يَٰٓأَيُّهَا ٱلْكَٰفِرُونَ ﴿١﴾

言ってやるがいい。『おお不信者たちよ、

لَآ أَعْبُدُ مَا تَعْبُدُونَ ﴿٢﴾

わたしは、あなたがたが崇めるものを崇めない。

وَلَآ أَنتُمْ عَٰبِدُونَ مَآ أَعْبُدُ ﴿٣﴾

あなたがたは、わたしが崇めるものを、崇める者たちではない。

وَلَآ أَنَا۠ عَابِدٌ مَّا عَبَدتُّمْ ﴿٤﴾

わたしは、あなたがたが崇めてきたものの、崇拝者ではない。

وَلَآ أَنتُمْ عَٰبِدُونَ مَآ أَعْبُدُ ﴿٥﴾

あなたがたは、わたしが崇めてきたものの、崇拝者ではない。

لَكُمْ دِينُكُمْ وَلِىَ دِينِ ﴿٦﴾

あなたがたには、あなたがたの宗教があり、わたしには、わたしの宗教があるのである。

訳：三田了一 — quran.com/109:1-6

不信者たち章の解説

この章は非常に明確な原則で結ばれています。「**あなたがたには、あなたがたの宗教があり、わたしには、わたしの宗教があるのである**」。イブン・カスィールは、この章が多神崇拝の行いからの**絶縁の宣言**であり、アッラーだけに誠実に仕えるよう命じていると説明しています。『イブン・カスィールのタフスィール』109:6。

項目	立場
信仰と崇拝	妥協なし：崇拝はアッラーだけに。
宗教の強制	強制はない。人はそれぞれ自分の選択に責任を負う（雌牛章 2:256）。
社会的な交わりと善行	戦いを仕掛けてこない非ムスリムに対しては、公正にふるまい善を尽くしてよい（試問される女章 60:8）。

教訓：イスラームは**付き合いにおける寛容**と**信仰における妥協**とを区別します。私たちは他宗教の人々と平和に暮らすことができますが、崇拝を混ぜ合わせることはしません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

カアバのそばで苦しめられたアッラーの使徒 ﷺ

クライシュ族の反対は言葉だけにとどまりませんでした。アッラーの使徒 ﷺ ご自身が、カアバのそばで**アッラーにサジダ（平伏）している**最中にさえ、身体的に苦しめられたのです。アブドッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه は、忘れることのできない出来事を目撃しました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 240 番

حَدَّثَنَا عَبْدَانُ، قَالَ أَخْبَرَنِي أَبِي، عَنْ شُعْبَةَ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنْ عَمْرِو بْنِ مَيْمُونٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ، قَالَ بَيْنَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم سَاجِدٌ ح قَالَ وَحَدَّثَنِي أَحْمَدُ بْنُ عُثْمَانَ قَالَ حَدَّثَنَا شُرَيْحُ بْنُ مَسْلَمَةَ قَالَ حَدَّثَنَا إِبْرَاهِيمُ بْنُ يُوسُفَ عَنْ أَبِيهِ عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ قَالَ حَدَّثَنِي عَمْرُو بْنُ مَيْمُونٍ أَنَّ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ مَسْعُودٍ حَدَّثَهُ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم كَانَ يُصَلِّي عِنْدَ الْبَيْتِ، وَأَبُو جَهْلٍ وَأَصْحَابٌ لَهُ جُلُوسٌ، إِذْ قَالَ بَعْضُهُمْ لِبَعْضٍ أَيُّكُمْ يَجِيءُ بِسَلَى جَزُورِ بَنِي فُلاَنٍ فَيَضَعُهُ عَلَى ظَهْرِ مُحَمَّدٍ إِذَا سَجَدَ فَانْبَعَثَ أَشْقَى الْقَوْمِ فَجَاءَ بِهِ، فَنَظَرَ حَتَّى إِذَا سَجَدَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم وَضَعَهُ عَلَى ظَهْرِهِ بَيْنَ كَتِفَيْهِ وَأَنَا أَنْظُرُ، لاَ أُغَيِّرُ شَيْئًا، لَوْ كَانَ لِي مَنْعَةٌ. قَالَ فَجَعَلُوا يَضْحَكُونَ وَيُحِيلُ بَعْضُهُمْ عَلَى بَعْضٍ، وَرَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم سَاجِدٌ لاَ يَرْفَعُ رَأْسَهُ، حَتَّى جَاءَتْهُ فَاطِمَةُ، فَطَرَحَتْ عَنْ ظَهْرِهِ، فَرَفَعَ رَأْسَهُ ثُمَّ قَالَ «اللَّهُمَّ عَلَيْكَ بِقُرَيْشٍ». ثَلاَثَ مَرَّاتٍ، فَشَقَّ عَلَيْهِمْ إِذْ دَعَا عَلَيْهِمْ ـ قَالَ وَكَانُوا يُرَوْنَ أَنَّ الدَّعْوَةَ فِي ذَلِكَ الْبَلَدِ مُسْتَجَابَةٌ ـ ثُمَّ سَمَّى «اللَّهُمَّ عَلَيْكَ بِأَبِي جَهْلٍ، وَعَلَيْكَ بِعُتْبَةَ بْنِ رَبِيعَةَ، وَشَيْبَةَ بْنِ رَبِيعَةَ، وَالْوَلِيدِ بْنِ عُتْبَةَ، وَأُمَيَّةَ بْنِ خَلَفٍ، وَعُقْبَةَ بْنِ أَبِي مُعَيْطٍ». وَعَدَّ السَّابِعَ فَلَمْ يَحْفَظْهُ قَالَ فَوَالَّذِي نَفْسِي بِيَدِهِ، لَقَدْ رَأَيْتُ الَّذِينَ عَدَّ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم صَرْعَى فِي الْقَلِيبِ قَلِيبِ بَدْرٍ.

訳：

アブドッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه によれば、預言者 ﷺ がカアバのそばで礼拝しておられたとき、アブー・ジャハルとその仲間たちがそこに座っていた。そのうちの

一人が他の者たちに言った。「誰か、某家の屠られたラクダの胎盤を持ってきて、ムハンマドがサジダしたときにその背中に載せる者はいないか。」すると、かれらの中で最も不幸な者が立ち上がってそれを持ってきた。かれは待ち、預言者 ﷺ がサジダすると、それを預言者の両肩の間の背中に載せた。アブドッラーは言った。「わたしは見ていたが、何もできなかった。もしわたしに守ってくれる者がいたなら。」かれらは互いにもたれかかるほど笑い転げたが、アッラーの使徒 ﷺ は頭を上げずにサジダを続けておられた。やがてファーティマが来て、その汚物を背中から取り除いた。預言者は頭を上げて三度祈られた。「**アッラーよ、クライシュをあなたにお任せします。**」その祈りはかれらにとって重くのしかかった。かれらはその土地での祈りは聞き届けられると信じていたからである。それから預言者は名を挙げて言われた。「**アッラーよ、アブー・ジャハル、ウトバ・ブン・ラビーア、シャイバ・ブン・ラビーア、アル＝ワリード・ブン・ウトバ、ウマイヤ・ブン・ハラフ、ウクバ・ブン・アビー・ムアイトをあなたにお任せします**」――そして七人目の名も挙げられたが、伝承者はそれを覚えていなかった。アブドッラーは言った。「わが魂をその御手に握られる御方にかけて、アッラーの使徒 ﷺ が名を挙げた者たちが、バドルの井戸の中で死んで横たわっているのを、わたしは確かに見た。」

伝承経路 イマーム・ブハーリーが二つの経路で伝える。（1）アブダーン ← その父 ウスマーン・ブン・ジャバラ ← シュウバ。（2）アフマド・ブン・ウスマーン ← シュライフ・ブン・マスラマ ← イブラーヒーム・ブン・ユースフ ← その父 ユースフ・ブン・イスハーク。――両経路とも アブー・イスハーク・アッ＝サビーイー ← アムル・ブン・マイムーン ← アブドッラー・ブン・マスウード رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』清めの書、ハディース第 240 番。ムスリム（第 1794 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:240

このハディースの教訓

このハディースには三人の姿が描かれています。**アッラーの使徒** ﷺ は忍耐強くサジダを続けられました。**イブン・マスウード**は、部族の後ろ盾のない教友であったため、ただ見ていることしかできませんでした。そして**ファーティマ**――まだ若い娘――は、クライシュ族の有力者たちの前で、勇敢にも父の背中を清めに来たのです。

預言者の祈りは個人的な恨みによるものではなく、かれらが人々をアッラーの道から妨げていたからでした。イブン・マスウードは、数年後にバドルで**かれら全員**が殺されたのを自分の目で見たと誓っています。これは、アッラーの使徒 ﷺ の祈りが聞き届けられたことの証拠です。

教訓：苦しめられても**崇拝において忍耐する**こと、そして、たとえ一人でも**真理を守る**勇気を持つことです。ファーティマ رضى الله عنها のように。

預言者を守ったアブー・バクル

ウルワ・ブン・アッ＝ズバイルは、アブドッラー・ブン・アムル رضى الله عنهما に、多神教徒がアッラーの使徒 ﷺ に対して行った最もひどい仕打ちについて尋ねました。アブドッラーは、預言者が礼拝していたときに**ウクバ・ブン・アビー・ムアイト**がやって来て、自分の衣を預言者の首に巻きつけ、**強く締め上げた**のを見たと答えました（『サヒーフ・ブハーリー』3678）。

アブー・バクル رضى الله عنه が来てウクバを押しのけ、こう言いました。「**あなたがたは、『わたしの主はアッラーである』と言うだけで、一人の男を殺そうとするのか。しかもかれは、あなたがたの主からの明証をもって来ているのに。**」

フィルアウンの一族の信者の言葉

アブー・バクルのこの言葉は**クルアーンからの引用**でした。預言者ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ をかばったフィルアウン（ファラオ）の一族の信者の言葉です（赦すお方章 40:28）。緊迫した場面で、アブー・バクルは暴力ではなく啓示の言葉によって、アッラーの使徒 ﷺ を守ったのです。

スィーラ書によれば、アブー・バクル自身も預言者を守り宣教したために、誰だか見分けがつかないほどひどく殴られたことがありました。それでもかれは自分のことより先に、アッラーの使徒 ﷺ の様子を尋ねたといいます。この伝承は**スィーラ書**によるもので、二大真正集にはありません。

教訓：**真の友**とは、困難なときにそばにいる人です。アブー・バクルは信仰しただけでなく、愛する人を守るために危険を引き受ける覚悟がありました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

弱い者たちへの迫害

ハーシム家に守られたアッラーの使徒 ﷺ でさえ苦しめられたのですから、**奴隷や後ろ盾のない人々**はなおさらでした。かれらは最も過酷な迫害を受けました。第 3 巻でかれらを紹介しましたが、ここではかれらが経験した試練を見ていきます。

スィーラの注：ビラールと「アハド、アハド」

スィーラ書によれば、主人の**ウマイヤ・ブン・ハラフ**は、真昼にマッカの焼けつく砂の上にビラールを寝かせ、胸に大きな石を載せて、偶像崇拝に戻るよう迫りました。ビラールはただ繰り返しました。「**アハド、アハド（唯一なる御方、唯一なる御方）**」。

イブン・マージャ（第 150 番、ハサンと評価）がイブン・マスウードから伝える伝承は、最初にイスラームを公にした七人について述べ、ビラールが**アッラーのためなら自分の身を顧みなかった**ため、かれらはかれをマッカの路地で引きずり回したが、かれは「アハド、アハド」と言い続けたと伝えています。

参照：

ウィキペディア「ビラール・ブン・ラバーフ」。en.wikipedia.org/wiki/Bilal_ibn_Rabah

スィーラの注：アンマールと強制に関する節

イブン・カスィールは、**16:106 の節**が**アンマール・ブン・ヤースィル**について下されたと伝えています。かれは拷問を受けて不信の言葉を口にさせられ、泣きながらアッラーの使徒 ﷺ のもとに来ました。預言者がかれの心はどうかと尋ねると、アンマールは、心は信仰によって安らいでいると答えました。この伝承はタフスィール書にあるもので、**二大真正集にはありません。**

参照：

『イブン・カスィールのタフスィール』16:106 tafsir.app/ibn-katheer/16/106

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

この節は、「**強制されても、心は信仰に安らいでいる者**」に免責を与えています。この節から学者たちは、**命を脅かす強制**のもとでは、心が信仰を保っている限り、言葉の罪は問われないという規定を導きました。『イブン・カスィールのタフスィール』16:106。

一方、アンマールの母**スマイヤ**と父**ヤースィル**は屈しない道を選び、信仰のために殺されました。スマイヤは**イスラームにおける最初の殉教者**となったのです（第 3 巻）。二つの選択はどちらも認められています。軽減（ルフサ）と堅持（アズィーマ）です。

教訓：イスラームは**現実的で慈悲に満ちた**宗教です。殉教者たちの堅固さを尊ぶと同時に、耐えられない者には軽減を与えるのです。

「だが、あなたがたは急いでいる」

長引く迫害のため、一部の教友は訴えに来ました。焼けた鉄で拷問されたことのある鍛冶屋の**ハッバーブ・ブン・アル＝アラット** رضى الله عنه はこう語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3612 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ الْمُثَنَّى، حَدَّثَنَا يَحْيَى، عَنْ إِسْمَاعِيلَ، حَدَّثَنَا قَيْسٌ، عَنْ خَبَّابِ بْنِ الأَرَتِّ، قَالَ شَكَوْنَا إِلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَهُوَ مُتَوَسِّدٌ بُرْدَةً لَهُ فِي ظِلِّ الْكَعْبَةِ، قُلْنَا لَهُ أَلاَ تَسْتَنْصِرُ لَنَا أَلاَ تَدْعُو اللَّهَ لَنَا قَالَ «كَانَ الرَّجُلُ فِيمَنْ قَبْلَكُمْ يُحْفَرُ لَهُ فِي الأَرْضِ فَيُجْعَلُ فِيهِ، فَيُجَاءُ بِالْمِنْشَارِ، فَيُوضَعُ عَلَى رَأْسِهِ فَيُشَقُّ بِاثْنَتَيْنِ، وَمَا يَصُدُّهُ ذَلِكَ عَنْ دِينِهِ، وَيُمْشَطُ بِأَمْشَاطِ الْحَدِيدِ، مَا دُونَ لَحْمِهِ مِنْ عَظْمٍ أَوْ عَصَبٍ، وَمَا يَصُدُّهُ ذَلِكَ عَنْ دِينِهِ، وَاللَّهِ لَيُتِمَّنَّ هَذَا الأَمْرَ حَتَّى يَسِيرَ الرَّاكِبُ مِنْ صَنْعَاءَ إِلَى حَضْرَمَوْتَ، لاَ يَخَافُ إِلاَّ اللَّهَ أَوِ الذِّئْبَ عَلَى غَنَمِهِ، وَلَكِنَّكُمْ تَسْتَعْجِلُونَ».

訳：

ハッバーブ・ブン・アル＝アラット رضى الله عنه は言った。わたしたちは、カアバの陰で外套を枕にしておられたアッラーの使徒 ﷺ に訴えた。わたしたちは言った。「わたしたちのために助けを求めてくださらないのですか。わたしたちのためにアッラーに祈ってくださらないのですか。」預言者は言われた。「**あなたがた以前の民の中には、地に穴を掘られてその中に入れられ、頭にのこぎりを当てられて真っ二つに裂かれた者がいた。それでもかれは自分の宗教から離れなかった。鉄の櫛で梳かれ、骨と神経から肉をはがされた者もいた。それでもかれは自分の宗教から離れなかった。アッラーにかけて、アッラーは必ずこの事業（宗教）を完成なさる。そしてサンアーからハドラマウトまで、旅人がアッラー以外の何ものも恐れず、ただ羊のために狼を心配するだけで旅できるようになる。だが、あなたがたは急いでいる。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・アル＝ムサンナー ← ヤフヤー・ブン・サイード・アル＝カッターン ← イスマーイール・ブン・アビー・ハーリド ← カイス・ブン・アビー・ハーズィム ← ハッバーブ・ブン・アル＝アラット رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』美徳の書、イスラームにおける預言者性のしるしの章、ハディース第 3612 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:3612

このハディースの教訓

アッラーの使徒 ﷺ はかれらの苦しみを否定されませんでしたが、**三つのこと**を与えられました。歴史の視点（以前の信者たちはもっと重い試練を受けた）、未来への確信（この宗教は必ず勝利する）、そして優しい戒め（「**だが、あなたがたは急いでいる**」）です。

このハディースには**予告の奇跡**も含まれています。この言葉が語られたとき、ムスリムはマッカで迫害される小さな集団にすぎませんでした。それから二十年足らずのうちに、アラビア半島全体――サンアーからハドラマウトまで――がイスラームの平和のもとに置かれたのです。

教訓：勝利は**必ず訪れます**。ただし、それは私たちの時ではなく、アッラーの定めた時です。忍耐は信仰の一部なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

解放のための財産

スィーラの注：自由を買い取ったアブー・バクル

スィーラ書によれば、**アブー・バクル** رضى الله عنه は自分の財産を使って、信仰のために拷問されていた奴隷たちを買い取り、解放しました。その中には**ビラール・ブン・ラバーフ**、**アーミル・ブン・フハイラ**、そして**ズィンニーラ**や**ウンム・ウバイス**といった女性の奴隷たちがいました。

父のアブー・クハーファは「なぜお前を守ってくれる屈強な男たちを解放しないのか」とたしなめました。アブー・バクルは、**ただアッラーのためだけに**そうしているのだと答えました。イブン・カスィールは、夜章の最後の節（92:17–21）がアブー・バクルについて下されたと述べています。

参照：

『イブン・カスィールのタフスィール』92:17–21 tafsir.app/ibn-katheer/92/17

この点でのアブー・バクルの地位は、ウマル رضى الله عنه 自身も認めていました。かれは「**アブー・バクルはわたしたちの主人であり、かれはわたしたちの主人を解放した**」と言ったのです。それはビラールのことでした（『サヒーフ・ブハーリー』3754）。

宣教の手段としての財産

アブー・バクルは戦いもせず、仕返しもしませんでした。かれは**財産**を使って、当時の社会の法に従い自由を買い取るという、平和的で正当な方法で問題を解決したのです。この行いは命を救い、人間の尊厳を高めました。

教訓：信者の手にある財産は**解放の道**となりえます。今日、孤児を支え、困窮した人の借金を返し、教育を援助することは、アブー・バクルの模範を受け継ぐものです。

なぜ彼らは揺るがなかったのか

弱い立場の奴隷たちは、元の宗教に戻れば平穏に暮らせたはずなのに、なぜ拷問に耐えたのでしょうか。スィーラとクルアーンはいくつかの答えを示しています。

理由	説明
信仰の甘美さ	偶像崇拝では一度も味わったことのない、生きる意味を知った。
人間としての尊厳	イスラームはかれらを、他人の所有物ではなく対等な人間として尊んだ。
アッラーの使徒の模範🕋	預言者ご自身が苦しめられながらも、忍耐強く揺るがなかった。
来世の約束	マッカ期のクルアーンは天国と審判の日を数多く描いている。
兄弟愛	ダール・アル＝アルカムで互いに支え合い、誰も一人で試練を受けなかった。
預言者たちの物語	ムーサー、イブラーヒーム、ヌーフの物語は、試練が使徒たちの道であることを示した。

この時期に下された章の多くは短い**マッカ期の章**で、**信仰、来世、預言者たちの物語**に満ちています。クルアーンそのものがかれらの教師となり、心の支えとなったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーの法則としての試練

クルアーンはこう戒めています。「**人びとは『わたしたちは信じます』と言うだけで、試みられることなく放っておかれると考えるのか**」（蜘蛛章 29:2）。試練はアッラーの嫌悪のしるしではなく、真実な者と偽る者とをアッラーが**見分ける**方法なのです。

教訓：強い信仰は**知識、模範、兄弟愛、そして来世への希望**によって築かれます。この四つの要素は、今日試練に遭うすべてのムスリムにとって今も必要なものです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

星章とともに捧げられたサジダ

この数年の間に驚くべき出来事が起きました。イブン・アッバース رضي الله عنهما によれば、預言者 ﷺ が**星章**を読誦して**サジダ**されると、ムスリムたち、**多神教徒たち**、ジンと人間がともにサジダしたといいます（『サヒーフ・ブハーリー』1071）。

学者たちは、多神教徒もサジダしたのは、**読誦の素晴らしさに心を奪われた**からであり、また「それでアッラーにサジダして、仕えなさい」（星章 53:62）という胸を打つ章の結びのためだと説明しています。かれらはとっさにサジダし、その後また不信に戻りました。

スィーラの注：「ガラーニーク」の話――退けられた伝承

一部の歴史書には、預言者が星章を読誦していたとき、悪魔がクライシュ族の偶像をたたえる言葉を紛れ込ませ、多神教徒たちは喜んでサジダしたという話が載っています。これは「**ガラーニークの話**」として知られています。

イブン・カスィールは、その伝承経路はすべて**ムルサル（途中の伝承者が欠けたもの）**で真正ではないと述べています。多くの学者は、啓示を守るというアッラーの保証（アル・ヒジュル章 15:9）や、偶像への賛辞について**何も述べていない**上記の真正な伝承と矛盾するとして、これを退けています。

参照：

『イブン・カスィールのタフスィール』22:52 tafsir.app/ibn-katheer/22/52

教訓：真正な出来事だけで、敵さえもサジダさせる**クルアーンの力**を示すには十分です。啓示の神聖さを汚す話は必要なく、むしろ退けなければなりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

最初のハバシャへの移住

迫害がいっそう激しくなると、アッラーの使徒 ﷺ は教友たちを守る道を探されました。スィーラ書によれば、預言者はかれらに**ハバシャ（エチオピア）**へ移住するよう勧められました。そこには**誰も虐げない一人の王**がいたからです。

スィーラの注：最初の一団

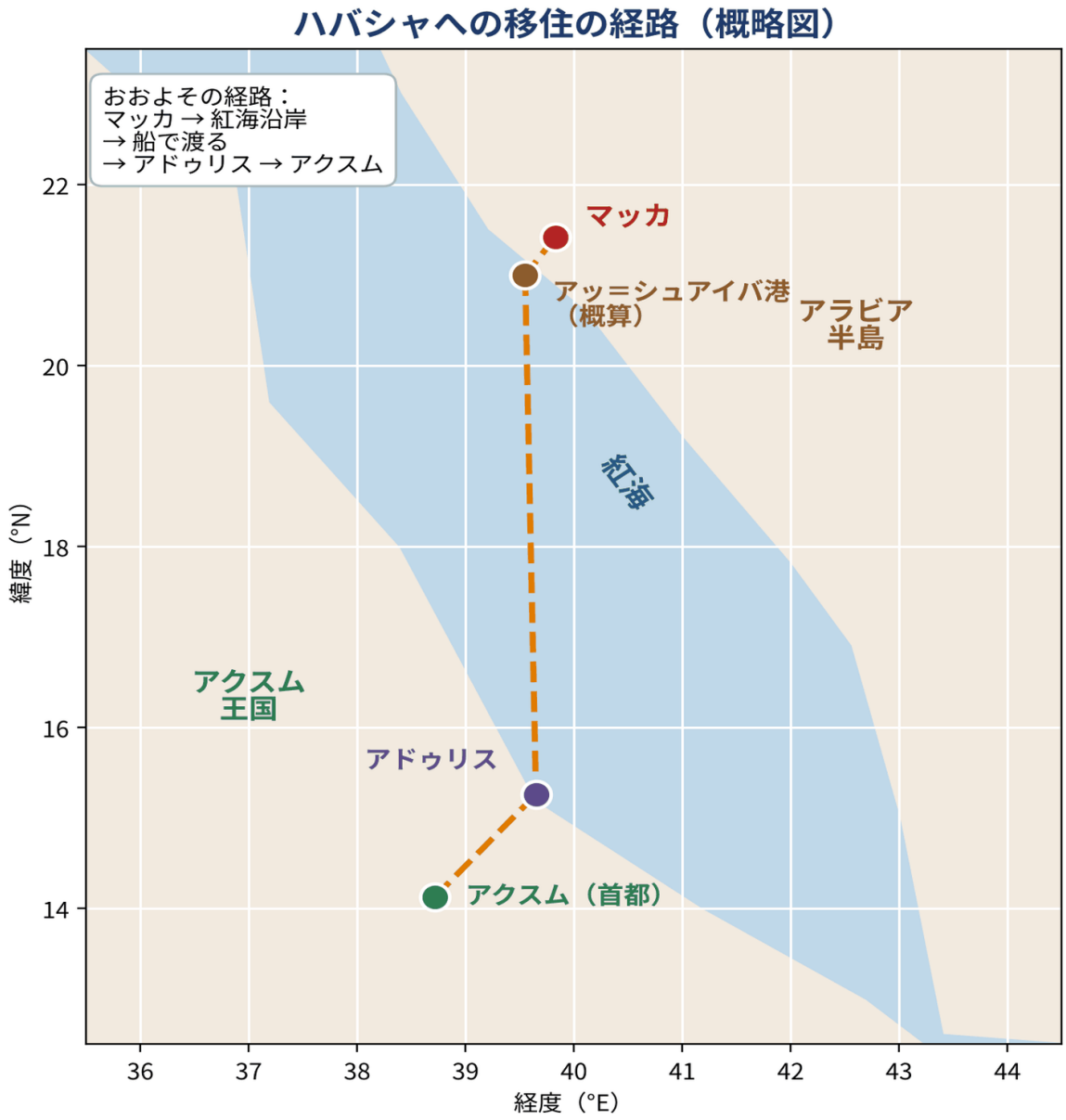
ウィキペディアによれば、最初の移住は**預言者の使命から 5 年目のラジャブ月（615 年頃）**に行われました。一団は**男性 11 人と女性 4 人**からなり、**ウスマーン・ブン・マズウーン**が率いていました。

その中には**ウスマーン・ブン・アッファーン**とその妻**ルカイヤ**――アッラーの使徒 ﷺ の娘――がいました。かれらはひそかに紅海の海岸へ向かい、船でハバシャへ渡りました。

参照：

ウィキペディア「Migration to Abyssinia」。en.wikipedia.org/wiki/Migration_to_Abyssinia

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |



座標と海岸線は概算。出典：ウィキペディア「Migration to Abyssinia」「Kingdom of Aksum」「Adulis」。

図 3：ハバシャへの移住の経路（概略図）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イスラームにおける最初の移住

ハバシャへの移住は、マディーナへの移住の**約七年前**に行われました。それは、信仰を守るために故郷を離れることが**預言者たちと教友たちの道（スンナ）**であり、敗北のしるしではないことを示しています。

アッラーの使徒 ﷺ の娘自身も移住したことに注目してください。預言者は宣教の苦難から**自分の家族を除外しませんでした**。これもまた、模範によって導くリーダーシップの一例です。

教訓：住んでいる場所で宗教を実践することがもはや安全でなくなったとき、イスラームは**より安全な場所を求める**ことを認め、むしろ勧めています。

アクスム王国：公正な王の国

スィーラの注：アクスム王国

ウィキペディアによれば、**アクスム王国**は、現在のエリトリアとエチオピア北部にあった大きな交易王国で、首都は**アクスム**でした。紅海沿岸の主要な港**アドゥリス**が、この王国をローマ、ペルシア、アラビア、インドと結んでいました。

アクスムは西暦 4 世紀に**キリスト教**を受け入れました。その王は**ナジャーシー**（ネグス）と呼ばれました。教友たちを受け入れた王は、真正なハディースでは**アスハマ**という名で知られています。

参照：

ウィキペディア「Kingdom of Aksum」。en.wikipedia.org/wiki/Kingdom_of_Aksum

ウィキペディア「Adulis」。en.wikipedia.org/wiki/Adulis

なぜハバシャなのか

要因	説明
公正な王	アッラーの使徒 ﷺ は、その王を誰も虐げない王と呼ばれた（スィーラ書）。
クライシュ族の力の及ばない地	クライシュ族は海の向こうでは政治的影響力を持たなかった。
交易の結びつき	マッカの人々は交易を通じてハバシャをすでに知っていた。
啓典の民	キリスト教は偶像崇拝よりも唯一神信仰に近かった。

この選択は、預言者が**国際的な政治情勢を見極める**知恵を持っていたことを示しています。預言者は最も近い国ではなく、最も安全な国を選ばれたのです。

教訓：ムスリムは**公正な非イスラームの統治者**のもとに保護を求め、協力することができます。公正さは、どこで見いだされても尊ばれるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

二度目の移住とクライシュ族の使節

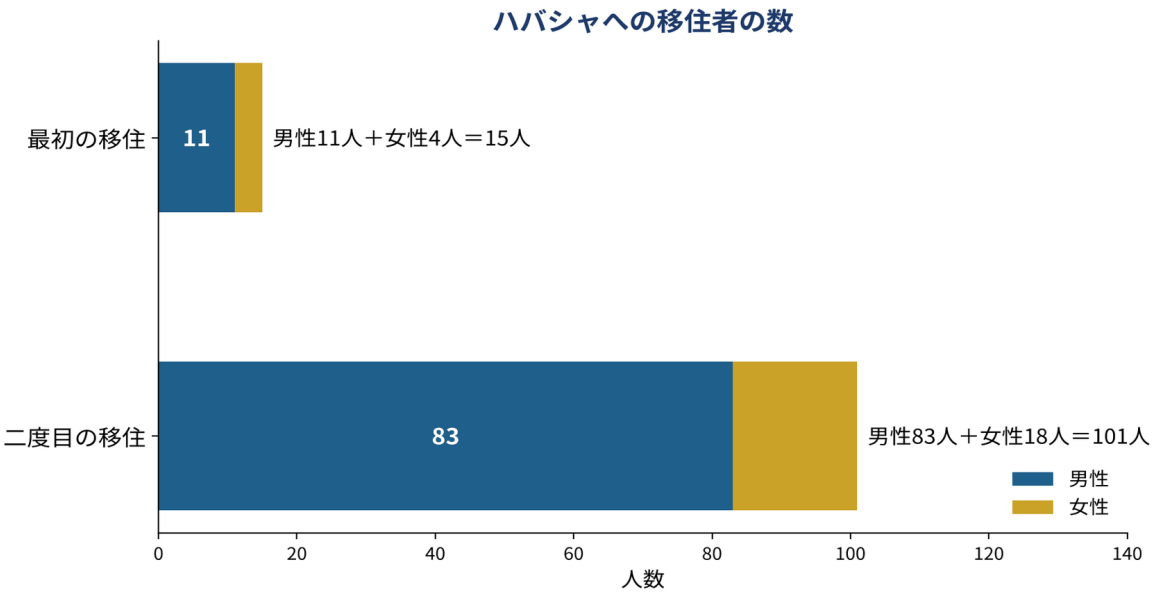
スィーラの注：誤った知らせと第二の一団

ウィキペディアによれば、ハバシャにいた移住者たちは**マッカの人々がイスラームに入信したという知らせ**を耳にしました。一部の者はマッカへ戻りましたが、その知らせが**誤り**だとわかり、より大きな一団とともにハバシャへ戻りました。

第二の一団（**616 年**頃）は、**ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ**が率いました。かれはアッラーの使徒 ﷺ のいとこです。ある伝承によれば、一団は**男性 83 人と女性 18 人**からなっていました。

参照：

ウィキペディア「Migration to Abyssinia」。en.wikipedia.org/wiki/Migration_to_Abyssinia



数字はウィキペディア「Migration to Abyssinia」が引く有名な伝承（イブン・イスハーク）による。他の資料では多少異なる。

図 4：ハバシャへの二つの一団の移住者数。

ナジャーシーの宮廷へのクライシュ族の使節

クライシュ族はかれらを平穏に暮らさせてはおきませんでした。ウィキペディアとスィーラ書によれば、クライシュ族は二人の使節――**アムル・ブン・アル＝アース**と**アブドゥッラー・ブン・アビー・ラビーア**――に贈り物を持たせてナジャーシーと司祭たちのもとへ送り、移住者たちを引き渡すよう求めました。

ナジャーシーは、移住者たち自身から**説明を聞く前に**かれらを引き渡すことを拒みました。これこそ公正な王の姿です。一方の主張だけで裁くことはしなかったのです。

教訓：**双方の言い分を聞く**ことは公正の基本です。クルアーンもまた、行動する前に知らせを確かめるよう命じています（部屋章 49:6）。

ナジャーシーの前でのジャアファルの演説

スィーラの注：王の心を変えた演説

この話は、自らも移住した**ウンム・サラマ** رضي الله عنها が『**ムスナド・アフマド**』（第 1740 番）で伝えており、シュアイブ・アル＝アルナウートはその伝承経路を**ハサン（良好）**と評価しています。ジャアファル・ブン・アビー・ターリブはナジャーシーの前に立ち、要約すると次のように述べました。

「王よ、わたしたちはかつて無明（ジャーヒリーヤ）の民でした。偶像を崇拝し、死肉を食べ、醜い行いをし、親族の絆を断ち、隣人を苦しめ、強い者が弱い者を虐げていました。そこへアッラーが、その家柄も、誠実さも、信頼性も、清廉さもわたしたちがよく知る一人の使徒を遣わされました。かれはわたしたちに、唯一のアッラーを崇拝し、真実を語り、預かり物を返し、親族の絆を保ち、隣人に善くするよう呼びかけたのです。」

それからジャアファルは**マルヤム章の冒頭**を読誦しました。ナジャーシーはひげが濡れるほど泣き、司祭たちも泣きました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

二日目の試練：預言者イーサーについて

翌日、アムル・ブン・アル＝アースは、ムスリムが**預言者イーサー** عَلَيْهِ السَّلَامُ について重大なことを言っていると述べて、王の怒りをかき立てようとしました。ジャアファルはクルアーンの教えに従って正直に答えました。イーサーは**アッラーのしもべであり、その使徒であり、かれからの霊であり、その御言葉**であって、清らかなマルヤムに授けられたのだと。

同じ伝承によれば、ナジャーシーは小さな棒切れを取り上げ、自分の信じることとジャアファルの言ったこととの違いは**この棒切れほどもない**と言いました。かれはクライシュ族の贈り物を返し、移住者たちに完全な保護を与えました。

ジャアファルの演説の特徴	教訓
過去について正直である	無明時代の悪を隠さずに認めた。
品性に焦点を当てる	誠実さ、信頼、親族の絆といった普遍的な価値を前面に出した。
クルアーンを読誦する	啓示そのものに心を動かさせた。
信仰の内容を変えない	危険があってもイーサーについての質問に正直に答えた。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ナジャーシー：葬儀の礼拝を捧げられた王

ナジャーシーは何年にもわたり移住者たちを守り続けました。そして**ヒジュラ暦 9 年**（630 年）、マディーナに胸を打つ知らせが届きました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3877 番

حَدَّثَنَا أَبُو الرَّبِيعِ، حَدَّثَنَا ابْنُ عُيَيْنَةَ، عَنِ ابْنِ جُرَيْجٍ، عَنْ عَطَاءٍ، عَنْ جَابِرٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم حِينَ مَاتَ النَّجَاشِيُّ «مَاتَ الْيَوْمَ رَجُلٌ صَالِحٌ، فَقُومُوا فَصَلُّوا عَلَى أَخِيكُمْ أَصْحَمَةَ».

訳：

ジャービル رضى الله عنه は言った。ナジャーシーが亡くなったとき、預言者 ﷺ は言われた。「**今日、一人の正しい人が亡くなった。立ち上がって、あなたがたの兄弟アスハマのために礼拝しなさい。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブッ＝ラビーウ・アッ＝ザハラーニー ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← イブン・ジュライジ ← アターウ・ブン・アビー・ラバーフ ← ジャービル・ブン・アブディッラー رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、ナジャーシーの死の章、ハディース第 3877 番。ムスリム（第 952 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:3877

このハディースの教訓

アッラーの使徒 ﷺ はハバシャの王を「**一人の正しい人**」、「**あなたがたの兄弟**」と呼び、マディーナで教友たちとともに、その場にいない故人のための葬儀の礼拝（ガーイブの礼拝）を捧げられました。これは、ナジャーシーが**イスラームに入信していた**ことを示しています。

ハバシャからの最後の移住者たちは、ハイバル征服と同じ **628 年**にマディーナへ帰りました。かれらは約十三年間、公正な王の庇護のもとで平穏に暮らしたのです。

教訓：**善行は忘れられません。**自国で信者たちを守った王は、アッラーの使徒 ﷺ によって尊ばれ、その名は最も真正なハディース集に刻まれました。

ハムザとウマルの入信

スィーラの注：守護の獅子ハムザ

ウィキペディアによれば、**ハムザ・ブン・アブドルムッタリブ**――アッラーの使徒 ﷺ のおじであり乳兄弟――は、**616 年末**にイスラームに入信しました。狩りから戻ったかれは、**アブー・ジャハル**が甥を罵ったことを知りました。かれはカアバへ行き、弓でアブー・ジャハルを打って預言者を支持すると宣言し、その後ダール・アル＝アルカムで入信したのです。

かれは後に**ウフドの戦い**（625 年）で殉教し、**サイイド・アッ＝シュハダー**（殉教者たちの長）と呼ばれました。

参照：

ウィキペディア「Hamza ibn Abd al-Muttalib」。en.wikipedia.org/wiki/Hamza_ibn_Abd_al-Muttalib

まもなく、イスラームに非常に厳しかったもう一人のクライシュ族の有力者が完全に変わりました。**ウマル・ブン・アル＝ハッターブ** رضى الله عنه です。かれの入信がもたらした影響を、アブドッラー・ブン・マスウードはこう述べています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3863 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ كَثِيرٍ، أَخْبَرَنَا سُفْيَانُ، عَنْ إِسْمَاعِيلَ بْنِ أَبِي خَالِدٍ، عَنْ قَيْسِ بْنِ أَبِي حَازِمٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ مَسْعُودٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ مَا زِلْنَا أَعِزَّةً مُنْذُ أَسْلَمَ عُمَرُ.

訳：

アブドッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه は言った。「**ウマルがイスラームに入信して以来、わたしたちはずっと誇り高く（強く）あり続けた。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・カスィール ← スフヤーン・アッ＝サウリー ← イスマーイール・ブン・アビー・ハーリド ← カイス・ブン・アビー・ハーズィム ← アブドッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضى الله عنه の入信の章、ハディース第 3863 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:3863

このハディースの教訓

スィーラ書によれば、ウマルはアッラーの使徒 ﷺ を殺そうとして出かけましたが、妹**ファーティマ・ビント・アル＝ハッターブ**の家に立ち寄り、**ター・ハー章**の読誦を聞いて心が開かれました。この話の詳細は**スィーラ書**によるもので、その伝承の一部は弱いものです。確かなのは、かれの入信と、上記の真正なハディースに示されたその影響です。

ハムザとウマルの入信はマッカの力関係を変えました。ムスリムは**カアバのそばで公然と礼拝する**勇気を持ち始めたのです。しかしそれはクライシュ族の不安も強め、かれらはやがてハーシム家に対する**ボイコット**という、さらに厳しい手段に出ました。

教訓：誰に対しても**決して絶望してはなりません**。今日イスラームに最も厳しい敵が、明日には最も力強い擁護者になるかもしれないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

真正な伝承と有名な話のあいだ

公然の宣教とハバシャへの移住の時期については、多くの話が世間に広まっています。次の表は、真正なもの、スィーラ書によるもの、弱いもの・退けられたものを区別しています。

話とその評価

有名な話	評価
近親への預言者の呼びかけ：「自分自身を救いなさい」。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』4771）。
サファーの丘での呼びかけとアブー・ラハブの返答。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』4770）。
「わたしの右手に太陽を、左手に月を」。	弱い。イブン・イスハークが途切れのない伝承経路なしに伝える。
サジダ中の預言者の背中にラクダの胎盤が置かれた。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』240）。
預言者の首を絞めたウクバをアブー・バクルが押しのけた。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3678）。
拷問されたビラールが「アハド、アハド」と言った。	ハサン（『スナン・イブン・マージャ』150）およびスィーラ書。
多神教徒が星章とともにサジダした。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』1071）。
「ガラーニーク」の話（偶像への賛辞）。	退けられる。すべての経路がムルサル（イブン・カスィール）。
ナジャーシーの前でのジャアファルの演説。	ハサン（『ムスナド・アフマド』1740）。
ナジャーシーのための不在者の葬儀の礼拝。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3877）。
ウマルが妹の家でター・ハー章を聞いた。	スィーラ書。伝承の一部は弱い。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

省察

アッラーの使徒 ﷺ と教友たちの忍耐についての真正な話だけで、**信仰を強める**には十分です。かれらを敬愛するのに、弱い伝承は必要ありません。

このシリーズの重要な場所

本書は、カアバのそばの小さな丘から、紅海の向こうにある王国の首都までを旅します。この章では、教友たちが信仰を守るために越えた距離を思い描けるよう、それらの場所を一つの表にまとめました。

場所の表

表の距離はカアバからの**直線距離の概算**で、現代の座標から計算したものです。実際の陸路と海路はずっと長くなります。位置がおおよそしかわからない場所には「概算」と記しました。

場所	このシリーズとの関わり	距離／現在の状況
サファーの丘	預言者が立ってクライシュ族の諸氏族に呼びかけた場所（『サヒーフ・ブハーリー』4770）。	カアバから約 130m。現在はマスジド・ハラームの建物の中にある。
マルワの丘	サファーと対をなす丘。両者の間がサアイ（往復の行）の場所。	サファーから約 450m。現在はマスジド・ハラームの中にある。
アブー・クバイス山	サファーの丘がそのふもとにある大きな山。	マスジド・ハラームの東側に隣接。
カアバとイスマーイールのヒジュル	預言者がサジダ中に苦しめられ（『サヒーフ・ブハーリー』240）、首を絞められた（『サヒーフ・ブハーリー』3678）場所。	聖モスクの中央。
アッ＝シュアイバ港	移住の一団が商船に乗り込んだマッカの古い港。	紅海沿岸、現在のジッダの南（正確な位置は概算）。
アドゥリス	アクスムの主要な港。最初の一団が上陸した可能性が高い場所。	現在のエリトリア沿岸。マッカから約 685km（概算）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

場所	このシリーズとの関わり	距離／現在の状況
アクスム	ナジャーシーの王国の首都。	エチオピア北部。マッカから約 820km、アドゥリスから約 160km（概算）。
ネガシュ	地元の伝承でナジャーシーの墓と結びつけられている村。	エチオピアのティグライ州。マッカから約 840km（概算）。

出典：Wikipedia, “Safa and Marwa”；Wikipedia, “Migration to Abyssinia”；Wikipedia, “Kingdom of Aksum”；Wikipedia, “Negash”。

今日のサファーの丘

ウィキペディアによれば、サファーの丘はカアバの南東約 **130 メートル**、**アブー・クバイス山**のふもとにあり、マルワはカアバの北東約 300 メートルにあります。両者の距離は約 **450 メートル**で、サアイの 7 往復はおよそ 3.15 キロメートルになります。今日では二つの丘はマスジド・ハラームの建物の中にあり、サアイの通路（アル＝マスアー）は冷房が効き、ザムザムの水も用意されています。

巡礼やウムラでサファーからサアイを始める人は皆、アッラーの使徒 ﷺ が「もしわたしが、この谷の向こうに騎馬隊がいると告げたなら……」と人々に呼びかけたその場所に立っているのです。かつて拒絶を目撃した丘が、今ではその呼びかけに応える何百万もの人々を目撃しています。

出典：Wikipedia, “Safa and Marwa”。

教訓

かつて拒絶の証人であった場所も、アッラーの御許しによって受け入れの証人となりえます。宣教者は自分の努力の成果をその日だけで判断しません。サファーで蒔かれた種は、何年も、いや何世紀も後に実を結んだのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

紅海を渡る

ハバシャへの移住は、後のマディーナへの移住のような陸路の旅ではありませんでした。教友たちはひそかにマッカを離れ、海岸へ向かい、海を渡らなければなりませんでした。ラクダの隊商に慣れた多くのマッカの人々にとって、それはなじみのないことでした。

数字で見る紅海

ウィキペディアによれば、紅海の長さは約 **2,250 キロメートル**、最も広いところの幅は約 **355 キロメートル**です。南端には**バーブ・アル＝マンデブ**海峡があり、最も狭いところの幅は約 **26 キロメートル**で、アラビア半島とアフリカ大陸を隔てています。

教友たちの一団はバーブ・アル＝マンデブで渡ったのではなく、マッカ近くのアッ＝シュアイバ港から出航し、対岸のアフリカ沿岸へまっすぐ向かいました。

出典：Wikipedia, “Red Sea”；Wikipedia, “Bab-el-Mandeb”。

スィーラの注：商船と半ディーナールの船賃

イブン・サアドによれば（ウィキペディアの引用による）、最初の一団はアッ＝シュアイバ港へ出て、ちょうど出航しようとしていた二隻の商船を見つけました。かれらは一人**半ディーナール**の船賃でそれに乗り込みました。追ってきたクライシュ族は海岸まで来ましたが、船はすでに出航していました。

歴史家は、一団はおそらくアクスムの主要な港**アドゥリス**に上陸し、そこから陸路で首都へ向かったと述べています。この詳細はスィーラ書や歴史書によるもので、真正なハディースによるものではありません。

出典：Wikipedia, “Migration to Abyssinia”；Madain Project, “Migration to Abyssinia”。

アラブとハバシャ：互いをよく知る隣人

マッカの人々にとってハバシャはなじみのない国ではありませんでした。クライシュ族の商人たちはそこを行き来しており、両民族の歴史は古くから結びついていました。ウィキペディアによれば、アクスムのカレブ王は **518 年から 525 年**の間に、キリスト教徒を迫害したズー・ヌワースと戦うためイエメンに軍を送り、アクスムは一時期アラビア半島南部を支配しました。

このハバシャによるイエメン支配の中から現れたのが**アブラハ**で、かれは後に象の年にカアバを破壊しようとしました（第 1 巻参照）。イエメンにおけるハバシャの支配は、570 年代頃にペルシアがこの地を征服したことで終わりました。こうして教友たちが移住する頃には、アクスムとペルシアは競い合う二大勢力となっており、クライシュ族はナジャーシーの宮廷に何の影響力も持っていなかったのです。

出典：Wikipedia, “Kingdom of Aksum”。

実に興味深いことに、かつてカアバを攻撃するためにアブラハを送った王国が、二世代後には、カアバの主を崇拝する人々の避難所となったのです。アッラーはその英知によって状況を一変させられます。

教訓

移住には計画と勇気が必要でした。ひそかに出発し、船賃を払い、なじみのない海を越えることです。タワックル（アッラーへの信頼）とは座って待つことではなく、全力を尽くしたうえで結果をアッラーに委ねることなのです。

歴史の足跡：考古学の記録に見るアクスム王国

アクスム王国はスィーラ書の中の名前にすぎないものではありません。それは、今日も見ることのできる硬貨、碑文、石碑を残しています。この章ではいくつかの確かな事実を取り上げ、なお議論のあることははっきりと示します。

世界の四大勢力の一つ

ウィキペディアによれば、西暦 3 世紀末、マーニー（マニ教の創始者）はアクスムを、ローマ、ペルシア、中国と並ぶ**世界の四大勢力**の一つに数えました。アクスムはエンディビス王の時代（270–310 年頃）に独自の硬貨――金貨、銀貨、銅貨――の発行を始め、アクスムの硬貨はパレスチナのカイサリアや南インドでも見つかっています。

エザナ王は 325–330 年頃にキリスト教に改宗しました。かれの硬貨と碑文には、340 年頃に三日月と円盤の象徴から十字架の象徴への移り変わりが見られます。そのため、教友たちの時代のハバシャは、すでに三世紀近く続くキリスト教王国だったのです。

出典：Wikipedia, “Kingdom of Aksum”。

アクスムの石碑

アクスムの遺跡は **1980 年にユネスコ世界遺産**に登録されました。巨大な彫刻入りの石碑（ステラ）や、王たちの地下墓所で知られています。最大の石碑は、もし立っていれば高さ約 **33 メートル**になると推定されていますが、倒れて折れてしまっています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

出典：World Heritage Site, “Aksum”；Wikipedia, “Kingdom of Aksum”。

歴史の注：アルマ王はナジャーシーなのか

アクスムの最後の硬貨は 7 世紀初め頃に発行されたもので、その中には**アルマ**という名の王の名で発行されたものがあります。ウィキペディアによれば、1895 年以来、一部の学者はアルマを教友たちを守ったナジャーシーだと提唱してきました。しかしこの説は**確認されていません**。アルマを別の王と結びつける学者もおり、その治世の年代もなお議論されています。

真正なハディースはナジャーシーの名を**アスハマ**としています（『サヒーフ・ブハーリー』3877）。アラビア語の資料にはこの名のいくつかの異なる綴りも記録されています。現存する証拠はまだ十分ではないため、本書ではかれを硬貨上のどの名とも同一視していません。

出典：Wikipedia, “Armah”；Wikipedia, “Najashi”。

ネガシュのナジャーシー・モスク

エチオピア北部ティグライ州の**ネガシュ**村には、**ナジャーシー・モスク**として知られる古いモスクがあります。ウィキペディアはネガシュをアフリカ最古のムスリムの集落と記しています。地元の伝承によれば、ナジャーシーは何人かの教友とともにそこに葬られており、ある報告ではその数は十二人とされています。『フトゥーフ・アル＝ハバシャ』は、アフマド・ブン・イブラーヒーム・アル＝ガーズィーが 1537 年頃にその墓を訪れたことを記しています。

このモスクはトルコの機関 TIKA によって 2015 年から 2018 年にかけて修復されましたが、2020 年末に始まったティグライ紛争で大きな被害を受け、再び修復する計画が発表されています。

注：伝承と伝承記録のあいだ

真正なハディースが述べているのは、アッラーの使徒 ﷺ がナジャーシーの死を告げ、その場にいない故人のための葬儀の礼拝を捧げられたということだけです（『サヒーフ・ブハーリー』3877）。その墓の場所を述べる真正なハディースはなく、ネガシュに葬られたとされる教友たちの名についても確かな伝承はありません。

したがって、ネガシュの墓は**尊重されるべき地元の伝承**であって、確かめられる事実ではありません。それでも、それはムスリムとハバシャの人々との初期の温かい関係の象徴であり続けています。

出典：Wikipedia, “Negash”；Geeska, “Ethiopia’s Najashi Mosque in the Shadow of the Tigray War”。

教訓

考古学は、アクスムがその時代の大国であり、世界の果ての小国ではなかったことを証明しています。アッラーの使徒 ﷺ は、強く、秩序があり、公正な王国へ教友たちを送ることを選ばれたのです。同時に私たちは、伝承を尊重しつつも、それを真正な伝承記録と同一視しないことを学びます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

このシリーズの人物

次の表は、本書の主な人物――反対した者、迫害された者、移住した者、守った者――をまとめたものです。各情報の出典を示し、スィーラ書による情報には「スィーラ書」と記しました。

反対者たち

人物	本巻での役割	典拠
アブー・ラハブ（アブド・アル＝ウッザー）	サファーでの呼びかけを拒んだ預言者のおじ。かれについて棕櫚章が下された。	『サヒーフ・ブハーリー』4770
ウンム・ジャミール（アルワー・ビント・ハルブ）	アブー・ラハブの妻で、アブー・スフヤーンの姉妹。「薪を運ぶ女」と呼ばれる。	棕櫚章 111:4；スィーラ書
アル＝ワリード・ブン・アル＝ムギーラ	クルアーンの美しさを認めながら、それを魔術だと非難したマフズーム家の指導者。	衣をまとう者章 74:18–25；タフスィール
アブー・ジャハル（アムル・ブン・ヒシャーム）	マフズーム家の最も激しい反対者。バドルの戦いで殺された。	スィーラ書
ウクバ・ブン・アビー・ムアイト	カアバのそばで預言者の首を絞め、アブー・バクルに止められた。	『サヒーフ・ブハーリー』3678
ウマイヤ・ブン・ハラフ	ビラールの主人で、炎天下でかれを拷問した。	スィーラ書
アムル・ブン・アル＝アースとアブドッラー・ブン・アビー・ラビーア	教友たちの送還を求めてナジャーシーの宮廷へ送られたクライシュ族の使節。	『ムスナド・アフマド』1740

教友たちと保護者たち

人物	本巻での役割	典拠
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク	カアバのそばで預言者を守り、ビラールや拷問されていた奴隷たちを解放した。	『サヒーフ・ブハーリー』3678、3754
ビラール・ブン・ラバーフ	唯一神信仰のために拷問され、「アハド、アハド」と言い続けた。	『スナン・イブン・マージャ』150；スィーラ書
ヤースィル、スマイヤ、アンマール	ともに拷問された家族。スマイヤはイスラーム最初の殉教者とされる。	スィーラ書
ハッバーブ・ブン・アル＝アラット	迫害を訴え、預言者は「だが、あなたがたは急いでいる」と言われた。	『サヒーフ・ブハーリー』3612
ウスマーン・ブン・マズウーン	ハバシャへの最初の一団の長。	スィーラ書
ウスマーン・ブン・アッファーンとルカイヤ	最初の一団で移住した者たち。ルカイヤはアッラーの使徒 ﷺ の娘。	スィーラ書
ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ	ナジャーシーの前でムスリムを代表して語った人物。	『ムスナド・アフマド』1740
ウンム・サラマ	移住者の一人。ハバシャへの移住の話の伝承者。	『ムスナド・アフマド』1740
ナジャーシー（アスハマ）	教友たちを守ったハバシャの王。預言者は不在者のための葬儀の礼拝を捧げられた。	『サヒーフ・ブハーリー』3877
ハムザ・ブン・アブドルムッタリブ	イスラームに入信してウンマを強めた預言者のおじ。	スィーラ書
ウマル・ブン・アル＝ハッターブ	かれの入信がムスリムに誇りと力を与えた。	『サヒーフ・ブハーリー』3863

教訓

本巻では、さまざまな立場の人々を見てきました。反対したおじ、忍耐強い奴隷、人々を解放した商人、そして公正な異国の王。尊さの基準は家柄や地位ではなく、真理に対するその人の態度なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年表：スィーラと世界

次の表は、本書の出来事を同じ時代の世界の大きな出来事と並べたものです。西暦の年は概算で、いくつかの出来事の正確な年代については歴史家の間でも意見が分かれています。

年（概算）	マッカとハバシャで	周辺の世界で
518–525 年	—	アクスム（カレブ王）がイエメンのヒムヤルを攻撃。
570–575 年頃	象の年。アッラーの使徒 ﷺ の誕生（第 1 巻）。	ペルシアがイエメンにおけるアクスムの支配を終わらせる。
西暦 613 年ごろ	公然の宣教の命令。サファーの丘での呼びかけ。	ペルシアがローマからアンティオキアとダマスカスを奪う。
614 年頃	嘲笑、非難、迫害が激しくなる。	ペルシアがエルサレムを奪い、「真の十字架」をクテシフォンへ運ぶ。
預言者の使命から 5 年目のラジャブ月（615 年頃）	最初のハバシャへの移住：男性 11 人と女性 4 人（男性 12 人とする伝承もある）。	—
616 年頃	ジャアファルの率いる二度目の移住。クライシュ族の使節は退けられる。ハムザとウマルの入信。	—
618–619 年	クライシュ族の圧力が続く（第 5 巻）。	ペルシアがエジプトとアレクサンドリアを奪う。
ヒジュラ暦 7 年／628 年	ジャアファルの一団がハイバル征服のときにマディーナに到着（『サヒーフ・ブハーリー』4230）。	ローマ・ペルシア戦争が終わり、ローマが領土を取り戻す。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年（概算）	マッカとハバシャで	周辺の世界で
ヒジュラ暦 9 年／630 年	ナジャーシーの死。預言者が不在者のための葬儀の礼拝を捧げられる（『サヒーフ・ブハーリー』3877）。	―

出典：Wikipedia, “Byzantine–Sasanian War of 602–628”；Wikipedia, “Kingdom of Aksum”；Wikipedia, “Migration to Abyssinia”。

教友たちがマッカで迫害されていた頃、世界の二大勢力――ローマとペルシア――は激しく戦っていました。この時期のローマの敗北こそが、ローマの勝利を「数年のうちに」と約束するビザンチン章 30:2–4 の背景です。その約束は、628 年頃にローマが領土を取り戻したことで果たされました。

教訓

当時の世界は、互いの戦いに明け暮れる大帝国に支配されていました。マッカで迫害され、商船で移住した小さな集団が世界の歴史を変えるとは、誰も思いませんでした。真理を固く守る小さな集団を決して侮ってはなりません。

よくある質問

以下は、公然の宣教とハバシャへの移住の時期についてよく尋ねられる質問と、本書の資料に基づく簡潔な答えです。

1. なぜ公然の呼びかけはサファーの丘で始められたのですか。

サファーの丘はクライシュ族が集まるカアバのそばにありました。アラブの慣習では、危険を知らせたい者は高い場所に登って叫びました。預言者は人々が理解できる方法を用いられたのです（『サヒーフ・ブハーリー』4770）。

2. なぜ預言者はまず「あなたがたはわたしを信じるか」と尋ねられたのですか。

預言者は警告を伝える前に、かれらが認めていること――ご自分の誠実さ――から始められました。かれらは、預言者が嘘をついたことは一度もないと答えました。これは賢明な宣教の方法です。合意できる土台の上に築くのです。

3. イスラームにおける最初の殉教者は誰ですか。

スィーラ書によれば、アンマール・ブン・ヤースィルの母スマイヤ・ビント・ハイヤートが、イスラームにおける最初の殉教者です。かの女は宗教を捨てることを拒んだため、アブー・ジャハルに殺されました。この情報はスィーラ書によるもので、二大真正集にはありません。

4. 拷問の中で不信の言葉を口にしたアンマールは罪を犯したのですか。

いいえ。アッラーは、強制されても心が信仰に安らいでいる者を例外とされています（蜜蜂章 16:106）。タフスィール書の伝承によれば、この節はアンマールの出来事に関わるものです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

5. ハバシャへ移住したのは何人ですか。

最初の一団は男性約 11 人と女性 4 人からなっていました（男性 12 人とする伝承もあります）。二度目の移住について、イブン・イスハークは 80 人を超える男性と、何人かの女性と子どもたちを挙げています。

6. なぜ当時マディーナへ移住しなかったのですか。

当時、ヤスリブ（マディーナ）の住民はまだイスラームに入信しておらず、クライシュ族はアラビア半島全域に影響力を持っていました。一方ハバシャはクライシュ族の力の及ばない地にあり、公正な王が治め、交易を通じてすでに知られていました。

7. ナジャーシーはムスリムだったのですか。

はい。アッラーの使徒 ﷺ はかれの死を告げ、かれを「正しい人」と呼び、教友たちとともに不在者のための葬儀の礼拝を捧げられました（『サヒーフ・ブハーリー』3877）。

8. ナジャーシーの本名は何ですか。

ナジャーシー（ネグス）はハバシャの王の称号であって、個人名ではありません。真正なハディースはこの王の名をアスハマとしています（『サヒーフ・ブハーリー』3877）。一部の学者はかれをアクスムの硬貨上の王名と結びつけようとしてきましたが、まだ確かではありません。

9. ナジャーシーの墓はどこにありますか。

エチオピアの地元の伝承では、その墓はティグライ州のネガシュにあるとされています。しかし、その場所を述べる真正なハディースはありません。本書の「歴史の足跡」の章を参照してください。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

10. 「ガラーニーク」の話は本当ですか。

いいえ。預言者が星章を読誦したときに偶像を賛美したという話は、すべての経路がムルサルであり、アッラーの使徒 ﷺ の無謬性と矛盾するため、学者たちに退けられています。真正なのは、預言者がその章を読誦したときに多神教徒もサジダしたということだけです（『サヒーフ・ブハーリー』1071）。

11. なぜウマルの入信はそれほど重要だったのですか。

アブドッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه は「ウマルがイスラームに入信して以来、わたしたちはずっと誇り高くあり続けた」と言いました（『サヒーフ・ブハーリー』3863）。ウマルとハムザの勇気は、それまで弱く虐げられていたムスリムに力を与えたのです。

12. ハバシャへの移住者たちはいつ帰ってきたのですか。

一部の者は早くにマッカへ戻り、その後マディーナへ移住しました。一方ジャアファル・ブン・アビー・ターリブの一団は、ヒジュラ暦 7 年に預言者がハイバルを征服したときにマディーナに到着しました（『サヒーフ・ブハーリー』4230）。かれらがマッカを離れてから約十五年後のことです。

教訓

真正な資料に基づく答えは一つひとつが確信を強め、根拠のない話から私たちを遠ざけてくれます。問い続け、読み続けましょう。アッラーの使徒 ﷺ のスィーラは、単なる歴史物語ではなく、生きるための指針なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

本書からの教訓

第一：命令には保証が伴う。 「宣べ伝えよ……われはあなたを守る」（15:94–95）。

第二：一人ひとりが自分自身に責任を負う。 家柄は人を救わない（『サヒーフ・ブハーリー』4771）。

第三：相手が認めていることから始める。 預言者は警告の前にご自分の誠実さについて尋ねられた（『サヒーフ・ブハーリー』4770）。

第四：信仰に妥協はない。 「あなたがたには、あなたがたの宗教があり、わたしには、わたしの宗教がある」（109:6）。

第五：苦しめられても忍耐する。 預言者は侮辱されてもサジダを続けられた（『サヒーフ・ブハーリー』240）。

第六：勝利はアッラーの時に訪れる。 「だが、あなたがたは急いでいる」（『サヒーフ・ブハーリー』3612）。

第七：人を解放するための財産。 アブー・バクルはビラールらを解放した（『サヒーフ・ブハーリー』3754）。

第八：公正さはどこでも尊ばれる。 ナジャーシーは「正しい人」として尊ばれた（『サヒーフ・ブハーリー』3877）。

第九：誰に対しても絶望しない。 ウマルはウンマの力となった（『サヒーフ・ブハーリー』3863）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

年表のまとめ

時期（推定）	出来事と典拠
西暦 613 年ごろ	公然の宣教の命令（15:94；26:214）。サファーでの呼びかけ（『サヒーフ・ブハーリー』4770、4771）
613–615 年	嘲笑、非難、妥協の申し出（不信者たち 章）
613–616 年	預言者が苦しめられる（『サヒーフ・ブハーリー』240、3678）。弱い者たちへの迫害
615 年頃	スマイヤの殉教（ウィキペディア）
使命から 5 年目のラジャブ月	最初のハバシャへの移住：男性 11 人、女性 4 人
616 年頃	ジャアファルの率いる二度目の移住。クライシュ族の使節は退けられる
616 年末	ハムザとウマルの入信（『サヒーフ・ブハーリー』3863）
ヒジュラ暦 9 年／630 年	ナジャーシーのための不在者の葬儀の礼拝（『サヒーフ・ブハーリー』3877）

結び

サファーの丘での呼びかけから、預言者がサジダ中に苦しめられたカアバ、ビラールが「アハド、アハド」と言った焼けつく砂、そして紅海の向こうの公正な王の宮廷まで――イスラームの宣教は**忍耐と犠牲**によって試されました。アッラーがお望みなら、『**預言者伝**』シリーズは、**シウブ・アビー・ターリブでのハーシム家のボイコット**、**悲しみの年**、そして預言者のターイフへの旅へと続きます。アッラーこそが最もよく知っておられます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 4 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの解釈』（15:94–95；109；74:11–25；16:106；92:17–21；22:52）。tafsir.app/ibn-katheer/15/94

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』240、1071、3612、3678、3754、3863、3877、4770、4771。sunnah.com/bukhari

『スナン・イブン・マージャ』150。sunnah.com/ibnmajah:150

『ムスナド・アフマド』1740（ハバシャへの移住についてのウンム・サラマの伝承）。

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』（イブン・イスハークからの伝承）――公然の宣教、クライシュ族の反対、ハバシャへの移住の章。

サフィーユッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された美酒（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』――公然の宣教とハバシャへの移住の章。

ウィキペディア「Abu Lahab」。en.wikipedia.org/wiki/Abu_Lahab

Wikipedia「Abu Talib ibn Abd al-Muttalib」。en.wikipedia.org/wiki/Abu_Talib_ibn_Abd_al-Muttalib

ウィキペディア「ビラール・ブン・ラバーフ」。en.wikipedia.org/wiki/Bilal_ibn_Rabah

ウィキペディア「スマイヤ」。en.wikipedia.org/wiki/Sumayya

ウィキペディア「Migration to Abyssinia」。en.wikipedia.org/wiki/Migration_to_Abyssinia

ウィキペディア「Kingdom of Aksum」。en.wikipedia.org/wiki/Kingdom_of_Aksum

ウィキペディア「Adulis」。en.wikipedia.org/wiki/Adulis

ウィキペディア「Hamza ibn Abd al-Muttalib」。en.wikipedia.org/wiki/Hamza_ibn_Abd_al-Muttalib

ウィキペディア「Umar」。en.wikipedia.org/wiki/Umar

場所、歴史、考古学

ウィキペディア「Safa and Marwa」。en.wikipedia.org/wiki/Safa_and_Marwa

ウィキペディア「Red Sea」。en.wikipedia.org/wiki/Red_Sea

ウィキペディア「Bab-el-Mandeb」。en.wikipedia.org/wiki/Bab-el-Mandeb

Madain Project「Migration to Abyssinia」。madainproject.com/migration_to_abyssinia

ウィキペディア「Armah」。en.wikipedia.org/wiki/Armah

ウィキペディア「Najashi」。en.wikipedia.org/wiki/Najashi

ウィキペディア「Negash」。en.wikipedia.org/wiki/Negash

Geeska「Ethiopia's Najashi Mosque in the Shadow of the Tigray War」。geeska.com/en/ethiopias-najashi-mosque-shadow-tigray-war

World Heritage Site「Aksum」。worldheritagesite.org/list/aksum

ウィキペディア「Byzantine–Sasanian War of 602–628」。en.wikipedia.org/wiki/Byzantine%E2%80%93Sasanian_War_of_602%E2%80%93628

第五部

悲しみの年

預言者伝（スィーラ）— 第 5 巻

クルアーンと真正なハディースに基づく、ハーシム家へのボイコット、アブー・ターリブとハディージャの逝去、そしてターイフへの旅

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

悲しみの年

『預言者伝』第 4 巻は、ハムザとウマルの入信、そしてナジャーシーの庇護のもとで無事に過ごす教友たちで終わりました。しかしマッカにいるアッラーの使徒 ﷺ とその家族にとって、最も重い試練は始まったばかりでした。この第 5 巻は、**三年に及ぶボイコット**、かれを最も守り支えた二人――**アブー・ターリブとハディージャ**――の逝去、そして石と血で終わりながらも慈悲に満ちた祈りで結ばれた**ターイフへの旅**を語ります。

本書のクルアーンの節と真正なハディースは、本当に関係のあるものだけを慎重に選びました。スィーラ書からの話は「スィーラの注」の枠に入れ、その等級を評価しています。非常に有名でも伝承経路の弱い話や祈りは、そのことをはっきりと示しています。

年表：ボイコットからターイフまで（617〜620年ごろ）

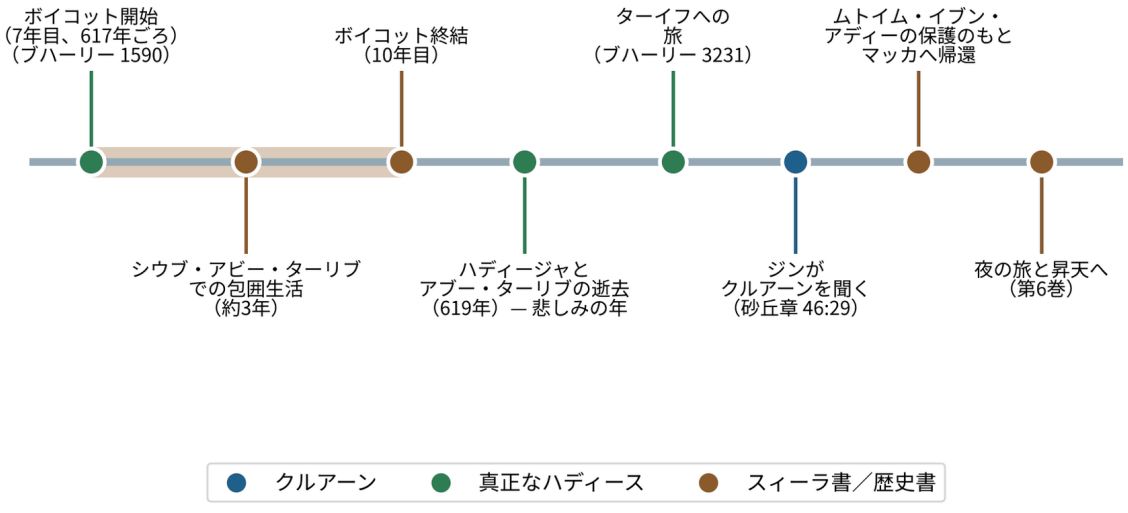


図 1：ボイコットからターイフまでの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

クライシュ族が手段を尽くしたとき

預言者として遣わされて 7 年目が近づく頃、クライシュ族はほとんどあらゆる手段を試していました。嘲笑、中傷、交渉、妥協の申し出、そして拷問です（第 4 巻）。それでもイスラームは広がり続けました。ハムザとウマルが入信し、ハバシャの教友たちは公正な王の保護のもとで平穏に暮らしていました。

クライシュ族にとって最大の問題は、**ハーシム家の保護**でした。ハーシム家の長アブー・ターリブが甥を引き渡すことを拒む限り、クライシュ族の諸氏族のあいだに内戦を起こさずにかれを殺すことはできなかったのです。

クライシュ族を阻んだもの	理由
部族の保護	アブー・ターリブとハーシム家は、まだイスラームに入っていない者も含めて、かれを守りました。
血の報復の掟	ある氏族の一員を殺すことは、その氏族全体との戦争を意味しました。
イスラームの強まり	ハムザやウマルのような有力者が信仰に入っていました。
外交の失敗	ハバシャへの使節は手ぶらで帰ってきました。

そこでクライシュ族は、血を流さないが非常に苦しい新しい武器を選びました。ムスリムであるかどうかを問わず、ハーシム家とムッタリブ家の全体に対する**全面的なボイコット**です。

教訓：暴力が失敗すると、真理に反対する者はしばしば**経済的・社会的な圧力**に切り替えます。この武器は今日でも使われています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハイフ・バニー・キナーナでの盟約

ボイコットは文書による盟約で確定されました。何年も後、別離の巡礼を行っていたとき、アッラーの使徒 ﷺ はその盟約が結ばれた場所をまだ覚えておられました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1590 番

حَدَّثَنَا الْحُمَيْدِيُّ، حَدَّثَنَا الْوَلِيدُ، حَدَّثَنَا الأَوْزَاعِيُّ، قَالَ حَدَّثَنِي الزُّهْرِيُّ، عَنْ أَبِي سَلَمَةَ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم مِنَ الْغَدِ يَوْمَ النَّحْرِ وَهُوَ بِمِنًى «نَحْنُ نَازِلُونَ غَدًا بِخَيْفِ بَنِي كِنَانَةَ حَيْثُ تَقَاسَمُوا عَلَى الْكُفْرِ». يَعْنِي ذَلِكَ الْمُحَصَّبَ، وَذَلِكَ أَنَّ قُرَيْشًا وَكِنَانَةَ تَحَالَفَتْ عَلَى بَنِي هَاشِمٍ وَبَنِي عَبْدِ الْمُطَّلِبِ، أَوْ بَنِي الْمُطَّلِبِ أَنْ لاَ يُنَاكِحُوهُمْ، وَلاَ يُبَايِعُوهُمْ حَتَّى يُسْلِمُوا إِلَيْهِمُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم. وَقَالَ سَلاَمَةُ عَنْ عُقَيْلٍ وَيَحْيَى بْنُ الضَّحَّاكِ عَنِ الأَوْزَاعِيِّ أَخْبَرَنِي ابْنُ شِهَابٍ وَقَالاَ بَنِي هَاشِمٍ وَبَنِي الْمُطَّلِبِ. قَالَ أَبُو عَبْدِ اللَّهِ بَنِي الْمُطَّلِبِ أَشْبَهُ.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は言った。預言者 ﷺ は犠牲祭の日（ズル・ヒッジャ月 10 日）の朝、ミナーにおられたときに言われた。「**明日、われわれはハイフ・バニー・キナーナに宿営する。かれらが不信仰（を守るため）に誓い合った場所である。**」それはムハッサブのことである。というのは、クライシュ族とキナーナ族が、ハーシム家とアブドルムッタリブ家――あるいはムッタリブ家――に対して同盟を結び、預言者 ﷺ をかれらに引き渡すまでは、かれらと婚姻を結ばず、売り買いもしないと誓ったからである。

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アル＝フマイディー ← アル＝ワリード・ブン・ムスリム ← アル＝アウザーイー ← アッ＝ズフリー ← アブー・サラマ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。サラマ ← ウカイル、およびヤフヤー・ブン・アッ＝ダッハーク ← アル＝アウザーイー ← イブン・シハーブの伝承もある。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』巡礼の書、マッカにおける預言者 ﷺ の宿営の章（ヌズール・アン＝ナビー ﷺ マッカ）、ハディース第 1590 番。ムスリム（第 1314 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:1590

このハディースの教訓

このハディースはボイコットについての**真正な証拠**であり、その二つの主な条件を明らかにしています。**婚姻をしないこと**と**売り買いをしないこと**です。ハーシム家がアッラーの使徒 ﷺ を引き渡すまで続けるというものでした。目的は明らかです。かれの家族に保護を手放させることでした。

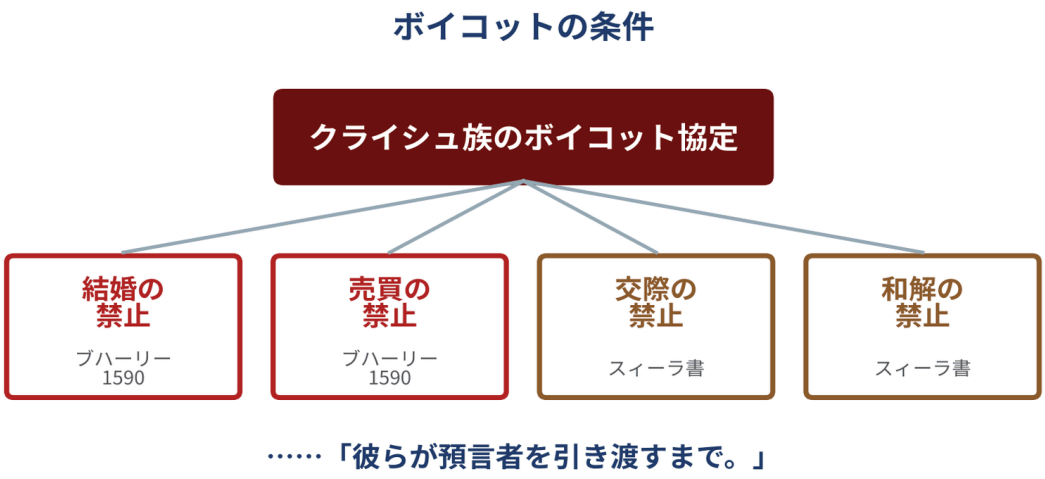


図 2：クライシュ族のボイコットの条件。

同じ場所への帰還

学者たちは、かれが勝利した指導者として戻ったときに、クライシュ族が不信仰を誓った**ムハッサブ**にあえて宿営された英知を説明しています。**アッラーの恩恵に感謝し**、かつてイスラームへの不正を目撃した場所でその勝利を示すためでした。

巡礼におけるムハッサブ

ムハッサブ（アブタフとも呼ばれる）は、ミナーとマッカのあいだにある谷です。アッラーの使徒 ﷺ は別離の巡礼でミナーの日々の後にそこに宿営されました。しかしアーイシャ رضى الله عنها は、アブタフに宿営することは巡礼の**スンナではない**と説明しています。かれがそこに宿営されたのは、マッカを出るのにそこが便利だったからです（『サヒーフ・ブハーリー』1765）。

これは、教友たちが、従わなければならない**崇拝行為**と、その時の状況に関わるアッラーの使徒 ***tindakan biasa*** の普通の行動とを注意深く区別していたことを示しています。スンナを理解するうえで大切な原則です。

教訓：アッラーは**状況を逆転させられる**。かつて迫害の証人であった場所が、ついには勝利の証人となりました。

シッブ・アビー・ターリブでの三年間

スィーラの注：包囲された谷での暮らし

スィーラ書（イブン・イスハーク）によれば、ボイコットは**預言者として遣わされて 7 年目のムハッラム月**（西暦 617 年頃）に始まりました。ハーシム家とムッタリブ家は、ムスリムもそうでない者も、マッカのはずれの狭い谷**シッブ・アビー・ターリブ**に移りました。クライシュ族の側についたのは**アブー・ラハブ**ただ一人でした。

盟約の文書はカアバの中に掛けられたと伝えられています。ボイコットは**約三年間**続きました。食べ物を手に入れるのは非常に難しく、スィーラ書は、飢えた子どもたちの泣き声が谷の外まで聞こえ、木の葉を食べざるをえない者もいたと伝えています。

参照：

Wikipedia「Abu Talib ibn Abd al-Muttalib」。en.wikipedia.org/wiki/Abu_Talib_ibn_Abd_al-Muttalib

宗教を超えた忠誠

驚くべきことがあります。**まだイスラームに入っていない**ハーシム家の多くの人々が、家族とアブー・ターリブへの忠誠から、アッラーの使徒 ﷺ と共に苦しむことを選んだのです。飢えてもなお、かれらはかれを引き渡すことを拒みました。

アッラーの使徒 ﷺ とハディージャ رضى الله عنها もこの苦難を共に負いました。かつて裕福な商人だったハディージャは、谷の中の家族と教友たちを支えるために残りの財産を使い果たしました。

ほかの教友たちはどうだったか

アブー・バクル رضى الله عنه のようにハーシム家以外の教友は谷の中には住みませんでしたが、やはり激しい圧力にさらされました。アーイシャ رضى الله عنها によれば、アブー・バクルはハバシャへ移住しようとして出発したところで、カーラ族の長**イブン・アッ＝ドゥグンナ**に出会いました。かれは「あなたのような人は出て行くべき

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ではないし、追い出されるべきでもない」と言い、自分の保護のもとにかれを連れ戻しました（『サヒーフ・ブハーリー』3905）。

イブン・アッ＝ドゥグンナがアブー・バクルの美点を述べた言葉は、ハディージャがアッラーの使徒 ﷺ に語った言葉とほとんど同じでした。財のない者を助け、親族の絆を保ち、弱い者を支え、客をもてなし、災難のときに手を貸す、というものです。気高い人柄は、まだ信仰していない人々にさえ認められていたのです。

教訓：苦境での忍耐は**信仰のしるし**です。三年間の苦難は、のちのヒジュラや戦いで必要となる粘り強さを育てました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ひそかな援助

スィーラの注：ハキーム・ブン・ヒザームとおばのための小麦

スィーラ書によれば、ハディージャの甥**ハキーム・ブン・ヒザーム**は、谷の中にいるおばのためにひそかに小麦を運んだことがありました。アブー・ジャフルがかれを止めましたが、その残酷さに賛成しないクライシュ族の一人**アブル・バフタリー・ブン・ヒシャーム**が割って入り、かれを通しました。

また、**ヒシャーム・ブン・アムル**が夜に食べ物を積んだラクダを谷の入口へ送ったという伝承もあります。これらの話は**スィーラ書**からのもので、二大サヒーフ集のものではありません。

参照：

ウィキペディア「Hakim ibn Hizam」。en.wikipedia.org/wiki/Hakim_ibn_Hizam

ジャーヒリーヤ社会の良心

これらの話は、**クライシュ族のすべての人**がその不正を支持していたわけではないことを示しています。まだ信仰していなくても、人間らしい心を持つ人々がいたのです。アッラーの使徒ﷺはのちにこのような人々の恩を覚えておられました。

ハキーム・ブン・ヒザーム自身も、のちにマッカ征服の日にイスラームに入り、教友となりました。ジャーヒリーヤ時代のかれの善行が、導きへの道を開いたのです。

教訓：**小さな善行**を軽んじてはいけません。包囲された人へのひと包みの食べ物が大きな善行になりうるのです。そして、たとえムスリムでなくても、公正にふるまうすべての人を尊びましょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

盟約を破棄した五人

スィーラの注：ボイコットを破棄するための申し合わせ

イブン・イスハークによれば、約三年後、良心をもつ何人かのクライシュ族の人々が、その盟約を破棄しようと申し合わせました。**ヒシャーム・ブン・アムル**、**ズハイル・ブン・アビー・ウマイヤ**、**アル＝ムトイム・ブン・アディー**、**アブル・バフタリー・ブン・ヒシャーム**、そして**ザムア・ブン・アル＝アスワド**です。

かれらはカアバのそばのクライシュ族の集会で立ち上がり、公然と反対を表明しました。アブー・ジャフルは反対しましたが、かれらの声が勝ち、ボイコットは**預言者として遣わされて 10 年目**ごろに終わりました。ウィキペディアは、アル＝ムトイム・ブン・アディーをこの動きを始めた五人の指導者の一人としています。

参照：

ウィキペディア「Muṭ'im ibn 'Adi」。en.wikipedia.org/wiki/Mu%E1%B9%AD%CA%BDim_ibn_%CA%BDAdi

公正な声の力

ボイコットが終わったのは奇跡だけによるのではなく、**勇気をもって声を上げた何人かの人々**が、自分たちの社会の中の不正に立ち向かったからでもありました。かれらは、クライシュ族の集会という既存の場を使って状況を変えたのです。

これは**ヒルフ・アル＝フドゥール**（第 2 巻）を思い起こさせます。ジャーヒリーヤの社会にさえ、正義の余地はありました。イスラームはこのようなすべての努力を尊びます。

教訓：不正に対する**沈黙**は苦しみを長引かせます。一つの勇気ある声が変化の始まりになりうるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

シロアリに食われた文書の話

スィーラの注：盟約文書の話

スィーラ書によれば、アッラーの使徒 ﷺ はアブー・ターリブに、アッラーが**シロアリ**を遣わして盟約文書を食べさせ、アッラーの御名を記した言葉（「ビスミカ・アッラーフンマ」）だけが残ったと告げられました。アブー・ターリブがそれをクライシュ族に伝え、文書が下ろされると、告げられたとおりであったといいます。

この話はイブン・イスハークや他のスィーラ学者が伝えていますが、**二大サヒーフ集にはなく**、伝承経路は**途切れて（ムルサル）**います。スィーラ書では有名で、多くのスィーラ作家に受け入れられていますが、真正なハディースと同じ等級ではありません。

このような話への向き合い方

項目	立場
ボイコットとその条件	真正（『サヒーフ・ブハーリー』1590）。
五人による破棄	スィーラ書の伝承。一般に受け入れられている。
シロアリに食われた文書	スィーラ書のムルサルの伝承。その等級を述べたうえで語ることができる。

ハディース学者は、歴史として語ってよいスィーラの話と、信条や法規定の**論拠とされるハディース**とを区別しています。この話は前者に属します。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ボイコットからの教訓

シッブ・アビー・ターリブでのボイコットは、どの世代にも通じる多くの教訓を残しました。

教訓	説明
共同体としての忍耐	家族と教友たちの全員が、共に試練を負いました。
武器としての経済	真理の敵は、食料と商取引の封鎖を用いました。
家族の忠誠	まだイスラームに入っていないハーシム家の人々も、かれを守り続けました。
良心ある人々の役割	クライシュ族の五人が不正を破棄しました。
財産の犠牲	ハディージャは家族と教友たちのために財産を使い果たしました。
試練の後の勝利	不信仰を誓った場所が、勝利した預言者の宿営地となりました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

私たちの時代のボイコット

今日も、いくつかの土地のムスリムは**経済封鎖**や包囲に直面しています。スィーラは私たちに、忍耐し、助け合い、そしてムスリムであれ非ムスリムであれ、虐げられた人々を勇敢に弁護するすべての人を尊ぶことを教えています。

主な教訓：**永遠に続く不正はありません。**終わりがないように見えたボイコットも、三年後にはついに崩れ去りました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハディージャの逝去

スィーラの注：最初の信者たちの母の逝去

ウィキペディアによれば、**ハディージャ・ビント・フワイリド** رضى الله عنها はボイコットが終わって間もない**西暦 619 年**、**約 65 歳**で亡くなりました。かの女は 25 年間アッラーの使徒 ***25 tahun*** の妻であり、その間かれのただ一人の妻でした。そのときかれは 50 歳近くでした。

ボイコット中の苦難は、かの女の健康にも影響したと考えられています。かの女は、現在ジャンナト・アル＝ムアッラーとして知られるマッカの墓地**ハジューン**に葬られました。

参照：

ウィキペディア「Year of Sorrow」。en.wikipedia.org/wiki/Year_of_Sorrow

ウィキペディア「Khadija bint Khuwaylid」en.wikipedia.org/wiki/Khadija_bint_Khuwaylid

真正なハディースもおおよその時期を裏づけています。ウルワ・ブン・アッ＝ズバイルは、ハディージャは預言者 ***tiga tahun sebelum*** がマディーナへ移住する 3 年前に亡くなったと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』3896）。

色あせることのない思い出

第 2 巻と第 3 巻は、ハディージャの地位を語りました。最初に信じた人、最初の啓示の夜にかれを落ち着かせた人、そしてジブリールを通してアッラーからの挨拶を受けた女性です（『サヒーフ・ブハーリー』3820）。かの女が亡くなって何年も経ってからも、かれはかの女の名を口にし、かの女の友人たちを大切にされました（『サヒーフ・ブハーリー』3818）。

真正なハディースに見るハディージャの美徳

アリー رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**（その時代の）最もすぐれた女性はイムラーンの娘マルヤムであり、（その時代の）最もすぐれた女性はハディージャである**」（『サヒーフ・ブハーリー』3432）。

美徳	典拠
最初に信じた人	スィーラ書（第 3 巻）
最初の啓示の夜にかれを落ち着かせた	『サヒーフ・ブハーリー』3
アッラーからの挨拶と楽園の家の吉報を受けた	『サヒーフ・ブハーリー』3820
その時代の最もすぐれた女性	『サヒーフ・ブハーリー』3432
イブラーヒームを除くかれのすべての子の母	スィーラ書（第 2 巻）

教訓：伴侶への**誠実さ**は死で終わりません。亡くなった伴侶のために祈り、その善行を思い出し、その家族や友人を大切にすることは、アッラーの使徒 ﷺ のスンナです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

臨終のアブー・ターリブ

ボイコットが終わって間もなく、40 年以上もかれを育て守ってきたおじ**アブー・ターリブ**が重い病に倒れました。アッラーの使徒 ﷺ は最後の一つの望みを抱いてかれのもとへ来られました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3884 番

حَدَّثَنَا مَحْمُودٌ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّزَّاقِ، أَخْبَرَنَا مَعْمَرٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، عَنِ ابْنِ الْمُسَيَّبِ، عَنْ أَبِيهِ، أَنَّ أَبَا طَالِبٍ، لَمَّا حَضَرَتْهُ الْوَفَاةُ دَخَلَ عَلَيْهِ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم وَعِنْدَهُ أَبُو جَهْلٍ فَقَالَ «أَىْ عَمِّ، قُلْ لاَ إِلَهَ إِلاَّ اللَّهُ، كَلِمَةً أُحَاجُّ لَكَ بِهَا عِنْدَ اللَّهِ». فَقَالَ أَبُو جَهْلٍ وَعَبْدُ اللَّهِ بْنُ أَبِي أُمَيَّةَ يَا أَبَا طَالِبٍ، تَرْغَبُ عَنْ مِلَّةِ عَبْدِ الْمُطَّلِبِ فَلَمْ يَزَالاَ يُكَلِّمَانِهِ حَتَّى قَالَ آخِرَ شَىْءٍ كَلَّمَهُمْ بِهِ عَلَى مِلَّةِ عَبْدِ الْمُطَّلِبِ. فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم «لأَسْتَغْفِرَنَّ لَكَ مَا لَمْ أُنْهَ عَنْهُ». فَنَزَلَتْ {مَا كَانَ لِلنَّبِيِّ وَالَّذِينَ آمَنُوا أَنْ يَسْتَغْفِرُوا لِلْمُشْرِكِينَ وَلَوْ كَانُوا أُولِي قُرْبَى مِنْ بَعْدِ مَا تَبَيَّنَ لَهُمْ أَنَّهُمْ أَصْحَابُ الْجَحِيمِ} وَنَزَلَتْ {إِنَّكَ لاَ تَهْدِي مَنْ أَحْبَبْتَ}

訳：

アル＝ムサイヤブ・ブン・ハズン رضى الله عنه によれば、アブー・ターリブが死を迎えようとしていたとき、預言者 ﷺ がかれのもとへ入って行かれた。そのそばにはアブー・ジャフルがいた。かれは言われた。**「おじよ、ラー・イラーハ・イッラッラーと言ってください。その言葉によって、わたしはアッラーのもとであなたのために弁護しましょう。」** アブー・ジャフルとアブドッラー・ブン・アビー・ウマイヤは言った。「アブー・ターリブよ、あなたはアブドルムッタリブの宗教を捨てるのか。」かれらはかれに語りかけ続け、ついにかれがかれらに言った最後の言葉は「（わたしは）アブドルムッタリブの宗教の上にある」であった。預言者 ﷺ は言われた。**「禁じられない限り、わたしは必ずあなたのために赦しを乞おう。」** そこで、{預言者と信者たちは、たとえ近親であっても、かれらが火獄の住人であることが明らかになった後には、多神教徒のために赦しを乞うべきではない} という節が下り、また {本当にあなたは、自分の愛する者を導くことはできない} という節が下った。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 | ページ：282 / 485

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：マフムード・ブン・ガイラーン ← アブドゥッラッザーク ← マアマル ← アッ＝ズフリー ← サイード・ブン・アル＝ムサイヤブ ← その父アル＝ムサイヤブ・ブン・ハズン رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、アブー・ターリブの話の章、ハディース第 3884 番。ムスリム（第 24 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:3884

このハディースの教訓

このハディースは深く心を打ちます。アッラーの使徒 ﷺ は重いことを求められたのではありません。**一つの言葉**だけでした。その言葉によってアッラーのもとでおじを弁護すると約束されたのです。しかし、**仲間からの圧力**と**先祖の宗教への誇り**が、アブー・ターリブにそれを言わせませんでした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ムスリムでない親族を見舞う

アッラーの使徒 ﷺ は、まだ信仰していない病のおじを**見舞い**、最後の瞬間まで努められました。かれはまた、病気のユダヤ人の少年を見舞い、イスラームに招かれたこともあります（『サヒーフ・ブハーリー』1356）。

これは、**家族の絆を保つこと**と**病人を見舞うこと**がムスリム同士に限られないことを示しています。見舞いそのものが、最もやさしい宣教の入口になりうるのです。

アブー・ターリブの最期のときに、そのそばにいたのが誰かに注目してください。**アブー・ジャフル**です。悪い仲間は、人生の最後の瞬間にさえ人を善から遠ざけることがあります。

教訓：**唯一神信仰の言葉**は救いの鍵であり、**仲間の影響**は非常に大きいものです。特に最も大切なときにアッラーを思い出させてくれる友を選びましょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：284 / 485

「あなたは導くことはできない」

おじが不信仰のまま亡くなったことへのアッラーの使徒 ﷺ の悲しみは非常に深いものでした。アッラーは、心を慰め、信条の大切な原則を教える節を下されました。

物語章 28:56

إِنَّكَ لَا تَهْدِى مَنْ أَحْبَبْتَ وَلَٰكِنَّ ٱللَّهَ يَهْدِى مَن يَشَآءُ ۚ وَهُوَ أَعْلَمُ بِٱلْمُهْتَدِينَ ﴿٥٦﴾

本当にあなたは、自分の好む者（の凡て）を導くことは出来ない。だがアッラーは御心のままに導き下される。かれは導かれた者を熟知なされる。

訳：三田了一 — quran.com/28:56

28:56 の節の解説

アッラーは仰せられます。「**本当にあなたは、自分の愛する者を導くことはできない**」。イブン・カスィールは、この節が二大サヒーフ集にあるとおり**アブー・ターリブ**について下ったと述べ、使徒の務めは**伝えること**であり、導きは**アッラーだけのもの**であると説明しています。『タフスィール・イブン・カスィール』28:56。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

二種類の導き

種類	説明
イルシャードの導き（道案内）	道を示すこと。これは使徒と宣教者の務めです（協議章 42:52）。
タウフィークの導き（心を開かせること）	心を開いて受け入れさせること。これはアッラーだけのものです（物語章 28:56）。

この節は、努力したのに愛する人が真理を受け入れないのを見たすべての親、伴侶、宣教者に安らぎを与えます。**私たちの務めは努力すること**であり、結果はアッラーの御手にあります。

この節と共に、多神教徒の立場が明らかになった後にかれらのために赦しを乞うことの禁止も下りました（悔悟章 9:113）。同じハディースに述べられているとおりです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・ターリブの位置づけ

アル＝アッバース・ブン・アブドルムッタリブ رضي الله عنه はアッラーの使徒 ﷺ に尋ねたことがあります。「あなたはおじに何か益を与えられましたか。アッラーにかけて、かれはあなたを守り、あなたのために怒っていました。」かれは言われた。**「かれは火獄の浅いところにいる。わたしがいなければ、かれは最も深い底にいたであろう」**（『サヒーフ・ブハーリー』3883）。

別のハディースは、アブー・ターリブが火獄の住人の中で**最も軽い懲罰**を受ける者であると述べています（『サヒーフ・ムスリム』212）。これは、アッラーの使徒 ﷺ を守ったかれの功績が**認められている**こと、しかし信仰がなければ完全な救いにはつながらないことを示しています。

アブー・ターリブについて語る作法

アブー・ターリブはイスラームに**大きな功績**のある人物です。私たちはかれの功績を敬意をもって語り、かれを非難せず、同時にかれの位置づけについての真正なハディースを固く守ります。この二つの態度は矛盾しません。

教訓：**信仰なき善行**は来世の救いには十分ではありません。信仰こそが、あらゆる善行をアッラーのもとで十全な価値あるものにする土台なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

悲しみの年

同じ年――預言者として遣わされて 10 年目、**西暦 619 年**ごろ――アッラーの使徒ﷺはこの二人をともに失われました。二人が亡くなった**順序**についてはスィーラ書で意見が分かれています。ウィキペディアによればハディージャが先に、次にアブー・ターリブが亡くなりましたが、逆とする資料もあります。

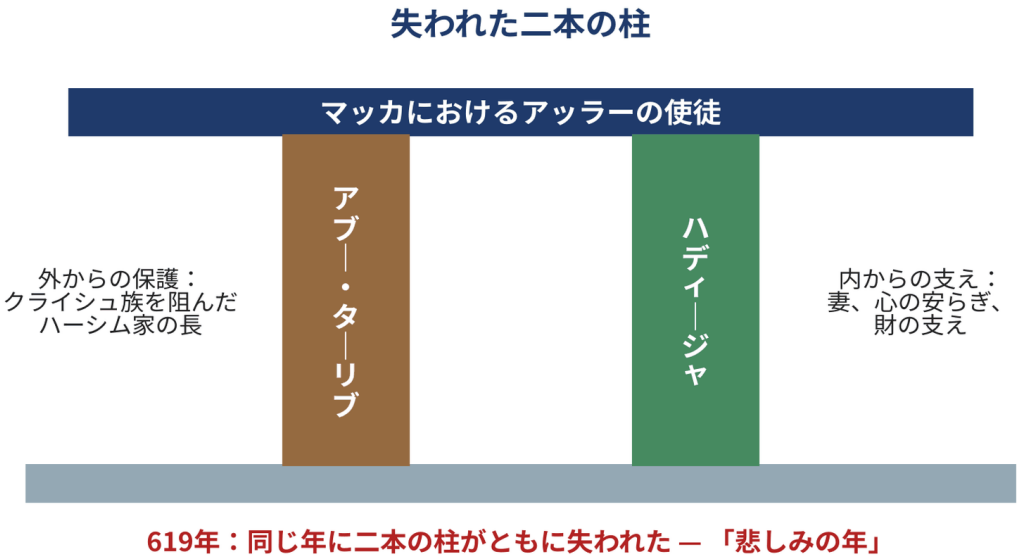


図 3：悲しみの年に失われた二本の柱。

この年はのちに**アーム・アル＝フズン**、つまり**悲しみの年**として知られるようになりました。アブー・ターリブは**外からの守り**、ハディージャは**内からの支え**でした。二人を同時に失ったことで、かれは最も無防備な状態に置かれたのです。

宣教への影響

スィーラ書によれば、アブー・ターリブの死後、クライシュ族はますます大胆にかれを苦しめるようになり、かれの頭に土を投げつける者さえいました。ハーシム家は今や、かれ自身の敵であるアブー・ラハブに率いられていました。

このような状況の中で、かれは**マッカの外に支援**を求めることを決意されました。最初に選ばれたのがターイフの町でした。

悲しみに向き合うスンナ

アッラーの使徒 ﷺ は、均衡のとれた悲しみ方を教えられました。何年も後に息子のイブラーヒームが亡くなったとき、かれは涙を流して言われた。**「目は涙を流し、心は悲しむ。しかしわたしたちは、わたしたちの主が喜ばれること以外は口にしない」**（『サヒーフ・ブハーリー』1303）。

許されること	禁じられること
泣くこと、悲しむこと	嘆き叫ぶこと、泣きわめくこと
亡くなった人の善行を思い出すこと	定めを責める言葉
その人のために祈り、施しをすること	悲しみのあまり自分や服を傷つけること

教訓：悲しみは人間の本性であり、アッラーの使徒 ﷺ も悲しまれました。しかし悲しみは、かれが努力を続けることを**止めはしませんでした**。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サウダ・ビント・ザムア

スィーラの注：ハディージャの後の妻

スィーラ書とウィキペディアによれば、ハディージャの逝去の後、アッラーの使徒 ﷺ はマッカで**サウダ・ビント・ザムア** رضي الله عنها と結婚されました。かの女は未亡人でした。夫の**アッ＝サクラーン・ブン・アムル**はかの女と共にハバシャへ移住し、その後亡くなっていました。

サウダは早くにイスラームに入った人々の一人で、移住の苦労を耐え抜いていました。この結婚は、移住者の未亡人に**保護**を与え、母を失ったかれの子どもたちに**家を守る人**をもたらしました。

参照：

ウィキペディア「Sawda bint Zam'a」。en.wikipedia.org/wiki/Sawda_bint_Zam'a

この結婚の英知

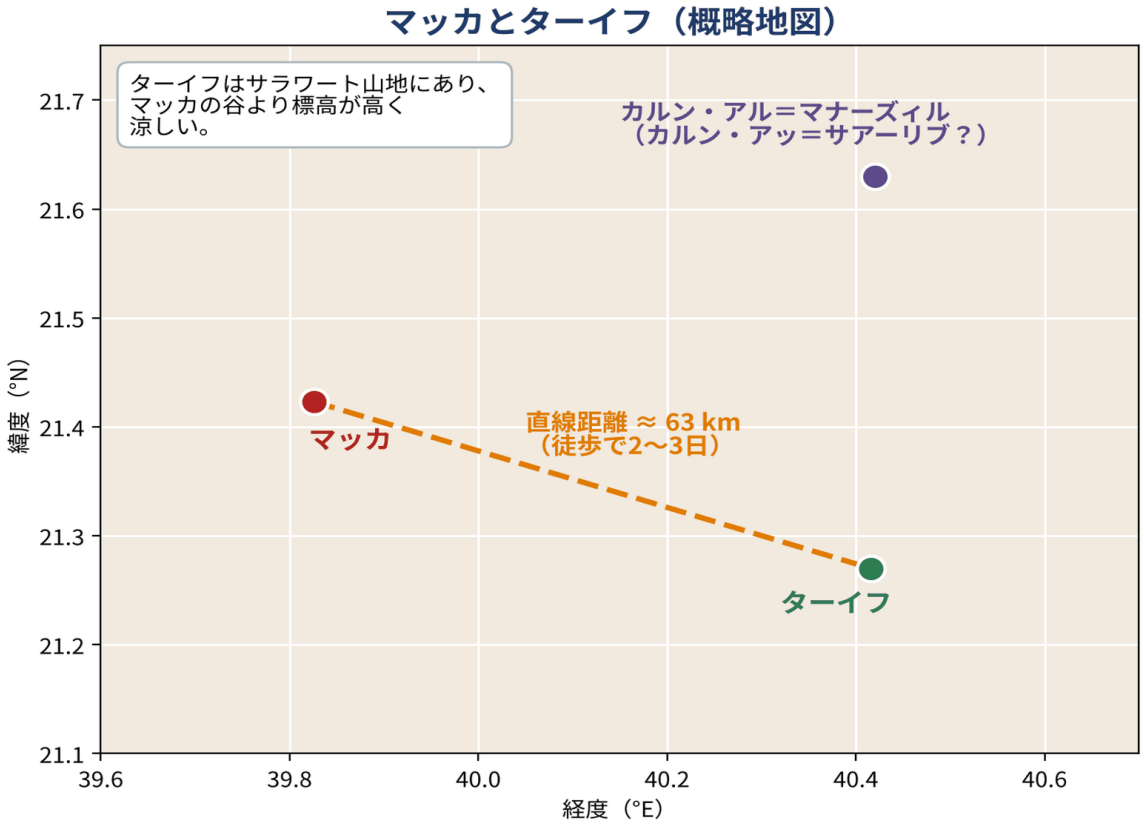
アッラーの使徒 ﷺ とサウダの結婚は、かれの結婚に**人道的・宣教的な目的**があったことを示しています。殉教したり亡くなったりした教友の未亡人を守り、家族を支えることです。

真正なハディースはサウダを称えています。アーイシャ رضي الله عنها は、サウダほどその人柄に似たいと思った女性はいないと言い、サウダは自分の順番をアーイシャに譲ったことがありました（『サヒーフ・ムスリム』1463）。

教訓：イスラームは**未亡人と孤児**を尊びます。かれらの世話をすることはアッラーの使徒 ﷺ のスンナです。

ターイフへ

ターイフはヒジャーズで 2 番目に重要な町で、**サキーフ族**が住んでいました。山地にあり、マッカより涼しく肥沃で、果樹園で知られていました。アッラーの使徒 ﷺ は、その住民がイスラームを受け入れ、かれを守ってくれることを望まれました。



座標は概算。カルン・アッ＝サアーリブを一部の学者はカルン・アル＝マナーズィルと同定する。出典：ウィキペディア「Taif」。

図 4：マッカとターイフの位置（概略地図）。

スィーラの注：ザイドと共に歩んだ旅

ウィキペディアによれば、ターイフへの旅は**西暦 619 年**に行われ、その距離はマッカから**2〜3 日の行程**でした。スィーラ書（イブン・サアド）は、かれが**ザイド・ブン・ハーリサ**を伴い、徒歩で行かれたと述べています。

アル＝ムバーラクフーリーは『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』の中で、かれが**約 10 日間**ターイフに滞在し、指導者を一人また一人と訪ねられたと述べています。

参照：

ウィキペディア「Muhammad's visit to Ta'if」。en.wikipedia.org/wiki/Muhammad%27s_visit_to_Ta%27if

なぜターイフなのか

要因	説明
2 番目に重要な町	マッカに次いで、ターイフはヒジャーズの権力と経済の中心でした。
強い部族	サキーフ族は、かつてのハーシム家のように保護を与えることができました。
親族のつながり	スィーラ書は、かれがターイフ周辺の部族と乳兄弟や親族の関係にあったと述べています。
クライシュ族の競争相手	サキーフ族は交易と影響力においてクライシュ族と競い合っていました。

かれがマッカだけに**望みを絶つことなく**、**別の道を探された**ことに注目してください。これは行き詰まりに直面したときの模範です。立ち止まらず、別の扉を探すのです。

教訓：宣教には**主体性と勇気**が必要です。50 歳近いかれが、使命を伝えるために徒歩で山々を越えて行かれたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

サキーフ族の拒絶

スィーラの注：サキーフ族の三人の指導者

ウィキペディアによれば、かれは**サキーフ族**の指導者である三兄弟、**アブド・ヤーリール**、**マスウード**、**ハビーブ**を訪ねられました。かれらは無礼に拒みました。真正なハディースは、かれが自らを申し出た相手として**イブン・アブド・ヤーリール・ブン・アブド・クラール**の名を挙げています（『サヒーフ・ブハーリー』3231）。

ターイフの人々はさらに、愚かな者たちや奴隷たちをけしかけて**かれを追い立て、石を投げつけ**させ、かれの足と手は傷ついて血を流しました。スィーラ書は、ザイドがかれを守ろうとして頭に傷を負ったと伝えています。

参照：

ウィキペディア「Muhammad's visit to Ta'if」。en.wikipedia.org/wiki/Muhammad%27s_visit_to_Ta%27if

最もつらい拒絶

マッカでは、反対されながらも、かれは家柄ゆえにまだ敬意を払われていました。ターイフでは、かれは守る者のいない**よそ者**でした。サキーフ族の拒絶は言葉だけでなく、人々の前での**侮辱と暴力**によるものでした。

かれはまた、クライシュ族がさらに大胆にならないよう、この会見を**秘密にしておく**よう頼まれましたが、かれらは断りました（スィーラ書）。希望をもって始まった旅は、傷を負って終わったのです。

10 年後のターイフ

スィーラ書によれば、**ヒジュラ暦 9 年**、サキーフ族の使節団がマディーナに来てイスラームに入りました。かつてかれに石を投げた町が、ついには忠誠の誓いを立てるために代表を送ったのです。アッラーの使徒 ﷺ の逝去後、多くの部族が背教したときにも、歴史書はサキーフ族がイスラームに**揺るがずにとどまった**と伝えています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓：**表面上の失敗**は努力が無駄だったことを意味しません。これから見るように、アッラーはその実りを別の時のためにとっておかれました。ターイフは約 10 年後についにイスラームに入ったのです。

ウトバとシャイバの果樹園で

スィーラの注：アッダースとひと房のぶどう

ウィキペディアとスィーラ書によれば、かれは**ウトバとシャイバ・ブン・ラビーアの果樹園**に身を寄せられました。二人はかれの姿を見て哀れに思ったクライシュ族の有力者で、キリスト教徒の奴隷**アッダース――ニーナワー**出身――に、ひと房のぶどうをかれに持って行かせました。

かれは「**ビスミッラー（アッラーの御名において）**」と言って食べ始められました。アッダースは、この土地の人々がその言葉を言わないので驚きました。アッダースがニーナワーの出身だと知ると、かれは、**預言者ユーヌス** عَلَيْهِ السَّلَامُ は自分の兄弟であり、自分と同じ預言者であると言われました。アッダースはかれの頭と手と足に口づけしました。

参照：

ウィキペディア「Muhammad's visit to Ta'if」。en.wikipedia.org/wiki/Muhammad%27s_visit_to_Ta%27if

アッダースの話は、イブン・イスハークが途切れのない伝承経路なしに伝えたもので、**二大サヒーフ集にはありません**。しかしその意味は、よく知られたかれの人柄と一致しています。

闇の中の光

最も暗い日に、アッラーはかれを敬う**異国の一人の奴隷**を遣わされました。血を流しながらも、かれはなお**宣教され**、アッダースを過去の預言者たちに結びつけられたのです。善を伝えるのに難しすぎる時などありません。

教訓：**預言者たちの使命の一体性**は、啓典の民への宣教の架け橋です。ユーヌス、ムーサー、イーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ は、唯一神の使命において預言者ムハンマド ﷺ の兄弟なのです。

ターイフでの祈り：その評価

スィーラの注：非常に有名な祈り

かれがその果樹園で唱えたとされる祈りを、多くの人が知っています。「**アッラーよ、わたしはあなたに、わたしの力の弱さ、わたしの手立ての乏しさ、人々の前でのわたしの卑しさを訴えます……**」から「**……あなたがわたしにお怒りでない限り、わたしは気にかけません。**」

この祈りは、イブン・イスハークが伝承経路なしに伝え、またアッ＝タバラーニーが伝えていますが、その伝承経路には素性の知れない伝承者がいるため、アル＝アルバーニーなどのハディース学者から**弱い（ダイーフ）**と評価されています。

どう向き合うか

項目	立場
確かにかれの言葉であるとすること	できません。伝承経路が弱いためです。
その意味	良いものであり、クルアーンとスンナに合致しています。アッラーにだけ訴えるということです。
似た言葉で祈ること	一般的な祈りとしては許されます。ただし預言者 ﷺ の言葉だと主張しないこと。
真正な祈り	クルアーンと真正なハディースの祈りを優先しましょう。

確かで真正なのは、かれ自身がその日のことをアーイシャに語られた内容です。次の章で見ます。その真正な伝承だけで、かれの悲しみの深さと慈悲の広さは十分に示されています。

最もつらい日

何年も後、かれが負傷しハムザが殉教したウフドの戦いの後、アーイシャ رضى الله عنها は、ウフドよりもつらい日があったかどうかを尋ねました。かれの答えは**ターイフ**を指していました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3231 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، أَخْبَرَنَا ابْنُ وَهْبٍ، قَالَ أَخْبَرَنِي يُونُسُ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، قَالَ حَدَّثَنِي عُرْوَةُ، أَنَّ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ زَوْجَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم حَدَّثَتْهُ أَنَّهَا قَالَتْ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم هَلْ أَتَى عَلَيْكَ يَوْمٌ كَانَ أَشَدَّ مِنْ يَوْمِ أُحُدٍ قَالَ «لَقَدْ لَقِيتُ مِنْ قَوْمِكِ مَا لَقِيتُ، وَكَانَ أَشَدُّ مَا لَقِيتُ مِنْهُمْ يَوْمَ الْعَقَبَةِ، إِذْ عَرَضْتُ نَفْسِي عَلَى ابْنِ عَبْدِ يَالِيلَ بْنِ عَبْدِ كُلاَلٍ، فَلَمْ يُجِبْنِي إِلَى مَا أَرَدْتُ، فَانْطَلَقْتُ وَأَنَا مَهْمُومٌ عَلَى وَجْهِي، فَلَمْ أَسْتَفِقْ إِلاَّ وَأَنَا بِقَرْنِ الثَّعَالِبِ، فَرَفَعْتُ رَأْسِي، فَإِذَا أَنَا بِسَحَابَةٍ قَدْ أَظَلَّتْنِي، فَنَظَرْتُ فَإِذَا فِيهَا جِبْرِيلُ فَنَادَانِي فَقَالَ إِنَّ اللَّهَ قَدْ سَمِعَ قَوْلَ قَوْمِكَ لَكَ وَمَا رَدُّوا عَلَيْكَ، وَقَدْ بَعَثَ إِلَيْكَ مَلَكَ الْجِبَالِ لِتَأْمُرَهُ بِمَا شِئْتَ فِيهِمْ، فَنَادَانِي مَلَكُ الْجِبَالِ، فَسَلَّمَ عَلَيَّ ثُمَّ قَالَ يَا مُحَمَّدُ، فَقَالَ ذَلِكَ فِيمَا شِئْتَ، إِنْ شِئْتَ أَنْ أُطْبِقَ عَلَيْهِمِ الأَخْشَبَيْنِ، فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم بَلْ أَرْجُو أَنْ يُخْرِجَ اللَّهُ مِنْ أَصْلاَبِهِمْ مَنْ يَعْبُدُ اللَّهَ وَحْدَهُ لاَ يُشْرِكُ بِهِ شَيْئًا».

訳：

預言者 رضى الله عنها の妻アーイシャ ﷺ によれば、かの女は預言者 ﷺ に尋ねた。「ウフド（の戦い）の日よりもつらい日を経験されたことはありますか。」かれは言われた。**「わたしはあなたの民から受けたものを受けた。最もつらかったのはアカバの日だった。わたしはイブン・アブド・ヤーリール・ブン・アブド・クラールに自らを申し出たが、かれはわたしの望むことに応じなかった。わたしはひどく悲しんで、行く先もわからずに歩き去り、気がつくとカルン・アッ＝サアーリブにいた。頭を上げると、雲がわたしを覆っていた。見ると、その中にジブリールがいた。かれはわたしに呼びかけて言**

った。『アッラーは、あなたの民があなたに言ったことと、かれらがあなたに返した答えを聞かれた。アッラーは山々の天使をあなたのもとに遣わされた。かれらについて、あなたの望むことを何でも命じなさい。』すると山々の天使がわたしに呼びかけ、わたしに挨拶して言った。『ムハンマドよ、（すべては）あなたの望みしだいです。もしお望みなら、二つのアフシャバーン山をかれらの上に合わせてしまいましょう。』預言者ﷺは言われた。『いや、わたしは、アッラーがかれらの子孫の中から、アッラーだけを崇め、何ものもかれに並べない者を生み出してくださることを望む。』」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブドッラー・ブン・ユースフ ← イブン・ワフブ ← ユーヌス・ブン・ヤズィード ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』創造の始まりの書、ハディース第 3231 番。ムスリム（第 1795 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:3231

このハディースの教訓

想像してみてください。**石を投げられ、辱められたばかりの人**が、その町の住民全体を滅ぼす力を差し出されたのです。それでもかれは**希望**を選ばれました。かれらの子孫からアッラーを崇める者が生まれますように、と。

差し出された選択肢	かれの選択
報復すること	赦すこと
今の世代を滅ぼすこと	未来の世代に希望をかけること
力を見せること	慈悲を見せること

かれの望みはかなえられました。ターイフの人々は**ヒジュラ暦 9 年**にイスラームに入り、サキーフ族からはイスラームの人物たちが生まれました。ハディースに出てくるアフシャバーンとは、マッカを取り囲む**二つの大きな山**のことです。

「わたしの民を赦してください」

イブン・マスウード رضى الله عنه は言った。アッラーの使徒 ﷺ が、民に打たれて血を流したある預言者のことを語っておられた様子が、今も目に浮かぶようだ。その預言者は顔の血をぬぐいながら祈った。**「アッラーよ、わたしの民を赦してください。かれらは知らないのです」**（『サヒーフ・ブハーリー』3477）。

学者たちは、この預言者たちの人柄はアッラーの使徒 ﷺ 自身の人柄でもあると説明しています。ターイフの出来事はそれをはっきりと示しています。かれは滅ぼすという申し出を退け、希望を選ばれたのです。

教訓：これこそが**「万有への慈悲」**（預言者章 21:107）の意味です。宣教者は人々の滅亡を祈るのではなく、その導きを祈るのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

クルアーンを聞いたジン

スィーラ書によれば、ターイフからの帰り道、かれは**ナフラの谷**にとどまり、夜の礼拝をされました。ジンの一団がかれのクルアーンの読誦を聞きました。アッラーはジンがクルアーンを聞いた出来事をこの節に記録されています。

砂丘章 46:29〜30

وَإِذْ صَرَفْنَآ إِلَيْكَ نَفَرًا مِّنَ ٱلْجِنِّ يَسْتَمِعُونَ ٱلْقُرْءَانَ فَلَمَّا حَضَرُوهُ قَالُوٓا۟ أَنصِتُوا۟ ۖ فَلَمَّا قُضِىَ وَلَّوْا۟ إِلَىٰ قَوْمِهِم مُّنذِرِينَ ﴿٢٩﴾

われが、クルアーンを聞きたいというジンの仲間をあなたに差し向けた時のことを思い起しなさい。かれらがその場に臨むと互いに、『謹んで聴きなさい。』と言った。やがてそれが終ると、警告のためにその民の所に帰って行き警告した。

قَالُوا۟ يَٰقَوْمَنَآ إِنَّا سَمِعْنَا كِتَٰبًا أُنزِلَ مِنۢ بَعْدِ مُوسَىٰ مُصَدِّقًا لِّمَا بَيْنَ يَدَيْهِ يَهْدِىٓ إِلَى ٱلْحَقِّ وَإِلَىٰ طَرِيقٍ مُّسْتَقِيمٍ ﴿٣٠﴾

かれらは言った。『わたしの人々よ、わたしたちはムーサーの後に下された啓典を確かに聞きました。（それは）それ以前に下されたものを確証し、真理と正しい道に導くものです。

訳：三田了一 — quran.com/46:29-30

46:29〜30 の節の解説

イブン・カスィールは、この出来事がかれのターイフからの帰り道に起きたとするイブン・イスハークの伝承を引用しています。またかれは、イブン・アッバース رضى الله عنهما からの真正な伝承として、かれが教友たちとウカーズの市場へ向かう途中、ナフラで夜明けの礼拝をしていたときにジンがその読誦を聞いたことも挙げています（『サヒーフ・ブハーリー』773）。この出来事の**正確な時期**については意見が分かれています。

時期がいつであれ、この節は非常に心を慰めるメッセージを伝えています。ターイフの人々が拒んだとき、**別の被造物**が聞き、信じ、警告者として自分の民のもとへ帰って行ったのです。かれの使命は**人間とジン**のためのものです。

ジンとは何か

項目	根拠
燃える炎から創られた	慈悲あまねく御方章 55:15
アッラーを崇めるために創られた	撒き散らすもの章 51:56
信じる者もいれば、不信仰の者もいる	ジン章 72:11、14
クルアーンを聞き、自分の民に宣教する	砂丘章 46:29〜30、ジン章 72:1〜2
目に見えない世界のことを知らない	サバア章 34:14

ジンを信じることは、目に見えないものへの信仰の一部です。しかしイスラームは迷信と、ジンに助けを求める行いを退けます。助けはアッラーからのみ来るからです（ジン章 72:6）。

教訓：宣教の成功を**一部の人々の反応**で測ってはいけません。アッラーは御望みの心を開かれます。ときには思いがけない方向から。

ムトイムの保護のもとでの帰還

スィーラの注：保護を得てマッカに入る

アブー・ターリブの保護がなければ、かれは安全にマッカに入ることができませんでした。ウィキペディアによれば、かれはザイド・ブン・ハーリサを送って保護を求め、ナウファル家の長**アル＝ムトイム・ブン・アディー**がこれに応じました。アル＝ムトイムは武装し、自分の息子たちや甥たちと共にかれを護衛してマッカに入りました。

アル＝ムトイムは、ボイコットを破棄した五人の一人でもありました。かれは西暦 623 年、**まだイスラームに入らないまま**亡くなりました。

参照：

ウィキペディア「Muṭʿim ibn ʿAdi」。en.wikipedia.org/wiki/Mu%E1%B9%AD%CA%BDim_ibn_%CA%BDAdi

ジワールの制度：アラブ社会の保護

アラブ社会では、守る者のいない人は有力者に**ジワール**（保護）を求めることができました。保護されている人を傷つける者は、その保護者自身を傷つけたとみなされました。アブー・バクルもイブン・アッ＝ドゥグンナのジワールのもとで暮らしたことがあります（『サヒーフ・ブハーリー』3905）。

アッラーの使徒 ﷺ は、信条を犠牲にすることなく、この既存の制度を賢明に用いられました。イスラームはのちにこの制度の良い価値を残しました。アッラーの御言葉を聞くために保護を求める多神教徒は保護され、安全な場所へ送り届けられなければなりません（悔悟章 9:6）。

アッラーの使徒 ﷺ は、アル＝ムトイムの恩を決して忘れられませんでした。バドルの戦いの後、かれはこの言葉でかれのことに触れられました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3139 番

حَدَّثَنَا إِسْحَاقُ بْنُ مَنْصُورٍ، أَخْبَرَنَا عَبْدُ الرَّزَّاقِ، أَخْبَرَنَا مَعْمَرٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، عَنْ مُحَمَّدِ بْنِ جُبَيْرٍ، عَنْ أَبِيهِ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم قَالَ فِي أُسَارَى بَدْرٍ «لَوْ كَانَ الْمُطْعِمُ بْنُ عَدِيٍّ حَيًّا، ثُمَّ كَلَّمَنِي فِي هَؤُلاَءِ النَّتْنَى، لَتَرَكْتُهُمْ لَهُ».

訳：

ジュバイル・ブン・ムトイム رضى الله عنه によれば、預言者 ﷺ はバドルの捕虜について言われた。「**もしアル＝ムトイム・ブン・アディーが生きていて、これらの卑しい者たちのことでわたしに口添えしたなら、わたしはかれのためにかれらを解放したであろう。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：イスハーク・ブン・マンスール ← アブドッラッザーク ← マアマル ← アッ＝ズフリー ← ムハンマド・ブン・ジュバイル ← その父ジュバイル・ブン・ムトイム رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』五分の一の義務の書、ハディース第 3139 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:3139

このハディースの教訓

このハディースは**恩に報いる人柄**を示しています。アル＝ムトイムは不信仰のまま亡くなりましたが、アッラーの使徒 ﷺ はかれの功績を公然と認め、そのために戦争の捕虜を解放してもよいとまで言われたのです。

このハディースの伝承者**ジュバイル・ブン・ムトイム**はアル＝ムトイム自身の息子で、のちにイスラームに入りました。父の善行が、息子が伝える話の一部となったのです。

困難と共に安楽はある

ボイコット、悲しみ、拒絶の年月は、マッカ時代のスィーラで最も暗い時期でした。しかしマッカ期のクルアーンは、二度繰り返される一つの約束を教えていました。

アッラーは仰せられます。「**本当に困難と共に安楽はある**」。この節は二度繰り返されます（94:5〜6）。イブン・カスィールは、「**困難**」**は定冠詞つきの特定の形**で、「**安楽**」**は不定の一般的な形**で述べられていることから、一つの困難が二つの安楽に打ち勝つことはないという学者の説明を引用しています。『タフスィール・イブン・カスィール』94:5。

困難	それに続く安楽
三年間のボイコット	良心ある五人によって破棄された
アブー・ターリブとハディージャの喪失	夜の旅と昇天、そしてヤスリブからの新たな支援（第 6 巻）
ターイフでの拒絶と石	ジンがクルアーンを聞き、ターイフもついにイスラームに入った
マッカでの保護の喪失	アル＝ムトイム・ブン・アディーの保護

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

安楽はいつもすぐに来るとは限らず、私たちが予想する形で来るとも限りません。しかしアッラーの約束は**確かなもの**です。この年月のスィーラは、その節の生きた証しなのです。

苦難のときの祈り

イブン・アッバース رضى الله عنهما によれば、苦難に見舞われたとき、アッラーの使徒 ﷺ はこう祈られました。「**ラー・イラーハ・イッラッラーフ・アル＝アズィーム・アル＝ハリーム、ラー・イラーハ・イッラッラーフ・ラッブ・アル＝アルシュ・アル＝アズィーム、ラー・イラーハ・イッラッラーフ・ラッブ・アッ＝サマーワーティ・ワ・ラッブ・アル＝アルディ・ワ・ラッブ・アル＝アルシュ・アル＝カリーム**」――偉大にして寛容なるアッラーのほかに神はない。偉大な玉座の主アッラーのほかに神はない。天の主、地の主、尊い玉座の主アッラーのほかに神はない（『サヒーフ・ブハーリー』6346）。

この真正な祈りは、伝承経路の弱いターイフの祈りとは違い、試練に遭うすべてのムスリムが確信をもって唱えることができます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

かれ以前の預言者たちも試練を受けた

マッカ期のクルアーンは、過去の預言者たちの試練を数多く語り、まるでアッラーの使徒 ﷺ を慰めるかのようです。「あなた以前の使徒たちも嘘つきとされたが、かれらは耐え忍んだ」（家畜章 6:34）。

預言者	試練と安楽
ヌーフ عَلَيْهِ السَّلَامُ	長いあいだ民に嘘つきとされたが、方舟によって救われた（フード章 11:40〜48）。
イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ	火の中に投げ込まれたが、火は涼しく安全なものとなった（預言者章 21:68〜69）。
ユースフ عَلَيْهِ السَّلَامُ	井戸に投げ込まれ投獄されたが、ついにはエジプトの統治者となった（ユースフ章 12:56）。
ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ	海までフィルアウンに追われたが、海が割れた（詩人たち章 26:61〜63）。
ユーヌス عَلَيْهِ السَّلَامُ	魚に呑まれたが、かれの讃美によって救われた（預言者章 21:87〜88）。
アイユーブ عَلَيْهِ السَّلَامُ	病と喪失で試されたが、回復し、失ったものの代わりを与えられた（預言者章 21:83〜84）。

教訓：喪失、拒絶、苦境――個人的なあらゆる試練の中で、**困難には安楽が伴っている**ことを思い出しましょう。単に後から来るのではなく、共にあるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

真正な伝承と有名な話のあいだ

ボイコット、悲しみの年、ターイフについては多くの話が社会に広まっています。次の表は、真正なもの、スィーラ書によるもの、弱いものを区別しています。

話とその評価

有名な話	評価
クライシュ族はハーシム家のボイコットを誓った。婚姻も売り買いもしない。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』1590）。
ボイコットはシッブ・アビー・ターリブで約三年間続いた。	スィーラ書。一般に受け入れられている。
盟約の文書がシロアリに食われた。	スィーラ書のムルサルの伝承。
アッラーの使徒 ﷺ はアブー・ターリブにラー・イラーハ・イッラッラーと言うよう求めた。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3884）。
28:56 の節はアブー・ターリブについて下った。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3884）。
ハディージャはヒジュラの 3 年前に亡くなった。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3896）。
アッダースとぶどうの話。	途切れのない伝承経路のないイブン・イスハークの伝承。
「アッラーよ、わたしはあなたに、わたしの力の弱さを訴えます……」という祈り。	アル＝アルバーニーによれば弱い（ダイーフ）。
山々の天使が二つの山を合わせようと申し出た。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3231）。
ターイフからの帰りにナフラでジンがクルアーンを聞いた。	ナフラでのジンの出来事は真正（『サヒーフ・ブハーリー』773）。ターイフとの結びつきはスィーラ書による。
アル＝ムトイム・ブン・アディーがかれを保護した。	スィーラ書。その功績は『サヒーフ・ブハーリー』3139 で認められている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

省察

この年月についての真正な伝承だけで、**忍耐と慈悲**に満ちたアッラーの使徒 ﷺ の姿は十分に描き出されています。かれのために涙を流し、かれを愛するのに、弱い伝承は必要ありません。

このシリーズの重要な場所

本書の出来事は、互いにそれほど離れていないいくつかの場所で起こりました。カアバのそばの狭い谷、マッカのはずれの墓地、そしてターイフへの山道です。この章ではそれらの場所を一つの表にまとめ、最もつらい年月のアッラーの使徒 ﷺ の歩みを読者が思い描けるようにしています。

場所の表

表の距離は**おおよその値**です。直線距離は現代の座標から計算し、道路距離は記載した資料によります。かれの時代に通った道は、はるかに険しく曲がりくねっていました。

場所	このシリーズとの関わり	場所／今日の様子
シッブ・アビー・ターリブ	ハーシム家とムッタリブ家が約三年間包囲された谷（スィーラ書）。	カアバの東、サファーとマルワの裏手、アブー・クバイス山とハンダマ山のあいだ。その大部分は現在マスジド・アル＝ハラームの区域に含まれている。
ハイフ・バニー・キナーナ（ムハッサブ／アブタフ）	クライシュ族がハーシム家のボイコットを誓った場所（『サヒーフ・ブハーリー』1590）。	マッカとミナーのあいだの谷。
ハジューン（ジャンナト・アル＝ムアッラー）	スィーラ書によれば、ハディージャ رضى الله عنها が葬られた墓地。	マスジド・アル＝ハラームから遠くなく、マスジド・アル＝ジンの近く。
ターイフ	かれがザイド・ブン・ハーリサと共に訪れたサキーフ族の町。	マッカの南東、直線で約 63km。現在の山岳道路で約 87km。
ナフラ	かれが礼拝し、ジンがクルアーンを聞いた谷（スィーラ書、『サヒーフ・ブハーリー』773）。	マッカとターイフのあいだの道沿い（正確な位置は推定）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

場所	このシリーズとの関わり	場所／今日の様子
カルン・アッ＝サアーリブ	ターイフを悲しみのうちに去ったかれが「我に返った」場所（『サヒーフ・ブハーリー』3231）。	ヤークート・アル＝ハマウィーによれば、ナジュドの人々のミーカートであるカルン・アル＝マナーズィルの別名。マッカの北東約 80km。

資料：WikiShia「Shi'b Abi Talib」、ウィキペディア「Taif」、Saudipedia「Qarn al-Manazil」、Medieval Middle East「al-Qarn」、Madain Project「Jannat ul-Mu'alla」。

今日のシッブ・アビー・ターリブ

三年間のボイコットを見届けた谷は、カアバのすぐ近く、サファーとマルワの丘の向こう、アブー・クバイス山のふもとにあります。この谷はシッブ・バニー・ハーシムとしても知られています。WikiShia によれば、この地域の家々や史跡の大部分は拡張事業によってマスジド・アル＝ハラームに取り込まれ、**スーク・アッ＝ライル**という名で知られるわずかな部分が残るだけです。

想像してみてください。今日の巡礼者たちは、ハーシム家の子どもたちがかつて飢えて泣いた場所からわずか数百メートルのところでサアイを行っているのです。その近さは、ボイコットが人里離れた場所ではなく、見ていながら黙っていた社会のただ中で起きたことを思い起こさせます。

ターイフへの道

ターイフはサラワート山脈の上にあり、マッカよりずっと高いところにあります。今日では車で曲がりくねった道を 1 時間あまりで行けます。かれの時代には、岩だらけの谷を上り下りしながら、徒歩で 2〜3 日かけて進む道のりでした。

帰り道について、真正なハディースは、かれがひどく悲しんで歩き、**カルン・アッ＝サアーリブ**に着くまで我に返らなかったと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』3231）。ヤークート・アル＝ハマウィーの『ムウジャム・アル＝ブルダーン』

によれば、カルン・アッ＝サアーリブは**カルン・アル＝マナーズィル**の別名です。そこはのちにかれがナジュドの人々のミーカートと定められた場所です。現在のアッ＝サイル・アル＝カビールのミーカートのモスクは、マッカの北東約 80km、ターイフの北約 35km にあります。

資料：Saudipedia「Qarn al-Manazil」、Medieval Middle East「al-Qarn」。

教訓

かつてアッラーの使徒 ﷺ の悲しみを見届けた場所は、今では何百万ものムスリムがイフラームを着て崇拝する場所となっています。忍耐をもって耐えた苦難は消えてしまうのではなく、アッラーはそれを、終末まで語り継がれる歴史の一部とされるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

ターイフとサキーフ族

なぜターイフだったのか。アッラーの使徒 ﷺ の希望と、かれが受けた拒絶の痛みを理解するには、この町とその住民を知る必要があります。

山の上の町

ウィキペディアによれば、ターイフは海抜約 **1,879 メートル**にあります。その気候はアラビア半島のほかの多くの町よりも穏やかで、7 月の平均最高気温は約 35.6℃です。この地域は昔から**ぶどう、ざくろ、いちじく、はちみつ**などの農産物で知られ、今日では香水用のバラの栽培から「**バラの町**」と呼ばれています。

「作物のない」谷（イブラーヒーム章 14:37）に住むマッカの人々にとって、ターイフは山の上の庭園でした。クライシュ族の多くの有力者がそこに果樹園を持っていました。ウトバとシャイバ・ブン・ラビーアもその一人で、追われたかれが身を休めたのはかれらの果樹園でした（スィーラ書）。

資料：ウィキペディア「Taif」。

サキーフ族と町の城壁

ターイフは西暦 6 世紀から**サキーフ族**に支配され、その子孫は今もこの地域に住んでいます。ウィキペディアによれば、町にはサキーフ族が築いた城壁があり、町を取り囲むその城壁が「ターイフ」（取り囲むもの）という名と結びつけられています。この堅固な地の利が、サキーフ族に自分たちの強さを確信させ、のちにヒジュラ暦 8 年のターイフ包囲を困難にしました（第 22 巻で語ります）。

アッラート：ターイフの偶像

ターイフは「ターイフの女主人」と呼ばれた偶像**アッラート**の崇拝の中心でした。クルアーンはアッラートをアル＝ウッザー、マナートと共に挙げ、それらの偶像に対する多神教徒の信仰を退けています（星章 53:19〜23）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

サキーフ族にとって、唯一神信仰を受け入れることは、町の誇りであり収入源でもあった偶像を捨てることを意味しました。これを知ると、かれらの拒絶がなぜあれほど激しかったのかがわかります。ウィキペディアとスィーラ書によれば、アッラートの偶像は、サキーフ族がヒジュラ暦 9 年にイスラームに入った後に壊されました。

資料：ウィキペディア「Taif」。

スィーラの注：拒絶から受け入れへ

ターイフはスィーラに三度登場します。預言者として遣わされて 10 年目、かれがザイドとただ二人で訪れて追い出されたとき。ヒジュラ暦 8 年（西暦 630 年）、フナインの戦いの後にイスラーム軍がターイフを包囲したものの陥落させなかったとき。そしてヒジュラ暦 9 年、サキーフ族の使節団が自らイスラームに入るためにマディーナへ来たときです。

歴史書によれば、アッラーの使徒 ﷺ の逝去後、多くのアラブの部族が背教したときにも、サキーフ族はイスラームに揺るがずにとどまりました。最も激しく拒んだ町が、ついには最も固く信仰を守る町の一つとなったのです。

教訓

サキーフ族の拒絶は、理解できなかったからではなく、利益と誇りに縛られていたからでした。宣教者は相手の背景を理解する必要があります。そして忍耐し続けるのです。最もかたくなな心でさえ、アッラーのお許しによって変わりうるのですから。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

歴史の足跡：歴史記録に見るターイフとマッカ

本書で語った年月の物理的な痕跡は、多くは残っていません。しかしターイフとマッカの地域には、確かな歴史記録がいくつか残されています。この章ではそのうちの二つを取り上げ、伝承だけに基づくことははっきりと示します。

ターイフのムアーウィヤのダムの碑文（ヒジュラ暦 58 年）

ターイフから約 ***9.6km*** のところに、**ムアーウィヤのダム**（サイサド・ダムとも呼ばれる）として知られる古いダムがあります。山のふもと、ダムの壁面の右側にある大きな花崗岩の上に、点つきのクーフィー体による 6 行の碑文が刻まれており、大きさは約 130×70cm です。

碑文は、このダムが**信徒たちの長ムアーウィヤ**のものであり、アッラーのお許しによって**ヒジュラ暦 58 年（西暦 678 年）**に築かれたことを述べ、かれのための赦しと力を求める祈りで結ばれています。これは 1948 年に G. C. マイルズによって『Journal of Near Eastern Studies』に発表されました。Saudipedia によれば、この碑文は研究者たちから、イスラーム時代の建造物にある**点つき文字による最古の年代入りアラビア語碑文**とみなされており、アラビア文字の発展史における重要な証拠です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

資料：Saudipedia「ムアーウィヤ・ブン・アビー・スフヤーンのダムの碑文」、Islamic Awareness「Inscription On The Dam Built By Caliph Mu'awiya, 58 AH」。

歴史の注：このシリーズとの関わりは？

この碑文は、アッラーの使徒 ***enam puluh tahun*** がターイフから追われた約 60 年後に作られました。本書の出来事の直接的な証拠では**なく**、私たちもそう主張するものではありません。

しかしこれは、そこで起こった大きな変化を示しています。かつてかれに石を投げた町が、二世代のうちに、民のために公共施設を築くイスラーム国家の一部となったのです。そして、かつてはまれにしか使われなかったアラビア文字が、ムスリムの統治者の名のもとに整然と刻まれるようになりました。

ハジューン：ジャンナト・アル＝ムアッラー墓地

ハディージャ رضى الله عنها は、現在**ジャンナト・アル＝ムアッラー**として知られるマッカの古い墓地ハジューンに葬られました。Madain Project によれば、伝承ではそこにアブー・ターリブと、かれの祖父アブドルムッタリブも葬られているとされます。この墓地の墓の上の建物は 1925 年に取り壊され、今日その区域は長く白い壁に囲まれ、墓は名前のない石で示されているだけです。

注：伝承と伝承記録のあいだ

スィーラ書は、ハディージャがハジューンに葬られたと述べています。しかし、名前の印がないため、ジャンナト・アル＝ムアッラーにあるかの女の墓や他の墓の**正確な位置**は、今日確かめることができません。特定の墓を定めるのは、地元の伝承に基づくだけです。

墓参りのスンナは、死を思い出し、葬られているムスリムのために祈るためのものです。真正なハディースはまた、かれが教訓を得るために母の墓を訪れたことを示しています（『サヒーフ・ムスリム』976）。これは第 1 巻でも述べました。

資料：Madain Project「Jannat ul-Mu‘alla」。

教訓

確かな歴史は、スィーラをより深く味わう助けになります。しかし私たちは、確実な証拠と、まだ確かめられない伝承とを正直に区別しなければなりません。最も大切なのは墓の位置を知ることではなく、そこに眠る人々の信仰と犠牲を受け継ぐことです。

このシリーズの人物

次の表は、本書の主な人物――守った人々、勇気をもって声を上げた人々、そして拒んだ人々――をまとめたものです。それぞれの情報の出典を示し、スィーラ書からの情報は「スィーラ書」と記しています。

家族と保護者たち

人物	本巻での役割	典拠
アブー・ターリブ・ブン・アブドルムッタリブ	かれのおじであり保護者。信仰告白の言葉を言わずに亡くなった。	『サヒーフ・ブハーリー』3884、3883
ハディージャ・ビント・フワイリド	ボイコットを共に耐えたかれの妻。ヒジュラの 3 年前に亡くなった。	『サヒーフ・ブハーリー』3896、3818
サウダ・ビント・ザムア	ハディージャの後にかれが結婚した移住者の未亡人。	スィーラ書
ザイド・ブン・ハーリサ	ターイフへかれに同行し、かれを守ろうとした。	スィーラ書
ハキーム・ブン・ヒザーム	おばハディージャのもとへひそかに食べ物を運んだ。マッカ征服の日にイスラームに入った。	スィーラ書
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク	圧力を受けて移住のために出発したが、イブン・アッ＝ドゥグンナの保護のもとに戻った。	『サヒーフ・ブハーリー』3905

ボイコットを破棄した五人

人物	本巻での役割	典拠
ヒシャーム・ブン・アムル	ボイコットを破棄する申し合わせを始め、夜に食べ物を送った。	スィーラ書

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人物	本巻での役割	典拠
ズハイル・ブン・アビー・ウマイヤ	クライシュ族の集会で立ち上がり、ボイコットに反対した。	スィーラ書
アル＝ムトイム・ブン・アディー	ボイコットの破棄に加わり、のちにターイフから戻ったかれを保護した。	スィーラ書、『サヒーフ・ブハーリー』3139
アブル・バフタリー・ブン・ヒシャーム	アブー・ジャフルからハキーム・ブン・ヒザームをかばい、ボイコットの破棄に加わった。	スィーラ書
ザムア・ブン・アル＝アスワド	ボイコットを破棄した五人の一人。	スィーラ書

反対者たち

人物	本巻での役割	典拠
アブー・ジャハル（アムル・ブン・ヒシャーム）	ボイコットを支持し、食べ物の援助を妨げ、その破棄に反対した。	スィーラ書
アブー・ラハブ	クライシュ族の側についたハーシム家ただ一人の人物。	スィーラ書
イブン・アブド・ヤーリール・ブン・アブド・クラール	かれの申し出を拒んだターイフの指導者。	『サヒーフ・ブハーリー』3231
マスウードとハビーブ（アブド・ヤーリールの兄弟）	同じく無礼に拒んだサキーフ族の指導者たち。	スィーラ書
ウトバとシャイバ・ブン・ラビーア	かれが身を休めた果樹園の持ち主。のちにバドルの戦いで討たれた。	スィーラ書

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓

このシリーズで私たちは、まだ信仰していなくても忠実な親族、勇気をもって正義を立てたよそ者、そして傲慢に拒んだ指導者たちに出会いました。人の価値は血縁や地位ではなく、真理と正義に対する態度によって測られるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年表：スィーラと世界

次の表は、本書の出来事を同じ時代の世界の大きな出来事と並べたものです。西暦年はおおよその値で、いくつかの出来事の正確な年代については歴史家とスィーラ学者のあいだで意見が分かれています。

年（概算）	マッカとターイフで	周辺の世界で
預言者として遣わされて 7 年目のムハッラム月（西暦 617 年頃）	ハイフ・バニー・キナーナでボイコットの盟約。ハーシム家はシッブ・アビー・ターリブに移った（『サヒーフ・ブハーリー』1590、スィーラ書）。	ローマ・ペルシア戦争が続く。ペルシアはすでにシャームとエルサレムを支配していた（第 4 巻）。
西暦 618 年	ハーシム家はなお包囲されていた。	中国で唐王朝が建てられる。
西暦 618〜621 年	—	ペルシアがエジプトを征服。アレクサンドリアは西暦 619 年頃に陥落。
預言者として遣わされて 10 年目（西暦 619 年頃）	ボイコットが破棄される。アブー・ターリブとハディージャが亡くなる——ヒジュラの 3 年前（『サヒーフ・ブハーリー』3896、3884）。	—
ハディージャの後	サウダ・ビント・ザムアとの結婚（スィーラ書）。	—
10 年目のシャウワール月（西暦 619 年頃）	ターイフへの旅、ナフラのジン、ムトイムの保護のもとでの帰還（『サヒーフ・ブハーリー』3231、スィーラ書）。	—
西暦 622 年	マディーナへのヒジュラ（第 7 巻）。	皇帝ヘラクレイオスがペルシアへの反攻を開始。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

資料：ウィキペディア「Byzantine–Sasanian War of 602–628」、ウィキペディア「Tang dynasty」、ウィキペディア「Sasanian conquest of Egypt」。

スィーラの注：どちらが先に亡くなったか

真正なハディースは、ハディージャがヒジュラの 3 年前に亡くなったこと（『サヒーフ・ブハーリー』3896）と、アブー・ターリブがかれのまだマッカにいるあいだに亡くなったこと（『サヒーフ・ブハーリー』3884）を述べるだけです。スィーラ書は、二人が同じ年に亡くなったことでは一致していますが、どちらが先に亡くなったか、二人のあいだにどれだけの間隔があったかについては意見が分かれています。

ターイフへの旅の時期も同様です。イブン・サアドは、預言者として遣わされて 10 年目のシャウワール月としています。このような意見の違いは物語の本質に影響せず、真正な資料が確定していないことを私たちが確定する必要はありません。

アッラーの使徒 ﷺ が二人の主な支えを失い、ターイフから追われたとき、世界ではペルシアがローマの領土を次々と征服しており、遠い東では中国に新しい王朝が興ろうとしていました。血を流した足でターイフから歩いて帰るその人が、世界を照らす使命をもたらすとは、誰も思わなかったでしょう。

教訓

アッラーの使徒 ﷺ の個人的な悲しみは、世界が揺れ動いていたときに起こりました。歴史は、真の強さが帝国や軍隊ではなく、この世のすべての支えが失われたように見えるときの信仰の揺るぎなさによって測られることを教えています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

よくある質問

ボイコット、悲しみの年、ターイフへの旅についてよくある質問を、本書の資料に基づく短い答えと共に紹介します。

1. なぜまだイスラームに入っていないハーシム家の人々までボイコットされたのか。

ボイコットはムスリム個人だけでなく、かれを守る部族に向けられたものだったからです。真正なハディースは、クライシュ族が、アッラーの使徒 ﷺ を引き渡すまでハーシム家とムッタリブ家に対して誓い合ったと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』1590）。

2. ボイコットはどのくらい続いたのか。

スィーラ書によれば約三年間です。預言者として遣わされて 7 年目のムハッラム月から 10 年目までです。

3. アブー・ラハブもその谷にいたのか。

いいえ。スィーラ書によれば、アブー・ラハブはクライシュ族の側につくことを選んだハーシム家ただ一人の人物でした。

4. アブー・ターリブとハディージャのどちらが先に亡くなったのか。

真正なハディースはそれを定めていません。確かなのは、ハディージャがヒジュラの 3 年前に亡くなったこと（『サヒーフ・ブハーリー』3896）と、スィーラ書によれば二人が同じ年に亡くなったことです。順序についてはスィーラ学者のあいだで意見が分かれています。

5. なぜその年は「悲しみの年」と呼ばれるのか。

その年、かれを最も守り支えた二人を失われたからです。家の外ではアブー・ターリブ、家の中ではハディージャです。この名はスィーラ書で広く知られています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

6. 不信仰のまま亡くなった親族のために赦しを乞うてよいか。

いいえ。かれがアブー・ターリブのために赦しを乞い続けると言われた後、アッラーは、たとえ親族であっても多神教徒のために赦しを乞うことの禁止を下されました（悔悟章 9:113、『サヒーフ・ブハーリー』3884）。しかし、かれがアル＝ムトイムの功績を覚えておられたように（『サヒーフ・ブハーリー』3139）、私たちはかれらの善行を思い出し、感謝することはできます。

7. ターイフはマッカからどのくらい離れているのか。誰がかれに同行したのか。

直線で約 63km、現在の道路で約 87km です。かれの時代には徒歩で 2〜3 日かかりました。スィーラ書によれば、ザイド・ブン・ハーリサ رضى الله عنه が同行しました。

8. 偶像アッラートとターイフにはどんな関わりがあるのか。

アッラートはサキーフ族が崇めたターイフの主な偶像で、星章 53:19 に出てきます。サキーフ族がヒジュラ暦 9 年にイスラームに入った後に壊されました。

9. カルン・アッ＝サアーリブはどこにあるのか。

真正なハディースでは、ターイフから戻るかれが我に返った場所として出てきます（『サヒーフ・ブハーリー』3231）。ヤークート・アル＝ハマウィーによれば、それはナジュドの人々のミーカートであるカルン・アル＝マナーズィルの別名です。

10. 「アッラーよ、わたしはあなたに、わたしの力の弱さを訴えます……」という祈りを唱えてよいか。

この祈りは非常に有名ですが、その伝承経路はアル＝アルバーニーによって弱いと評価されています（「ターイフでの祈り：その評価」の章を参照）。似た意味の自分の言葉でアッラーに訴えることはできますが、アッラーの使徒 ﷺ の真正な伝承としてかれに帰してはいけません。

11. ナフラのジンの出来事は、ジン章で述べられているものと同じか。

真正なハディースは、かれが教友たちと夜明けの礼拝をしていたときにナフラでジンがかれの読誦を聞き、ジン章 72:1 が下ったと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』773）。一方、スィーラ書は砂丘章 46:29〜30 をターイフからの帰り道と結びつけています。これが一つの出来事か、いくつかの別々の出来事かについては、学者のあいだで意見が分かれています。

12. なぜかれは、まだイスラームに入っていないアル＝ムトイムの保護を受け入れたのか。

ジワール（保護）の制度はアラブ社会で尊重された慣習であり、それを受け入れることは信条を損なわないからです。アブー・バクルもイブン・アッ＝ドゥグンナのジワールのもとで暮らしたことがあります（『サヒーフ・ブハーリー』3905）。イスラーム自身もこの良い価値を残しています（悔悟章 9:6）。

教訓

真正な資料に基づく答えの一つ一つが確信を強め、根拠のない話から私たちを遠ざけてくれます。この悲しみの年月のアッラーの使徒 ﷺ のスィーラは、単なる歴史ではなく、喪失と拒絶で試されるすべてのムスリムのための道しるべなのです。

教訓と結び

本書からの教訓

第一：永遠に続く不正はない。 ハイフ・バニー・キナーナで誓われたボイコットも、ついには崩れた（『サヒーフ・ブハーリー』1590）。

第二：良心ある人を尊ぶ。 クライシュ族の五人がボイコットを破棄し、アル＝ムトイムの功績は覚えられた（『サヒーフ・ブハーリー』3139）。

第三：唯一神信仰の言葉は鍵である。 アッラーの使徒 ﷺ はアブー・ターリブに一つの言葉だけを求められた（『サヒーフ・ブハーリー』3884）。

第四：導きはアッラーのもの。 私たちの務めは伝え、祈ることである（28:56）。

第五：伴侶への誠実さ。 ハディージャは生涯にわたって思い出された（『サヒーフ・ブハーリー』3818）。

第六：行き詰まっても立ち止まらない。 マッカの扉が閉ざされた後、かれはターイフに支援を求められた。

第七：慈悲は報復にまさる。 「わたしは、アッラーがかれらの子孫の中から……生み出してくださることを望む」（『サヒーフ・ブハーリー』3231）。

第八：宣教の成功は一部の人々で測られない。 人間が拒んだとき、ジンが聞いた（46:29〜30）。

第九：困難と共に安楽はある。 二度繰り返された約束（94:5〜6）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

年表のまとめ

時期（推定）	出来事と典拠
7 年目のムハッラム月（西暦 617 年頃）	ボイコットの盟約（『サヒーフ・ブハーリー』1590、スィーラ書）
西暦 617〜619 年	ハーシム家がシッブ・アビー・ターリブで包囲される（スィーラ書）
10 年目（西暦 619 年頃）	クライシュ族の五人によってボイコットが破棄される（スィーラ書）
西暦 619 年	ハディージャ（『サヒーフ・ブハーリー』3896）とアブー・ターリブ（『サヒーフ・ブハーリー』3884）の逝去
ハディージャの後	サウダ・ビント・ザムアとの結婚（スィーラ書）
西暦 619 年	ターイフへの旅（『サヒーフ・ブハーリー』3231）
ターイフからの帰り道	ナフラのジン（46:29、スィーラ書）
ターイフからの帰り道	アル＝ムトイム・ブン・アディーの保護（スィーラ書）

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：326 / 485

結び

包囲されたシッブ・アビー・ターリブの谷から、ハディージャを失った家へ、臨終のアブー・ターリブのそばへ、そしてターイフからの岩の道へ――アッラーの使徒 ﷺ は最もつらい年月を**忍耐と慈悲**をもって歩まれました。インシャー・アッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』は**夜の旅と昇天**、ヤスリブの人々との出会い、そして**アカバの誓い**へと続きます。この困難の後にアッラーが用意された安楽です。アッラーこそ最もよくご存じです。

第 5 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。quran.com/ms

イブン・カスィール『タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム』（28:56、9:113、46:29〜30、94:5〜6）。tafsir.app/ibn-katheer/28/56

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』773、1303、1356、1590、1765、3139、3231、3432、3477、3818、3820、3883、3884、3896、3905、6346。sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』212、1463。sunnah.com/muslim

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ』（イブン・イスハークからの伝承）――ボイコット、アブー・ターリブとハディージャの逝去、ターイフへの旅の章。

サフィー・アッ＝ラフマーン・アル＝ムバーラクフーリー『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』――ボイコット、悲しみの年、ターイフの章。

ウィキペディア「Muhammad’s visit to Ta’if」。en.wikipedia.org/wiki/Muhammad%27s_visit_to_Ta%27if

ウィキペディア「Year of Sorrow」。en.wikipedia.org/wiki/Year_of_Sorrow

ウィキペディア「Khadija bint Khuwaylid」en.wikipedia.org/wiki/Khadija_bint_Khuwaylid

Wikipedia「Abu Talib ibn Abd al-Muttalib」。en.wikipedia.org/wiki/Abu_Talib_ibn_Abd_al-Muttalib

ウィキペディア「Hakim ibn Hizam」。en.wikipedia.org/wiki/Hakim_ibn_Hizam

ウィキペディア「Sawda bint Zam'a」。en.wikipedia.org/wiki/Sawda_bint_Zam'a

ウィキペディア「Muṭ'im ibn 'Adi」。en.wikipedia.org/wiki/Mu%E1%B9%AD%CA%BDim_ibn_%CA%BDAdi

ウィキペディア「Taif」。en.wikipedia.org/wiki/Taif

場所、歴史、碑文

WikiShia「Shi‘b Abi Talib」。en.wikishia.net/view/Shi'b_Abi_Talib

Saudipedia 「 Qarn al-Manazil 」 。 saudipedia.com/en/article/3143/history/landmarks-and-monuments/qarn-al-manazil

Medieval Middle East「al-Qarn」（ヤークート・アル＝ハマウィー『ムウジャム・アル＝ブルダーン』）。medievalmideast.org/place/11719

Madain Project「Jannat ul-Mu‘alla」。madainproject.com/jannat_ul_mualla

Saudipedia「ムアーウィヤ・ブン・アビー・スフヤーンのダムの碑文」。saudipedia.com/%D9%86%D9%82%D9%88%D8%B4-%D8%B3%D8%AF-%D9%85%D8%B9%D8%A7%D9%88%D9%8A%D8%A9-%D8%A8%D9%86-%D8%A3%D8%A8%D9%8A-%D8%B3%D9%81%D9%8A%D8%A7%D9%86

Islamic Awareness「Inscription On The Dam Built By Caliph Mu‘awiya, 58 AH / 678 CE」。islamic-awareness.org/history/islam/inscriptions/muwinsc1.html

ウィキペディア「Byzantine–Sasanian War of 602–628」。en.wikipedia.org/wiki/Byzantine%E2%80%93Sasanian_War_of_602%E2%80%93628

ウィキペディア「Tang dynasty」。en.wikipedia.org/wiki/Tang_dynasty

ウィキペディア「Sasanian conquest of Egypt」。en.wikipedia.org/wiki/Sasanian_conquest_of_Egypt

このページは意図的に空白にしています

第六部

夜の旅と昇天

預言者伝（スィーラ）— 第 6 巻

イスラーとミウラージュ：クルアーンと真正なハディースに基づく、エルサレムと七つの天への旅、礼拝の義務化、そしてアカバの誓い

夜の旅と昇天

『預言者伝（スィーラ）』第 5 巻は、ボイコットされ、アブー・ターリブとハディージャを失い、ターイフで石を投げつけられた後、アッラーの使徒 ﷺ が一人の多神教徒の保護のもとでマッカに戻られたところで終わりました。地上が狭く感じられたそのとき、アッラーは**天**を開かれました。この第 6 巻は、マスジド・ハラームからマスジド・アクサーへの夜の旅である**イスラー**と、七つの天を越えてスィドラ・アル＝ムンタハーにまで昇り、そこで**一日五回の礼拝**が義務とされた**ミウラージュ**（昇天）を語ります。

本書の後半は、続いて地上で与えられた安らぎを語ります。**ヤスリブ**から来た何人かの男たちとの出会い、二度の**アカバの誓い**、そしてイスラーム最初の使節としての**ムスアブ・ブン・ウマイル**の派遣です。これがヒジュラへの道を開きました。

夜の旅と昇天の話は非常に長く、伝承も多く、その一部は真正で、一部は弱いか捏造です。本書は**クルアーンと真正なハディースに依拠し**、とくに『サヒーフ・ブハーリー』のマーリク・ブン・サアサアのハディースを柱とし、真正でない話ははっきりと示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

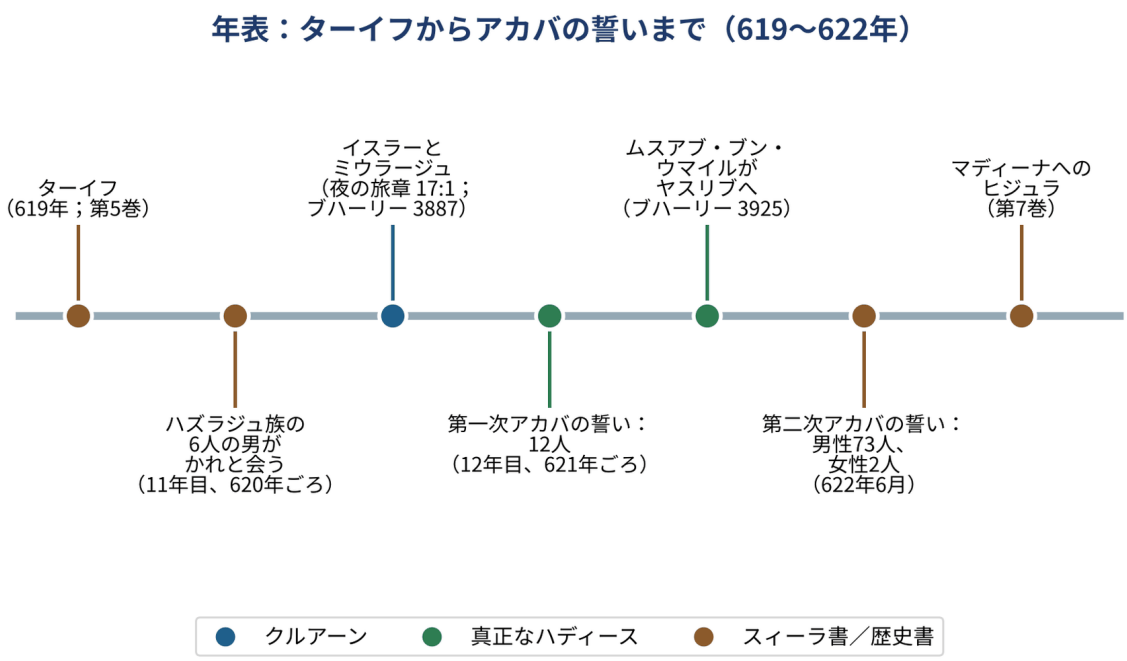


図 1：ターイフからアカバの誓いまでの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

ターイフの後：支援者を求めて

ターイフの後も、アッラーの使徒 ﷺ は望みを捨てられませんでした。巡礼の季節ごとに、アラブの諸部族がマッカやウカーズ、マジャンナ、ズル・マジャーズの市にやって来ると、かれは天幕から天幕へと訪ね歩き、イスラームを勧め、使命を伝えるための保護を求められました。

ジャービル・ブン・アブディッラー رضي الله عنهما によれば、かれは宿営地で人々に自らを示し、こう言われました。「**自分の部族のもとへ私を連れて行ってくれる者はいないか。クライシュ族は、私が主の言葉を伝えることを妨げているのだ**」（『スナン・アビー・ダーウード』4734、真正）。

スィーラの注：拒んだ部族

スィーラ書によれば、かれは**キンダ族、カルブ族、アーミル・ブン・サアサア族、ハニーファ族**などの部族を訪ねられました。多くは拒み、丁寧に断る者もいれば、乱暴に断る者もいました。アーミル族は、かれの後に指導権を自分たちに譲るという条件で同意したと伝えられていますが、かれは、その事はアッラーのものであり、アッラーが望む者に置かれるのだと答えられました。

また、アブー・ラハブはかれの後をつけ回し、かれを信じないよう人々に言いふらしたと伝えられています。

教訓：宣教は**権力の駆け引き**にはなりません。かれは、どれほど支援を必要としていても、条件付きの支援を断られました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

夜の旅と昇天はいつ起きたのか

クルアーンと真正なハディースは、夜の旅と昇天の**日付を述べていません**。そのため、スィーラ学者の見解は大きく分かれています。

見解	説明
ラジャブ月 27 日	有名で多くの国で記念されている見解。真正な伝承に基づくものではない。
ヒジュラの約 1 年前	多くのスィーラ学者の見解。ウィキペディアは西暦 621 年ごろとしている。
ラビーウ・アル＝アウワル月またはラマダーン月	イブン・サアドらが挙げている。
ハディージャの逝去の前	一部の学者。ハディージャの存命中にすでに礼拝が義務とされていたため。

資料：ウィキペディア「Isra' and Mi'raj」。

日付よりも大切なのは**その教訓**です。学者たちは、ラジャブ月 27 日の夜に特別な崇拝行為を定めた真正な根拠はないと注意しています。スィーラを学び、礼拝を守ることこそ、この出来事を尊ぶ最善の方法です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「かれに栄光あれ…」

クルアーンは、この出来事にちなんで名づけられた章の最初の節で、夜の旅を記録しています。

夜の旅章 17:1

سُبۡحَٰنَ ٱلَّذِيٓ أَسۡرَىٰ بِعَبۡدِهِۦ لَيۡلٗا مِّنَ ٱلۡمَسۡجِدِ ٱلۡحَرَامِ إِلَى ٱلۡمَسۡجِدِ ٱلۡأَقۡصَا ٱلَّذِي بَٰرَكۡنَا حَوۡلَهُۥ لِنُرِيَهُۥ مِنۡ ءَايَٰتِنَآۚ إِنَّهُۥ هُوَ ٱلسَّمِيعُ ٱلۡبَصِيرُ ١

かれに栄光あれ。そのしもべを、（マッカの）聖なるマスジドから、われが周囲を祝福した至遠の（エルサレムの）マスジドに、夜間、旅をさせた。わが種々の印をかれ（ムハンマド）に示すためである。本当にかれこそは全聴にして全視であられる。

訳：三田了一 — quran.com/17:1

節 17:1 の解説

この節は「**かれに栄光あれ。そのしもべを…夜間、旅をさせた**」で始まります。イブン・カスィールは、この出来事が**人間の力を超えている**ため、アッラーがご自身を清める**タスビーフ**（讃美）で始められたのであり、それができるのはアッラーだけだと説明しています。「**そのしもべ**」という言葉は、旅が**体と魂**の両方によるものであったことを示します。「しもべ」とは両方を指すからです。『タフスィール・イブン・カスィール』17:1。

節の中の言葉	教訓
「かれに栄光あれ」	この出来事は奇跡であり、理性だけで測ってはならない。
「そのしもべ」	アッラーの使徒 ﷺ にとって最も尊い称号は「アッラーのしもべ」である。
「夜間」	それは一夜のうちのわずかな時間に起きた。
「聖なるマスジドから至遠のマスジドに」	二つの聖なるモスクを結ぶ。イスラームは預言者たちの使命の継承者である。
「われが周囲を祝福した」	シャームとパレスチナの地は祝福されている。
「われの印をかれに示すため」	旅の目的：使徒の確信を強めること。

教訓：真の栄誉とは**アッラーのしもべであること**です。生涯で最も尊い夜に、アッラーの使徒 ﷺ は「しもべ」という称号で呼ばれました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

切り開かれ、信仰で満たされた胸

マーリク・ブン・サアサア رضى الله عنه のハディースは、驚くべき出来事から始まります。アッラーの使徒 ﷺ がカアバのそばの**ハティーム**（ヒジュル）で横になっておられたとき、天使がやって来て**かれの胸を切り開き**、心臓を取り出して、信仰で満ちた金の器で洗い、元に戻しました（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。

同じ出来事は、かれが幼いころサアド族の村でも起きていました（第 1 巻；『サヒーフ・ムスリム』162）。学者たちは、この二度目の切開は偉大な旅のための**準備**であったと説明しています。天の世界を目の当たりにし、礼拝の命令をじかに受けるためです。

信仰の座としての心

かれの心は洗われ、**信仰と英知**で満たされました。これは、どんな大きな務めにも最も大切な準備は**心を清めること**だと教えています。アッラーの使徒 ﷺ は、体の中には一片の肉があり、それが健全であれば体全体が健全になる、それは心である、と言われました（『サヒーフ・ブハーリー』52）。

この出来事は**目に見えない世界（ガイブ）**のことであり、伝えられたとおりに信じなければなりません。普通の医学の尺度で理性に無理に解釈させる必要はないのです。

ブラーク

真正なハディースは、ブラークを**白い乗り物**で、**ラバより小さくロバより大きく**、**視線の届く果てに**一歩一歩を置くものと描いています（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。学者たちは「ブラーク」という名を、その速さから**バルク**（稲妻）と結びつけています。

描写	評価
白く、ラバとロバの中間の大きさ	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3887）
一歩が視線の届く果てまで	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3887）
エルサレムの輪につながれた	真正（『サヒーフ・ムスリム』162）
女性の顔をした翼のある馬	真正なハディースに根拠はない。後代の芸術による描写

広く出回っている、人間の頭をもつ翼のある馬としてのブラークの絵は、**真正なハディースに基づいていません。**後代の芸術の創作です。私たちは、アッラーの使徒 ﷺ ご自身が述べられた描写を信じれば十分です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

エルサレムにて：預言者たちの導師

『サヒーフ・ムスリム』のアナス・ブン・マーリク رضى الله عنه のハディースは、夜の旅について詳しく加えています。かれはブラークに乗って**バイト・アル＝マクディス**（エルサレム）に着き、預言者たちが乗り物をつないでいた**輪にそれをつなぎ**、それからモスクに入って**二ラクアの礼拝**をされました（『サヒーフ・ムスリム』162）。

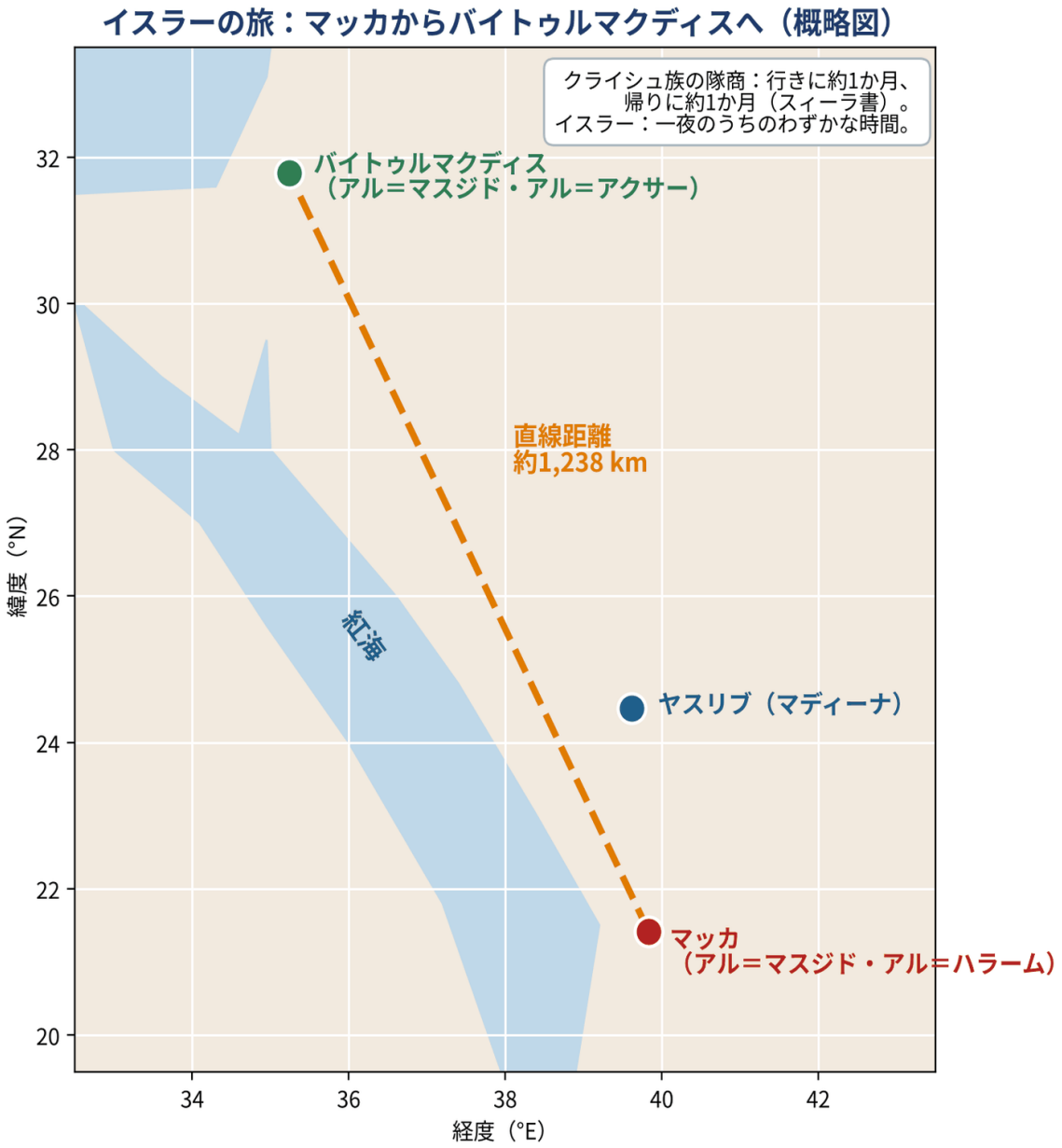
またアブー・フライラ رضى الله عنه によれば、かれはこう言われました。「**私は預言者たちの一団の中にいた…。そして礼拝の時が来たので、私がかれらの導師（イマーム）を務めた**」（『サヒーフ・ムスリム』172）。

預言者たちの導師を務めたことの意味

学者たちは、アッラーの使徒 ﷺ が預言者たちの導師を務められたことは、以前のすべての使命に対する**かれの使命の指導的地位**を示すと説明しています。預言者たちの宗教は一つ――**唯一神信仰（タウヒード）**――であり、預言者ムハンマド ﷺ はかれらの**封印**です（部族連合章 33:40）。

教訓：ムスリムは、イブラーヒーム、ムーサー、イーサーなど、すべての預言者 ***pewaris*** の継承者です。だからこそ、エルサレムとイスラエルの子孫の預言者たちを愛することは、ムスリムの信仰の一部なのです。

アクサー・モスク



座標と海岸線は概算。距離は座標から計算。出典：ウィキペディア「Al-Aqsa Mosque」。

図 2：マッカからエルサレムへの夜の旅（概略図）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アクサー・モスクに関する事実

項目	説明
区域	「アクサー・モスク」は、約 14.4 ヘクタールの塀で囲まれた区域全体（アル＝ハラム・アッ＝シャリーフ）を指す。
キブリー・モスク	南側にあるモスクの建物。約 5,000 人の礼拝者を収容できる。
岩のドーム	預言者 ﷺ の逝去から数十年後、ウマイヤ朝（アブドゥルマリク）の時代に建てられた。
立場	マッカとマディーナに次ぐ、イスラームで三番目に神聖な場所。
最初のキブラ	ムスリムはヒジュラの後、約 16 か月か 17 か月のあいだ、この方角に向かって礼拝した（『サヒーフ・ブハーリー』40）。

資料：ウィキペディア「Al-Aqsa Mosque」；『サヒーフ・ブハーリー』40。

アッラーの使徒 ﷺ はまた、アクサー・モスクを、マスジド・ハラームと預言者のモスクとともに、訪れるために旅することが勧められる**三つのモスク**の一つに挙げられました（『サヒーフ・ブハーリー』1189）。

教訓：夜の旅は、ムスリムの心を**エルサレム**と永遠に結びつけました。アクサーを守り、その平安を祈ることは、この出来事が遺したものの一部です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

昇天：マーリク・ブン・サアサアのハディース

『サヒーフ・ブハーリー』で昇天について最も詳しいハディースは、**アナス・ブン・マーリク**が**マーリク・ブン・サアサア** رضى الله عنهما から伝えたものです。カアバから第七天、スィドラ・アル＝ムンタハー、そして礼拝の制定に至る旅を語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3887 番

حَدَّثَنَا هُدْبَةُ بْنُ خَالِدٍ، حَدَّثَنَا هَمَّامُ بْنُ يَحْيَى، حَدَّثَنَا قَتَادَةُ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، عَنْ مَالِكِ بْنِ صَعْصَعَةَ ـ رضى الله عنهما ـ أَنَّ نَبِيَّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم حَدَّثَهُمْ عَنْ لَيْلَةَ أُسْرِيَ بِهِ «بَيْنَمَا أَنَا فِي الْحَطِيمِ ـ وَرُبَّمَا قَالَ فِي الْحِجْرِ ـ مُضْطَجِعًا، إِذْ أَتَانِي آتٍ فَقَدَّ ـ قَالَ وَسَمِعْتُهُ يَقُولُ فَشَقَّ ـ مَا بَيْنَ هَذِهِ إِلَى هَذِهِ ـ فَقُلْتُ لِلْجَارُودِ وَهْوَ إِلَى جَنْبِي مَا يَعْنِي بِهِ قَالَ مِنْ ثُغْرَةِ نَحْرِهِ إِلَى شِعْرَتِهِ، وَسَمِعْتُهُ يَقُولُ مِنْ قَصِّهِ إِلَى شِعْرَتِهِ ـ فَاسْتَخْرَجَ قَلْبِي، ثُمَّ أُتِيتُ بِطَسْتٍ مِنْ ذَهَبٍ مَمْلُوءَةٍ إِيمَانًا، فَغُسِلَ قَلْبِي ثُمَّ حُشِيَ، ثُمَّ أُوتِيتُ بِدَابَّةٍ دُونَ الْبَغْلِ وَفَوْقَ الْحِمَارِ أَبْيَضَ». ـ فَقَالَ لَهُ الْجَارُودُ هُوَ الْبُرَاقُ يَا أَبَا حَمْزَةَ قَالَ أَنَسٌ نَعَمْ، يَضَعُ خَطْوَهُ عِنْدَ أَقْصَى طَرْفِهِ ـ «فَحُمِلْتُ عَلَيْهِ، فَانْطَلَقَ بِي جِبْرِيلُ حَتَّى أَتَى السَّمَاءَ الدُّنْيَا فَاسْتَفْتَحَ، فَقِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ وَقَدْ أُرْسِلَ إِلَيْهِ قَالَ نَعَمْ. قِيلَ مَرْحَبًا بِهِ، فَنِعْمَ الْمَجِيءُ جَاءَ فَفَتَحَ، فَلَمَّا خَلَصْتُ، فَإِذَا فِيهَا آدَمُ، فَقَالَ هَذَا أَبُوكَ آدَمُ فَسَلِّمْ عَلَيْهِ. فَسَلَّمْتُ عَلَيْهِ فَرَدَّ السَّلاَمَ ثُمَّ قَالَ مَرْحَبًا بِالاِبْنِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ. ثُمَّ صَعِدَ حَتَّى أَتَى السَّمَاءَ الثَّانِيَةَ فَاسْتَفْتَحَ، قِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ وَقَدْ أُرْسِلَ إِلَيْهِ قَالَ نَعَمْ. قِيلَ مَرْحَبًا بِهِ فَنِعْمَ الْمَجِيءُ جَاءَ. فَفَتَحَ، فَلَمَّا خَلَصْتُ، إِذَا يَحْيَى وَعِيسَى، وَهُمَا ابْنَا الْخَالَةِ قَالَ هَذَا يَحْيَى وَعِيسَى فَسَلِّمْ عَلَيْهِمَا. فَسَلَّمْتُ فَرَدَّا، ثُمَّ قَالاَ مَرْحَبًا بِالأَخِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ. ثُمَّ صَعِدَ بِي إِلَى السَّمَاءِ الثَّالِثَةِ، فَاسْتَفْتَحَ قِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ وَقَدْ أُرْسِلَ إِلَيْهِ قَالَ نَعَمْ. قِيلَ مَرْحَبًا بِهِ، فَنِعْمَ الْمَجِيءُ جَاءَ. فَفُتِحَ، فَلَمَّا خَلَصْتُ إِذَا يُوسُفُ. قَالَ هَذَا يُوسُفُ فَسَلِّمْ عَلَيْهِ.

فَسَلَّمْتُ عَلَيْهِ فَرَدَّ، ثُمَّ قَالَ مَرْحَبًا بِالأَخِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ، ثُمَّ صَعِدَ بِي حَتَّى أَتَى السَّمَاءَ الرَّابِعَةَ، فَاسْتَفْتَحَ، قِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ أَوَقَدْ أُرْسِلَ إِلَيْهِ قَالَ نَعَمْ. قِيلَ مَرْحَبًا بِهِ، فَنِعْمَ الْمَجِيءُ جَاءَ. فَفُتِحَ، فَلَمَّا خَلَصْتُ إِلَى إِدْرِيسَ قَالَ هَذَا إِدْرِيسُ فَسَلِّمْ عَلَيْهِ. فَسَلَّمْتُ عَلَيْهِ فَرَدَّ ثُمَّ قَالَ مَرْحَبًا بِالأَخِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ. ثُمَّ صَعِدَ بِي حَتَّى أَتَى السَّمَاءَ الْخَامِسَةَ، فَاسْتَفْتَحَ، قِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ صلى الله عليه وسلم. قِيلَ وَقَدْ أُرْسِلَ إِلَيْهِ قَالَ نَعَمْ. قِيلَ مَرْحَبًا بِهِ، فَنِعْمَ الْمَجِيءُ جَاءَ. فَلَمَّا خَلَصْتُ فَإِذَا هَارُونُ قَالَ هَذَا هَارُونُ فَسَلِّمْ عَلَيْهِ. فَسَلَّمْتُ عَلَيْهِ فَرَدَّ ثُمَّ قَالَ مَرْحَبًا بِالأَخِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ. ثُمَّ صَعِدَ بِي حَتَّى أَتَى السَّمَاءَ السَّادِسَةَ، فَاسْتَفْتَحَ، قِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ مَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ وَقَدْ أُرْسِلَ إِلَيْهِ قَالَ نَعَمْ. قَالَ مَرْحَبًا بِهِ، فَنِعْمَ الْمَجِيءُ جَاءَ، فَلَمَّا خَلَصْتُ، فَإِذَا مُوسَى قَالَ هَذَا مُوسَى فَسَلِّمْ عَلَيْهِ، فَسَلَّمْتُ عَلَيْهِ فَرَدَّ ثُمَّ قَالَ مَرْحَبًا بِالأَخِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ. فَلَمَّا تَجَاوَزْتُ بَكَى، قِيلَ لَهُ مَا يُبْكِيكَ قَالَ أَبْكِي لأَنَّ غُلاَمًا بُعِثَ بَعْدِي، يَدْخُلُ الْجَنَّةَ مِنْ أُمَّتِهِ أَكْثَرُ مَنْ يَدْخُلُهَا مِنْ أُمَّتِي. ثُمَّ صَعِدَ بِي إِلَى السَّمَاءِ السَّابِعَةِ، فَاسْتَفْتَحَ جِبْرِيلُ، قِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ وَقَدْ بُعِثَ إِلَيْهِ. قَالَ نَعَمْ. قَالَ مَرْحَبًا بِهِ، فَنِعْمَ الْمَجِيءُ جَاءَ فَلَمَّا خَلَصْتُ، فَإِذَا إِبْرَاهِيمُ قَالَ هَذَا أَبُوكَ فَسَلِّمْ عَلَيْهِ. قَالَ فَسَلَّمْتُ عَلَيْهِ، فَرَدَّ السَّلاَمَ قَالَ مَرْحَبًا بِالابْنِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ. ثُمَّ رُفِعَتْ لِي سِدْرَةُ الْمُنْتَهَى، فَإِذَا نَبِقُهَا مِثْلُ قِلاَلِ هَجَرَ، وَإِذَا وَرَقُهَا مِثْلُ آذَانِ الْفِيَلَةِ قَالَ هَذِهِ سِدْرَةُ الْمُنْتَهَى، وَإِذَا أَرْبَعَةُ أَنْهَارٍ نَهْرَانِ بَاطِنَانِ، وَنَهْرَانِ ظَاهِرَانِ. فَقُلْتُ مَا هَذَانِ يَا جِبْرِيلُ قَالَ أَمَّا الْبَاطِنَانِ، فَنَهَرَانِ فِي الْجَنَّةِ، وَأَمَّا الظَّاهِرَانِ فَالنِّيلُ وَالْفُرَاتُ. ثُمَّ رُفِعَ لِي الْبَيْتُ الْمَعْمُورُ، ثُمَّ أُتِيتُ بِإِنَاءٍ مِنْ خَمْرٍ، وَإِنَاءٍ مِنْ لَبَنٍ وَإِنَاءٍ مِنْ عَسَلٍ، فَأَخَذْتُ اللَّبَنَ، فَقَالَ هِيَ الْفِطْرَةُ أَنْتَ عَلَيْهَا وَأُمَّتُكَ. ثُمَّ فُرِضَتْ عَلَيَّ الصَّلَوَاتُ خَمْسِينَ صَلاَةً كُلَّ يَوْمٍ. فَرَجَعْتُ فَمَرَرْتُ عَلَى مُوسَى، فَقَالَ بِمَا أُمِرْتَ قَالَ أُمِرْتُ بِخَمْسِينَ صَلاَةً كُلَّ يَوْمٍ. قَالَ إِنَّ أُمَّتَكَ لاَ تَسْتَطِيعُ خَمْسِينَ صَلاَةً كُلَّ يَوْمٍ، وَإِنِّي وَاللَّهِ قَدْ جَرَّبْتُ النَّاسَ قَبْلَكَ، وَعَالَجْتُ بَنِي إِسْرَائِيلَ أَشَدَّ

الْمُعَالَجَةِ، فَارْجِعْ إِلَى رَبِّكَ فَاسْأَلْهُ التَّخْفِيفَ لأُمَّتِكَ. فَرَجَعْتُ، فَوَضَعَ عَنِّي عَشْرًا، فَرَجَعْتُ إِلَى مُوسَى فَقَالَ مِثْلَهُ، فَرَجَعْتُ فَوَضَعَ عَنِّي عَشْرًا، فَرَجَعْتُ إِلَى مُوسَى فَقَالَ مِثْلَهُ، فَرَجَعْتُ فَوَضَعَ عَنِّي عَشْرًا، فَرَجَعْتُ إِلَى مُوسَى فَقَالَ مِثْلَهُ، فَرَجَعْتُ فَأُمِرْتُ بِعَشْرِ صَلَوَاتٍ كُلَّ يَوْمٍ، فَرَجَعْتُ فَقَالَ مِثْلَهُ، فَرَجَعْتُ فَأُمِرْتُ بِخَمْسِ صَلَوَاتٍ كُلَّ يَوْمٍ، فَرَجَعْتُ إِلَى مُوسَى، فَقَالَ بِمَا أُمِرْتَ قُلْتُ أُمِرْتُ بِخَمْسِ صَلَوَاتٍ كُلَّ يَوْمٍ. قَالَ إِنَّ أُمَّتَكَ لاَ تَسْتَطِيعُ خَمْسَ صَلَوَاتٍ كُلَّ يَوْمٍ، وَإِنِّي قَدْ جَرَّبْتُ النَّاسَ قَبْلَكَ، وَعَالَجْتُ بَنِي إِسْرَائِيلَ أَشَدَّ الْمُعَالَجَةِ، فَارْجِعْ إِلَى رَبِّكَ فَاسْأَلْهُ التَّخْفِيفَ لأُمَّتِكَ. قَالَ سَأَلْتُ رَبِّي حَتَّى اسْتَحْيَيْتُ، وَلَكِنْ أَرْضَى وَأُسَلِّمُ ـ قَالَ ـ فَلَمَّا جَاوَزْتُ نَادَى مُنَادٍ أَمْضَيْتُ فَرِيضَتِي وَخَفَّفْتُ عَنْ عِبَادِي».

訳：

アナス・ブン・マーリクがマーリク・ブン・サアサア رضى الله عنهما から伝えるところによれば、アッラーの預言者 ﷺ は、自分が旅をさせられた夜のことをかれらに語られた。**「私がハティームで――あるいはヒジュルで、と言われた――横になっていると、突然ある者が私のもとに来て、（私の胸を）のどの付け根から腹の下まで切り開いた。かれは私の心臓を取り出し、それから信仰で満ちた金の器が私のもとに運ばれ、私の心臓は洗われて満たされ、元に戻された。それから、ラバより小さくロバより大きい白い乗り物が私のもとに連れて来られた」**――それはブラークであり、視線の届く果てに一歩を置くものである。**「私はそれに乗せられ、ジブリールが私を連れて行き、ついに最も近い天に着いた。かれが門を開けるよう求めると、『誰か』と尋ねられた。かれは『ジブリールだ』と答えた。『一緒にいるのは誰か』と尋ねられると、『ムハンマドだ』と答えた。『かれは（迎えに）遣わされたのか』と尋ねられ、『そうだ』と答えた。すると『かれを歓迎する。かれの訪れは何とすばらしい訪れか』と言われた。門が開かれると、そこにはアーダムがいた。ジブリールは『これはあなたの父アーダムです。かれに挨拶しなさい』と言った。私が挨拶すると、かれは挨拶を返し、『正しい息子よ、正しい預言者よ、ようこそ』と言った。」** 同じようにして、かれは第二天に昇って**ヤフヤーとイーサー**（二人のいとこ）に、第三天で**ユースフ**に、第四天で**イドリース**に、第五天

で**ハールーン**に、第六天で**ムーサー**に会われた。皆が「正しい兄弟よ、正しい預言者よ、ようこそ」と言った。**「私がかれのもとを通り過ぎると、ムーサーは泣いた。『何があなたを泣かせるのか』と尋ねられると、かれは『私の後に遣わされた一人の若者がおり、楽園に入るかれの民は私の民より多いので泣いているのです』と答えた。」** 第七天でかれは**イブラーヒーム**に会われ、かれは「正しい息子よ、正しい預言者よ、ようこそ」と言った。**「それから、スィドラ・アル＝ムンタハーが私の前に示された。その実はハジャルのかめのようで、その葉は象の耳のようであった。そこには四つの川があり、二つは隠れた川、二つは表に見える川であった。私が『ジブリールよ、これは何か』と尋ねると、かれは『二つの隠れた川は楽園の二つの川であり、二つの表に見える川はナイル川とユーフラテス川です』と答えた。それから、アル＝バイト・アル＝マアムールが私の前に示された。それから、ぶどう酒の器と乳の器と蜂蜜の器が私のもとに運ばれた。私は乳を取った。ジブリールは『それはあなたとあなたの民が拠って立つ天性（フィトラ）です』と言った。それから、私に毎日五十回の礼拝が課された。」** 下る途中、ムーサーはかれに忠告した。**「あなたの民は毎日五十回の礼拝に耐えられません。アッラーにかけて、私はあなたより前に人々を試し、イスラエルの子孫に大いに苦労しました。主のもとに戻って、あなたの民のために軽減を願いなさい。」** かれは何度も戻り、十ずつ減らされて、やがて十になり、そして**毎日五回の礼拝**となった。ムーサーはさらに忠告したが、かれは言われた。**「私は恥ずかしくなるほど主に願った。だが私は満足し、身をゆだねる。」「私が立ち去ろうとすると、一つの呼び声が聞こえた。『われはわが義務を定め、わがしもべたちの（負担を）軽くした。』」**

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：フドバ・ブン・ハーリド ← ハンマーム・ブン・ヤフヤー ← カターダ ← アナス・ブン・マーリク ← マーリク・ブン・サアサア رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、昇天の章、ハディース第 3887 番。ムスリム（第 164 番）も伝えている。第二天から第六天までの部分は、言葉が繰り返されるため要約して訳した。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:3887

このハディースの教訓

天の門での礼儀に注目してください。ジブリールは許しを求め、誰か、誰と一緒かを尋ねられ、確認されてはじめて門が開かれました。最も尊い旅においてさえ、礼儀と許可は守られたのです。

預言者たちの**迎え方**にも注目してください。アーダムとイブラーヒームは、かれが自分たちの子孫であるため「**正しい息子**」として迎え、ほかの預言者たちは「**正しい兄弟**」として迎えました。預言者たちは一つの家族なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

七つの天の預言者たち



『サヒーフ・ブハーリー』第3887番（マーリク・ブン・サアサアの伝承）による。
この図は概略図であり、見えない世界の実際の姿ではない。

図 3：七つの天で出会った預言者たち（概略図）。

スィーラ学者たちは、それぞれの預言者との出会いの英知について思いをめぐらせてきました。以下の説明の一部は**学者たちの省察**であって聖典の明文ではありませんが、使命の連続性を理解する助けになります。

天と預言者	省察
1 — アーダム عَلَيْهِ السَّلَامُ	人類の父。楽園から出され、その後悔悟を受け入れられた——故郷を追われたかれと同じように。
2 — ヤフヤーとイーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ	自分の民から反対され、敵視された。
3 — ユースフ عَلَيْهِ السَّلَامُ	兄弟たちから不当な扱いを受け、のちにかれらを赦した。
4 — イドリース عَلَيْهِ السَّلَامُ	「高い所」に上げられた（マルヤム章 19:57）。
5 — ハールーン عَلَيْهِ السَّلَامُ	民に愛され、宣教において兄を助けた。
6 — ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ	民の厄介な要求に最も多く向き合った使徒。
7 — イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ	預言者たちの父。アル＝バイト・アル＝マアムールに背をもたせていた（『サヒーフ・ムスリム』162）。

教訓：アッラーの使徒 ﷺ が経験したあらゆる試練は、以前の預言者たちも経験していました。この出会いは、悲しみの年の後の**慰め**だったのです。

預言者ムーサーの涙

昇天のハディースの中でとても心を打つ瞬間は、アッラーの使徒 ***tangisan Nabi Musa*** がそばを通り過ぎたときの預言者ムーサーの涙 ﷺ です。「私の後に遣わされた一人の若者がおり、楽園に入るかれの民は私の民より多いので泣いているのです」（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。

学者たちは、この涙は**妬みではない**と説明しています。預言者たちはそのような性質から清められているからです。それは、多くが拒んだ自分の民への**愛と悲しみ**の涙であり、もっと多くの民が救われてほしいという切望の涙でした。

ムーサー：ムハンマドの民への助言者

さらに驚くべきことに、泣いたその預言者ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ こそが、のちにアッラーの使徒 ***menasihati*** に、礼拝の軽減を願いに戻るよう忠告したのです――そうして五十が五になりました。イスラエルの子孫との経験が、ムハンマド ﷺ の民への慈悲となったのです。

教訓：**先人の経験**は宝です。私たちが歩む道をすでに歩んだ人の助言を大切にし、他の人が得た良いものを妬んではいけません。

スィドラ・アル＝ムンタハー

旅の頂点で、アッラーの使徒 ﷺ は**スィドラ・アル＝ムンタハー**――果ての境にあるスィドラ（ナツメ）の木、被造物が越えることのない境界――に着かれました。アッラーは星章でそれを描いておられます。

星章 53:13–18

وَلَقَدْ رَءَاهُ نَزْلَةً أُخْرَىٰ ﴿١٣﴾

本当にかれ（ムハンマド）は、再度の降下においても、かれ（ジブリール）を見たのである。

عِندَ سِدْرَةِ ٱلْمُنتَهَىٰ ﴿١٤﴾

（誰も越せない）涯にある、スィドラ木の傍で。

عِندَهَا جَنَّةُ ٱلْمَأْوَىٰٓ ﴿١٥﴾

そのそばに終の住まいの楽園がある。

إِذْ يَغْشَى ٱلسِّدْرَةَ مَا يَغْشَىٰ ﴿١٦﴾

覆うものがスィドラ木をこんもりと覆う時。

مَا زَاغَ ٱلْبَصَرُ وَمَا طَغَىٰ ﴿١٧﴾

（かれの）視線は吸い寄せられ、また（不躾に）度を過ごすこともない。

لَقَدْ رَأَىٰ مِنْ ءَايَٰتِ رَبِّهِ ٱلْكُبْرَىٰٓ ﴿١٨﴾

かれは確かに、主の最大の印を見たのである。

訳：三田了一 — quran.com/53:13-18

節 53:13–18 の解説

アッラーはかれの視線の正確さを称えておられます。「**（かれの）視線は外れず、また度も過ごさなかった**」。イブン・カスィールは、かれの視線は**右にも左にもそれず**、命じられたことを越えなかったと説明しています――アッラーの偉大さの前での完全な**礼儀と服従**の姿です。『タフスィール・イブン・カスィール』53:17。

項目	説明
見られたのは誰か（53:13）	アーイシャとイブン・マスウードによれば、かれはジブリールの本来の姿を二度目に見られた（『サヒーフ・ムスリム』177；『サヒーフ・ブハーリー』4856）。
木の特徴	その実はハジャルのかめのようで、その葉は象の耳のよう（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。
覆われる（53:16）	言い表せない色と事物に覆われていた（『サヒーフ・ムスリム』162）。
ジャンナ・アル＝マアワー（53:15）	住まいの楽園がそのそばにある。
最大の印（53:18）	かれは主の最も偉大な印のいくつかを見られた。

教訓：**礼儀**は完全さのしるしです。最も偉大な瞬間に、アッラーの使徒 ﷺ の視線は抑制されていました――信仰者があらゆる状況で視線を守るべきように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 | ページ：352 / 485

アル＝バイト・アル＝マアムールと四つの川

スィドラ・アル＝ムンタハーの後、**アル＝バイト・アル＝マアムール**がかれの前に示されました。同じハディースの別の伝承で、ジブリールはこう説明しています。**「これはアル＝バイト・アル＝マアムールです。毎日七万人の天使がその中で礼拝し、出て行くと二度と戻って来ません」**（『サヒーフ・ブハーリー』3207）。

イブン・カスィールは、アル＝バイト・アル＝マアムールは地上のカアバの**真上にあたる**ところにあり、アッラーは山章（52:4）でそれにかけて誓っておられると述べています。地上のカアバは人々のキブラであり、天のアル＝バイト・アル＝マアムールは天使たちの崇拝の場です。

四つの川

かれはまた、スィドラ・アル＝ムンタハーのそばで**四つの川**を見られました。二つは隠れた川――楽園の川――、二つは表に見える川、すなわち**ナイル川とユーフラテス川**です。学者たちは、これはこの二つの川の**祝福**と、その恵みの源がアッラーにあることを示すと説明しています。地上で知られている地理的な水源を否定するものではありません。

教訓：目に見えない世界は**広大で、崇拝に満ちています**。毎日七万人の天使がアル＝バイト・アル＝マアムールで崇拝し、二度と戻らないのなら、私たちの崇拝は何と小さいことでしょう。わずかな礼拝を守ることがどれほど必要でしょうか。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

乳とぶどう酒と天性

その旅の中で、アッラーの使徒 ﷺ はいくつかの飲み物の器――**ぶどう酒、乳、蜂蜜**――を差し出され、**乳**を選ばれました。ジブリールは言いました。「**それはあなたとあなたの民が拠って立つ天性（フィトラ）です**」（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。

アブー・フライラ رضي الله عنه の伝承では、ジブリールはこう加えています。「**あなたを天性へと導かれたアッラーに称賛あれ。もしぶどう酒を選んでいたなら、あなたの民は迷っていたでしょう**」（『サヒーフ・ブハーリー』3394）。同じハディースは、かれが見たとおりの預言者ムーサー、イーサー、イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ の姿も描いています。

天性（フィトラ）とは何か

フィトラとは、アッラーが人間をそれに基づいて創られた清らかな本来の状態です（ビザンチン章 30:30）。乳は**清く、栄養があり、自然な**飲み物で、赤ん坊の最初の食べ物です。一方ぶどう酒は**理性を損ない**、さまざまな悪の源となります。

この選択は**イスラームという宗教**の象徴となりました。天性にかない、理性と体と魂を守る宗教です。ぶどう酒はのちにマディーナで段階的に禁じられました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

一日五回の礼拝という贈り物

昇天の最大の贈り物は**礼拝**です。それは、ジブリールが地上に降りるという仲立ちなしに**天でじかに**義務とされた唯一の崇拝行為です。初めは一日五十回でしたが、その後五回にまで減らされました（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。

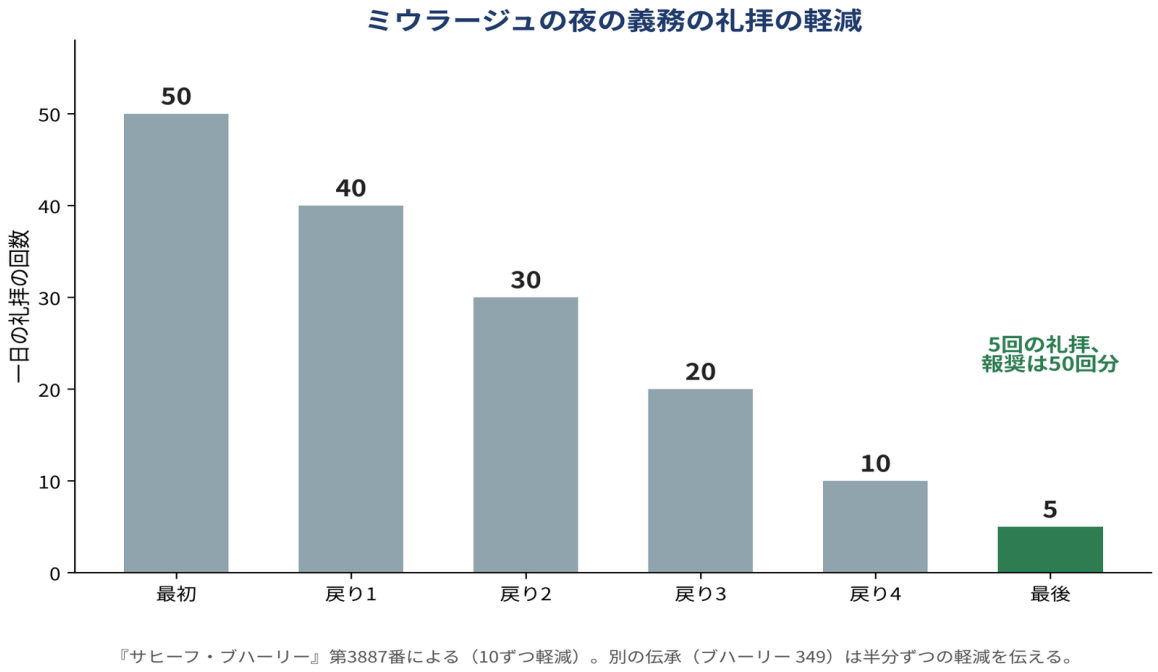


図 4：昇天の夜における義務の礼拝の軽減。

アブー・ザッル رضي الله عنه の伝承では、アッラーはこう言われました。「**それは五回であり、それは五十回である。わが言葉は変わらない**」（『サヒーフ・ブハーリー』349）。学者たちは、行いとしては五回だが、**報奨としては五十回**であると説明しています。

スィドラ・アル＝ムンタハーでの三つの贈り物

アブドッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ はその夜**三つのもの**を授けられました。**一日五回の礼拝**、**雌牛章の結びの節**、そして何ものもアッラーに並べなかったかれの民のための**大罪の赦し**です（『サヒーフ・ムスリム』173）。

礼拝の地位	根拠
天で、仲立ちなしに義務とされた	『サヒーフ・ブハーリー』3887
宗教の柱であり、最初に清算される行い	『スナン・アッ＝ティルミズィー』413（真正）
信仰と不信仰を分けるもの	『サヒーフ・ムスリム』82
目の慰め――アッラーの使徒 ﷺ	『スナン・アン＝ナサーイー』3939（真正）

教訓：礼拝は**信仰者の「ミウラージュ」（昇天）**――主に親しく語りかけるひとときです。第七天から持ち帰られた贈り物を、地上でおろそかにしてはなりません。

かれはアッラーを見られたのか

この問題は教友の時代から論じられてきました。かれらの見解は真正な伝承に基づいています。

見解	根拠
かれは目でアッラーを見られなかった	アーイシャ：「ムハンマドが主を見たと言う者は、偽りを言ったのです」（『サヒーフ・ブハーリー』4855）。
「光である。どうしてかれを見ることができようか」	アブー・ザッルへのかれの答え（『サヒーフ・ムスリム』178）。
かれは心で見られた	イブン・アッバース：「かれは心で二度かれを見た」（『サヒーフ・ムスリム』176）。
スィドラ・アル＝ムンタハーで見られたのはジブリールである	星章 53:13 についてのアーイシャとイブン・マスウードの説明（『サヒーフ・ムスリム』177）。

見解を調和させる

イブン・タイミーヤやイブン・ハジャルを含む多くの学者は、これらの伝承を調和させています。かれは、アーイシャが言ったように、現世で**肉眼でアッラーを見られたのではなく**、イブン・アッバースが意味したのは**心による視覚**だということです。目でアッラーを見ることは、**来世**における信仰者への最大の恵みです（復活章 75:22–23）。

教訓：目に見えない事柄では、**聖典の明文が止まるところで止まり**、教友たちの見解の違いを尊重し、啓示が述べていない描写を付け加えないことです。

その夜のほかの光景

いくつかの真正なハディースは、その夜アッラーの使徒 ﷺ に示されたほかの光景を、かれの民への**教えと警告**として伝えています。

光景	典拠
銅の爪で自分の顔と胸をかきむしる人々――陰口を言い、他人の名誉を傷つける者たち	『スナン・アビー・ダーウード』4878（真正）
赤い砂丘のそばの墓の中で礼拝している預言者ムーサー	『サヒーフ・ムスリム』2375
地獄の番人マーリクがかれに挨拶した	『サヒーフ・ムスリム』172
ムーサー、イーサー、イブラーヒームの姿 عَلَيْهِ السَّلَامُ	『サヒーフ・ブハーリー』3394

銅の爪のハディースは、今日にとても深く関わっています。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه によれば、かれがかれらは誰かと尋ねると、ジブリールは答えました。**「かれらは人の肉を食べ（陰口を言い）、人々の名誉を傷つける者たちです」**（『スナン・アビー・ダーウード』4878）。

スィーラの注：弱い長い話

昇天の夜に、さまざまな人々――姦通する者、利息を食う者、礼拝を怠る者など――がそれぞれ特定の方法で罰せられていたという、非常に詳しい長い話が有名です。ハディース学者によれば、こうした長い伝承の多くは**弱いか捏造**であり、アッラーの使徒 ﷺ に帰することはできません。

姦通する者や利息を食う者などへの罰について真正なものは、かれの**夢のハディース**という別の伝承にあり（『サヒーフ・ブハーリー』1386）、昇天の出来事の一部ではありません。

マッカの朝：クライシュ族の否認

その朝、アッラーの使徒 ﷺ は人々に旅のことを語られました。クライシュ族にとって、それは嘲りの種になりました。隊商で**行きに一か月、帰りに一か月**かかるシャームへの旅が、**一夜のうちのわずかな時間**に行われたと主張されたからです。

かれらは、商売の旅で見たことのある者もいたエルサレムの様子を説明してみよとかれに挑みました。アッラーの使徒 ﷺ ご自身が、起きたことを語っておられます。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3886 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ بُكَيْرٍ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ عُقَيْلٍ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، حَدَّثَنِي أَبُو سَلَمَةَ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، سَمِعْتُ جَابِرَ بْنَ عَبْدِ اللَّهِ ـ رضى الله عنهما ـ أَنَّهُ سَمِعَ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ «لَمَّا كَذَّبَنِي قُرَيْشٌ قُمْتُ فِي الْحِجْرِ، فَجَلَا اللَّهُ لِي بَيْتَ الْمَقْدِسِ، فَطَفِقْتُ أُخْبِرُهُمْ عَنْ آيَاتِهِ وَأَنَا أَنْظُرُ إِلَيْهِ».

訳：

ジャービル・ブン・アブディッラー رضى الله عنهما は、アッラーの使徒 ﷺ がこう言われるのを聞いた。「**クライシュ族が私を嘘つき呼ばわりしたとき、私はヒジュルに立った。するとアッラーがバイト・アル＝マクディスを私の前に現してくださったので、私はそれを見ながら、そのしるしをかれらに語り始めた。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ヤフヤー・ブン・ブカイル ← アッ＝ライス ← ウカイル ← イブン・シハーブ ← アブー・サラマ・ブン・アブドッラフマーン ← ジャービル・ブン・アブディッラー رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、夜の旅のハディースの章、ハディース第 3886 番。ムスリム（第 170 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:3886

このハディースの教訓

このハディースは**奇跡の中の奇跡**を示しています。アッラーはエルサレムをかれの前に現し、かれらの質問に一つずつ答えられるようにされたのです。ムスリムの伝承では、かれは、注意して見ていなかったことを尋ねられたが、アッラーがそれを見せてくださったと述べておられます（『サヒーフ・ムスリム』172）。

教訓：真理は**質問**を恐れる必要がありません。アッラーの使徒 ﷺ は、嘲られると知りながらその出来事を隠さず、正直に伝えられました。そしてアッラーがかれを守られたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・バクル・アッ＝スィッディーク

スィーラの注：「かれがそう言ったのなら、それは真実だ」

スィーラ書によれば、多神教徒たちは**アブー・バクル**のもとへ急いで行き、言いました。「おまえの友は、昨夜エルサレムへ行き、夜明け前に戻って来たと言っているぞ！」アブー・バクルは尋ねました。「かれがそう言ったのか。」かれらは「そうだ」と答えました。かれは言いました。**「かれがそう言ったのなら、それは真実だ。私はそれよりもっと遠いこと――朝に夕に天から届く知らせ――についてもかれを信じているのだ。」**

この伝承はアル＝ハーキムが『アル＝ムスタドラク』に収めており、一部のハディース学者は**真正**と評価しています。それ以来、アブー・バクルは**アッ＝スィッディーク**（真実を固く信じる者）の称号で知られるようになりました。

参照：

ウィキペディア「アブー・バクル」。en.wikipedia.org/wiki/Abu_Bakr

アブー・バクルの信仰の論理

アブー・バクルの答えはとても賢明でした。かれはその出来事を普通の尺度で判断せず、**伝える人への信頼**によって判断したのです。ムハンマド ﷺ が毎日天から啓示を受けていると信じているのなら、一夜でエルサレムへ旅したことは、それより信じがたいことではありません。

アブー・バクルが**アッ＝スィッディーク**であることは、ウフド山が揺れたとき、アッラーの使徒 ﷺ ご自身が真正なハディースの中で述べておられます。「ウフドよ、静まれ。おまえの上には一人の預言者、一人のスィッディーク、二人の殉教者がいるのだから」（『サヒーフ・ブハーリー』3675）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

人々への試練

クルアーン自身が、この出来事は**試練**であったと述べています。信仰を強めた者もいれば、背教した者も、ますます嘲った者もいました。イブン・アッバース رضى الله عنهما はその節をこう説明しています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3888 番

حَدَّثَنَا الْحُمَيْدِيُّ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، حَدَّثَنَا عَمْرٌو، عَنْ عِكْرِمَةَ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ فِي قَوْلِهِ تَعَالَى {وَمَا جَعَلْنَا الرُّؤْيَا الَّتِي أَرَيْنَاكَ إِلاَّ فِتْنَةً لِلنَّاسِ} قَالَ هِيَ رُؤْيَا عَيْنٍ، أُرِيَهَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لَيْلَةَ أُسْرِيَ بِهِ إِلَى بَيْتِ الْمَقْدِسِ. قَالَ وَالشَّجَرَةَ الْمَلْعُونَةَ فِي الْقُرْآنِ قَالَ هِيَ شَجَرَةُ الزَّقُّومِ.

訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما は、至高なるアッラーの御言葉 {われがあなたに示した光景は、人びとへの試みのためだけであった} について言った。「**それは、エルサレムへ旅をさせられた夜にアッラーの使徒 ﷺ に示された、目による光景（夢ではない）である。**」 かれはまた言った。「そしてクルアーンの中で呪われた木とは、ザックームの木である。」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アル＝フマイディー ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← アムル・ブン・ディーナール ← イクリマ ← イブン・アッバース رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、昇天の章、ハディース第 3888 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:3888

このハディースの教訓

それが「**目による光景**」（ルウヤ・アイン）だというイブン・アッバースの説明は、夜の旅が夢ではなく**目覚めた状態で**起きたことの最も強い根拠の一つです。ただの夢なら、人々への試練にはならなかったでしょう。

教訓：**目に見えないものを信じること**は、神を畏れる者の第一の特質です（雌牛章 2:3）。この出来事は、本当に信じる者と理性だけに従う者とをふるい分けました。

体と魂によってか

学者たちは、夜の旅と昇天が**体と魂**によるものか、魂だけによるものか、それとも夢の中のことかを論じてきました。

見解	説明
目覚めた状態で、体と魂によって	学者の大多数の見解。根拠は「そのしもべ」という言葉（17:1）、人々への試練（17:60）、イブン・アッバースの説明（『サヒーフ・ブハーリー』3888）。
魂だけ	ごく一部のサラフから伝えられる。大多数は退けている。
夢の中で	退けられる。夢ならクライシュ族が否認することはなく、試練にもならないため。

資料：イブン・カスィール、17:1 のタフスィール；ウィキペディア「Isra' and Mi'raj」（「ほとんどのイスラーム学者は、それが肉体的かつ霊的なものであったとする」）。

教訓：奇跡は**普通の自然法則**で測るものではありません。自然法則を創られたアッラーは、ご自身の使徒のためにそれを超えることがおできになります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

夜の旅と昇天の教訓

夜の旅と昇天は、非常に多くの教訓を残しました。その一部を挙げます。

教訓	説明
悲しみの後の慰め	悲しみの年に地上が狭く感じられた後、アッラーは天を開かれた。
礼拝の地位	天で義務とされた唯一の崇拝行為。
預言者たちの使命の一体性	かれは預言者たちの導師を務め、兄弟として迎えられた。
エルサレムの神聖さ	夜の旅の目的地、最初のキブラ、三つの主要なモスクの一つ。
天性の宗教イスラーム	ぶどう酒ではなく乳を選んだこと。
慈悲と軽減	五十が五になり、報奨は五十のまま。
信仰の試練	信じる者（アブー・バクル）もいれば、否認する者もいた。
アッラーの御前での礼儀	かれの視線はそれなかった（53:17）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

私たちの生活の中の夜の旅と昇天

夜の旅と昇天を記念する最善の方法は、特定の夜に根拠のない行いをすることではなく、**一日五回の礼拝を守ること**――天から持ち帰られた贈り物――を、その時刻どおりに、心をこめて、集団で行うことです。

信仰者が「アッラーフ・アクバル」と唱えるたびに、昇天の贈り物を受け取っているのです。平伏するたびに、かれは**主に最も近いところ**にいるのです（『サヒーフ・ムスリム』482）。

ヤスリブ：備えられた町

マッカがますます閉ざされていく中で、アッラーは北へ約 340km のところに別の町を用意しておられました。**ヤスリブ**、のちに**マディーナ**として知られる町です。そのアラブの住民は、兄弟関係にある二つの部族**アウス族**と**ハズラジュ族**から成り、ほかにいくつかのユダヤ教徒の部族がいました。

アウス族とハズラジュ族は長いあいだ互いに争っていました。最後の大きな戦いは、ヒジュラの数年前の**ブアースの戦い**でした。アーイシャ رضى الله عنها は、その悲劇の背後に大きな英知を見ていました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3777 番

حَدَّثَنِي عُبَيْدُ بْنُ إِسْمَاعِيلَ، حَدَّثَنَا أَبُو أُسَامَةَ، عَنْ هِشَامٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ قَالَتْ كَانَ يَوْمُ بُعَاثَ يَوْمًا قَدَّمَهُ اللَّهُ لِرَسُولِهِ صلى الله عليه وسلم فَقَدِمَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَقَدِ افْتَرَقَ مَلَؤُهُمْ، وَقُتِلَتْ سَرَوَاتُهُمْ، وَجُرِّحُوا، فَقَدَّمَهُ اللَّهُ لِرَسُولِهِ صلى الله عليه وسلم فِي دُخُولِهِمْ فِي الإِسْلاَمِ.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った。「**ブアースの日は、アッラーがご自身の使徒 ﷺ のために前もって用意された日でした。アッラーの使徒 ﷺ が（マディーナに）着かれたとき、かれらの指導者たちは分裂し、首長たちは殺されたり傷ついたりしていました。アッラーはそれを、かれらがイスラームに入ることを（容易にする）ために、ご自身の使徒 ﷺ のために前もって用意されたのです。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ウバイド・ブン・イスマーイール ← アブー・ウサーマ ← ヒシャーム・ブン・ウルワ ← その父 ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、援助者たちの美徳の章、ハディース第 3777 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：368 / 485

典拠：sunnah.com/bukhari:3777

このハディースの教訓

ブアースの戦いは、イスラームに反対したかもしれない**古い指導者たちを弱め**、ヤスリブの人々を**敵対に疲れさせ**、かれらを一つにまとめられる指導者を求めさせました。アッラーの使徒 ﷺ が来られたとき、かれらの心はすでに準備ができていたのです。

スィーラの注：ユダヤ教徒と待たれていた預言者

スィーラ書によれば、ヤスリブのユダヤ教徒たちはアウス族とハズラジュ族に、**一人の預言者が遣わされる**、自分たちはかれに従ってアラブを打ち負かすのだと、よく言っていました。イブン・カスィールは雌牛章 2:89 のタフスィールでこれに触れています。ハズラジュ族の人々はアッラーの使徒 ﷺ に会ったとき、互いに言い合いました。「これはユダヤ教徒が約束していた預言者だ。かれらに先を越されてはならない。」

参照：

『タフスィール・イブン・カスィール』2:89 tafsir.app/ibn-katheer/2/89

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハズラジュ族の六人

スィーラの注：巡礼の季節の出会い

『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』によれば、**預言者として遣わされて 11 年目**（西暦 620 年ごろ）の巡礼の季節に、アッラーの使徒 ﷺ はミナーのアカバで**ヤスリブから来た六人の男**――全員ハズラジュ族――に会われました。かれはクルアーンを読み聞かせてイスラームに招き、かれらは皆信仰しました。

その中には、のちにムスアブ・ブン・ウマイルを家に迎えることになる**アスアド・ブン・ズラーラ**がいました。かれらはヤスリブに戻ってアッラーの使徒 ﷺ のことを広め、やがてヤスリブでかれの名が話題にならない**家は一軒もない**ほどになりました。

参照：

アル＝ムバーラクフーリー『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』――「The First ‘Aqabah Pledge」。islam101.com/index.php/with-the-prophet/biographies/44-ar-raheeq-al-makhtum/499-the-first-aqabah-pledge

六人の人、一つの始まり

マッカでの十年の宣教で得られた成果は限られていましたが、別の町から来た**六人**が歴史の転換点となりました。アッラーはしばしば、**小さく、思いがけない**始まりから大きな事を始められます。

教訓：**一度の出会い**や**一度の会話**による宣教を軽んじてはいけません。ミナーでの短い出会いが、イスラームの国の始まりとなったのです。

第一次アカバの誓い

翌年の巡礼の季節――**預言者として遣わされて 12 年目**――、その六人のうち五人がほかの七人とともに戻って来て、アウス族の二人を含む**十二人**となりました。アカバでかれらはアッラーの使徒 ﷺ に誓いを立てました。その一人、ウバーダ・ブン・アッ＝サーミト رضى الله عنه が誓いの内容を伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 18 番

حَدَّثَنَا أَبُو الْيَمَانِ، قَالَ أَخْبَرَنَا شُعَيْبٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، قَالَ أَخْبَرَنِي أَبُو إِدْرِيسَ، عَائِذُ اللَّهِ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ أَنَّ عُبَادَةَ بْنَ الصَّامِتِ ـ رضى الله عنه ـ وَكَانَ شَهِدَ بَدْرًا، وَهُوَ أَحَدُ النُّقَبَاءِ لَيْلَةَ الْعَقَبَةِ ـ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ وَحَوْلَهُ عِصَابَةٌ مِنْ أَصْحَابِهِ «بَايِعُونِي عَلَى أَنْ لاَ تُشْرِكُوا بِاللَّهِ شَيْئًا، وَلاَ تَسْرِقُوا، وَلاَ تَزْنُوا، وَلاَ تَقْتُلُوا أَوْلاَدَكُمْ، وَلاَ تَأْتُوا بِبُهْتَانٍ تَفْتَرُونَهُ بَيْنَ أَيْدِيكُمْ وَأَرْجُلِكُمْ، وَلاَ تَعْصُوا فِي مَعْرُوفٍ، فَمَنْ وَفَى مِنْكُمْ فَأَجْرُهُ عَلَى اللَّهِ، وَمَنْ أَصَابَ مِنْ ذَلِكَ شَيْئًا فَعُوقِبَ فِي الدُّنْيَا فَهُوَ كَفَّارَةٌ لَهُ، وَمَنْ أَصَابَ مِنْ ذَلِكَ شَيْئًا ثُمَّ سَتَرَهُ اللَّهُ، فَهُوَ إِلَى اللَّهِ إِنْ شَاءَ عَفَا عَنْهُ، وَإِنْ شَاءَ عَاقَبَهُ». فَبَايَعْنَاهُ عَلَى ذَلِكَ.

訳：

ウバーダ・ブン・アッ＝サーミト رضى الله عنه ――かれはバドルの戦いに参加し、アカバの夜の代表者（ナキーブ）の一人であった――によれば、アッラーの使徒 ﷺ は、周りに教友の一団がいるときに言われた。「**私に誓いなさい。アッラーに何ものも並べないこと、盗まないこと、姦通しないこと、自分の子どもを殺さないこと、でっち上げた中傷をしないこと、正しいことにおいて背かないことを。あなたがたのうちそれを果たす者の報奨はアッラーのもとにある。そのいずれかを犯して現世で罰せられた者には、それが償いとなる。そのいずれかを犯し、アッラーがそれを覆い隠された者については、その事はアッラーにゆだねられる。アッラーが望まれれば赦し、望まれれば罰せられる。**」そこで私たちは、そのことについてかれに誓いを立てた。

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブル・ヤマーン ← シュアイブ ← アッ＝ズフリー ← アブー・イドリース・アーイズッラー・ブン・アブディッラー ← ウバーダ・ブン・アッ＝サーミト رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』信仰の書、ハディース第 18 番。ムスリム（第 1709 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:18

このハディースの教訓

この誓いは、その条件がクルアーンに述べられた女性たちの誓い（試問される女章 60:12）とほとんど同じであるため、「**女性の誓い**」（**バイア・アン＝ニサー**）として知られています。戦いの約束は含まれておらず、**信仰と品性**の誓いでした。

誓いの条件	社会への影響
アッラーに何ものも並べない	生活のすべてにおける唯一神信仰の土台。
盗まない	財産と信託を守る。
姦通しない	血筋と家族の名誉を守る。
子どもを殺さない	赤ん坊を殺すジャーヒリーヤの慣習を止める。
中傷をしない	社会の名誉と信頼を守る。
正しいことにおいて従う	指導者への服従は善いことに限られる。

ムスアブ・ブン・ウマイル：イスラーム最初の使節

第一次アカバの誓いの後、アッラーの使徒 ﷺ は**ムスアブ・ブン・ウマイル** رضي الله عنه をヤスリブに送り、クルアーンと宗教を教えさせました。当時援助者たちの若者だったアル＝バラー・ブン・アーズィブ رضي الله عنهما は、かれの到着をこう覚えています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3925 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، حَدَّثَنَا غُنْدَرٌ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، قَالَ سَمِعْتُ الْبَرَاءَ بْنَ عَازِبٍ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ أَوَّلُ مَنْ قَدِمَ عَلَيْنَا مُصْعَبُ بْنُ عُمَيْرٍ وَابْنُ أُمِّ مَكْتُومٍ، وَكَانَا يُقْرِئَانِ النَّاسَ، فَقَدِمَ بِلاَلٌ وَسَعْدٌ وَعَمَّارُ بْنُ يَاسِرٍ، ثُمَّ قَدِمَ عُمَرُ بْنُ الْخَطَّابِ فِي عِشْرِينَ مِنْ أَصْحَابِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم ثُمَّ قَدِمَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم، فَمَا رَأَيْتُ أَهْلَ الْمَدِينَةِ فَرِحُوا بِشَيْءٍ فَرَحَهُمْ بِرَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم، حَتَّى جَعَلَ الإِمَاءُ يَقُلْنَ قَدِمَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَمَا قَدِمَ حَتَّى قَرَأْتُ {سَبِّحِ اسْمَ رَبِّكَ الأَعْلَى} فِي سُوَرٍ مِنَ الْمُفَصَّلِ.

訳：

アル＝バラー・ブン・アーズィブ رضي الله عنهما は言った。「（**マディーナの**）**私たちのもとに最初に来たのは、ムスアブ・ブン・ウマイルとイブン・ウンミ・マクトゥームで、二人は人々にクルアーンの読み方を教えていた。**」その後、ビラール、サアド、アンマール・ブン・ヤースィルが来て、さらにウマル・ブン・アル＝ハッターブが預言者 ﷺ の教友二十人とともに来た。そして預言者 ﷺ ご自身が到着された。「**私は、マディーナの人々がアッラーの使徒 ﷺ のことを喜んだほど、何かを喜ぶのを見たことがない**」女奴隷たちまでが「アッラーの使徒 ﷺ が来られた！」と言うほどであった。かれが到着される前に、私はほかのムファッサル章とともに {至高なるあなたの主の御名を讃えよ} を読めるようになっていた。

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・バッシャール ← グンダル ← シュウバ ← アブー・イスハーク・アッ＝サビーイー ← アル＝バラー・ブン・アーズィブ رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、預言者ﷺと教友たちのマディーナ到着の章、ハディース第 3925 番。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:3925

このハディースの教訓

スィーラの注：イスラームを選んだ裕福な若者

スィーラ書によれば、ムスアブはイスラーム以前、最上の衣服と香水を身につけたマッカで**最も裕福な若者**でした。イスラームに入った後、かれはその贅沢を捨てました。ヤスリブでは**アスアド・ブン・ズラーラ**の家に住みました。

かれの穏やかで賢明な宣教によって、アウス族の二人の大指導者――**サアド・ブン・ムアーズ**と**ウサイド・ブン・フダイル**――がイスラームに入り、かれらとともにアブドゥルアシュハル族全体が入信しました。ムスアブはのちにウフドで殉教し、その経帷子はかれの体全体を覆うのに足りませんでした（『サヒーフ・ブハーリー』1276）。

参照：

ウィキペディア「Mus’ab ibn Umayr」。en.wikipedia.org/wiki/Mus%27ab_ibn_Umayr

教訓：宣教には**知識と品性を備えた教師**が必要です。誠実で賢明な一人の若者が、一年のうちに一つの町を変えることができるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

第二次アカバの誓い

スィーラの注：タシュリークの日々の夜の誓い

『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』によれば、**預言者として遣わされて 13 年目**（**西暦 622 年 6 月**）の巡礼の季節に、ヤスリブから来た**男性 73 人と女性 2 人**が、タシュリークの日々のある夜、アカバでひそかにアッラーの使徒 ﷺ に会いました。二人の女性は**ナシーバ・ビント・カアブ**（ウンム・ウマーラ）と**アスマー・ビント・アムル**です。

かれは、当時まだイスラームに入っていなかったおじの**アル＝アッバース**とともに来られました。アル＝アッバースはかれらに、かれを守り抜く覚悟があるときだけ連れて行くように、そうでなければ今のうちに手を引く方がよいと念を押しました。

参照：

アル＝ムバーラクフーリー『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』――「The Second ʻAqabah Pledge」。seerah.gtaf.org/books/1/chapters/13/the-second-aqabah-pledge/

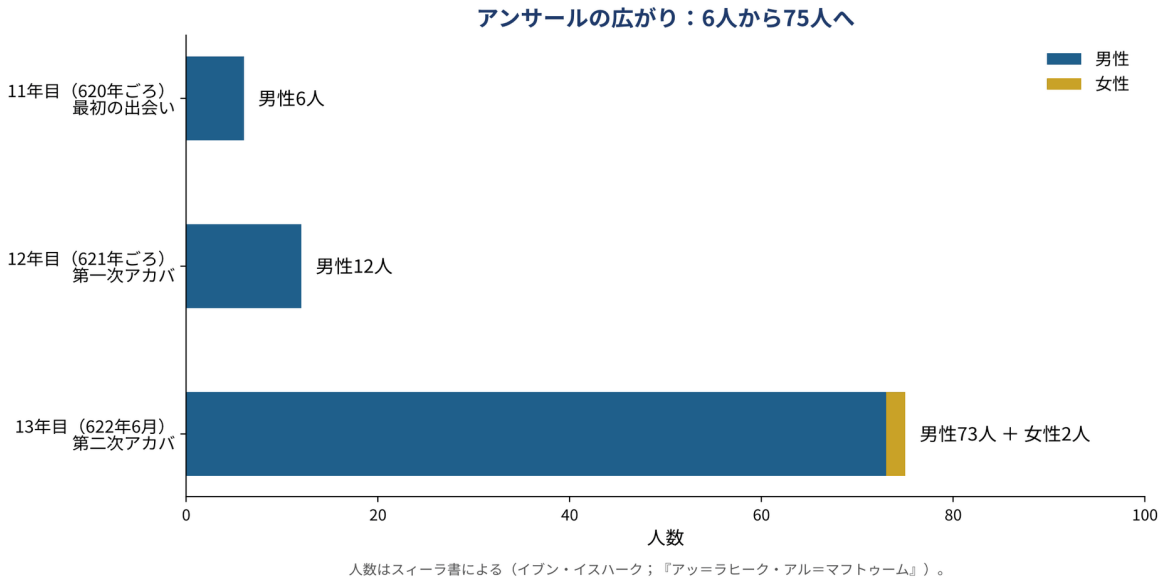


図 5：六人から七十五人への援助者たちの増加。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第二の誓いの条件

『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』が引用する『ムスナド・アフマド』のジャービル・ブン・アブディッラー رضى الله عنهما の伝承によれば、第二の誓いには次の条件が含まれていました。

条件	意味
どんな状況でも聞き従う	新しい社会の規律。
豊かなときも苦しいときも施す	財産を犠牲にする覚悟。
善を命じ、悪を禁じる	すべてのムスリムの社会的責任。
アッラーのことにおいて非難を恐れない	道徳的な勇気。
自分の家族を守るようにかれを守る	防衛の約束――ヒジュラの土台。
その報奨：楽園	財産や現世の権力の約束はない。

アッラーの使徒 ﷺ はそれからかれらに、それぞれの民に責任を負う**十二人のナキーブ**（代表者）――**ハズラジュ族から九人、アウス族から三人**――を選ぶよう求められました。第一の誓いのハディースを伝えたウバーダ・ブン・アッ＝サーミトもその一人でした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：376 / 485

ヒジュラへの道を開いた誓い

第二次アカバの誓いはスィーラの**転換点**です。初めて、ムスリムは**避難の場所**と、アッラーの使徒 ﷺ を守ると誓った共同体を持ったのです。それから間もなく、かれは教友たちが段階的にヤスリブへ移住することを許されました。

今日、**誓いのモスク（マスジド・アル＝バイア）**として知られる小さなモスクが、ミナーのジャムラ・アル＝アカバの近くに立ち、誓いが行われたと信じられている場所を示しています。

教訓：援助者たちに約束された報奨は**楽園**だけでしたが、かれらは固い確信をもってそれに応えました。最大の犠牲は**来世への信仰**から生まれるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

真正な伝承と有名な話のあいだ

夜の旅と昇天の話は、最も多く尾ひれが付けられた話の一つです。次の表は、真正なもの、スィーラ書からのもの、そして弱いか根拠のないものを区別しています。

話とその評価

有名な話	評価
昇天の前に、かれの胸が切り開かれて洗われた。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。
女性の頭をもつ翼のある馬としてのブラーク。	根拠なし。真正なハディースは白い乗り物とだけ述べている。
かれはエルサレムで預言者たちの導師を務めた。	真正（『サヒーフ・ムスリム』172）。
七つの天の預言者たちとムーサーの涙。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。
五十回の礼拝が五回に減らされた。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3887、349）。
夜の旅はラジャブ月 27 日に起きた。	見解が分かれる。日付についての真正な伝承はない。
ラジャブ月 27 日の夜の特別な崇拝行為。	真正な根拠はない。
かれは肉眼でアッラーを見た。	アーイシャが否定（『サヒーフ・ブハーリー』4855）。イブン・アッバース：心で。
銅の爪で顔をかきむしる人々。	真正（『スナン・アビー・ダーウード』4878）。
昇天の夜のさまざまな罰についての長い話。	その多くは弱いか捏造。
アブー・バクル：「かれがそう言ったのなら、それは真実だ。」	アル＝ハーキム。一部の学者が真正と評価。
第一次アカバの誓いとその条件。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』18）。

有名な話	評価
ムスアブ・ブン・ウマイルがヤスリブでクルアーンを教えた。	真正（『サヒーフ・ブハーリー』3925）。

省察

夜の旅と昇天についての真正な伝承は、それだけで十分に驚くべきものです。この出来事を**たたえる**ために、弱い付け足しは必要ありません。

このシリーズの重要な場所

本書の出来事は、カアバのそばで始まり、夜のわずかな時間に何千キロも離れたエルサレムへと飛び、マッカに戻り――そして援助者たちが誓いを立てたミナーの丘の小道で終わります。この章は、読者が距離と雰囲気を思い描けるように、それらの場所をまとめています。

場所の表

表の距離は**おおよそ**のもので、直線距離は現代の座標から計算しています。かれの時代の隊商はシャームに着くまでに約一か月かかりました――だからこそ、一夜のうちのわずかな時間に起きた旅をかれが語ったとき、クライシュ族は嘲ったのです。

場所	このシリーズとの関わり	場所／今日の様子
ハティーム（ヒジュル／ヒジュル・イスマーイール）	昇天の前に天使が来て胸を切り開いたとき、かれが横になっていた場所（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。クライシュ族が否認したとき、かれが立っていた場所（『サヒーフ・ブハーリー』3886）。	カアバの北側にある半円形の区域で、マスジド・ハラームの中にある。
マッカのかれの家	ある伝承では、かれの家の屋根が開いてジブリールが降りて来た（『サヒーフ・ブハーリー』349）。スィーラ書は、かれがウンム・ハーニーの家で夜を過ごしたと述べている――スィーラ書の伝承。	正確な場所は不明。マッカの旧市街は今ではその大部分がマスジド・ハラームに含まれている。
エルサレム（アクサー・モスク）	夜の旅の目的地。かれはブラークをつなぎ、二ラクアの礼拝をした（『サヒーフ・ムスリム』162）。	マッカの北西、直線距離で約 1,240km。
岩（サフラ）の区域	アクサーの境内の中央にある大きな岩。岩のドームは、この出来事の約 70 年後にその上に建てられた。	アクサーの境内の広場の中央。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

場所	このシリーズとの関わり	場所／今日の様子
ブラークの壁	ムスリムの伝統では、ここでブラークがつながれたとされる。正確な場所は伝統であって、聖典の明文ではない。	アクサーの境内の西の壁。ブラーク・モスクはその中にある小さな礼拝所である。
ミナーのアカバの小道	二度のアカバの誓いの場所（スィーラ書；『サヒーフ・ブハーリー』18）。	誓いのモスク。ジャムラ・アル＝アカバの北東約 500m、カアバから約 5km。
ヤスリブ（マディーナ）	誓いを立てた援助者たちの町。このシリーズの後のヒジュラの目的地。	マッカの北、直線距離で約 340km。

資料：ウィキペディア「Al-Aqsa Mosque」；ウィキペディア「Al-Buraq Mosque」；Saudipedia「Al-Bay'ah Mosque」；『サヒーフ・ムスリム』162。

二つのモスク、四十年

アブー・ザッル رضى الله عنه はかつてアッラーの使徒 ﷺ に、地上で最初に建てられたモスクはどれかと尋ねました。かれは「マスジド・ハラームだ」と答えられました。「その次は」と聞くと、「マスジド・アクサーだ」と答えられました。「その間はどれくらいですか」と聞くと、「四十年だ」と答えられました（『サヒーフ・ブハーリー』3366）。

夜の旅は、地上で最も古い二つのモスクを一夜のうちに結びました。学者たちは、このハディースの「モスク（マスジド）」とは、アッラーに平伏するために定められた場所のことであり、必ずしも今日私たちが知っているような建物を意味するのではないと説明しています。

ミナーの誓いのモスク

Saudipedia によれば、誓いのモスク（マスジド・アル＝バイア）は、アッバース朝のカリフ、アブー・ジャアファル・アル＝マンスールが西暦 761 年（ヒジュラ暦 144 年ごろ）、誓いの場所と信じられている、ジャムラ・アル＝アカバの北東約 500 メート

ルのところに建てたものです。カリフ、アル＝ムスタンスィルの時代の西暦 1227 年を含め、何度か修復されました。建物は小さく、ひそかに行われたあの夜の会合の雰囲気にふさわしいものです。

資料：Saudipedia「Al-Bay’ah Mosque」。

教訓

一か月かかる道のりが夜のわずかな時間で進まれ、ミナーの小さな小道が一つの国の生まれる場所となりました。遠い近い、大きい小さいという人間の尺度は、アッラーの尺度とは同じではないのです。

夜の旅の時代のエルサレム

アッラーの使徒 ﷺ がエルサレムへ旅をさせられたとき、その町はアラブの手にも、ビザンツ（ローマ）の手にもありませんでした。当時のエルサレムの状況を知ると、なぜクライシュ族がその町についての質問でかれを「試せる」と確信していたのかがよくわかります。

ペルシアによる占領

ウィキペディアによれば、**西暦 614 年**、ホスロー2 世の時代に、将軍**シャフルバラーズ**が率いるサーサーン朝ペルシアの軍が包囲の末にエルサレムを占領しました。キリスト教徒が崇敬する十字架（「聖十字架」）は奪われ、ペルシアの都クテシフォンへ運ばれました。キリスト教国ビザンツにとって、それは非常に大きな打撃でした。

この出来事は、マッカでの宣教の初期の年に起きました。クルアーン自身がビザンツのその敗北を記録し、かれらが数年のうちに再び勝つと約束しています（ビザンチン章 30:2–4）。マッカの多神教徒たちは火を拝むペルシアの勝利を喜び、ムスリムは啓典の民であるビザンツに同情しました。

一夜のうちに訪れた町

多くのスィーラ学者の見解のように夜の旅がヒジュラの約 1 年前に起きたのなら、そのときエルサレムはまだペルシアの支配下にありました。その町は、シャームへ行き来するクライシュ族の商人たちに知られていました。だからこそ、かれらはかれにその様子を説明してみよと挑んだのです――そしてアッラーはエルサレムをかれの前に現し、かれはすべての質問に答えることができました（『サヒーフ・ブハーリー』3886；『サヒーフ・ムスリム』172）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ビザンツへの返還

クルアーンの約束は果たされました。ヘラクレイオスは西暦 622 年――ヒジュラの年――から反撃を始め、ついにペルシアは屈しました。ウィキペディアによれば、**西暦 628 年**の和平条約でパレスチナの地とその十字架はビザンツに返されました。ペルシア軍は少なくとも 629 年の夏の終わりか秋の初めまでエルサレムにとどまっていました。**西暦 630 年 3 月 21 日**、ヘラクレイオス自身がその十字架を携えてエルサレムに行進して入りました。

そのわずか数年後、エルサレムはカリフ、ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضى الله عنه の時代、**西暦 638 年**ごろ（ヒジュラ暦 16〜17 年ごろ）にムスリムに開かれました。

資料：Wikiwand／ウィキペディア「Sasanian conquest of Jerusalem」；Wikiwand／ウィキペディア「Dome of the Rock」。

> **歴史の注：異なる年代**
>
> 歴史資料は、西暦 614 年にエルサレムが占領された正確な月（4 月か 5 月か）や、ムスリムによるエルサレム開城の年（637 年か 638 年か）について異なっています。本書は多くの資料が採っている年代を用い、それがおおよそのものであることを示しています。
>
> 夜の旅と昇天そのものの日付も、「夜の旅と昇天はいつ起きたのか」の章で論じたように、学者のあいだで意見が分かれています。

教訓

エルサレムが二つの大帝国のあいだで手から手へと移っていたとき、アッラーはマッカで虐げられていたご自身のしもべの一人をその町へ旅させ、預言者たちの導師とされました。現世の権力は移り変わりますが、真の栄誉はアッラーが選ばれた者のものです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

歴史の足跡：アクサー・モスクの境内

多くの人は、有名な金色のドームの写真を「アクサー・モスク」だと思っています。実際には、アクサーの区域は約 14.4 ヘクタールの塀で囲まれた広場全体であり（「アクサー・モスク」の章を参照）、その中には夜の旅のずっと後に建てられたいくつかの建物があります。この章は、確かな歴史記録に基づいて主な建物を紹介します。

主な建物とその年代

建物	建てられた時期	説明
キブリー・モスク	ウマイヤ朝の時代。その後何度も修復された	境内の南側にある主な礼拝堂。ふつう「アクサー・モスク」と呼ばれるもの。
岩のドーム	カリフ、アブドゥルマリク・ブン・マルワーンの命により、西暦 691〜692 年ごろ（ヒジュラ暦 72 年）に完成	大きな岩（サフラ）の上に建つドームのある建物。集団礼拝のモスクではなく、歴史的な聖所（シュライン）に分類される。
ブラーク・モスク	西暦 10 世紀ごろ（おそらくそれ以前）	境内の南西の角に近い、ブラークの壁のそばの地下にある小さな礼拝所。

資料：Wikiwand／ウィキペディア「Dome of the Rock」；ウィキペディア「Al-Buraq Mosque」；ウィキペディア「Al-Aqsa Mosque」。

岩のドームの碑文（ヒジュラ暦 72 年）

岩のドームには、ヒジュラ暦 1 世紀の最も重要なイスラームの碑文がいくつか残されています。内部のモザイクの碑文は**ヒジュラ暦 72 年**（西暦 691〜692 年）の日付をもち、クルアーンからの多くの引用を含んでいます。その中には、啓典の民に宗教において度を越さないよう呼びかけ、イーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ がアッラーの使徒でありその

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

御言葉であると述べる節（女性章 4:171 に対応）や、外側のアーチにある純正章（純正章 112）があります。

この碑文は、アッラーの使徒 ﷺ の逝去から約六十年後に、クルアーンの本文が公の場に正式に掲げられていたことを示しているため、重要です。

資料：Islamic Awareness「The Arabic Islamic Inscriptions On The Dome Of The Rock, 72 AH / 692 CE」；Wikiwand／ウィキペディア「Dome of the Rock」。

ブラークの壁と預言者たちの輪

真正なハディースは、かれがブラークを**預言者たちが乗り物をつないでいた輪**につなぎ、それからモスクに入って二ラクアの礼拝をされたと述べています（『サヒーフ・ムスリム』162）。

ムスリムは古くからその場所をアクサーの境内の西の壁と結びつけ、**ブラークの壁**と名づけてきました。ウィキペディアによれば、歴史家イブン・アル＝ファキーフは西暦 903 年に「マルバト・アル＝ブラーク」（ブラークをつなぐ場所）という所に言及しています。今日のブラーク・モスクは、その壁のそばの階段状の通路の中にある小さな礼拝所です。

> **注：聖典の明文と伝統のあいだ**
>
> 真正なハディースは「預言者たちが使っていた輪」と述べるだけで、その場所を特定していません。その場所をブラークの壁とするのは、何世紀にもわたってムスリムが受け継いできた**伝統**であって、真正な明文ではありません。実際、アル＝ミクナースィー（西暦 1785 年）のような昔の学者の中には、当時の輪は目印にすぎず、元の場所は埋もれてしまったと述べる人もいます。
>
> 均衡のとれた態度は、この伝統を共同体の遺産として尊重しつつ、それを確かな事実だと主張しないことです。

資料：ウィキペディア「Al-Buraq Mosque」。

教訓

アクサーの美しい建物は、アッラーの使徒 ﷺ の後の世代が、夜の旅の場所への愛のしるしとして建てたものです。私たちはその愛を受け継いでいます——しかし、明文から真正であるものと伝統であるものとを区別し、私たちの愛が知識の上に立つようにしなければなりません。

このシリーズの人物

このシリーズでアッラーの使徒 ﷺ は二つの人々に出会われます。夜の旅と昇天の夜に出会った預言者たちと、その知らせを受け入れたり拒んだりした地上の人々、そして誓いを立てた援助者たちです。下の表はかれらを典拠とともにまとめたものです。

出会った預言者たち

天の順序は、マーリク・ブン・サアサアのハディース（『サヒーフ・ブハーリー』3887）によります。それぞれの出会いの詳細は「七つの天の預言者たち」の章で説明しました。

預言者	出会った場所	典拠
預言者たち（大勢）	エルサレム――かれが導師を務めた	『サヒーフ・ムスリム』172
アーダム عَلَيْهِ السَّلَامُ	第一天	『サヒーフ・ブハーリー』3887
ヤフヤーとイーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ	第二天	『サヒーフ・ブハーリー』3887
ユースフ عَلَيْهِ السَّلَامُ	第三天	『サヒーフ・ブハーリー』3887
イドリース عَلَيْهِ السَّلَامُ	第四天	『サヒーフ・ブハーリー』3887
ハールーン عَلَيْهِ السَّلَامُ	第五天	『サヒーフ・ブハーリー』3887
ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ	第六天。墓の中で礼拝している姿も見られた	『サヒーフ・ブハーリー』3887；『サヒーフ・ムスリム』2375

預言者	出会った場所	典拠
イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ	第七天。アル＝バイト・アル＝マアムールに背をもたせていた	『サヒーフ・ブハーリー』3887；『サヒーフ・ムスリム』162

地上の人物

人物	本巻での役割	典拠
ジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ	かれの胸を切り開き、夜の旅と昇天のあいだずっとかれに付き添った。	『サヒーフ・ブハーリー』3887
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク رضي الله عنه	夜の旅の知らせを疑いなく信じ、アッ＝スィッディークと呼ばれた。	スィーラ書；『サヒーフ・ブハーリー』3675
ウンム・ハーニー・ビント・アビー・ターリブ رضي الله عنها	スィーラ書によれば、かれは夜の旅の夜にかの女の家で過ごした。	スィーラ書（イブン・イスハーク）
アスアド・ブン・ズラーラ رضي الله عنه	最初に信仰したハズラジュ族の六人の一人。ヤスリブでムスアブを家に迎えた。	スィーラ書
ウバーダ・ブン・アッ＝サーミト رضي الله عنه	第一次アカバの誓いに参加し、その内容を伝えた。	『サヒーフ・ブハーリー』18
ムスアブ・ブン・ウマイル رضي الله عنه	イスラーム最初の使節。ヤスリブでクルアーンを教えた。	『サヒーフ・ブハーリー』3925
カアブ・ブン・マーリク رضي الله عنه	第二次アカバの誓いに参加し、それを伝えた。	スィーラ書；『サヒーフ・ブハーリー』4418
アル＝アッバース・ブン・アブドルムッタリブ	まだイスラームに入っていなかったが、第二の誓いの夜にかれに付き添った（スィーラ書による）。	スィーラ書

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

教訓

天ではアッラーの使徒 ﷺ は預言者たちに迎えられ、地上では自分の民に否認されましたが、一人の教友に信じられ、援助者たちに守られました。すべてのムスリムは、アブー・バクルや援助者たちのように、真理を信じ、それを守る者となることを選べるのです。

年表：スィーラと世界

この表は、このシリーズの出来事を、エルサレムとその周辺の帝国の大きな出来事と並べたものです。夜の旅と昇天の日付について学者の見解が分かれているため、スィーラの出来事の西暦年は**おおよそ**のものです。

年（推定）	預言者伝（スィーラ）	世界とエルサレム
西暦 614 年	マッカでの公然の宣教。迫害が始まる。	ペルシアがエルサレムを占領（シャフルバラーズ）。十字架がクテシフォンへ運ばれる。
西暦 619〜620 年	悲しみの年。ターイフへの旅（第 5 巻）。	エルサレムはまだペルシアの支配下。
西暦 620 年ごろ（遣わされて 11 年目）	ハズラジュ族の六人がアカバで信仰する。	—
西暦 621 年ごろ（多くの見解）	夜の旅と昇天。一日五回の礼拝が義務とされる。	—
西暦 621 年ごろ（12 年目）	第一次アカバの誓い。ムスアブがヤスリブへ送られる。	—
西暦 622 年 6 月（13 年目）	第二次アカバの誓い：男性 73 人と女性 2 人。	ヘラクレイオスがペルシアへの反撃を始める。
西暦 622 年 9 月（ヒジュラ暦 1 年ラビーウ・アル＝アウワル月）	アッラーの使徒 ﷺ のマディーナへのヒジュラ。	—
西暦 628〜629 年	—	和平条約：パレスチナと十字架がビザンツに返される。
西暦 630 年 3 月 21 日	—	ヘラクレイオスがエルサレムに行進して入る。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年（推定）	預言者伝（スィーラ）	世界とエルサレム
西暦 638 年ごろ（ヒジュラ暦 16〜17 年）	―	ウマル رضى الله عنه の時代にエルサレムがムスリムに開かれる。
西暦 691〜692 年（ヒジュラ暦 72 年）	―	アブドゥルマリクにより岩のドームが完成する。

資料：スィーラ書（『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』）；Wikiwand／ウィキペディア「Sasanian conquest of Jerusalem」；Wikiwand／ウィキペディア「Dome of the Rock」。

教訓

二十五年足らずのうちに、エルサレムはペルシアの手からビザンツへ、そして夜の旅の夜にその預言者がそこで導師を務めた共同体の手へと移りました。この年表は、信仰の目で歴史を読むことを教えてくれます。人々には不可能に見えても、アッラーの約束は必ず果たされるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 | ページ：392 / 485

よくある質問

以下は、夜の旅、昇天、アカバの誓いについてよく尋ねられる質問と、本書で論じた資料に基づく短い答えです。ハディースごとの詳しい議論については、**特別版『夜の旅と昇天の物語』**も参照してください。

1. 夜の旅と昇天は実際にはいつ起きたのですか。

学者の見解は分かれています。多くのスィーラ学者の見解は、ヒジュラの約 1 年前です。ラジャブ月 27 日という日付は非常に有名ですが、真正な伝承に基づいてはいません。「夜の旅と昇天はいつ起きたのか」の章の見解の表を参照してください。

2. 夜の旅と昇天は体と魂によるものですか、それとも夢の中のことですか。

学者の大多数の見解は、目覚めた状態で、体と魂によるものだということです。その根拠には、夜の旅章 17:1 の「そのしもべ」という言葉や、否認したクライシュ族の反応――かれがただ夢を語っただけなら嘲りはしなかったでしょう――があります。ごく一部のサラフが魂によるものだとした伝承もあり、この見解はタフスィール学者によって論じられています。「人々への試練」の章を参照してください。

3. 昇天の夜にかれはアッラーを見られたのですか。

教友たち自身の見解が分かれていました。アーイシャ رضى الله عنها はそれを否定し（『サヒーフ・ブハーリー』4855）、イブン・アッバース رضى الله عنهما はかれが心で見たと述べ（『サヒーフ・ムスリム』176）、アブー・ザッル رضى الله عنه が尋ねたとき、かれは「光である。どうしてかれを見ることができようか」と答えられました（『サヒーフ・ムスリム』178）。これは慎重な態度が求められる目に見えない事柄です。「かれはアッラーを見られたのか」の章を参照してください。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

4. ラジャブ月 27 日の夜に特別な崇拝行為はありますか。

夜の旅と昇天の夜にちなんで、特定の礼拝や断食のような特別な崇拝行為を定めた真正な伝承はありません。スィーラを学び、礼拝を守り、全般的に善行をすることでこの出来事を思い起こすのは良いことです。避けるべきなのは、根拠のない特別な行いを定めることです。

5. 夜の旅の夜にアクサー・モスクの建物はすでにあったのですか。

今日私たちが目にする建物はその後に建てられたものです（「歴史の足跡：アクサー・モスクの境内」の章を参照）。しかしクルアーンと真正なハディースは、「アクサー・モスク」を、マスジド・ハラームの四十年後から定められていた平伏の場所として述べています（『サヒーフ・ブハーリー』3366）。アラビア語でマスジドとは平伏する場所のことであり、必ずしも建物ではありません。

6. ブラークはどこにつながれたのですか。

真正なハディースは、かれが預言者たちの使っていた輪にそれをつないだと述べています（『サヒーフ・ムスリム』162）。その場所をブラークの壁とするのはムスリムの伝統であり、正確な場所を定める明文ではありません。

7. 岩のドームはアクサー・モスクなのですか。

正確ではありません。岩のドームはアクサーの境内の中央にある大きな岩の上に建つドームのある建物で、ヒジュラ暦 72 年ごろに完成しました。主な礼拝堂は南側にあるキブリー・モスクです。どちらも、約 14.4 ヘクタールの広さをもつアクサー・モスクの区域の中にあります。

8. なぜ礼拝は地上ではなく天で義務とされたのですか。

学者たちは、これは礼拝の非常に高い地位を示していると説明しています。ほかの義務は地上のかれへの啓示によって下されましたが、礼拝は昇天の夜にじかに義務

とされました。礼拝はまた信仰者の「ミウラージュ」とも呼ばれます——主に最も近づくひとときです。

9. 一日五回の礼拝の報奨が五十回分というのは本当ですか。

はい。昇天のハディースの中で、アッラーはこう言われました。「それは五回であり、それは（報奨において）五十回である。わが言葉は変えられない」（『サヒーフ・ブハーリー』349）。これはムハンマド ﷺ の民へのとても大きな慈悲です。

10. 夜の旅の知らせを最初に信じたのは誰ですか。

スィーラ書は、アブー・バクル رضي الله عنه が知らされるとすぐにそれを信じ、アッ＝スィッディークと呼ばれたと伝えています。かれがスィッディークであることは真正なハディースによって裏づけられています（『サヒーフ・ブハーリー』3675）。

11. アカバの誓いはどこで行われたのですか。その場所を訪れることはできますか。

ミナーのアカバの丘の小道です。アッバース朝の時代に建てられた誓いのモスクが、今ではその場所と信じられている所を示しており、ジャムラ・アル＝アカバから約 500 メートルのところにあります。歴史をしのぶためにそこを訪れるのは差し支えありませんが、そこで定められた特別な行いはありません。

12. クライシュ族は、かれを試すのにどうやってエルサレムのことを知っていたのですか。

クライシュ族の商隊は毎年シャームへ行き来しており（第 2 巻）、多くの商人がエルサレムを見たことがありました。だからこそ、かれがそこへ行ったことがないと証明できると確信していたのです——しかしアッラーはエルサレムをかれの前に現されました（『サヒーフ・ブハーリー』3886）。

教訓

夜の旅と昇天は、目に見えない世界の偉大な出来事です。安全な態度は、真正なものを完全に信じ、学者の見解の違いには寛容であり、根拠のない付け足しを避けることです——この出来事が論争ではなく、信仰の源であり続けるように。

教訓と結び

本書からの教訓

第一：困難の後、アッラーは天を開かれる。 夜の旅と昇天は悲しみの年の後に訪れた。

第二：最高の栄誉はアッラーのしもべであること。 「かれに栄光あれ。そのしもべを…旅をさせた」（17:1）。

第三：礼拝は天からの贈り物。 行いでは五回、報奨では五十回（『サヒーフ・ブハーリー』349、3887）。

第四：預言者たちは一つの家族。 かれは預言者たちの導師を務め、兄弟として迎えられた（『サヒーフ・ムスリム』172）。

第五：ムスリムの心の中のエルサレム。 夜の旅の目的地であり最初のキブラ（17:1；『サヒーフ・ブハーリー』40）。

第六：イスラームは天性の宗教。 ぶどう酒ではなく乳が選ばれた（『サヒーフ・ブハーリー』3394）。

第七：目に見えないものへの信仰。 アブー・バクルは信じた。イブン・アッバース：それは目による光景であった（『サヒーフ・ブハーリー』3888）。

第八：小さな始まり、大きな実り。 ハズラジュ族の六人がマディーナの始まりとなった。

第九：権力の前に信仰と品性。 第一の誓いは唯一神信仰と品性についてであった（『サヒーフ・ブハーリー』18）。

第十：誠実な教師は町を変える。 ムスアブ・ブン・ウマイルがヤスリブでクルアーンを教えた（『サヒーフ・ブハーリー』3925）。

年表のまとめ

時期（推定）	出来事と典拠
ターイフの後（西暦 619〜620 年）	かれは諸部族に自らを示した（『スナン・アビー・ダーウード』4734）
11 年目（西暦 620 年ごろ）	ハズラジュ族の六人がアカバで信仰した（スィーラ書）
ヒジュラの約 1 年前	夜の旅と昇天（17:1；『サヒーフ・ブハーリー』3887）
その翌朝	クライシュ族が否認。エルサレムが現される（『サヒーフ・ブハーリー』3886）
12 年目（西暦 621 年ごろ）	第一次アカバの誓い、12 人（『サヒーフ・ブハーリー』18）
第一の誓いの後	ムスアブ・ブン・ウマイルがヤスリブへ（『サヒーフ・ブハーリー』3925）
13 年目（西暦 622 年 6 月）	第二次アカバの誓い、男性 73 人と女性 2 人（スィーラ書）

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

結び

カアバのそばのハティームから、エルサレムへ、七つの天を越えてスィドラ・アル＝ムンタハーへ、そして礼拝という贈り物を携えて地上へ戻り――さらにミナーのアカバへ。そこでヤスリブの人々はかれを守ると約束しました。悲しみの年の困難の後、アッラーは**天の門と地の門**を開かれたのです。インシャー・アッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』は**マディーナへのヒジュラ**――世界の歴史を変えた旅――へと続きます。ワッラーフ・アアラム（アッラーが最もよくご存じである）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 6 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。quran.com/ms

イブン・カスィール『タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム』（17:1；17:60；53:13–18；52:4；2:89）。tafsir.app/ibn-katheer/17/1

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』18、40、52、349、1189、1276、1386、3207、3394、3675、3777、3886、3887、3888、3925、4855、4856。sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』82、162、172、173、176、177、178、482、2375。sunnah.com/muslim

『スナン・アビー・ダーウード』4734、4878；『スナン・アッ＝ティルミズィー』413；『スナン・アン＝ナサーイー』3939。sunnah.com

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ』（イブン・イスハークからの伝承）——夜の旅と昇天、アカバの誓いの章。

サフィーユッラフマーン・アル＝ムバーラクフーリー『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』——夜の旅と昇天、第一次・第二次アカバの誓いの章。

ウィキペディア「Isra’ and Mi‘raj」。en.wikipedia.org/wiki/Isra%27_and_Mi%27raj

ウィキペディア「Al-Aqsa Mosque」。en.wikipedia.org/wiki/Al-Aqsa_Mosque

ウィキペディア「アブー・バクル」。en.wikipedia.org/wiki/Abu_Bakr

ウィキペディア「Mus’ab ibn Umayr」。en.wikipedia.org/wiki/Mus%27ab_ibn_Umayr

ウィキペディア「Ansar (Islam)」。en.wikipedia.org/wiki/Ansar_(Islam))

ウィキペディア「Battle of Bu’ath」。en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Bu%27ath

場所、歴史、碑文

Wikiwand ／ ウィキペディア 「Sasanian conquest of Jerusalem」。wikiwand.com/en/Sasanian_conquest_of_Jerusalem

Wikiwand／ウィキペディア「Dome of the Rock」。wikiwand.com/en/Dome_of_the_Rock

Islamic Awareness「The Arabic Islamic Inscriptions On The Dome Of The Rock In Jerusalem, 72 AH / 692 CE」。islamic-awareness.org/history/islam/inscriptions/dotr

ウィキペディア「Al-Buraq Mosque」。en.wikipedia.org/wiki/Al-Buraq_Mosque

ウィキペディア「Al-Aqsa Mosque」。en.wikipedia.org/wiki/Al-Aqsa_Mosque

Saudipedia「Al-Bay'ah Mosque」。saudipedia.com/en/al-bay%22ah-mosque

『サヒーフ・ブハーリー』3366（sunnah.com）。sunnah.com/bukhari:3366

『サヒーフ・ムスリム』162（sunnah.com）。sunnah.com/muslim:162a

このページは意図的に空白にしています

第七部

夜の旅と昇天の物語

預言者伝（スィーラ）— 第 6 巻 特別編

真正な伝承と広く知られた物語のあいだ：クルアーンとハディースに基づく、偉大な夜のすべての出来事

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

夜の旅と昇天の物語

『預言者伝（スィーラ）』第 6 巻『**夜の旅と昇天**』は、この偉大な旅をスィーラの流れの中で、すなわちターイフの後、アカバの誓いの前の出来事として語りました。その後、多くの読者がこう尋ねました。**あの夜、かれは実際に何を見、何を体験されたのか**。それぞれの天で誰に会われたのか。スィドラ・アル＝ムンタハーとは何か。記念の集まりでよく語られる物語は本当なのか。

この特別編は、それらの問いに**物語ごとに**答えます。一つひとつの物語は**クルアーンの節かハディース**に基づき、アラビア語原文、訳、伝承経路、等級を添えています。有名ではあっても**見解が分かれる、弱い、あるいは根拠のない**物語は別の章で取り上げ、読者が真正なものとそうでないものを見分けられるようにしました。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。見解の分かれる伝承についての学者たちの評価は、茶色の「スィーラの注」の枠に出典のリンクとともに入れている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

なぜこの特別編なのか

夜の旅と昇天は、スィーラの中で**最も伝承の多い出来事**です。二十人を超える教友がその一部を伝えています。そのため、イブン・カスィールのようなハディース学者は、夜の旅章の注釈の中でそれらの伝承を集め、一つひとつを評価しました。

真正な伝承と並んで、**信頼できる伝承経路を持たない**物語も広まっています。中には美しく心に響くものもありますが、アッラーの使徒 ﷺ は厳しく戒められました。**「故意に私について嘘をつく者は、火獄に自分の座を用意せよ」**（『サヒーフ・ブハーリー』110）。

本書で用いる伝承の等級

等級	意味と用い方
サヒーフ（真正）	伝承経路が途切れず、公正で記憶の確かな伝承者によって伝えられ、欠陥がないもの。ハディースの枠で示す。
ハサン（良好）	サヒーフに近いが、一部の伝承者の記憶がやや劣るもの。論拠として用いることができる。
見解が分かれるもの	伝承経路の評価について学者の意見が分かれるもの。双方の評価を添えて述べる。
ダイーフ（弱い）	伝承経路に弱点があるもの。信仰の根拠や確かな物語としては用いない。
根拠なし／捏造	伝承経路がまったくないか、作り話であるもの。注意を促すためにのみ触れる。

本書の方法は簡単です。**アッラーの使徒** ﷺ が語られた範囲まで語り、かれが止まられたところで止まる。天、楽園、スィドラ・アル＝ムンタハーのような目に見えない事柄は、啓示によってしか知ることができないからです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

真正なハディースによる夜の旅と昇天の停留地



順序は諸伝承を合わせて組み立てた。伝承によっては細部の順序が異なる。

図 1：真正なハディースによる夜の旅と昇天の停留地。

物語の出典：伝承者である教友たち

教友たちはそれぞれ**自分が聞き、覚えていたこと**を伝えました。旅の全体を語った者もいれば、一つの場面だけを述べた者もいます。すべての伝承を集めると、あの夜のほぼ全体像が浮かび上がります。

伝承した教友	伝えた物語（典拠）
マーリク・ブン・サアサア رضي الله عنه	最も詳しい伝承：胸を開くこと、ブラーク、七つの天、スィドラ、川、礼拝（ブハーリー3887）
アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه	ブラーク、輪、乳、天、ユースフ、五十が五に（ムスリム 162）；墓の中のムーサー（ムスリム 2375）；カウサル（ブハーリー4964）；銅の爪（アブー・ダーウード 4878）
アブー・ザッル رضي الله عنه	開かれた屋根、ザムザム、アーダムと子孫の魂、ペンの音、真珠の楽園（ブハーリー349）；「光」（ムスリム 178）
アブー・フライラ رضي الله عنه	ムーサー、イーサー、イブラーヒームの姿；乳と酒（ブハーリー3394）；預言者たちの礼拝の導き、マーリクの挨拶（ムスリム 172）
イブン・アッバース رضي الله عنهما	ムーサーとイーサーの姿、マーリクとダッジャール（ブハーリー3239）；17:60 の解釈（ブハーリー3888）
アブドッラー・ブン・マスウード رضي الله عنه	第六天のスィドラ・アル＝ムンタハー、金の蛾、三つの贈り物（ムスリム 173）
ジャービル・ブン・アブディッラー رضي الله عنهما	クライシュ族の否認；エルサレムが示されたこと（ブハーリー3886）
アーイシャ رضي الله عنها	かれは目でアッラーを見られなかったとする見解（ブハーリー4855；ムスリム 177）

なぜ伝承の細部が異なるのか

読者は伝承のあいだに小さな違いがあることに気づくでしょう。たとえば預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ の位置（第六天か第七天か）や、礼拝が減らされた方法（十ずつか五ずつか）です。ナワウィーやイブン・ハジャルのような学者は、こうした違いは**伝承者が要約したり、細部を覚えていなかったりした**ために生じたもので、物語が矛盾しているからではないと説明しています。物語の核心——旅、預言者たちとの出会い、スィドラ・アル＝ムンタハー、一日五回の礼拝——は、すべての伝承で一致しています。

クルアーンにおける夜の旅と昇天

クルアーンはこの出来事を**二つの章**で述べています。夜の旅章は**地上での**旅（イスラー）を、星章はかれが**天で**目撃されたこと（ミウラージュ）を述べています。

夜の旅章 17:1

سُبْحَٰنَ ٱلَّذِىٓ أَسْرَىٰ بِعَبْدِهِۦ لَيْلًا مِّنَ ٱلْمَسْجِدِ ٱلْحَرَامِ إِلَى ٱلْمَسْجِدِ ٱلْأَقْصَا ٱلَّذِى بَٰرَكْنَا حَوْلَهُۥ لِنُرِيَهُۥ مِنْ ءَايَٰتِنَآ ۚ إِنَّهُۥ هُوَ ٱلسَّمِيعُ ٱلْبَصِيرُ ﴿١﴾

かれに栄光あれ。そのしもべを、（マッカの）聖なるマスジドから、われが周囲を祝福した至遠の（エルサレムの）マスジドに、夜間、旅をさせた。わが種々の印をかれ（ムハンマド）に示すためである。本当にかれこそは全聴にして全視であられる。

訳：三田了一 — quran.com/17:1

この節は旅の目的で締めくくられています。「**われの印をかれに示すためである**」。本書の一つひとつの物語は、その**印**の一部なのです『イブン・カスィール注釈』17:1。

節 17:60：一つの試練

同じ章でアッラーは仰せられます。「**われがあなたに見せた幻影も、人間に対する試みに外ならない**」。イブン・アッバース رضى الله عنهما はその意味をこう説明しています。『イブン・カスィール注釈』17:60。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3888 番

حَدَّثَنَا الْحُمَيْدِيُّ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، حَدَّثَنَا عَمْرٌو، عَنْ عِكْرِمَةَ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ فِي قَوْلِهِ تَعَالَى {وَمَا جَعَلْنَا الرُّؤْيَا الَّتِي أَرَيْنَاكَ إِلاَّ فِتْنَةً لِلنَّاسِ} قَالَ هِيَ رُؤْيَا عَيْنٍ، أُرِيَهَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لَيْلَةَ أُسْرِيَ بِهِ إِلَى بَيْتِ الْمَقْدِسِ. قَالَ وَالشَّجَرَةَ الْمَلْعُونَةَ فِي الْقُرْآنِ قَالَ هِيَ شَجَرَةُ الزَّقُّومِ.

訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما は、至高なるアッラーの御言葉 {われがあなたに示した光景は、人びとへの試みのためだけであった} について言った。「**それは、エルサレムへ旅をさせられた夜にアッラーの使徒 ﷺ に示された、目による光景（夢ではない）である。**」 かれはまた言った。「そしてクルアーンの中で呪われた木とは、ザックームの木である。」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アル＝フマイディー ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← アムル・ブン・ディーナール ← イクリマ ← イブン・アッバース رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、昇天の章、ハディース第 3888 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:3888

星章：天で目撃されたこと

星章は**星にかけて**の誓いで始まり、アッラーの使徒 ﷺ が私欲から語っているのではないことを確言します（53:1–4）。5–12 節はかれが地平線で本来の姿のジブリールに初めて会われたことを、13–18 節は昇天の夜の**スィドラ・アル＝ムンタハーのそばでの二度目の出会い**を述べています。これらの節はスィドラ・アル＝ムンタハーの章で取り上げます。

その頂点が 18 節です。「**本当にかれは、主の最大の印を見たのである**」。イブン・カスィールは、この節はかれがアッラーの偉大な**印**を見られたことを示していると説明しており、この節がこの特別編の標語になっています『イブン・カスィール注釈』53:18。

節	夜の旅と昇天に関わる節
夜の旅章 17:1	マスジド・ハラームからマスジド・アクサーへの旅
夜の旅章 17:60	あの夜の光景は人々への試練である
星章 53:13–18	スィドラ・アル＝ムンタハーのそばのジブリール；最大の印
胸を広げる章 94:1	広げられた胸（一部の学者が関連づけている）
マルヤム章 19:57	イドリースが高い所に上げられたこと
豊潤章 108:1	カウサルの川
雌牛章 2:285–286	雌牛章の最後の節：三つの贈り物の一つ
サジダ章 32:23	ムーサーとの出会い

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

開かれた屋根とザムザムの水

アブー・ザッル رضى الله عنه の伝承は、**マッカのかれの家**から物語を始めます。家の屋根が**開かれ**、ジブリールが降りてきて、人類の歴史で最も偉大な夜が始まりました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 349 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ بُكَيْرٍ، قَالَ حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ يُونُسَ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، قَالَ كَانَ أَبُو ذَرٍّ يُحَدِّثُ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ فُرِجَ عَنْ سَقْفِ بَيْتِي وَأَنَا بِمَكَّةَ، فَنَزَلَ جِبْرِيلُ فَفَرَجَ صَدْرِي، ثُمَّ غَسَلَهُ بِمَاءِ زَمْزَمَ، ثُمَّ جَاءَ بِطَسْتٍ مِنْ ذَهَبٍ مُمْتَلِئٍ حِكْمَةً وَإِيمَانًا، فَأَفْرَغَهُ فِي صَدْرِي ثُمَّ أَطْبَقَهُ، ثُمَّ أَخَذَ بِيَدِي فَعَرَجَ بِي إِلَى السَّمَاءِ الدُّنْيَا، فَلَمَّا جِئْتُ إِلَى السَّمَاءِ الدُّنْيَا قَالَ جِبْرِيلُ لِخَازِنِ السَّمَاءِ افْتَحْ. قَالَ مَنْ هَذَا قَالَ هَذَا جِبْرِيلُ. قَالَ هَلْ مَعَكَ أَحَدٌ قَالَ نَعَمْ مَعِي مُحَمَّدٌ صلى الله عليه وسلم. فَقَالَ أُرْسِلَ إِلَيْهِ قَالَ نَعَمْ. فَلَمَّا فَتَحَ عَلَوْنَا السَّمَاءَ الدُّنْيَا، فَإِذَا رَجُلٌ قَاعِدٌ عَلَى يَمِينِهِ أَسْوِدَةٌ وَعَلَى يَسَارِهِ أَسْوِدَةٌ، إِذَا نَظَرَ قِبَلَ يَمِينِهِ ضَحِكَ، وَإِذَا نَظَرَ قِبَلَ يَسَارِهِ بَكَى، فَقَالَ مَرْحَبًا بِالنَّبِيِّ الصَّالِحِ وَالاِبْنِ الصَّالِحِ. قُلْتُ لِجِبْرِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ هَذَا آدَمُ. وَهَذِهِ الأَسْوِدَةُ عَنْ يَمِينِهِ وَشِمَالِهِ نَسَمُ بَنِيهِ، فَأَهْلُ الْيَمِينِ مِنْهُمْ أَهْلُ الْجَنَّةِ، وَالأَسْوِدَةُ الَّتِي عَنْ شِمَالِهِ أَهْلُ النَّارِ، فَإِذَا نَظَرَ عَنْ يَمِينِهِ ضَحِكَ، وَإِذَا نَظَرَ قِبَلَ شِمَالِهِ بَكَى، حَتَّى عَرَجَ بِي إِلَى السَّمَاءِ الثَّانِيَةِ فَقَالَ لِخَازِنِهَا افْتَحْ. فَقَالَ لَهُ خَازِنُهَا مِثْلَ مَا قَالَ الأَوَّلُ فَفَتَحَ. قَالَ أَنَسٌ فَذَكَرَ أَنَّهُ وَجَدَ فِي السَّمَوَاتِ آدَمَ وَإِدْرِيسَ وَمُوسَى وَعِيسَى وَإِبْرَاهِيمَ ـ صَلَوَاتُ اللَّهِ عَلَيْهِمْ ـ وَلَمْ يُثْبِتْ كَيْفَ مَنَازِلَهُمْ، غَيْرَ أَنَّهُ ذَكَرَ أَنَّهُ وَجَدَ آدَمَ فِي السَّمَاءِ الدُّنْيَا، وَإِبْرَاهِيمَ فِي السَّمَاءِ السَّادِسَةِ. قَالَ أَنَسٌ فَلَمَّا مَرَّ جِبْرِيلُ بِالنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم بِإِدْرِيسَ قَالَ مَرْحَبًا بِالنَّبِيِّ الصَّالِحِ وَالأَخِ الصَّالِحِ. فَقُلْتُ مَنْ هَذَا قَالَ هَذَا إِدْرِيسُ. ثُمَّ مَرَرْتُ بِمُوسَى فَقَالَ مَرْحَبًا بِالنَّبِيِّ الصَّالِحِ وَالأَخِ الصَّالِحِ. قُلْتُ مَنْ هَذَا قَالَ هَذَا مُوسَى. ثُمَّ مَرَرْتُ بِعِيسَى فَقَالَ مَرْحَبًا بِالأَخِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ. قُلْتُ مَنْ هَذَا قَالَ هَذَا عِيسَى. ثُمَّ مَرَرْتُ بِإِبْرَاهِيمَ فَقَالَ مَرْحَبًا بِالنَّبِيِّ الصَّالِحِ وَالاِبْنِ الصَّالِحِ. قُلْتُ مَنْ هَذَا قَالَ هَذَا إِبْرَاهِيمُ صلى الله عليه وسلم . قَالَ

ابْنُ شِهَابٍ فَأَخْبَرَنِي ابْنُ حَزْمٍ أَنَّ ابْنَ عَبَّاسٍ وَأَبَا حَبَّةَ الأَنْصَارِيَّ كَانَا يَقُولاَنِ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم ثُمَّ عُرِجَ بِي حَتَّى ظَهَرْتُ لِمُسْتَوَى أَسْمَعُ فِيهِ صَرِيفَ الأَقْلاَمِ . قَالَ ابْنُ حَزْمٍ وَأَنَسُ بْنُ مَالِكٍ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم فَفَرَضَ اللَّهُ عَلَى أُمَّتِي خَمْسِينَ صَلاَةً، فَرَجَعْتُ بِذَلِكَ حَتَّى مَرَرْتُ عَلَى مُوسَى فَقَالَ مَا فَرَضَ اللَّهُ لَكَ عَلَى أُمَّتِكَ قُلْتُ فَرَضَ خَمْسِينَ صَلاَةً. قَالَ فَارْجِعْ إِلَى رَبِّكَ، فَإِنَّ أُمَّتَكَ لاَ تُطِيقُ ذَلِكَ. فَرَاجَعْتُ فَوَضَعَ شَطْرَهَا، فَرَجَعْتُ إِلَى مُوسَى قُلْتُ وَضَعَ شَطْرَهَا. فَقَالَ رَاجِعْ رَبَّكَ، فَإِنَّ أُمَّتَكَ لاَ تُطِيقُ، فَرَاجَعْتُ فَوَضَعَ شَطْرَهَا، فَرَجَعْتُ إِلَيْهِ فَقَالَ ارْجِعْ إِلَى رَبِّكَ، فَإِنَّ أُمَّتَكَ لاَ تُطِيقُ ذَلِكَ، فَرَاجَعْتُهُ. فَقَالَ هِيَ خَمْسٌ وَهِيَ خَمْسُونَ، لاَ يُبَدَّلُ الْقَوْلُ لَدَىَّ. فَرَجَعْتُ إِلَى مُوسَى فَقَالَ رَاجِعْ رَبَّكَ. فَقُلْتُ اسْتَحْيَيْتُ مِنْ رَبِّي. ثُمَّ انْطَلَقَ بِي حَتَّى انْتَهَى بِي إِلَى سِدْرَةِ الْمُنْتَهَى، وَغَشِيَهَا أَلْوَانٌ لاَ أَدْرِي مَا هِيَ، ثُمَّ أُدْخِلْتُ الْجَنَّةَ، فَإِذَا فِيهَا حَبَايِلُ اللُّؤْلُؤِ، وَإِذَا تُرَابُهَا الْمِسْكُ .

訳：

アナス・ブン・マーリクによると、アブー・ザッル رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がこう言われたと語った。**「私がマッカにいたとき、家の屋根が開かれた。ジブリールが降りてきて私の胸を切り開き、ザムザムの水で洗った。それから英知と信仰で満ちた金の器を持ってきて、それを私の胸に注ぎ、胸を閉じた。それから私の手を取り、最下の天へと連れて昇った。最下の天に着くと、ジブリールは天の番人に『開けよ』と言った。番人は『誰か』と尋ねた。かれは『ジブリールだ』と答えた。『誰か一緒にいるのか』と問われ、『そうだ、ムハンマド ﷺ が一緒だ』と答えた。『かれは招かれたのか』と問われ、『そうだ』と答えた。開かれると、私たちは最下の天に昇った。すると一人の男が座っていて、その右には大勢の（魂の）群れが、左にも大勢の群れがいた。かれは右を見ると笑い、左を見ると泣いた。かれは『ようこそ、正しい預言者よ、正しい息子よ』と言った。私はジブリールに『これは誰か』と尋ねた。かれは『これはアーダムで、右と左の群れはかれの子孫の魂だ。右にいるのは楽園の民、左にいるのは火獄の民である。だから右を見ると笑い、左を見ると泣くのだ』と答えた」**。アナスは言った。アブー・ザッルは、かれが諸天でアーダム、イドリース、ムーサー、イーサー、イ

ブラーヒームに会われたと述べたが、その位置は特定せず、ただアーダムが最下の天に、イブラーヒームが第六天にいたとだけ述べた。かれはイドリース、ムーサー、イーサー、イブラーヒームのそばを通り、皆がかれを歓迎した。イブン・シハーブは言った。イブン・ハズムが私に伝えたところでは、イブン・アッバースとアブー・ハッバ・アル＝アンサーリーは、預言者 ﷺ がこう言われたと述べた。「**それから私は高い所まで上げられ、そこでペンが（書き記す）きしむ音を聞いた**」。イブン・ハズムとアナスは、預言者 ﷺ がこう言われたと述べた。「**そしてアッラーは私のウンマに五十回の礼拝を義務とされた**」。かれは戻ってムーサーに会い、ムーサーは軽減を願うよう勧めた。半分に減らされ、さらに半分に減らされ、ついにアッラーは仰せられた。「**それは五であり、それは五十である。われのもとで言葉は変わらない**」。ムーサーはさらに戻るよう勧めたが、かれは言われた。「**私は主に対して恥ずかしい**」。「**それからジブリールは私を連れてスィドラ・アル＝ムンタハーに至った。それは私には何とも分からない色に覆われていた。それから私は楽園に入れられた。そこには真珠のドームがあり、その土は麝香であった**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ヤフヤー・ブン・ブカイル ← ライス ← ユーヌス ← イブン・シハーブ ← アナス・ブン・マーリク ← アブー・ザッル رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』礼拝の書、夜の旅において礼拝はいかに義務とされたかの章、ハディース第 349 番。ムスリム（第 163 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:349

家か、ハティームか

アブー・ザッルの伝承は**家**と述べ、マーリク・ブン・サアサアの伝承はかれがカアバのそばの**ハティーム**（ヒジュル）で横になっていたと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。イブン・ハジャルは両者を調和させて、かれは自宅におられ、屋根が開かれてハティームへ連れて行かれ、そこで胸が開かれて旅が始まったとしています。

> **スィーラの注：誰の家か**
>
> イブン・イスハークの伝承を含む一部のスィーラ書は、かれが従妹の**ウンム・ハーニー・ビント・アビー・ターリブ**の家で夜を過ごされたと述べています。この伝承は『サヒーフ・ブハーリー』のハディースほど強くはありませんが、その夜かれが滞在された場所として、その家をかれに帰することができるため、矛盾はしません。
>
> **参照：**
> イブン・ヒシャーム『預言者伝』夜の旅の章。

ザムザムの水と金の器

かれの胸は他の水ではなく**ザムザムの水**で洗われました。学者たちは、これは**ザムザムの優れた価値**を示していると述べています。アッラーの使徒 ﷺ はザムザムについてこう言われました。「**まことにそれは祝福されたもので、満腹させる食べ物である**」（『サヒーフ・ムスリム』2473）。それから、金の器からかれの胸に**英知と信仰**が注がれました。

一部の学者はこの出来事を、アッラーの御言葉「**われはあなたのために、あなたの胸を広げなかったか**」と結びつけています。より有力な見解は、この節は**精神的な胸の広がり**――啓示を受け、宣教を担うこと――を指すというものですが、一部の注釈者によれば胸を開く出来事もその意味に含まれます『イブン・カスィール注釈』94:1。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：414 / 485

笑い、泣くアーダム

最下の天では、預言者アーダム عَلَيْهِ السَّلَامُ が左右に**子孫の魂**を従えて座っていました。右――楽園の民――を見ると**笑い**、左――火獄の民――を見ると**泣き**ました。これは子どもたちに対する父親の気持ちです。救われた者を喜び、滅びる者を悲しむのです。

教訓：預言者アーダムはアッラーの使徒 ﷺ を「**正しい息子**」と呼んで迎えました。人類はみな一つの家族です。私たち一人ひとりが、最初の父を泣かせるのではなく、**喜ばせる**原因となるよう努めるべきなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ブラークと預言者たちの輪

サービト・アル＝ブナーニーを経た『サヒーフ・ムスリム』のアナス・ブン・マーリク رضى الله عنه の伝承は、夜の旅の**乗り物**と天への旅について最も詳しい伝承です。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 162A 番

حَدَّثَنَا شَيْبَانُ بْنُ فَرُّوخَ، حَدَّثَنَا حَمَّادُ بْنُ سَلَمَةَ، حَدَّثَنَا ثَابِتٌ الْبُنَانِيُّ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ «أُتِيتُ بِالْبُرَاقِ - وَهُوَ دَابَّةٌ أَبْيَضُ طَوِيلٌ فَوْقَ الْحِمَارِ وَدُونَ الْبَغْلِ يَضَعُ حَافِرَهُ عِنْدَ مُنْتَهَى طَرْفِهِ - قَالَ فَرَكِبْتُهُ حَتَّى أَتَيْتُ بَيْتَ الْمَقْدِسِ - قَالَ - فَرَبَطْتُهُ بِالْحَلْقَةِ الَّتِي يَرْبِطُ بِهِ الأَنْبِيَاءُ - قَالَ - ثُمَّ دَخَلْتُ الْمَسْجِدَ فَصَلَّيْتُ فِيهِ رَكْعَتَيْنِ ثُمَّ خَرَجْتُ فَجَاءَنِي جِبْرِيلُ - عَلَيْهِ السَّلاَمُ - بِإِنَاءٍ مِنْ خَمْرٍ وَإِنَاءٍ مِنْ لَبَنٍ فَاخْتَرْتُ اللَّبَنَ فَقَالَ جِبْرِيلُ صلى الله عليه وسلم اخْتَرْتَ الْفِطْرَةَ. ثُمَّ عَرَجَ بِنَا إِلَى السَّمَاءِ فَاسْتَفْتَحَ جِبْرِيلُ فَقِيلَ مَنْ أَنْتَ قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ وَقَدْ بُعِثَ إِلَيْهِ قَالَ قَدْ بُعِثَ إِلَيْهِ. فَفُتِحَ لَنَا فَإِذَا أَنَا بِآدَمَ فَرَحَّبَ بِي وَدَعَا لِي بِخَيْرٍ. ثُمَّ عَرَجَ بِنَا إِلَى السَّمَاءِ الثَّانِيَةِ فَاسْتَفْتَحَ جِبْرِيلُ عَلَيْهِ السَّلاَمُ. فَقِيلَ مَنْ أَنْتَ قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ وَقَدْ بُعِثَ إِلَيْهِ قَالَ قَدْ بُعِثَ إِلَيْهِ. فَفُتِحَ لَنَا فَإِذَا أَنَا بِابْنَىِ الْخَالَةِ عِيسَى ابْنِ مَرْيَمَ وَيَحْيَى بْنِ زَكَرِيَّاءَ صَلَوَاتُ اللَّهِ عَلَيْهِمَا فَرَحَّبَا وَدَعَوَا لِي بِخَيْرٍ. ثُمَّ عَرَجَ بِي إِلَى السَّمَاءِ الثَّالِثَةِ فَاسْتَفْتَحَ جِبْرِيلُ. فَقِيلَ مَنْ أَنْتَ قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ صلى الله عليه وسلم. قِيلَ وَقَدْ بُعِثَ إِلَيْهِ قَالَ قَدْ بُعِثَ إِلَيْهِ. فَفُتِحَ لَنَا فَإِذَا أَنَا بِيُوسُفَ صلى الله عليه وسلم إِذَا هُوَ قَدْ أُعْطِيَ شَطْرَ الْحُسْنِ فَرَحَّبَ وَدَعَا لِي بِخَيْرٍ. ثُمَّ عَرَجَ بِنَا إِلَى السَّمَاءِ الرَّابِعَةِ فَاسْتَفْتَحَ جِبْرِيلُ - عَلَيْهِ السَّلاَمُ - قِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قَالَ وَقَدْ بُعِثَ إِلَيْهِ قَالَ قَدْ بُعِثَ إِلَيْهِ. فَفُتِحَ لَنَا فَإِذَا أَنَا بِإِدْرِيسَ فَرَحَّبَ وَدَعَا لِي بِخَيْرٍ قَالَ اللَّهُ عَزَّ وَجَلَّ { وَرَفَعْنَاهُ مَكَانًا عَلِيًّا} ثُمَّ عَرَجَ بِنَا إِلَى السَّمَاءِ الْخَامِسَةِ فَاسْتَفْتَحَ جِبْرِيلُ. قِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ وَقَدْ بُعِثَ إِلَيْهِ قَالَ قَدْ بُعِثَ إِلَيْهِ. فَفُتِحَ لَنَا فَإِذَا أَنَا بِهَارُونَ صلى الله عليه وسلم فَرَحَّبَ وَدَعَا لِي بِخَيْرٍ. ثُمَّ

عَرَجَ بِنَا إِلَى السَّمَاءِ السَّادِسَةِ فَاسْتَفْتَحَ جِبْرِيلُ عَلَيْهِ السَّلاَمُ. قِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ وَقَدْ بُعِثَ إِلَيْهِ قَالَ قَدْ بُعِثَ إِلَيْهِ. فَفُتِحَ لَنَا فَإِذَا أَنَا بِمُوسَى صلى الله عليه وسلم فَرَحَّبَ وَدَعَا لِي بِخَيْرٍ. ثُمَّ عَرَجَ بِنَا إِلَى السَّمَاءِ السَّابِعَةِ فَاسْتَفْتَحَ جِبْرِيلُ فَقِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ صلى الله عليه وسلم. قِيلَ وَقَدْ بُعِثَ إِلَيْهِ قَالَ قَدْ بُعِثَ إِلَيْهِ. فَفُتِحَ لَنَا فَإِذَا أَنَا بِإِبْرَاهِيمَ صلى الله عليه وسلم مُسْنِدًا ظَهْرَهُ إِلَى الْبَيْتِ الْمَعْمُورِ وَإِذَا هُوَ يَدْخُلُهُ كُلَّ يَوْمٍ سَبْعُونَ أَلْفَ مَلَكٍ لاَ يَعُودُونَ إِلَيْهِ ثُمَّ ذَهَبَ بِي إِلَى السِّدْرَةِ الْمُنْتَهَى وَإِذَا وَرَقُهَا كَآذَانِ الْفِيَلَةِ وَإِذَا ثَمَرُهَا كَالْقِلاَلِ - قَالَ - فَلَمَّا غَشِيَهَا مِنْ أَمْرِ اللَّهِ مَا غَشِيَ تَغَيَّرَتْ فَمَا أَحَدٌ مِنْ خَلْقِ اللَّهِ يَسْتَطِيعُ أَنْ يَنْعَتَهَا مِنْ حُسْنِهَا. فَأَوْحَى اللَّهُ إِلَىَّ مَا أَوْحَى فَفَرَضَ عَلَىَّ خَمْسِينَ صَلاَةً فِي كُلِّ يَوْمٍ وَلَيْلَةٍ فَنَزَلْتُ إِلَى مُوسَى صلى الله عليه وسلم فَقَالَ مَا فَرَضَ رَبُّكَ عَلَى أُمَّتِكَ قُلْتُ خَمْسِينَ صَلاَةً. قَالَ ارْجِعْ إِلَى رَبِّكَ فَاسْأَلْهُ التَّخْفِيفَ فَإِنَّ أُمَّتَكَ لاَ يُطِيقُونَ ذَلِكَ فَإِنِّي قَدْ بَلَوْتُ بَنِي إِسْرَائِيلَ وَخَبَرْتُهُمْ. قَالَ فَرَجَعْتُ إِلَى رَبِّي فَقُلْتُ يَا رَبِّ خَفِّفْ عَلَى أُمَّتِي. فَحَطَّ عَنِّي خَمْسًا فَرَجَعْتُ إِلَى مُوسَى فَقُلْتُ حَطَّ عَنِّي خَمْسًا. قَالَ إِنَّ أُمَّتَكَ لاَ يُطِيقُونَ ذَلِكَ فَارْجِعْ إِلَى رَبِّكَ فَاسْأَلْهُ التَّخْفِيفَ. - قَالَ - فَلَمْ أَزَلْ أَرْجِعُ بَيْنَ رَبِّي تَبَارَكَ وَتَعَالَى وَبَيْنَ مُوسَى - عَلَيْهِ السَّلاَمُ - حَتَّى قَالَ يَا مُحَمَّدُ إِنَّهُنَّ خَمْسُ صَلَوَاتٍ كُلَّ يَوْمٍ وَلَيْلَةٍ لِكُلِّ صَلاَةٍ عَشْرٌ فَذَلِكَ خَمْسُونَ صَلاَةً. وَمَنْ هَمَّ بِحَسَنَةٍ فَلَمْ يَعْمَلْهَا كُتِبَتْ لَهُ حَسَنَةً فَإِنْ عَمِلَهَا كُتِبَتْ لَهُ عَشْرًا وَمَنْ هَمَّ بِسَيِّئَةٍ فَلَمْ يَعْمَلْهَا لَمْ تُكْتَبْ شَيْئًا فَإِنْ عَمِلَهَا كُتِبَتْ سَيِّئَةً وَاحِدَةً - قَالَ - فَنَزَلْتُ حَتَّى انْتَهَيْتُ إِلَى مُوسَى صلى الله عليه وسلم فَأَخْبَرْتُهُ فَقَالَ ارْجِعْ إِلَى رَبِّكَ فَاسْأَلْهُ التَّخْفِيفَ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقُلْتُ قَدْ رَجَعْتُ إِلَى رَبِّي حَتَّى اسْتَحْيَيْتُ مِنْهُ».

訳：

アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه によると、アッラーの使徒 ﷺ はこう言われた。「**私のもとにブラークが連れて来られた。それは白く、胴長で、ロバより大きくラバより小さい乗り物で、その足を視線の届く果てに置いた。私はそれに乗ってバイト・アル＝マクディス（エルサレム）に着き、預言者たちが（乗り物を）つないでいた輪にそれをつ**

ないだ。それからモスクに入って二ラクアの礼拝をし、外に出た。ジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ が酒の器と乳の器を私のもとに持ってきたので、私は乳を選んだ。ジブリールは『あなたは天性（フィトラ）を選んだ』と言った。それからかれは私たちを天へと連れて昇った」。それぞれの天でジブリールは門を開けるよう求め、他のハディースと同じように問われた。第一天でかれは**アーダム**に会い、第二天で二人のいとこ**イーサー・ブン・マルヤムとヤフヤー・ブン・ザカリーヤー**に、第三天で**「美しさの半分を授けられた」ユースフ**に、第四天で**イドリース**に会われた––アッラーは「われはかれを高い地位に上げた」と仰せられた––。第五天では**ハールーン**に、第六天では**ムーサー**に会われ、皆がかれを歓迎し、善を祈った。**「第七天で私はイブラーヒームに会った。かれはバイト・アル＝マアムールに背をもたせかけていた。そこには毎日七万の天使が入り、二度と戻ってこない。それから私はスィドラ・アル＝ムンタハーへ連れて行かれた。その葉は象の耳のようで、その実は大きな壺のようであった。アッラーの命がそれを覆うと、それは変わり、アッラーの創造物の誰一人としてその美しさを描写できないほどになった。そしてアッラーは私に啓示されることを啓示し、昼夜ごとに五十回の礼拝を私に義務とされた」**。ムーサーは、自分はイスラエルの子孫を試したことがあるからと、軽減を願うよう勧めた。かれが戻ると五つ減らされ、かれは主とムーサーのあいだを行き来し続けた。ついにアッラーは仰せられた。**「ムハンマドよ、それは昼夜ごとに五回の礼拝である。一回の礼拝は十に相当し、それで五十回の礼拝となる。善を行おうと意図して行わなかった者には一つの善が記され、それを行えば十が記される。悪を行おうと意図して行わなかった者には何も記されず、それを行えば一つの悪が記される」**。ムーサーはさらに戻るよう勧めたが、かれは言われた。**「私は主のもとに何度も戻り、主に対して恥ずかしくなった」**

伝承経路 イマーム・ムスリムの伝承：シャイバーン・ブン・ファッルーフ ← ハンマード・ブン・サラマ ← サービト・アル＝ブナーニー ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』信仰の書、アッラーの使徒 ﷺ の諸天への夜の旅と礼拝の義務化の章、ハディース第 162a 番。第二天から第六天までの部分は、言葉が繰り返されるため要約した。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：sunnah.com/muslim:162a

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ブラークの描写

特徴	意味
「白い」	乗り物の色。真正な伝承には他の色の記述はない。
「胴長」	体が長いこと。
「ロバより大きく、ラバより小さい」	乗るのにふさわしい中くらいの大きさ。
「その足を視線の届く果てに置く」	一歩ごとに目の届く限り進む——並外れた速さ。

真正な伝承は**翼や人間の顔については述べていない**。ブラークを女性の頭を持つ翼のある馬として描くのは、後世の芸術による創作です（「弱い物語と根拠のない物語」の章を参照）。

預言者たちの輪

エルサレムで、かれはブラークを**預言者たちがいつも使っていた輪に**つながれました。学者たちはここから美しい教訓を引き出しています。アッラーがかれを旅させておられたにもかかわらず、アッラーの使徒 ﷺ は乗り物をつなぐことで**手段を講じられた**のです。アッラーへの信頼（タワックル）は努力を否定しません。

その輪はまた、エルサレムが**預言者たちの地**であることを示しています。アッラーの使徒 ﷺ は、かつて預言者たちが訪れたのと同じ場所に来られました——かれの使命がかれらの使命を**受け継ぐ**ものであるしるしです。

墓の中で礼拝するムーサー

その夜の旅の途中、かれは驚くべき光景のそばを通られました。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه が伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2375A 番

حَدَّثَنَا هَدَّابُ بْنُ خَالِدٍ، وَشَيْبَانُ بْنُ فَرُّوخَ، قَالاَ حَدَّثَنَا حَمَّادُ بْنُ سَلَمَةَ، عَنْ ثَابِتٍ، الْبُنَانِيِّ وَسُلَيْمَانَ التَّيْمِيِّ عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ «أَتَيْتُ - وَفِي رِوَايَةِ هَدَّابٍ مَرَرْتُ - عَلَى مُوسَى لَيْلَةَ أُسْرِيَ بِي عِنْدَ الْكَثِيبِ الأَحْمَرِ وَهُوَ قَائِمٌ يُصَلِّي فِي قَبْرِهِ».

訳：

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه によると、アッラーの使徒 ﷺ はこう言われた。「**私が旅をさせられた夜、私は赤い砂丘のそばでムーサーのもとに来た――ハッダーブの伝承では『そばを通った』――。かれは墓の中で立って礼拝していた**」

伝承経路 イマーム・ムスリムの伝承：ハッダーブ・ブン・ハーリドとシャイバーン・ブン・ファッルーフ ← ハンマード・ブン・サラマ ← サービト・アル＝ブナーニーとスライマーン・アッ＝タイミー ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』美徳の書、ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ の美徳の章、ハディース第 2375a 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：sunnah.com/muslim:2375a

ムーサーはどうして墓にも天にもいたのか

かれは赤い砂丘で預言者ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ が**墓の中で礼拝している**のを見られ、その後エルサレムで、さらに**第六天**でムーサーに会われました。クルトゥビーやイブン・ハジャルのような学者は、**バルザフ（死後の中間世界）**は現世の場所と時間の法則に縛られないと説明しています。預言者たちの魂は尊ばれ、アッラーが望まれる場所にいることができるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

このハディースはまた、預言者たちが**バルザフにおいて生きている**ことの論拠にもなっています。殉教者が「主のみもとで生きており、扶養されている」（イムラーン家章 3:169）のと同じように、その世界にふさわしい生を生きているのです。

スィーラの注：赤い砂丘はどこか

赤い砂丘（アル＝カスィーブ・アル＝アフマル）の場所はハディースには示されていません。別のハディースでは、預言者ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ が聖地に**石を投げて届くほどの距離まで**近づけてくださるようアッラーに願い、アッラーの使徒 ﷺ はこう言われました。「もし私がそこにいたら、道のそばの赤い砂丘のかたわらにあるかれの墓を、あなたがたに示しただろう」（『サヒーフ・ブハーリー』1339）。

今日ジェリコの近くで人々が訪れている墓は、預言者ムーサーの墓であると**確定することはできない**。

参照：

『サヒーフ・ブハーリー』1339。sunnah.com/bukhari:1339

教訓：預言者ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ は**礼拝していました**。現世で愛した崇拝が、バルザフでもかれの喜びであり続けたのです。生きているあいだに身につけたものが、死後も私たちに寄り添うのです。

エルサレムにて：乳か酒か

アブー・フライラ رضى الله عنه は、かれがあの夜について語られた二つのことを伝えています。**三人の預言者の姿**と**二つの器の試み**です。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3394 番

حَدَّثَنَا إِبْرَاهِيمُ بْنُ مُوسَى، أَخْبَرَنَا هِشَامُ بْنُ يُوسُفَ، أَخْبَرَنَا مَعْمَرٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، عَنْ سَعِيدِ بْنِ الْمُسَيَّبِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لَيْلَةَ أُسْرِيَ بِهِ «رَأَيْتُ مُوسَى وَإِذَا رَجُلٌ ضَرْبٌ رَجِلٌ، كَأَنَّهُ مِنْ رِجَالِ شَنُوءَةَ، وَرَأَيْتُ عِيسَى، فَإِذَا هُوَ رَجُلٌ رَبْعَةٌ أَحْمَرُ كَأَنَّمَا خَرَجَ مِنْ دِيمَاسٍ، وَأَنَا أَشْبَهُ وَلَدِ إِبْرَاهِيمَ صلى الله عليه وسلم بِهِ، ثُمَّ أُتِيتُ بِإِنَاءَيْنِ، فِي أَحَدِهِمَا لَبَنٌ، وَفِي الآخَرِ خَمْرٌ فَقَالَ اشْرَبْ أَيَّهُمَا شِئْتَ. فَأَخَذْتُ اللَّبَنَ فَشَرِبْتُهُ فَقِيلَ أَخَذْتَ الْفِطْرَةَ، أَمَا إِنَّكَ لَوْ أَخَذْتَ الْخَمْرَ غَوَتْ أُمَّتُكَ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によると、アッラーの使徒 ﷺ は旅をさせられた夜についてこう言われた。「**私はムーサーを見た。かれはやせて、まっすぐな髪の男で、シャヌーア族の者のようであった。私はイーサーを見た。かれは中背で赤みを帯びた肌の男で、まるで浴室から出てきたばかりのようであった。そして私はイブラーヒーム ﷺ の子孫の中で最もかれに似ている。それから二つの器が私のもとに持ってこられた。一つには乳が、もう一つには酒が入っていた。『好きな方を飲みなさい』と言われ、私は乳を取って飲んだ。すると『あなたは天性を取った。もし酒を取っていたら、あなたのウンマは迷っていたであろう』と言われた**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：イブラーヒーム・ブン・ムーサー ← ヒシャーム・ブン・ユースフ ← マアマル ← ズフリー ← サイード・ブン・アル＝ムサイヤブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』預言者たちのハディースの書、ハディース第 3394 番。ムスリム（第 168 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:3394

「天性（フィトラ）」の意味

ジブリールは「**あなたは天性を選んだ**」と言いました。フィトラとは、アッラーが人間を創造された**本来の性質**――イスラームと善への傾き――のことです。乳は人間が最初に口にする飲み物で、清く、手軽で、体を育てます。一方、酒は**理性を失わせ**、あらゆる悪の母となります。

続いて「**もし酒を取っていたら、あなたのウンマは迷っていたであろう**」と言われました。あの夜のかれの選択は**ウンマへのしるし**となりました。この宗教はやさしく、均衡がとれ、天性にかなっているのです。マーリク・ブン・サアサアの伝承では**蜂蜜**も差し出されましたが、かれはやはり乳を選ばれました（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。

伝承	差し出された器とその場所
ムスリム 162（アナス）	酒と乳；エルサレムで、二ラクアの礼拝の後
ブハーリー3394（アブー・フライラ）	乳と酒；夜の旅の夜とともに述べられる
ブハーリー3887（マーリク・ブン・サアサア）	酒、乳、蜂蜜；バイト・アル＝マアムールの後

学者たちは、**この試みは二度あったのかもしれない**と説明しています。一度はエルサレムで、一度は天で。どちらの場合も、かれは同じものを選ばれました――**乳、すなわち天性**です。

最もイブラーヒームに似た方

かれは「**私はイブラーヒームの子孫の中で最もかれに似ている**」と言われました。その似通いは姿だけではありません。アッラーの使徒 ﷺ はイブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ の祈り「主よ、かれらの中から一人の使徒を、かれらに遣わしてください」（雌牛章 2:129）への答えであり、**イブラーヒームの道（ミッラ）**、すなわちまっすぐな一神教をもたらされたのです。

預言者たちの導師とマーリクの挨拶

アブー・フライラ رضى الله عنه は、**三つの物語**――クライシュ族の試問、預言者たちとの礼拝、火獄の番人マーリクの挨拶――をまとめた一つのハディースを伝えています。

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 172 番

وَحَدَّثَنِي زُهَيْرُ بْنُ حَرْبٍ، حَدَّثَنَا حُجَيْنُ بْنُ الْمُثَنَّى، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْعَزِيزِ، - وَهُوَ ابْنُ أَبِي سَلَمَةَ - عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ الْفَضْلِ، عَنْ أَبِي سَلَمَةَ بْنِ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، قَالَ قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم «لَقَدْ رَأَيْتُنِي فِي الْحِجْرِ وَقُرَيْشٌ تَسْأَلُنِي عَنْ مَسْرَاىَ فَسَأَلَتْنِي عَنْ أَشْيَاءَ مِنْ بَيْتِ الْمَقْدِسِ لَمْ أُثْبِتْهَا. فَكُرِبْتُ كُرْبَةً مَا كُرِبْتُ مِثْلَهُ قَطُّ قَالَ فَرَفَعَهُ اللَّهُ لِي أَنْظُرُ إِلَيْهِ مَا يَسْأَلُونِي عَنْ شَىْءٍ إِلاَّ أَنْبَأْتُهُمْ بِهِ وَقَدْ رَأَيْتُنِي فِي جَمَاعَةٍ مِنَ الأَنْبِيَاءِ فَإِذَا مُوسَى قَائِمٌ يُصَلِّي فَإِذَا رَجُلٌ ضَرْبٌ جَعْدٌ كَأَنَّهُ مِنْ رِجَالِ شَنُوءَةَ وَإِذَا عِيسَى ابْنُ مَرْيَمَ - عَلَيْهِ السَّلاَمُ - قَائِمٌ يُصَلِّي أَقْرَبُ النَّاسِ بِهِ شَبَهًا عُرْوَةُ بْنُ مَسْعُودٍ الثَّقَفِيُّ وَإِذَا إِبْرَاهِيمُ - عَلَيْهِ السَّلاَمُ - قَائِمٌ يُصَلِّي أَشْبَهُ النَّاسِ بِهِ صَاحِبُكُمْ - يَعْنِي نَفْسَهُ - فَحَانَتِ الصَّلاَةُ فَأَمَمْتُهُمْ فَلَمَّا فَرَغْتُ مِنَ الصَّلاَةِ قَالَ قَائِلٌ يَا مُحَمَّدُ هَذَا مَالِكٌ صَاحِبُ النَّارِ فَسَلِّمْ عَلَيْهِ. فَالْتَفَتُّ إِلَيْهِ فَبَدَأَنِي بِالسَّلاَمِ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によると、アッラーの使徒 ﷺ はこう言われた。「**私は自分がヒジュルにいて、クライシュ族が私の夜の旅について尋ねているのを見た。かれらはバイト・アル＝マクディスのいくつかのことについて尋ねたが、私はそれをよく覚えていなかったので、かつて味わったことのないほどの苦しさを覚えた。するとアッラーがそれ（バイト・アル＝マクディス）を私のために掲げられたので、私はそれを見ることができ、かれらが何を尋ねても答えることができた。また私は自分が預言者たちの一団の中にいるのを見た。ムーサーは立って礼拝していた。かれはがっしりした縮れ髪の男で、シャヌーア族の者のようであった。イーサー・ブン・マルヤム عَلَيْهِ السَّلَامُ は立って礼拝していた。かれに最も似ている人はウルワ・ブン・マスウード・アッ＝サカフィーである。イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ は立って礼拝していた。かれに最も似ている人はあな**

たがたのこの友（すなわち私自身）である。やがて礼拝の時となり、私はかれらの導師となって礼拝した。礼拝を終えると、ある者が『ムハンマドよ、これは火獄の番人マーリクです。挨拶しなさい』と言った。私がかれの方を向くと、かれの方が先に私に挨拶した」

伝承経路 イマーム・ムスリムの伝承：ズハイル・ブン・ハルブ ← フジャイン・ブン・アル＝ムサンナー ← アブドルアズィーズ・ブン・アビー・サラマ ← アブドッラー・ブン・アル＝ファドル ← アブー・サラマ・ブン・アブディッラフマーン ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』信仰の書、マルヤムの子メシアと偽メシアの記述の章、ハディース第 172 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：sunnah.com/muslim:172

礼拝する預言者たち

かれはムーサー、イーサー、イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ が**立って礼拝している**のを見られました。礼拝の時が来ると、**かれがかれらの導師となられました。**この礼拝が天に昇る前か、降りてきた後かについて学者の見解は分かれていますが、イブン・カスィールは**かれが天から降りて**エルサレムに戻られた後とする見解に傾いています。

アッラーの使徒 ﷺ が預言者たちの礼拝を導かれたことは、**かれの使命の指導的地位**を示しています。すべての預言者は一つの宗教――一神教――をもたらし、預言者ムハンマド ﷺ はかれらの**封印**なのです（部族連合章 33:40）。

マーリクが先に挨拶した

礼拝の後、ある者が「**ムハンマドよ、これは火獄の番人マーリクです。挨拶しなさい**」と言いました。かれが振り向くと、**マーリクの方が先に挨拶しました。**学者たちはこれをかれへの**敬意**としています。クルアーンが厳しい天使として描く火獄の番人（禁止章 66:6）でさえ、アッラーの使徒 ﷺ に先に挨拶したのです。

このハディースは翌日の**クライシュ族の試問**にも触れており、それは「試練の朝」の章で取り上げます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

預言者たちの姿と火獄の番人

アッラーの使徒 ﷺ は預言者たちに会われただけでなく、教友たちに**その姿を描写され**、まるで私たちもかれらを見るよう招いておられるかのようでした。イブン・アッバース رضى الله عنهما が伝えています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3239 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، حَدَّثَنَا غُنْدَرٌ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ قَتَادَةَ،. وَقَالَ لِي خَلِيفَةُ حَدَّثَنَا يَزِيدُ بْنُ زُرَيْعٍ، حَدَّثَنَا سَعِيدٌ، عَنْ قَتَادَةَ، عَنْ أَبِي الْعَالِيَةِ، حَدَّثَنَا ابْنُ عَمِّ، نَبِيِّكُمْ يَعْنِي ابْنَ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَ «رَأَيْتُ لَيْلَةَ أُسْرِيَ بِي مُوسَى رَجُلاً آدَمَ طُوَالاً جَعْدًا، كَأَنَّهُ مِنْ رِجَالِ شَنُوءَةَ، وَرَأَيْتُ عِيسَى رَجُلاً مَرْبُوعًا مَرْبُوعَ الْخَلْقِ إِلَى الْحُمْرَةِ وَالْبَيَاضِ، سَبْطَ الرَّأْسِ، وَرَأَيْتُ مَالِكًا خَازِنَ النَّارِ». وَالدَّجَّالَ فِي آيَاتٍ أَرَاهُنَّ اللَّهُ إِيَّاهُ، فَلاَ تَكُنْ فِي مِرْيَةٍ مِنْ لِقَائِهِ. قَالَ أَنَسٌ وَأَبُو بَكْرَةَ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم «تَحْرُسُ الْمَلاَئِكَةُ الْمَدِينَةَ مِنَ الدَّجَّالِ».

訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما によると、預言者 ﷺ はこう言われた。「**私が旅をさせられた夜、私はムーサーを見た。かれは浅黒い肌の、背が高く縮れ髪の男で、シャヌーア族の者のようであった。私はイーサーを見た。かれは中背で中肉の男で、肌は赤と白のあいだの色、髪はまっすぐであった。そして私は火獄の番人マーリクを見た**」。またダッジャールも――アッラーがかれに見せられた印の中で。「だからかれとの出会いについて疑ってはならない」（サジダ章 32:23）。アナスとアブー・バクラは預言者 ﷺ からこう伝えた。「**天使たちはマディーナをダッジャールから守る**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの二つの伝承経路による伝承：(1) ムハンマド・ブン・バッシャール ← グンダル ← シュウバ ← カターダ；(2) ハリーファ・ブン・ハイヤート ← ヤズィード・ブン・ズライウ ← サイード・ブン・アビー・アルーバ ← カターダ ―― ← アブー・アル＝アーリヤ ← イブン・アッバース رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』創造の始まりの書、ハディース第 3239 番。ムスリム（第 165 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:3239

真正な伝承による預言者たちの姿

預言者	描写（典拠）
ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ	やせて、髪はまっすぐ、シャヌーア族の男のよう（ブハーリー3394）；背が高く、浅黒く、縮れ髪（ブハーリー3239）；がっしりしている（ムスリム 172）
イーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ	中背、浴室から出てきたばかりのような赤み（ブハーリー3394）；赤と白のあいだの肌、まっすぐな髪（ブハーリー3239）；ウルワ・ブン・マスウードに似ている（ムスリム 172）
イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ	アッラーの使徒 ﷺ ご自身に最も似ている（ブハーリー3394；ムスリム 172）
ユースフ عَلَيْهِ السَّلَامُ	「美しさの半分を授けられた」（ムスリム 162）

預言者ムーサーについての「まっすぐな髪」と「縮れ髪」のような小さな違いについて、学者たちはこう説明しています。アラビア語の**ジャアド**という語は、単に縮れ髪だけでなく**引き締まったがっしりした体**を意味することもある。したがって二つの伝承は矛盾しない。

マーリクとダッジャール

このハディースでは、かれはアッラーが見せられた印の一部として、**火獄の番人マーリク**と**ダッジャール**も見られました。ハディースは**天使たちがマディーナをダッジャールから守る**という吉報で締めくくられています。

このハディースは、預言者ムーサーとの出会いをアッラーの御言葉「**だからかれとの出会いについて疑ってはならない**」と結びつけています。この解釈によれば、この節は**預言者ムーサーとの出会い**を約束しており、その約束は昇天の夜に果たされたのです『イブン・カスィール注釈』32:23。

昇天：マーリク・ブン・サアサアのハディース

マーリク・ブン・サアサア رضي الله عنه のハディースは、昇天についての**最も完全な伝承**です。アッラーの使徒 ﷺ はご自身で教友たちに、天から天へと語って聞かせられました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3887 番

حَدَّثَنَا هُدْبَةُ بْنُ خَالِدٍ، حَدَّثَنَا هَمَّامُ بْنُ يَحْيَى، حَدَّثَنَا قَتَادَةُ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، عَنْ مَالِكِ بْنِ صَعْصَعَةَ ـ رضى الله عنهما ـ أَنَّ نَبِيَّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم حَدَّثَهُمْ عَنْ لَيْلَةَ أُسْرِيَ بِهِ «بَيْنَمَا أَنَا فِي الْحَطِيمِ ـ وَرُبَّمَا قَالَ فِي الْحِجْرِ ـ مُضْطَجِعًا، إِذْ أَتَانِي آتٍ فَقَدَّ ـ قَالَ وَسَمِعْتُهُ يَقُولُ فَشَقَّ ـ مَا بَيْنَ هَذِهِ إِلَى هَذِهِ ـ فَقُلْتُ لِلْجَارُودِ وَهْوَ إِلَى جَنْبِي مَا يَعْنِي بِهِ قَالَ مِنْ ثُغْرَةِ نَحْرِهِ إِلَى شِعْرَتِهِ، وَسَمِعْتُهُ يَقُولُ مِنْ قَصِّهِ إِلَى شِعْرَتِهِ ـ فَاسْتَخْرَجَ قَلْبِي، ثُمَّ أُتِيتُ بِطَسْتٍ مِنْ ذَهَبٍ مَمْلُوءَةٍ إِيمَانًا، فَغُسِلَ قَلْبِي ثُمَّ حُشِيَ، ثُمَّ أُوتِيتُ بِدَابَّةٍ دُونَ الْبَغْلِ وَفَوْقَ الْحِمَارِ أَبْيَضَ». ـ فَقَالَ لَهُ الْجَارُودُ هُوَ الْبُرَاقُ يَا أَبَا حَمْزَةَ قَالَ أَنَسٌ نَعَمْ، يَضَعُ خَطْوَهُ عِنْدَ أَقْصَى طَرْفِهِ ـ «فَحُمِلْتُ عَلَيْهِ، فَانْطَلَقَ بِي جِبْرِيلُ حَتَّى أَتَى السَّمَاءَ الدُّنْيَا فَاسْتَفْتَحَ، فَقِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ وَقَدْ أُرْسِلَ إِلَيْهِ قَالَ نَعَمْ. قِيلَ مَرْحَبًا بِهِ، فَنِعْمَ الْمَجِيءُ جَاءَ فَفَتَحَ، فَلَمَّا خَلَصْتُ، فَإِذَا فِيهَا آدَمُ، فَقَالَ هَذَا أَبُوكَ آدَمُ فَسَلِّمْ عَلَيْهِ. فَسَلَّمْتُ عَلَيْهِ فَرَدَّ السَّلاَمَ ثُمَّ قَالَ مَرْحَبًا بِالاِبْنِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ. ثُمَّ صَعِدَ حَتَّى أَتَى السَّمَاءَ الثَّانِيَةَ فَاسْتَفْتَحَ، قِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ وَقَدْ أُرْسِلَ إِلَيْهِ قَالَ نَعَمْ. قِيلَ مَرْحَبًا بِهِ فَنِعْمَ الْمَجِيءُ جَاءَ. فَفَتَحَ، فَلَمَّا خَلَصْتُ، إِذَا يَحْيَى وَعِيسَى، وَهُمَا ابْنَا الْخَالَةِ قَالَ هَذَا يَحْيَى وَعِيسَى فَسَلِّمْ عَلَيْهِمَا. فَسَلَّمْتُ فَرَدَّا، ثُمَّ قَالاَ مَرْحَبًا بِالأَخِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ. ثُمَّ صَعِدَ بِي إِلَى السَّمَاءِ الثَّالِثَةِ، فَاسْتَفْتَحَ قِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ وَقَدْ أُرْسِلَ إِلَيْهِ قَالَ نَعَمْ. قِيلَ مَرْحَبًا بِهِ، فَنِعْمَ الْمَجِيءُ جَاءَ. فَفُتِحَ، فَلَمَّا خَلَصْتُ إِذَا يُوسُفُ. قَالَ هَذَا يُوسُفُ فَسَلِّمْ عَلَيْهِ. فَسَلَّمْتُ عَلَيْهِ فَرَدَّ، ثُمَّ قَالَ مَرْحَبًا بِالأَخِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ، ثُمَّ صَعِدَ بِي حَتَّى أَتَى

السَّمَاءَ الرَّابِعَةَ، فَاسْتَفْتَحَ، قِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ أَوَقَدْ أُرْسِلَ إِلَيْهِ قَالَ نَعَمْ. قِيلَ مَرْحَبًا بِهِ، فَنِعْمَ الْمَجِيءُ جَاءَ. فَفُتِحَ، فَلَمَّا خَلَصْتُ إِلَى إِدْرِيسَ قَالَ هَذَا إِدْرِيسُ فَسَلِّمْ عَلَيْهِ. فَسَلَّمْتُ عَلَيْهِ فَرَدَّ ثُمَّ قَالَ مَرْحَبًا بِالأَخِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ. ثُمَّ صَعِدَ بِي حَتَّى أَتَى السَّمَاءَ الْخَامِسَةَ، فَاسْتَفْتَحَ، قِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ صلى الله عليه وسلم. قِيلَ وَقَدْ أُرْسِلَ إِلَيْهِ قَالَ نَعَمْ. قِيلَ مَرْحَبًا بِهِ، فَنِعْمَ الْمَجِيءُ جَاءَ. فَلَمَّا خَلَصْتُ فَإِذَا هَارُونُ قَالَ هَذَا هَارُونُ فَسَلِّمْ عَلَيْهِ. فَسَلَّمْتُ عَلَيْهِ فَرَدَّ ثُمَّ قَالَ مَرْحَبًا بِالأَخِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ. ثُمَّ صَعِدَ بِي حَتَّى أَتَى السَّمَاءَ السَّادِسَةَ، فَاسْتَفْتَحَ، قِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ مَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ وَقَدْ أُرْسِلَ إِلَيْهِ قَالَ نَعَمْ. قَالَ مَرْحَبًا بِهِ، فَنِعْمَ الْمَجِيءُ جَاءَ، فَلَمَّا خَلَصْتُ، فَإِذَا مُوسَى قَالَ هَذَا مُوسَى فَسَلِّمْ عَلَيْهِ، فَسَلَّمْتُ عَلَيْهِ فَرَدَّ ثُمَّ قَالَ مَرْحَبًا بِالأَخِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ. فَلَمَّا تَجَاوَزْتُ بَكَى، قِيلَ لَهُ مَا يُبْكِيكَ قَالَ أَبْكِي لأَنَّ غُلاَمًا بُعِثَ بَعْدِي، يَدْخُلُ الْجَنَّةَ مِنْ أُمَّتِهِ أَكْثَرُ مَنْ يَدْخُلُهَا مِنْ أُمَّتِي. ثُمَّ صَعِدَ بِي إِلَى السَّمَاءِ السَّابِعَةِ، فَاسْتَفْتَحَ جِبْرِيلُ، قِيلَ مَنْ هَذَا قَالَ جِبْرِيلُ. قِيلَ وَمَنْ مَعَكَ قَالَ مُحَمَّدٌ. قِيلَ وَقَدْ بُعِثَ إِلَيْهِ. قَالَ نَعَمْ. قَالَ مَرْحَبًا بِهِ، فَنِعْمَ الْمَجِيءُ جَاءَ فَلَمَّا خَلَصْتُ، فَإِذَا إِبْرَاهِيمُ قَالَ هَذَا أَبُوكَ فَسَلِّمْ عَلَيْهِ. قَالَ فَسَلَّمْتُ عَلَيْهِ، فَرَدَّ السَّلاَمَ قَالَ مَرْحَبًا بِالاِبْنِ الصَّالِحِ وَالنَّبِيِّ الصَّالِحِ. ثُمَّ رُفِعَتْ لِي سِدْرَةُ الْمُنْتَهَى، فَإِذَا نَبِقُهَا مِثْلُ قِلاَلِ هَجَرَ، وَإِذَا وَرَقُهَا مِثْلُ آذَانِ الْفِيَلَةِ قَالَ هَذِهِ سِدْرَةُ الْمُنْتَهَى، وَإِذَا أَرْبَعَةُ أَنْهَارٍ نَهْرَانِ بَاطِنَانِ، وَنَهْرَانِ ظَاهِرَانِ. فَقُلْتُ مَا هَذَانِ يَا جِبْرِيلُ قَالَ أَمَّا الْبَاطِنَانِ، فَنَهَرَانِ فِي الْجَنَّةِ، وَأَمَّا الظَّاهِرَانِ فَالنِّيلُ وَالْفُرَاتُ. ثُمَّ رُفِعَ لِي الْبَيْتُ الْمَعْمُورُ، ثُمَّ أُتِيتُ بِإِنَاءٍ مِنْ خَمْرٍ، وَإِنَاءٍ مِنْ لَبَنٍ وَإِنَاءٍ مِنْ عَسَلٍ، فَأَخَذْتُ اللَّبَنَ، فَقَالَ هِيَ الْفِطْرَةُ أَنْتَ عَلَيْهَا وَأُمَّتُكَ. ثُمَّ فُرِضَتْ عَلَىَّ الصَّلَوَاتُ خَمْسِينَ صَلاَةً كُلَّ يَوْمٍ. فَرَجَعْتُ فَمَرَرْتُ عَلَى مُوسَى، فَقَالَ بِمَا أُمِرْتَ قَالَ أُمِرْتُ بِخَمْسِينَ صَلاَةً كُلَّ يَوْمٍ. قَالَ إِنَّ أُمَّتَكَ لاَ تَسْتَطِيعُ خَمْسِينَ صَلاَةً كُلَّ يَوْمٍ، وَإِنِّي وَاللَّهِ قَدْ جَرَّبْتُ النَّاسَ قَبْلَكَ، وَعَالَجْتُ بَنِي إِسْرَائِيلَ أَشَدَّ الْمُعَالَجَةِ، فَارْجِعْ إِلَى رَبِّكَ فَاسْأَلْهُ التَّخْفِيفَ لأُمَّتِكَ. فَرَجَعْتُ، فَوَضَعَ عَنِّي عَشْرًا،

فَرَجَعْتُ إِلَى مُوسَى فَقَالَ مِثْلَهُ، فَرَجَعْتُ فَوَضَعَ عَنِّي عَشْرًا، فَرَجَعْتُ إِلَى مُوسَى فَقَالَ مِثْلَهُ، فَرَجَعْتُ فَوَضَعَ عَنِّي عَشْرًا، فَرَجَعْتُ إِلَى مُوسَى فَقَالَ مِثْلَهُ، فَرَجَعْتُ فَأُمِرْتُ بِعَشْرِ صَلَوَاتٍ كُلَّ يَوْمٍ، فَرَجَعْتُ فَقَالَ مِثْلَهُ، فَرَجَعْتُ فَأُمِرْتُ بِخَمْسِ صَلَوَاتٍ كُلَّ يَوْمٍ، فَرَجَعْتُ إِلَى مُوسَى، فَقَالَ بِمَا أُمِرْتَ قُلْتُ أُمِرْتُ بِخَمْسِ صَلَوَاتٍ كُلَّ يَوْمٍ. قَالَ إِنَّ أُمَّتَكَ لاَ تَسْتَطِيعُ خَمْسَ صَلَوَاتٍ كُلَّ يَوْمٍ، وَإِنِّي قَدْ جَرَّبْتُ النَّاسَ قَبْلَكَ، وَعَالَجْتُ بَنِي إِسْرَائِيلَ أَشَدَّ الْمُعَالَجَةِ، فَارْجِعْ إِلَى رَبِّكَ فَاسْأَلْهُ التَّخْفِيفَ لأُمَّتِكَ. قَالَ سَأَلْتُ رَبِّي حَتَّى اسْتَحْيَيْتُ، وَلَكِنْ أَرْضَى وَأُسَلِّمُ ـ قَالَ ـ فَلَمَّا جَاوَزْتُ نَادَى مُنَادٍ أَمْضَيْتُ فَرِيضَتِي وَخَفَّفْتُ عَنْ عِبَادِي».

訳：

アナス・ブン・マーリクがマーリク・ブン・サアサア رضى الله عنهما から伝えるところによれば、アッラーの預言者 ﷺ は、自分が旅をさせられた夜のことをかれらに語られた。**「私がハティームで――あるいはヒジュルで、と言われた――横になっていると、突然ある者が私のもとに来て、（私の胸を）のどの付け根から腹の下まで切り開いた。かれは私の心臓を取り出し、それから信仰で満ちた金の器が私のもとに運ばれ、私の心臓は洗われて満たされ、元に戻された。それから、ラバより小さくロバより大きい白い乗り物が私のもとに連れて来られた」**――それはブラークであり、視線の届く果てに一歩を置くものである。**「私はそれに乗せられ、ジブリールが私を連れて行き、ついに最も近い天に着いた。かれが門を開けるよう求めると、『誰か』と尋ねられた。かれは『ジブリールだ』と答えた。『一緒にいるのは誰か』と尋ねられると、『ムハンマドだ』と答えた。『かれは（迎えに）遣わされたのか』と尋ねられ、『そうだ』と答えた。すると『かれを歓迎する。かれの訪れは何とすばらしい訪れか』と言われた。門が開かれると、そこにはアーダムがいた。ジブリールは『これはあなたの父アーダムです。かれに挨拶しなさい』と言った。私が挨拶すると、かれは挨拶を返し、『正しい息子よ、正しい預言者よ、ようこそ』と言った。」** 同じようにして、かれは第二天に昇って**ヤフヤーとイーサー**（二人のいとこ）に、第三天で**ユースフ**に、第四天で**イドリース**に、第五天で**ハールーン**に、第六天で**ムーサー**に会われた。皆が「正しい兄弟よ、正しい預言者よ、ようこそ」と言った。**「私がかれのもとを通り過ぎると、ムーサーは泣いた。『何**

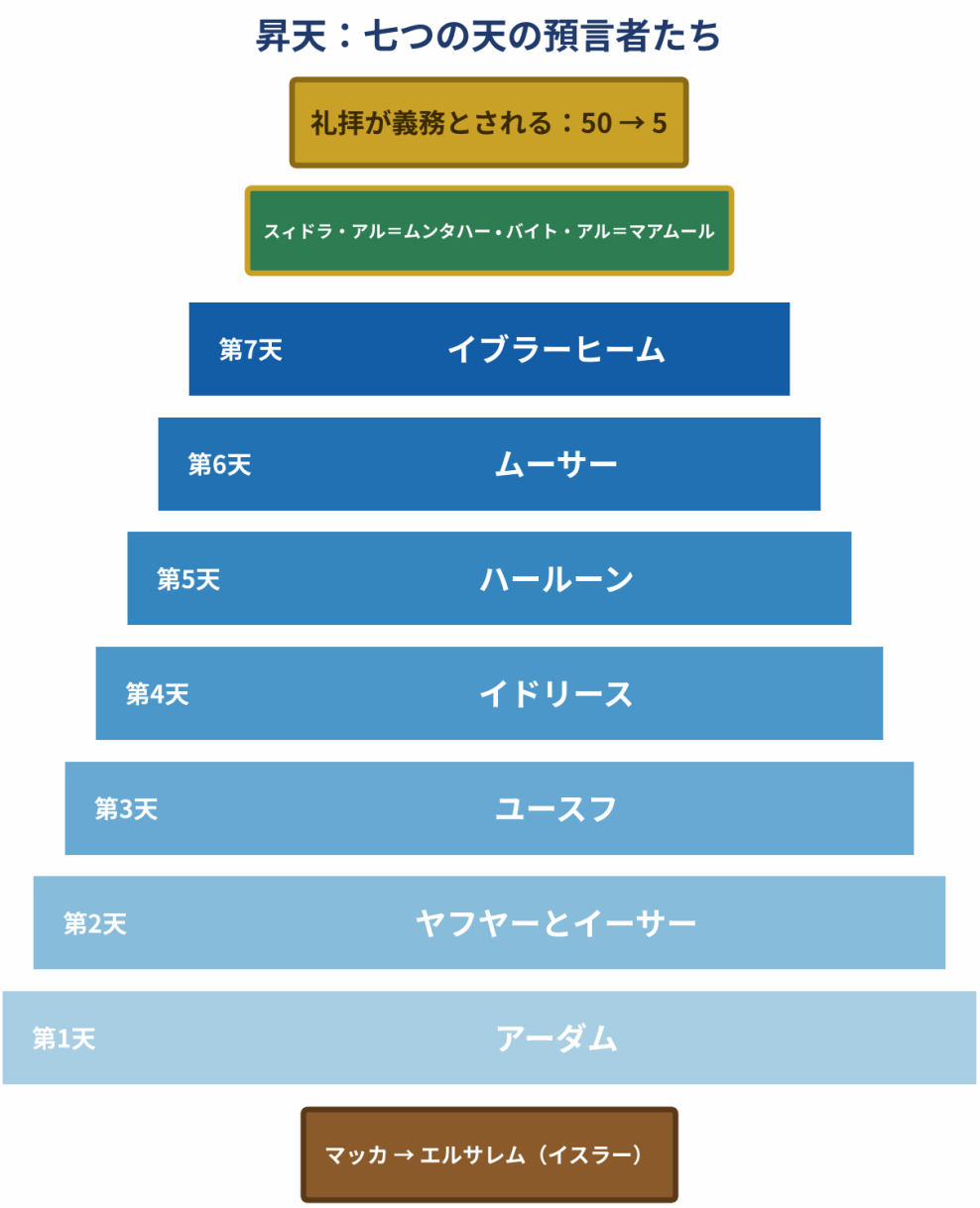
があなたを泣かせるのか』と尋ねられると、かれは『私の後に遣わされた一人の若者がおり、楽園に入るかれの民は私の民より多いので泣いているのです』と答えた。」 第七天でかれは**イブラーヒーム**に会われ、かれは「正しい息子よ、正しい預言者よ、ようこそ」と言った。**「それから、スィドラ・アル＝ムンタハーが私の前に示された。その実はハジャルのかめのようで、その葉は象の耳のようであった。そこには四つの川があり、二つは隠れた川、二つは表に見える川であった。私が『ジブリールよ、これは何か』と尋ねると、かれは『二つの隠れた川は楽園の二つの川であり、二つの表に見える川はナイル川とユーフラテス川です』と答えた。それから、アル＝バイト・アル＝マアムールが私の前に示された。それから、ぶどう酒の器と乳の器と蜂蜜の器が私のもとに運ばれた。私は乳を取った。ジブリールは『それはあなたとあなたの民が拠って立つ天性（フィトラ）です』と言った。それから、私に毎日五十回の礼拝が課された。」** 下る途中、ムーサーはかれに忠告した。**「あなたの民は毎日五十回の礼拝に耐えられません。アッラーにかけて、私はあなたより前に人々を試し、イスラエルの子孫に大いに苦労しました。主のもとに戻って、あなたの民のために軽減を願いなさい。」** かれは何度も戻り、十ずつ減らされて、やがて十になり、そして**毎日五回の礼拝**となった。ムーサーはさらに忠告したが、かれは言われた。**「私は恥ずかしくなるほど主に願った。だが私は満足し、身をゆだねる。」「私が立ち去ろうとすると、一つの呼び声が聞こえた。『われはわが義務を定め、わがしもべたちの（負担を）軽くした。』」**

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：フドバ・ブン・ハーリド ← ハンマーム・ブン・ヤフヤー ← カターダ ← アナス・ブン・マーリク ← マーリク・ブン・サアサア رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、昇天の章、ハディース第 3887 番。ムスリム（第 164 番）も伝えている。第二天から第六天までの部分は、言葉が繰り返されるため要約して訳した。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:3887



『サヒーフ・ブハーリー』3887（マーリク・ブン・サアサアの伝承）による。
図は模式図であり、目に見えない世界の実際の姿ではない。

図 2：『サヒーフ・ブハーリー』3887 による七つの天の預言者たち。

「かれは招かれたのか」

それぞれの天で同じ問答が繰り返されます。番人が「**誰か**」と尋ね、ジブリールが答え、続いて「**かれは招かれたのか**」と問われます。学者たちは、**天には門と番人があり**、たとえジブリールであっても許しなく入ることはできないと説明しています。「かれは招かれたのか」という問いは、天使たちがアッラーの使徒 ***mengetahui***

が招かれることを知っていたことを示しており、かれらは喜んでかれを迎えました。

「ようこそ、なんとすばらしい訪れであろう」

教訓：**許しを求め**、「私だ」とだけ言うのではなく名を名乗るという作法は、天使たち自身によって教えられました。アッラーの使徒 ﷺ は、戸をたたいた人が「私だ、私だ」と答えるのを好まれませんでした（『サヒーフ・ブハーリー』6250）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

七つの天の預言者たち

三つの真正な伝承が天の預言者たちに触れています。マーリク・ブン・サアサアの伝承と（サービトを経た）アナスの伝承は七つの天の順序について**一致して**おり、一方アブー・ザッルの伝承は大半の預言者の位置を**特定していません**。

七つの天の預言者たち：三つの真正な伝承の比較

天	ブハーリー 3887（マーリク・ブン・サアサア）	ムスリム 162（サービトを経たアナス）	ブハーリー 349（アブー・ザッル）
第1天	アーダム	アーダム	アーダム
第2天	ヤフヤーとイーサー	イーサーとヤフヤー	特定されていない
第3天	ユースフ	ユースフ（美しさの半分）	特定されていない
第4天	イドリース	イドリース（19:57）	特定されていない
第5天	ハールーン	ハールーン	特定されていない
第6天	ムーサー	ムーサー	特定されていない
第7天	イブラーヒーム；バイト・アル＝マアムール	イブラーヒームがバイト・アル＝マアムールに背をもたせかける	イブラーヒームは第六天に

オレンジ：アブー・ザッルの伝承の相違。灰色：伝承者が位置を特定していない（『サヒーフ・ブハーリー』349）。

図 3：三つの真正な伝承における預言者たちの位置の比較。

イブン・ハジャルは、イブラーヒームを第六天に置くアブー・ザッルの伝承は**記憶の正確さに欠ける**と説明しています。伝承者自身が、アブー・ザッルは「かれらの位置を特定しなかった」と述べているからです。より多く、より詳しい伝承は、イブラーヒームを**第七天**に置いています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

第二天：二人のいとこ

第二天で、かれは**イーサー・ブン・マルヤムとヤフヤー・ブン・ザカリーヤー** عَلَيْهِ السَّلَامُ に会われました。ハディースではかれらは「**母方のおばの二人の息子**」と呼ばれています。イーサーの母マルヤムとヤフヤーの母は姉妹、あるいはいとこ同士でした。二人の預言者はともに奇跡的な誕生の物語を持ち（マルヤム章）、ともにイスラエルの子孫に遣わされました。

第三天：美しさの半分

預言者ユースフ عَلَيْهِ السَّلَامُ は「**美しさの半分を授けられた**」（ムスリム 162）。学者たちはその意味を、ユースフは他の人々と比べて非常に大きな美しさを授けられたことだと説明しています。この美しさはかれにとって試練となり、かれはユースフ章が語るように、**貞節（イッファ）**によってその試練を乗り越えました。

第四天：イドリース

預言者イドリース عَلَيْهِ السَّلَامُ に触れたとき、アナスはアッラーの御言葉「**われはかれを高い地位に上げた**」を唱えました。イブン・カスィールは、この節は昇天のハディースにあるように、イドリースが第四天にいることによって解釈されていると述べています『イブン・カスィール注釈』19:57。

第五天と第六天：ハールーンとムーサー

第五天には預言者ムーサーの兄**ハールーン** عَلَيْهِ السَّلَامُ が、第六天には**ムーサー** عَلَيْهِ السَّلَامُ がいました。アッラーの使徒 ﷺ がかれのそばを通り過ぎると、ムーサーは**泣きました**。わけを問われると、かれは答えました。「**私の後に遣わされた若者のために泣くのだ。かれのウンマで楽園に入る者は、私のウンマよりも多いのだから**」（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。

学者たちは、この涙は**妬みではない**と強調しています。預言者たちはそのような性質から清められているからです。それは背いた自分の民への**哀れみ**の涙であり、よ

り大きな報奨への**憧れ**の涙でした。「若者」という言葉も敬意の表現で、遣わされたときのムーサーに比べてアッラーの使徒 ﷺ が若かったことを指しています。

第七天：イブラーヒームとバイト・アル＝マアムール

第七天では、預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ が**バイト・アル＝マアムールに背をもたせかけていました**（ムスリム 162）。それは天にある礼拝の館で、**毎日七万の天使**が入り、二度と戻ってきません。地上にカアバを建てたイブラーヒームが、今は天の住人の「カアバ」に背をもたせかけている――その行いにふさわしい報いです。

挨拶	述べた預言者
「ようこそ、正しい息子よ、正しい預言者よ」	アーダムとイブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ ――ともにアッラーの使徒 ﷺ
「ようこそ、正しい兄弟よ、正しい預言者よ」	ヤフヤー、イーサー、ユースフ、イドリース、ハールーン、ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 | ページ：440 / 485

スィドラ・アル＝ムンタハーと金の蛾

第七天の後、かれは**スィドラ・アル＝ムンタハー**、すなわち「果てにあるスィドルの木」へと連れて行かれました。アッラーは星章でそれに触れておられます。

星章 53:13–18

وَلَقَدْ رَءَاهُ نَزْلَةً أُخْرَىٰ ﴿١٣﴾

本当にかれ（ムハンマド）は、再度の降下においても、かれ（ジブリール）を見たのである。

عِندَ سِدْرَةِ ٱلْمُنتَهَىٰ ﴿١٤﴾

（誰も越せない）涯にある、スィドラ木の傍で。

عِندَهَا جَنَّةُ ٱلْمَأْوَىٰٓ ﴿١٥﴾

そのそばに終の住まいの楽園がある。

إِذْ يَغْشَى ٱلسِّدْرَةَ مَا يَغْشَىٰ ﴿١٦﴾

覆うものがスィドラ木をこんもりと覆う時。

مَا زَاغَ ٱلْبَصَرُ وَمَا طَغَىٰ ﴿١٧﴾

（かれの）視線は吸い寄せられ、また（不躾に）度を過ごすこともない。

لَقَدْ رَأَىٰ مِنْ ءَايَٰتِ رَبِّهِ ٱلْكُبْرَىٰٓ ﴿١٨﴾

かれは確かに、主の最大の印を見たのである。

訳：三田了一 — quran.com/53:13-18

そのそばには楽園があります。「**そのそばに終の住まいの楽園がある**」。つまりスィドラ・アル＝ムンタハーは**楽園の世界への入り口なのです**『イブン・カスィール注釈』53:15。

イブン・マスウードの伝承：金の蛾

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 173 番

وَحَدَّثَنَا أَبُو بَكْرِ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ، حَدَّثَنَا أَبُو أُسَامَةَ، حَدَّثَنَا مَالِكُ بْنُ مِغْوَلٍ، ح وَحَدَّثَنَا ابْنُ نُمَيْرٍ، وَزُهَيْرُ بْنُ حَرْبٍ، جَمِيعًا عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ نُمَيْرٍ، - وَأَلْفَاظُهُمْ مُتَقَارِبَةٌ - قَالَ ابْنُ نُمَيْرٍ حَدَّثَنَا أَبِي، حَدَّثَنَا مَالِكُ بْنُ مِغْوَلٍ، عَنِ الزُّبَيْرِ بْنِ عَدِيٍّ، عَنْ طَلْحَةَ، عَنْ مُرَّةَ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ، قَالَ لَمَّا أُسْرِيَ بِرَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم انْتُهِيَ بِهِ إِلَى سِدْرَةِ الْمُنْتَهَى وَهِيَ فِي السَّمَاءِ السَّادِسَةِ إِلَيْهَا يَنْتَهِي مَا يُعْرَجُ بِهِ مِنَ الأَرْضِ فَيُقْبَضُ مِنْهَا وَإِلَيْهَا يَنْتَهِي مَا يُهْبَطُ بِهِ مِنْ فَوْقِهَا فَيُقْبَضُ مِنْهَا قَالَ ‏{‏ إِذْ يَغْشَى السِّدْرَةَ مَا يَغْشَى‏}‏ قَالَ فَرَاشٌ مِنْ ذَهَبٍ. قَالَ فَأُعْطِيَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم ثَلاَثًا أُعْطِيَ الصَّلَوَاتِ الْخَمْسَ وَأُعْطِيَ خَوَاتِيمَ سُورَةِ الْبَقَرَةِ وَغُفِرَ لِمَنْ لَمْ يُشْرِكْ بِاللَّهِ مِنْ أُمَّتِهِ شَيْئًا الْمُقْحِمَاتُ.

訳：

アブドゥッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ が旅をさせられたとき、かれはスィドラ・アル＝ムンタハーまで連れて行かれた。それは第六天にある。地上から上げられるものはそこで止まり、そこで受け取られる。その上から降ろされるものもそこで止まり、そこで受け取られる**」。かれは「スィドラの木を覆うものが覆った時」と唱えて言った。「（**それを覆ったのは）金の蛾であった**」。かれは言った。「**そしてアッラーの使徒 ﷺ には三つのものが与えられた。五回の礼拝が与えられ、雌牛章の最後の節が与えられ、かれのウンマのうちアッラーに何ものも並べない者には大罪が赦された**」

伝承経路 イマーム・ムスリムの複数の伝承経路による伝承：アブー・バクル・ブン・アビー・シャイバ ← アブー・ウサーマ；およびムハンマド・ブン・アブディッラー・ブン・ヌマイルとズハイル・ブン・ハルブ ← アブドゥッラー・ブン・ヌマイル —— いずれも ← マーリク・ブン・ミグワル ← アッ＝ズバイル・ブン・アディー ← タルハ・ブン・ムサッリフ ← ムッラ ← アブドゥッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』信仰の書、スィドラ・アル＝ムンタハーについての章、ハディース第 173 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：sunnah.com/muslim:173

イブン・マスウード رضي الله عنه は、アッラーの御言葉「**スィドラの木を覆うものが覆った時**」を**金の蛾**と解釈しました。他の伝承では**何とも分からない色**（ブハーリー 349）とも、それを描写できないほど美しくした**アッラーの命**（ムスリム 162）とも述べられています『イブン・カスィール注釈』53:16。

第六天か、第七天か

イブン・マスウードはスィドラ・アル＝ムンタハーが**第六天に**あると述べ、マーリク・ブン・サアサアとアナスのハディースは**第七天の後に**あると述べています。ナワウィーとイブン・ハジャルはこれを調和させて、**その根元は第六天にあり、大部分は第七天にある**としています。したがって両方の伝承とも正しいのです。

なぜ「アル＝ムンタハー（果て）」なのか

イブン・マスウード自身が説明しています。**地上から上がるものはすべてそこで止まり**、そこで受け取られ、**その上から降りてくるものもすべてそこで止まり**、そこで受け取られる。それは、私たちの知る被造物の世界と、アッラーだけがご存じのその上の世界との**境界**なのです。

スィドラ・アル＝ムンタハーの特徴	参考文献
葉は象の耳のよう	ムスリム 162；ブハーリー3887
実は大きな壺（ハジャルの壺）のよう	ムスリム 162；ブハーリー3887
金の蛾に覆われている	ムスリム 173
何とも分からない色に覆われている	ブハーリー349
どんな被造物もその美しさを描写できない	ムスリム 162
根元から四つの川が流れ出ている	ブハーリー3887
そのそばに終の住まいの楽園（ジャンナト・アル＝マアワー）がある	星章 53:15

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

四つの川

マーリク・ブン・サアサアの伝承では、かれはスィドラの根元から**四つの川**が流れ出ているのを見られました。**二つは隠れた川**、**二つは表に現れた川**です。ジブリールは、隠れた二つは楽園の川であり、表に現れた二つは**ナイル川とユーフラテス川**であると説明しました（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。

学者たちは、これは私たちの知るナイル川とユーフラテス川の水源が物理的に天にあるという意味ではないと説明しています。その意味は、二つの川が**祝福され**、**楽園に起源を持つ**ということであり、その真相はアッラーにゆだねられます。私たちは、いかにしてかを問うことなく、それを信じるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

カウサルの川

その夜かれに示された恵みの中に、かれのために特別に約束された川がありました。アナス رضى الله عنه が伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4964 番

حَدَّثَنَا آدَمُ، حَدَّثَنَا شَيْبَانُ، حَدَّثَنَا قَتَادَةُ، عَنْ أَنَسٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ لَمَّا عُرِجَ بِالنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم إِلَى السَّمَاءِ قَالَ «أَتَيْتُ عَلَى نَهَرٍ حَافَتَاهُ قِبَابُ اللُّؤْلُؤِ مُجَوَّفًا فَقُلْتُ مَا هَذَا يَا جِبْرِيلُ قَالَ هَذَا الْكَوْثَرُ».

訳：

アナス رضى الله عنه は言った。預言者 ﷺ が天に昇らされたとき、かれはこう言われた。

「私はある川に着いた。その両岸は中が空洞になった真珠のドームであった。私は『ジブリールよ、これは何か』と尋ねた。かれは『これがカウサルだ』と答えた」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アーダム・ブン・アビー・イヤース ← シャイバーン ← カターダ ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』啓典解釈の書、豊潤章、ハディース第 4964 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:4964

この川こそ、クルアーンで最も短い章に述べられているものです。**「本当にわれは、あなたに潤沢を授けた」**。アッラーの使徒 ﷺ は、カウサルとは**主が約束された川**で、そこには多くの善があり、審判の日にかれのウンマが訪れる**池**であると説明されました（『サヒーフ・ムスリム』400）『イブン・カスィール注釈』108:1。

その両岸は**中が空洞になった真珠のドーム**です。昇天の夜、かれはいずれ自分のウンマに水を飲ませることになる川を**ご自身の目で見られた**のです。教訓：かれのス

ンナに従い、宗教に新しいことを作り出さないことによって、かれの池から**飲むことを許される**人々の一人となるよう努めましょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ペンの音と真珠のドームの楽園

「開かれた屋根」の章のアブー・ザッルの伝承は、さらに二つの光景に触れています。第一に、かれは高い所まで上げられ、**ペンのきしむ音を聞かれました。**ナワウィーは、それはアッラーの定めと啓示を守られた書板（ラウフ・マフフーズ）から**書き写す**天使たちのペンであると説明しています。

第二に、かれは**楽園**に入れられました。そこには**真珠のドーム**があり、**その土は麝香**でした。これは「目が見たことも、耳が聞いたことも、人の心に浮かんだこともない」恵みのほんの一部です（『サヒーフ・ブハーリー』3244）。

銅の爪を持つ陰口の徒

昇天の夜、かれには**いくつかの罪への報い**も示されました。真正と評価されたある伝承は、陰口をたたく人々について述べています。

ハディース ― 『スナン・アビー・ダーウード』第 4878 番

حَدَّثَنَا ابْنُ الْمُصَفَّى، حَدَّثَنَا بَقِيَّةُ، وَأَبُو الْمُغِيرَةِ، قَالاَ حَدَّثَنَا صَفْوَانُ، قَالَ حَدَّثَنِي رَاشِدُ بْنُ سَعْدٍ، وَعَبْدُ الرَّحْمَنِ بْنُ جُبَيْرٍ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، قَالَ قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم «لَمَّا عُرِجَ بِي مَرَرْتُ بِقَوْمٍ لَهُمْ أَظْفَارٌ مِنْ نُحَاسٍ يَخْمِشُونَ وُجُوهَهُمْ وَصُدُورَهُمْ فَقُلْتُ مَنْ هَؤُلاَءِ يَا جِبْرِيلُ قَالَ هَؤُلاَءِ الَّذِينَ يَأْكُلُونَ لُحُومَ النَّاسِ وَيَقَعُونَ فِي أَعْرَاضِهِمْ».

訳：

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه によると、アッラーの使徒 ﷺ はこう言われた。「**私が（天に）昇らされたとき、銅の爪を持つ人々のそばを通った。かれらはその爪で自分の顔と胸をかきむしっていた。私は『ジブリールよ、この人たちは誰か』と尋ねた。かれは『人々の肉を食べ（陰口をたたき）、その名誉を傷つけた者たちだ』と答えた**」

伝承経路 イマーム・アブー・ダーウードの伝承：イブン・アル＝ムサッファー ← バキーヤとアブー・アル＝ムギーラ ← サフワーン・ブン・アムル ← ラーシド・ブン・サアドとアブドゥッラフマーン・ブン・ジュバイル ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・アブー・ダーウード『スナン・アビー・ダーウード』作法の書、陰口についての章、ハディース第 4878 番。

等級： サヒーフ（真正）―― アルバーニーが真正と評価（『サヒーフ・スナン・アビー・ダーウード』）。

典拠：sunnah.com/abudawud:4878

なぜ銅の爪なのか

この報いは**罪にふさわしいもの**です。陰口をたたく者は舌で他人の名誉を「かきむしる」ので、**自分の顔と胸をかきむしる**ことで報いられるのです。クルアーンは陰口を**死んだ兄弟の肉を食べること**にたとえており（部屋章 49:12）、ジブリールもこの人々を「人々の肉を食べた者たち」と説明しました。

アッラーの使徒 ﷺ は陰口の意味をこう説明されました。**「あなたの兄弟について、かれの嫌がることを話すことだ」**。「もし私の言うことが本当だったら」と問われると、かれは言われました。**「本当なら、あなたはかれの陰口をたたいたのであり、本当でなければ、かれを中傷したのだ」**（『サヒーフ・ムスリム』2589）。

教訓：数ある罪の中から、その夜かれに示されるものとして**舌の罪**が選ばれました。犯すのはたやすくても、その報いは重いのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

五十が五に

昇天の頂点は**礼拝の義務化**です。アッラーは昼夜ごとに**五十回の礼拝**を義務とされました。帰り道、預言者ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ は、「私はイスラエルの子孫を試したことがある」として、軽減を願いに戻るようアッラーの使徒 ***“aku telah menguji Bani Israil”*** に勧めました（ムスリム 162）。三つの真正な伝承がその軽減の様子を語っています。

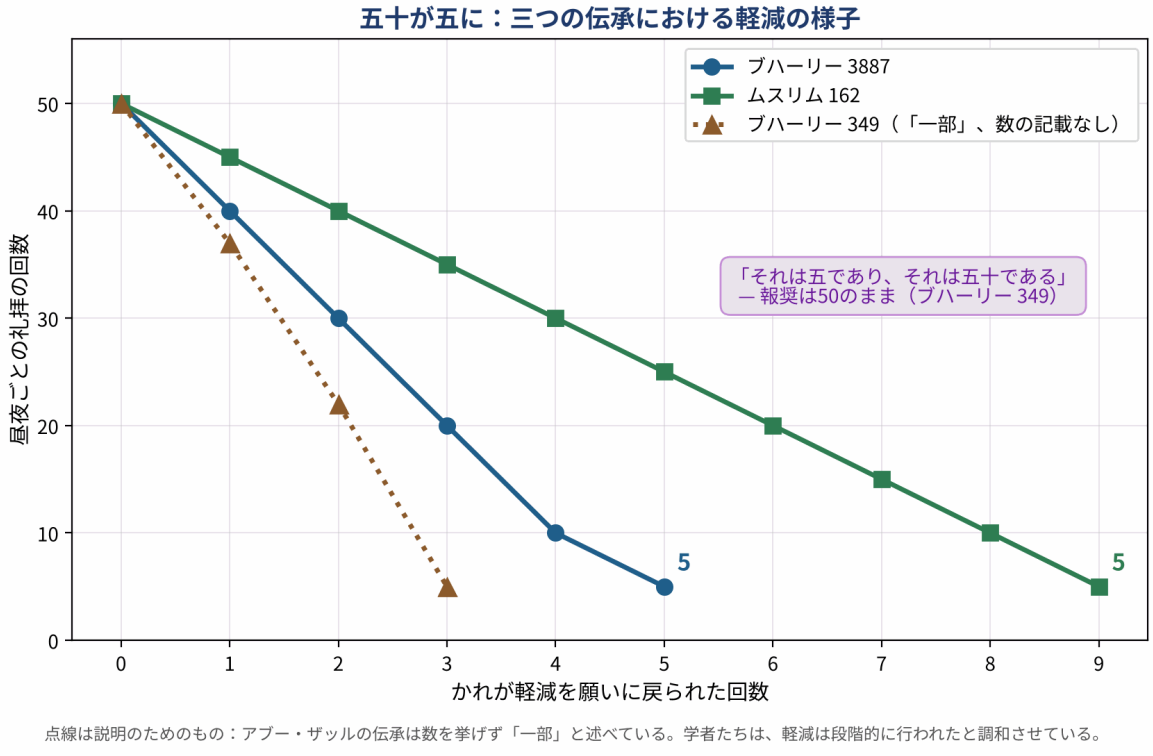


図 4：三つの真正な伝承における礼拝の軽減の様子。

伝承	軽減の様子と結びの言葉
ブハーリー3887（マーリク・ブン・サアサア）	50 → 40 → 30 → 20 → 10 → 5。かれ：「私は満足し、従います」。呼びかけ：「われはわが義務を定め、わがしもべたちの負担を軽くした」。
ムスリム 162（アナス）	五ずつ減って五に。「一回が十に数えられ、それで五十となる」。
ブハーリー349（アブー・ザッル）	「一部」ずつ。「それは五であり、それは五十である。われのもとで言葉は変わらない」。

イブン・ハジャルはこれらを調和させています。「五ずつ」の伝承が最も詳しく、「十ずつ」の伝承は二回の軽減を一度にまとめて述べたもので、「一部ずつ」の伝承は数を挙げていない。**結果は同じ**で、五十回分の報奨を持つ五回の礼拝です。

意図の贈り物：善と悪

アナスの伝承では、アッラーは一日五回の礼拝を定められたとき、さらに一つの大きな恵みを加えられました。

状況	記されるもの
善を意図したが、行わなかった	一つの善
善を意図し、行った	十の善
悪を意図したが、行わなかった	何も記されない
悪を意図し、行った	一つの悪

教訓：一日五回の礼拝は、他の崇拝行為のように地上でジブリールを通して伝えられたのではなく、**天からじかに与えられた贈り物**です。**行うのは軽く**ても**秤では重い**のです。アッラーの使徒 ﷺ はそれ以上を願うことを恥じられました。それなのに、残された五回を私たちが怠ってよいはずがあるでしょうか。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィドラ・アル＝ムンタハーからの三つの贈り物

スィドラ・アル＝ムンタハーの章のイブン・マスウード رضى الله عنه の伝承は、アッラーの使徒 ***tiga hadiah*** がウンマのために持ち帰られた三つの贈り物の知らせで締めくくられています。

贈り物	説明
1. 一日五回の礼拝	宗教の柱。行うのは五回、報奨は五十回分（前章）。
2. 雌牛章の最後の節	285–286 節：すべての使徒への信仰と、力以上の重荷を負わせないでくださいという祈り。
3. 大罪の赦し	アッラーに何ものも並べないかれのウンマの者に。

第二の贈り物：雌牛章の結び

これらの節の中には「**アッラーは誰にも、その能力以上のものを負わせられない**」という言葉があります。アッラーの使徒 ﷺ は言われました。「**夜に雌牛章の最後の二節を読む者には、その二節で十分である**」（『サヒーフ・ブハーリー』5009）。学者たちは、これらの節はマディーナで啓示されたが、その**優れた恵み**は昇天の夜に授けられたと述べています『イブン・カスィール注釈』2:286。

第三の贈り物：一神教の民への希望

ナワウィーは「大罪が赦される」の意味をこう説明しています。一神教の民は**火獄に永遠にとどまることはない**。ある者はただちに赦され、ある者はまず清められてから楽園に入れられる。これは、アッラーは多神を赦されないが、それ以外の罪は御心にかなう者に赦されるという御言葉（女性章 4:48）と一致します。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

教訓：この贈り物は大罪を軽く見てよいという**許可証ではなく**、**一神教がどれほど尊いか**を示しています。一神教を守りなさい。それが他のすべての贈り物への鍵なのです。

かれはアッラーを見られたのか

この問いは教友たちの時代から問われてきました。アブー・ザッル رضى الله عنه はアッラーの使徒 ﷺ にじかに尋ねました。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 178A 番

حَدَّثَنَا أَبُو بَكْرِ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ، حَدَّثَنَا وَكِيعٌ، عَنْ يَزِيدَ بْنِ إِبْرَاهِيمَ، عَنْ قَتَادَةَ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ شَقِيقٍ، عَنْ أَبِي ذَرٍّ، قَالَ سَأَلْتُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم هَلْ رَأَيْتَ رَبَّكَ قَالَ «نُورٌ أَنَّى أَرَاهُ».

訳：

アブー・ザッル رضى الله عنه は言った。私はアッラーの使徒 ﷺ に「あなたは主を見られたのですか」と尋ねた。かれは答えられた。「**（かれは）光である。どうしてかれを見ることができようか**」

伝承経路 イマーム・ムスリムの伝承：アブー・バクル・ブン・アビー・シャイバ ← ワキーウ ← ヤズィード・ブン・イブラーヒーム ← カターダ ← アブドッラー・ブン・シャキーク ← アブー・ザッル رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』信仰の書、ハディース第 178a 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：sunnah.com/muslim:178a

同じハディースの別の伝承では、かれは「**私は光を見た**」と言われています（『サヒーフ・ムスリム』178b）。つまり、アッラーの**帳（ヒジャーブ）**である光が、かれを見ることを妨げたのです。

教友たちの見解

教友	見解と論拠
アーイシャ رضى الله عنها	「ムハンマドが主を見たとあなたに言う者は嘘をついている」――家畜章 6:103 と協議章 42:51 を読み上げた（ブハーリー4855）。かれご自身が、星章 53:13 は本来の姿のジブリールであると説明された（ムスリム 177）。
イブン・アッバース رضى الله عنهما	「かれは心でかれを二度見た」（ムスリム 176）。
アブー・ザッル رضى الله عنه	「（かれは）光である。どうしてかれを見ることができようか」および「私は光を見た」（ムスリム 178）。

アーイシャはアッラーの御言葉「**視覚はかれを捉えない**」を論拠としました。学者たちは、この節が否定しているのは現世での**包み込むような見方**であり、来世でアッラーを見ることは真正な論拠によって確定していると説明しています『イブン・カスィール注釈』6:103。

伝承の調和

イブン・タイミーヤ、イブン・アル＝カイイム、イブン・ハジャルは、かれがアッラーを**肉眼で**見られたと**はっきり述べた教友はいない**と説明しています。イブン・アッバースの一般的な伝承は、「**心で**」と述べるかれ自身の伝承によって解釈されます。したがってこれらの見解は調和させることができます。かれはその夜**目でアッラーを見られたのではなく**、**心で**見られ、その帳である**光**を見られたのです。

教訓：目に見えない事柄については、**論拠が止まるところで止まる**のです。教友たちは礼儀をもって意見を異にし、その一人ひとりが論拠に拠っていました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

試練の朝

翌朝、アッラーの使徒 ﷺ はマッカの人々にご自分の旅について語られました。クライシュ族はそれを**嘘だと決めつけ**、あざけりました。ジャービル・ブン・アブディッラー رضى الله عنهما が伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3886 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ بُكَيْرٍ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ عُقَيْلٍ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، حَدَّثَنِي أَبُو سَلَمَةَ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، سَمِعْتُ جَابِرَ بْنَ عَبْدِ اللَّهِ ـ رضى الله عنهما ـ أَنَّهُ سَمِعَ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ «لَمَّا كَذَّبَنِي قُرَيْشٌ قُمْتُ فِي الْحِجْرِ، فَجَلَا اللَّهُ لِي بَيْتَ الْمَقْدِسِ، فَطَفِقْتُ أُخْبِرُهُمْ عَنْ آيَاتِهِ وَأَنَا أَنْظُرُ إِلَيْهِ».

訳：

ジャービル・ブン・アブディッラー رضى الله عنهما は、アッラーの使徒 ﷺ がこう言われるのを聞いた。「**クライシュ族が私を嘘つき呼ばわりしたとき、私はヒジュルに立った。するとアッラーがバイト・アル＝マクディスを私の前に現してくださったので、私はそれを見ながら、そのしるしをかれらに語り始めた。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ヤフヤー・ブン・ブカイル ← アッ＝ライス ← ウカイル ← イブン・シハーブ ← アブー・サラマ・ブン・アブドッラフマーン ← ジャービル・ブン・アブディッラー رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、夜の旅のハディースの章、ハディース第 3886 番。ムスリム（第 170 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：sunnah.com/bukhari:3886

『サヒーフ・ムスリム』172 のアブー・フライラのハディースは、クライシュ族がかれの**注意して見ていなかったエルサレムの細部**について尋ね、かれが**ひどく苦しまれた**ことを付け加えています。そこでアッラーがかれの前にエルサレムを掲げられ、かれはすべての問いに正確に答えられました。

スィーラの注：アブー・バクル「かれがそう言ったのなら、それは真実だ」

ハーキムはアーイシャ رضى الله عنها から次のように伝えています。多神教徒たちがアブー・バクルのもとに来て、「おまえの友は、昨夜エルサレムまで旅をさせられたと言っているぞ」と言った。アブー・バクルは「かれがそう言ったのか」と尋ねた。かれらは「そうだ」と答えた。かれは言った。**「かれがそう言ったのなら、それは真実だ。私はそれよりもはるかに遠いこと――朝に夕に天から届く知らせ――についてもかれを信じているのだから」**。そのためにかれは**アッ＝スィッディーク（真実を認める者）**と呼ばれるようになりました。

この伝承はアルバーニーが『アッ＝スィルスィラ・アッ＝サヒーハ』（第 306 番）で真正と評価しています。

参照：

ハーキム『アル＝ムスタドラク』；アルバーニー『アッ＝スィルスィラ・アッ＝サヒーハ』。=

スィーラの注：道中の隊商

イブン・イスハークの伝承を含む一部のスィーラ書は、かれが道中で通り過ぎた**隊商**について――はぐれたラクダや到着の時刻も含めて――クライシュ族に告げ、それがすべて正確だったと述べています。これらの伝承は**サヒーフの等級には達していません**。真正なのは、エルサレムがかれの前に示されたということです。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』。=

教訓：夜の旅と昇天は**信仰の試練**でした（夜の旅章 17:60）。アブー・バクルのように信仰を増した者もいれば、不信を増した者もいました。信仰者の物差しは、**いかにしてかを理性が捉えきれなくても、アッラーの使徒**ﷺ を信じることなのです。

見解の分かれる物語

この章では、**よく知られ**、ハディース集にも載っているものの、**その伝承経路の評価について学者の意見が分かれる**物語を集めました。このような物語は**その位置づけを添えて**語ることはできますが、真正なハディースのように断定はできません。

スィーラの注：1. マーシタの芳香

この伝承は『**ムスナド・アフマド**』に、イブン・アッバースから次のように伝えられています。夜の旅の夜、かれは**とてもよい香り**をかがれた。ジブリールは、それはファラオの娘の髪結いであった**マーシタ**とその子どもたちの香りだと説明した。彼女は櫛を落としたときに「ビスミッラー（アッラーの御名において）」と唱えたため、ファラオは彼女と子どもたちを熱した銅の器に投げ込むという罰を下したのです。

評価： イブン・ヒッバーンとハーキムは真正と評価し、イブン・カスィールはその伝承経路を「問題ない」と述べ、アルバーニーは伝承者アターウ・ブン・アッ＝サーイブの記憶が乱れていたことから**ダイーフ（弱い）**と評価している。**見解が分かれる。**

参照：

イブン・カスィール『注釈』17:1。tafsir.app/ibn-katheer/17/1

スィーラの注：2. ターイバ、シナイ山、ベツレヘムでの礼拝

アナスの伝承は『**スナン・アン＝ナサーイー**』**450** で、エルサレムに着く前に、ジブリールがかれに降りて礼拝するよう求めた場所として、**ターイバ**（マディーナ、「あなたの移住の地」）、アッラーがムーサーに語りかけられた**シナイ山**、イーサーが生まれた**ベツレヘム**を挙げています。

評価： ダールッサラーム版は**ハサン（良好）**と評価し、アルバーニーは**ムンカル（より強い伝承に反する）**と評価している。**見解が分かれる。**

参照：

『スナン・アン＝ナサーイー』450。sunnah.com/nasai:450

スィーラの注：3. イブラーヒームの挨拶と楽園の植物

イブン・マスウードは、かれがこう言われたと伝えています。「私は旅をさせられた夜にイブラーヒームに会った。かれは言った。**『ムハンマドよ、あなたのウンマに私からの挨拶を伝えなさい』**。そして、楽園は土がよく、水が甘く、広々とした平地であり、**その植物は『スブハーナッラー、ワルハムドゥリッラー、ワ・ラー・イラーハ・イッラッラー、ワッラーフ・アクバル』である**と伝えなさい」（『スナン・アッ＝ティルミズィー』3462）。

評価： ティルミズィーは**ハサン・ガリーブ**と述べ、アルバーニーは補強する伝承があることから**ハサン**と評価し、ダールッサラーム版はその伝承経路を**ダイーフ**と評価している。その意味は、唱念（ズィクル）の優れた価値についての真正なハディースによって支えられている。

参照：

『スナン・アッ＝ティルミズィー』3462。sunnah.com/tirmidhi:3462

スィーラの注：4. 天使たちの勧め：吸い玉療法

かれはこう言われたと伝えられています。「私が旅をさせられた夜、天使たちの一団のそばを通るたびに、かれらは必ず**『ムハンマドよ、あなたのウンマに吸い玉療法（ヒジャーマ）を行うよう命じなさい』**と言った」（『スナン・アッ＝ティルミズィー』2052；『スナン・イブン・マージャ』3477）。

評価： アルバーニーは伝承経路が多いことから**サヒーフ**と評価し、ダールッサラーム版はこれらの伝承経路を**ダイーフ**と評価している。**見解が分かれる。**吸い玉療法の優れた価値そのものは『サヒーフ・ブハーリー』5696 で確定している。

参照：

『スナン・アッ＝ティルミズィー』2052。sunnah.com/tirmidhi:2052

『スナン・イブン・マージャ』3477。sunnah.com/ibnmajah:3477

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

弱い物語と根拠のない物語

この章の物語は、夜の旅と昇天についての講話や一般向けの本でよく語られます。しかし**その伝承経路は弱いか、まったく存在しません。**ここでは**注意を促すため**に取り上げるのであって、預言者 ﷺ の言葉として語り直すためではありません。

長い懲罰の物語

頭を石で打ち砕かれる人々や**腐った肉を食べる**人々の物語の多くは、**アブー・ジャアファル・アッ＝ラーズィーがアッ＝ラビーウ・ブン・アナスから伝えた**一つの長い伝承に由来します。イブン・カスィールは 17:1 の注釈でこれに触れ、その言葉の一部は**奇妙で、ひどく受け入れがたい（ガラーバ・ワ・ナカーラ・シャディーダ）**と説明しています。アブー・ジャアファル・アッ＝ラーズィーは記憶が弱いと評価されており、アルバーニーはこの伝承を**ムンカル**と評価しています。**腹が家ほども大きく**蛇でいっぱいの利息を食らう者の物語（『スナン・イブン・マージャ』2273）も**ダイーフ**と評価されています。

スィーラの注：混同しないように――サムラの真正な夢

真正な懲罰の光景の一部は、実は**アッラーの使徒** ﷺ の夢のハディース（サムラ・ブン・ジュンドゥブ伝、『サヒーフ・ブハーリー』1386）に由来するもので、昇天の夜からでは**ない**のです。その中には、石で頭を砕かれる男（クルアーンを捨て、義務の礼拝を寝過ごした者）、かまどのような穴の中の姦通者、血の川を泳ぐ利息を食らう者、頬を引き裂かれる嘘つきなどがあります。

預言者たちの夢は啓示であり、その内容は真実です。しかし**それを昇天の夜に結びつけるのは正確ではありません。**

参照：

『サヒーフ・ブハーリー』1386。sunnah.com/bukhari:1386

根拠のない物語

よく知られた物語	評価
アッラーの使徒 ﷺ がサンダルを履いたまま玉座に昇り、玉座がそれによって栄誉を受けた	根拠なし。ハディース学者たちは誤りであると断言している。
ジブリールがスィドラで止まり、「もう少し進めば、私は焼き尽くされるだろう」と言った	真正な伝承経路はなく、信頼できるハディース集にも見当たらない。
タシャッフド（アッタヒーヤート）の言葉は、昇天の夜のアッラー、使徒、天使たちの対話に由来する	根拠なし。イブン・マスウードは、教友たちが言い慣れていた「アッラーに平安あれ」という言葉の代わりに、かれがタシャッフドを教えられたと伝えている（ブハーリー831）。
ブラークは女性の顔を持つ翼のある馬である	根拠なし。真正な伝承は、ロバとラバのあいだの白い乗り物と述べるだけである。
ラジャブ月 27 日の夜の特別な礼拝、断食、祈り	真正な論拠はない。イブン・ハジャルは、ラジャブ月の特別な優れた価値について真正なハディースはないことを説明する専門書（『タブイーン・アル＝アジャブ』）を著した。

教訓：夜の旅と昇天についての真正な物語は、**それだけで十分に驚くべきもの**です。

アッラーの使徒 ﷺ への愛を深めるために、作り話は必要ないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

各物語の位置づけのまとめ

次の図と表は、本書で取り上げた**各物語の位置づけ**をまとめたもので、教えたり講話をしたりするときに参照しやすくしています。

夜の旅と昇天の諸物語の位置づけ

真正（13）

- 胸を開くこととザムザム
- ブラーク
- 預言者たちの導師となる
- 乳と酒
- 墓の中で礼拝するムーサー
- 七つの天の預言者たち
- スィドラ・アル＝ムンタハー
- カウサルと真珠の楽園
- ペンの音
- 50が5に
- 三つの贈り物
- 銅の爪（陰口の徒）
- エルサレムが示される

見解が分かれる（4）

- マーシタの芳香
- ターイバ、シナイ、ベツレヘムでの礼拝
- イブラーヒームの挨拶と楽園の植物
- 吸い玉療法の勧め

弱い（1）

- 長い懲罰の物語（アブー・ジャアファル・アッ＝ラーズィーの伝承）

根拠なし／捏造（5）

- 玉座の上の預言者のサンダル
- 焼き尽くされることを恐れるジブリール
- タヒーヤートの対話
- 人間の顔を持つ翼のあるブラーク
- ラジャブ月27日の特別な行い

評価はハディース集と学者たちの評価に基づく（関連する各章を参照）。

図 5：夜の旅と昇天の諸物語の位置づけ。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

物語	位置づけと典拠
開かれた屋根、胸を開くこと、ザムザム	真正 — ブハーリー349、3887
ブラークと預言者たちの輪	真正 — ムスリム 162
墓の中で礼拝するムーサー	真正 — ムスリム 2375
乳と酒の選択	真正 — ブハーリー3394；ムスリム 162
預言者たちの礼拝を導く；マーリクの挨拶	真正 — ムスリム 172
預言者たちの姿；マーリクとダッジャール	真正 — ブハーリー3239、3394
七つの天の預言者たち	真正 — ブハーリー3887；ムスリム 162
スィドラ・アル＝ムンタハー、金の蛾	真正 — 星章 53:14–16；ムスリム 173
バイト・アル＝マアムールと四つの川	真正 — ブハーリー3887
カウサルの川	真正 — ブハーリー4964
ペンの音；真珠の楽園	真正 — ブハーリー349
銅の爪を持つ陰口の徒	真正（アルバーニー） — アブー・ダーウード 4878
五十が五に；善の意図	真正 — ブハーリー3887、349；ムスリム 162
三つの贈り物	真正 — ムスリム 173
「光である。どうしてかれを見ることができようか」	真正 — ムスリム 178
エルサレムが示されたこと	真正 — ブハーリー3886；ムスリム 172
アブー・バクル・アッ＝スィッディークが信じたこと	真正（アルバーニー）
マーシタ；ターイバとシナイでの礼拝；イブラーヒームの挨拶；吸い玉療法	見解が分かれる — 第 19 章を参照
長い懲罰の物語；家のような腹	ダイーフ — アブー・ジャアファル・アッ＝ラーズィーの伝承；イブン・マージャ 2273

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

物語	位置づけと典拠
玉座の上のサンダル；焼き尽くされるジブリール；タヒーヤートの対話；翼のあるブラーク；ラジャブ月 27 日の行い	根拠なし

その他の有名な物語：真正、場面違い、あるいは伝承経路なし

「見解の分かれる物語」と「弱い物語と根拠のない物語」の章では、最もよく語られる物語を取り上げました。この章では、私たちの社会でよく耳にする他のいくつかの物語を加えます。それらは三種類に分けられます。実は真正だがあまり知られていない物語、真正だが昇天の夜に**場面を取り違えられた**物語、そして**伝承経路**がまったくない物語です。

評価の表

よく耳にする物語	評価	簡単な説明
視線の届く果てまで届くブラークの一歩	真正	アナスのハディースに述べられている。ブラークはその足を視線の届く果てに置いた（『サヒーフ・ムスリム』162）。多くの人は物語の付け足しだと思っているが、実は真正である。
三つの器：乳、酒、蜂蜜	真正	二つの器（乳と酒）の伝承のほかに、マーリク・ブン・サアサアの伝承は蜂蜜を含む三つの器を述べている。かれは乳を選ばれた（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。両方の伝承とも真正である。
足は地にあり首は玉座の下にある雄鶏を、昇天の夜に見た	ハディースは真正と評価されているが、場面違い	この雄鶏のハディースはタバラーニーらが伝えており、アルバーニーはその伝承経路を真正と評価している。しかしそのハディースは夜の旅や昇天の夜には触れていない。昇天の夜に見たものとして語るのは正確ではない。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

よく耳にする物語	評価	簡単な説明
罰を受ける六種類の女性（髪で吊るされるなど）、アリーとファーティマに語られた	伝承経路なし	イブン・ハジャル・アル＝ハイタミーの『アッ＝ザワージル』に伝承経路なしで引用されている。ハディース学者たちは、それは確認できず、預言者 ﷺ の言葉として引用するのにふさわしくないと述べている。このように誇張された懲罰は、作り話の伝承の特徴である。

典拠：『サヒーフ・ムスリム』162；『サヒーフ・ブハーリー』3887；The Albaani Site「玉座の下に首がある雄鶏」；アッ＝ドゥラル・アッ＝サニーヤ（dorar.net）、雄鶏のハディース；HadithAnswers「火獄の女性たちのさまざまな罰」。

スィーラの注：なぜ「場面違い」も誤りなのか

あるハディースが真正であっても、その伝承に述べられていない出来事に当てはめると不正確になります。たとえば上の雄鶏のハディースや、「弱い物語と根拠のない物語」の章で取り上げたサムラ・ブン・ジュンドゥブの夢のハディースがそうです。

原則は簡単です。何かを「昇天の夜に」あったこととして語るときは、その伝承自体が夜の旅や昇天の夜に触れていることを確かめなさい。そうでなければ、そのハディースは本来の文脈で語りなさい。

物語を確かめる方法

注意深くあるためにハディース学者になる必要はありません。いくつかの簡単な手順で十分です。

1. **出典を尋ねる。** 真正な物語は通常、『サヒーフ・ブハーリー』や『サヒーフ・ムスリム』のような知られたハディース集に、その番号とともにたどることができます。

2. **信頼できるサイトで確かめる。** sunnah.com のようなサイトは、ハディースの本文とその等級の評価を示しています。

3. **過度な細部に注意する。** 大きな数字、非常に恐ろしい懲罰、小さな行いへの途方もない報奨に満ちた物語は、しばしば作り話の伝承のしるしです。

4. **専門家に尋ねる。** 疑わしいときは、ハディースの評価に慎重なことで知られる先生や学者に尋ねなさい。

教訓

物語の真実性は、それがどれほど面白いかではなく、その出典の強さによって測られます。アッラーの使徒 ﷺ に何かを帰することに慎重であることは、かれを愛することの一部なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

夜の旅と昇天の一夜の年表

これまでの章では物語を一つずつ取り上げました。この章では、かれがマッカで横になっておられたときから試練の朝までを、一本の年表にまとめます。この順序は真正なハディースに基づいています。順序について伝承が異なる場合は、表の下の注でそのことを述べます。

出来事の表

番号	出来事	典拠
1	かれはハティームで（別の伝承では家で）横になっておられた。屋根が開かれ、ジブリールが降りてきた。	『サヒーフ・ブハーリー』349、3887
2	かれの胸が開かれ、ザムザムの水で洗われ、英知と信仰で満たされた。	『サヒーフ・ブハーリー』349、3887
3	ブラークが連れて来られた。その一歩は視線の届く果てまで届いた。	『サヒーフ・ムスリム』162
4	かれは赤い砂丘で墓の中で礼拝している預言者ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ のそばを通られた。	『サヒーフ・ムスリム』2375
5	エルサレムに着き、預言者たちが乗り物をつないだ輪にブラークをつなぎ、二ラクアの礼拝をされた。	『サヒーフ・ムスリム』162
6	飲み物の器が差し出され、かれは乳を選ばれた。ジブリールは、かれが天性を選ばれたと言った。	『サヒーフ・ムスリム』162；『サヒーフ・ブハーリー』3394、3887
7	最下の天への昇天：ジブリールが門を開けるよう求め、預言者アーダム عَلَيْهِ السَّلَامُ に会われた。	『サヒーフ・ブハーリー』3887
8	第二天から第七天まで：ヤフヤーとイーサー、ユースフ、イドリース、ハールーン、ムーサー、イブラーヒーム عَلَيْهِمُ السَّلَامُ。	『サヒーフ・ブハーリー』3887
9	バイト・アル＝マアムールが示された。毎日七万の天使がそこに入り、二度と戻ってこない。	『サヒーフ・ブハーリー』3887

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

番号	出来事	典拠
10	スィドラ・アル＝ムンタハー。それを覆うものに覆われ、根元から四つの川が流れ出ている。	『サヒーフ・ブハーリー』3887；『サヒーフ・ムスリム』173；星章 53:14–16
11	かれは定めを書き記すペンの音を聞かれた。	『サヒーフ・ブハーリー』349
12	五十回の礼拝が義務とされ、かれは預言者ムーサーの勧めで行き来を重ね、ついに五回となった。	『サヒーフ・ブハーリー』349、3887；『サヒーフ・ムスリム』162
13	三つの贈り物：一日五回の礼拝、雌牛章の最後の節、アッラーに何ものも並べないウンマへの大罪の赦し。	『サヒーフ・ムスリム』173
14	かれは楽園に入れられ、真珠のドームを見られた。	『サヒーフ・ブハーリー』349
15	かれは同じ夜のうちにマッカへ戻られた。	『サヒーフ・ブハーリー』3886
16	朝：クライシュ族が否認した。アッラーはヒジュルにいるかれの前にエルサレムを示され、かれはすべての問いに答えることができた。	『サヒーフ・ブハーリー』3886；『サヒーフ・ムスリム』172

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：470 / 485

典拠：『サヒーフ・ブハーリー』349；『サヒーフ・ブハーリー』3887；『サヒーフ・ブハーリー』3886；『サヒーフ・ムスリム』162；『サヒーフ・ムスリム』173；『サヒーフ・ムスリム』2375。

スィーラの注：伝承の順序が異なるとき

真正な伝承は、いつも同じ順序で出来事を述べているわけではありません。たとえば、飲み物の器が差し出されたのをエルサレムでのこととする伝承もあれば、天でのこととする伝承もあります。同じように、かれが預言者たちの礼拝を導かれたのが天に昇る前か、降りてきた後かについても、学者の見解は分かれています。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニーのような学者は『ファトフ・アル＝バーリー』でこれらの伝承を調和させようと努めました。順序の違いは出来事の真実性を損ないません。伝承者はそれぞれ自分が覚えていた部分を語ったからです。上の表は最もよく知られた順序に従っています。

教訓

一夜のうちに、かれには過去（預言者たち）、現在（天の世界）、未来（楽園と定め）が示されました。しかし持ち帰られた贈り物は、私たちが毎日行うことのできるもの――一日五回の礼拝でした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

家族と教師のための教訓

夜の旅と昇天は、ムスリムの子どもたちが最初に聞く物語の一つです。だからこそ、その語り方はとても大切です。この章では、親や教師や講話者のために、この物語を正確に、魅力的に、聞き手の年齢にふさわしく教えるための簡単な手引きを示します。

七つの原則

1. **クルアーンから始める。** 夜の旅章の最初の節（17:1）を読み、その意味をやさしい言葉で説明しましょう。

2. **真正なものを選ぶ。** 真正なハディースに述べられていることだけを語りましょう。本書の「各物語の位置づけのまとめ」の表を手引きにできます。

3. **礼拝という贈り物を際立たせる。** 子どもたちへの中心的なメッセージは、礼拝はアッラーが天でアッラーの使徒 ﷺ にじかに授けられた特別な贈り物だ、ということです。

4. **怖がらせない。** 伝承経路のない懲罰の物語は避けましょう。子どもたちは恐れだけでなく、愛と希望をもってアッラーを知る必要があります。

5. **事実と描写を区別する。** アッラーの使徒 ﷺ や預言者たちの顔を描いたり表現したりしないでください。地図、年表、場所の写真を補助教材として使いましょう。

6. **アブー・バクルの姿勢を教える。** ただちにかれを信じたアブー・バクル・アッ＝スィッディーク رضي الله عنه の物語は、真実の知らせを確信することの意味を教えてくれます。

7. **知らないときは正直に。** 子どもが伝承に述べられていないことを尋ねたら、「アッラーが最もよくご存じです。アッラーの使徒 ﷺ はそれについて語られませんでした」と言いましょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

年齢段階ごとの提案

時期	焦点	活動の提案
子ども（5–7 歳）	マッカからエルサレムへの夜の旅；一日五回の礼拝という贈り物。	カアバとアクサー・モスクの絵を使って語る；指を数えながら五回の礼拝の時刻を言う。
子ども（8–12 歳）	出来事の順序；七つの天の預言者たち；五十が五に；アブー・バクルの姿勢。	「夜の旅と昇天の一夜の年表」の章をもとに自分で年表を描く；それぞれの天の預言者の名前のクイズ。
十代（13 歳以上）	伝承を評価する方法；真正、弱い、作り話の物語の違い；奇跡と信仰。	よく知られた物語を一つ sunnah.com で確かめる；「その他の有名な物語」の章についてのグループ討論。
大人と講話者	出典の正確さ；ハディースを伝える作法；論拠のない行いを避けること。	各物語の出典と等級を記した講話メモを準備する。

語る前のチェックリスト

☐ 語ろうとする物語のそれぞれに出典があるか。

☐ 弱い物語に触れる場合、その位置づけを述べているか。

☐ 玉座の上のサンダルや女性の顔を持つブラークのような作り話が含まれていないか。

☐ 中心的なメッセージ、すなわち礼拝がはっきり伝えられているか。

☐ アッラーの使徒 ﷺ や預言者たちを描いた絵や演技がないか。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓

真正な物語を魅力的に教えることは、託された務め（アマーナ）です。夜の旅と昇天を正しく知った子どもは、礼拝を愛し、知らせに慎重な姿勢をもって成長するでしょう。

よくある質問

夜の旅の日付、体と魂、アッラーを見ること、ラジャブ月 27 日の夜についての質問は、第 6 巻『夜の旅と昇天』で答えました。次の質問は、この特別編の物語の観点からそれを補うものです。

1. 夜の旅と昇天を記念する集まりを開いてもよいか

その夜に合わせて定められた特別な崇拝行為はなく、その日付自体にも見解の違いがあります。一部の学者は、論拠のない特別な信仰や行いを伴わない限り、真正な出典でこの物語を語る学びの集まりを認めています。他の学者は、記念すること自体が定められていないと考えています。一致している点は、特別な崇拝行為を作り出さないこと、そして真正でない物語を語らないことです。

2. なぜジブリールは天のそれぞれの門で許しを求めたのか

マーリク・ブン・サアサアのハディースでは、それぞれの天の番人が尋ねます。誰か。ジブリールが答える。誰が一緒か。ムハンマドだ。かれは遣わされたのか。そうだ（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。これは天に門と番人があることを示し、許しを求め、名を名乗る作法を教えています。

3. なぜ預言者ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ は泣いたのか

同じハディースで、預言者ムーサーは、自分の後に遣わされた若者が、ムーサーのウンマよりも多くの自分のウンマを楽園に入れることになるために泣きました（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。学者たちは、それは自分のウンマへの愛の涙であり、他人と同じ善を得たいと願う「ギブタ（羨望）」であって、妬みではないと説明しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

4. バイト・アル＝マアムールとは何か

それは第七天にある礼拝の館で、毎日七万の天使が入り、二度と戻ってきません（『サヒーフ・ブハーリー』3887）。アッラーを崇拝する天使がどれほど多いかを示しています。

5. 講話で弱いハディースを語ってもよいか

学者たちは弱いハディースと捏造されたハディースを区別しています。捏造されたハディースは、それが偽りであることを説明する場合を除き、決して語ってはなりません。弱いハディースについては、一部の学者が、弱さがひどくないこと、内容が真正な論拠と一致すること、預言者 ﷺ の言葉だと確信しないことを条件に、善行を勧める分野で認めています。他の学者はまったく認めていません。最も安全な方法は、語るたびにその位置づけを述べることです。

6. 科学の観点から夜の旅に異議を唱える人にどう答えるか

夜の旅と昇天は奇跡、すなわちアッラーがご自分の使徒のためになさった並外れた出来事です。クライシュ族自身がそれを不可能だと考えたように、それは通常の自然の法則には縛られません。論拠のない「科学的」説明を作り出す必要はありません。真正なものを信じ、アッラーがすべてのことに全能であられることを心に留めれば十分です。

7. 第三の贈り物「大罪が赦される」とはどういう意味か

第三の贈り物は、アッラーに何ものも並べないかれのウンマの者への大罪の赦しです（『サヒーフ・ムスリム』173）。学者たちは、それはアッラーの御心のもとにあり、かれは御心にかなう者を赦されると説明しています。それは希望を与えますが、罪を軽んじる許可証ではありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

8. かれはその夜、楽園と火獄を見られたのか

はい。かれは楽園に入れられて真珠のドームを見られ（『サヒーフ・ブハーリー』349）、火獄の番人マーリクも見られました（『サヒーフ・ブハーリー』3239）。真正な伝承にない他の細部を付け加える必要はありません。

9. なぜこの特別編は真正な物語と弱い物語を分けたのか

読者が真実の物語を確信をもって味わい、避けるべき物語を見分けられるようにするためです。集まりで聞く夜の旅と昇天の物語はすべて真正だと思っている人が多いのですが、実際にはその一部には出典がありません。

10. 今日、夜の旅と昇天を味わう最良の方法は何か

その夜の贈り物である一日五回の礼拝を守ること、雌牛章の最後の節を読むこと、多神を避けること、そして銅の爪を持つ陰口の徒の戒めのとおり、舌を陰口から守ることです。

教訓

よい質問はより深い理解へと導きます。問い続け、真正な出典から答えを探しましょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

あの偉大な夜の一つひとつの物語は、今日のムスリムの生活への**教訓**を運んでいます。

物語	教訓
ザムザムで洗われ、信仰で満たされた胸	大きな務めのための最も大切な準備は、清い心である。
輪につながれたブラーク	アッラーへの信頼は努力を否定しない。
墓の中で礼拝するムーサー	習慣にしたものが、死後も私たちに寄り添う。
酒ではなく乳が選ばれた	イスラームは天性の宗教；理性を損なうものを避けよ。
預言者たちの礼拝を導く	すべての預言者は一神教をもたらした；イスラームはかれらの継承者である。
天の門での問答	許しを求め、名を名乗る作法。
ムーサーの涙	指導者の民への愛。
銅の爪を持つ陰口の徒	舌を守れ；舌の罪はたやすいが重い。
五十が五に	礼拝は天からじかに与えられた贈り物；それを怠るな。
三つの贈り物	一神教はすべての恵みへの鍵である。
「光である。どうしてかれを見ることができようか」	目に見えない事柄では、論拠が止まるところで止まれ。
アブー・バクルが信じた	信仰とは、理性が届かなくても使徒を信じることである。
弱い物語と作り話	真正なもので十分である；預言者 ﷺ の名において嘘をつくな。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

結び

その夜はマッカの**開かれた家の屋根**から始まり、地上から上がるすべてのものが止まる場所**スィドラ・アル＝ムンタハー**で頂点に達しました。アッラーの使徒 ﷺ は夜明け前に戻られ、**礼拝**――一日五回の、すべての信仰者の昇天――を持ち帰られました。私たちが礼拝に立つたびに、あの夜第七天から持ち帰られた贈り物を受け取っているのです。

この特別編は第 6 巻を補うものです。インシャーアッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』シリーズは**マディーナへの移住（ヒジュラ）**（第 7 巻）へと続きます。アッラーが最もよくご存じです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 6 巻 特別編の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』（17:1；17:60；19:57；32:23；53:1–18；108:1）。tafsir.app/ibn-katheer/17/1

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』110、349、831、1339、1386、3239、3244、3394、3886、3887、3888、4855、4964、5009、5696、6250。sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』162、172、173、176、177、178、400、2375、2473、2589。sunnah.com/muslim

『スナン・アビー・ダーウード』4878；『スナン・アン＝ナサーイー』450；『スナン・アッ＝ティルミズィー』2052、3462；『スナン・イブン・マージャ』2273、3477；『ムスナド・アフマド』（マーシタのハディース）。sunnah.com

ハディース注釈と学者の書

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー（サヒーフ・ブハーリー注釈）』――ハディース 349 と 3887 の注釈。

ナワウィー『アル＝ミンハージュ（サヒーフ・ムスリム注釈）』――信仰の書、夜の旅の章。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『タブイーン・アル＝アジャブ――ラジャブ月の優れた価値について伝えられたもの』。

ムハンマド・ナースィルッディーン・アルバーニー『アッ＝スィルスィラ・アッ＝サヒーハ』および『サヒーフ／ダイーフ・スナン』。

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）――夜の旅と昇天の章。

サフィーユッラフマーン・アル＝ムバーラクフーリー『封印された美酒（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』――夜の旅と昇天の章。

ウィキペディア「Isra' and Mi'raj」。en.wikipedia.org/wiki/Isra%27_and_Mi%27raj

資料：ウィキペディア「Sidrat al-Muntaha」。en.wikipedia.org/wiki/Sidrat_al-Muntaha

資料：ウィキペディア「Buraq」。en.wikipedia.org/wiki/Buraq

よく知られた物語と学者たちの評価

The Albaani Site「A Rooster Whose Neck is Under the Throne of Allaah」。thealbaani.site/2011/07/07/

アッ＝ドゥラル・アッ＝サニーヤ（dorar.net）、雄鶏のハディース。dorar.net/h/YxWd3y8U

HadithAnswers「The different punishments for the women of Jahannam」。hadithanswers.com/the-different-punishments-for-the-women-of-jahannam/

『サヒーフ・ブハーリー』3887（sunnah.com）。sunnah.com/bukhari:3887

『サヒーフ・ムスリム』173（sunnah.com）。sunnah.com/muslim:173

支援と寄付

この電子書籍は、ムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売されるものではありません**。研究、ウェブサイト quranscience.my の運営、今後の電子書籍の出版の費用のためのご寄付を心より歓迎いたします。ただし寄付は**義務ではありません**。アッラーがすべてのご寄付を、絶えることのない施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば，ちょうど 1 粒が 7 穂を付け，1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に，倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

日本語訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。「本当にわたしの主は，そのしもべの中から御心に適う者に，御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。」

日本語訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

日本語訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によると、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。アッラーは、赦す僕に尊厳しか増し加えられない。そして、アッラーのためにへりくだる者は誰であれ、アッラーがその位を高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・イブン・アイユーブ, クタイバ・イブン・サイード と アリー・イブン・フジュル ← イスマーイール・イブン・ジャアファル ← アラーゥ・イブン・アブドゥッラフマーン ← その父 アブドゥッラフマーン・イブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه .

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・礼儀の書（キターブ・ル＝ビッル・ワ・ッ＝スィラ・ワ・ル＝アダブ）、赦しと謙虚さの奨励の章、ハディース第 2588 番。

判定： サヒーフ — 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

ソース：sunnah.com/muslim:2588

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

日本語訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によると、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは途絶える。ただし三つを除いて。絶えることのない施し、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・イブン・アイユーブ, クタイバ・イブン・サイード と アリー・イブン・フジュル ← イスマーイール・イブン・ジャアファル ← アラーゥ・イブン・アブドゥッラフマーン ← その父 アブドゥッラフマーン・イブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه .

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書（キターブ・ル＝ワスィーヤ）、死後に人に届く報いの章、ハディース第 1631 番。

判定： サヒーフ — 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

ソース：sunnah.com/muslim:1631

Jazakumullahu Khairan Kathira



上の QR コード（DuitNow、マレーシア）を読み取ってご寄付ください。



海外からのご寄付：上の PayPal QR コードを読み取るか、次をご覧ください
paypal.me/quranscience